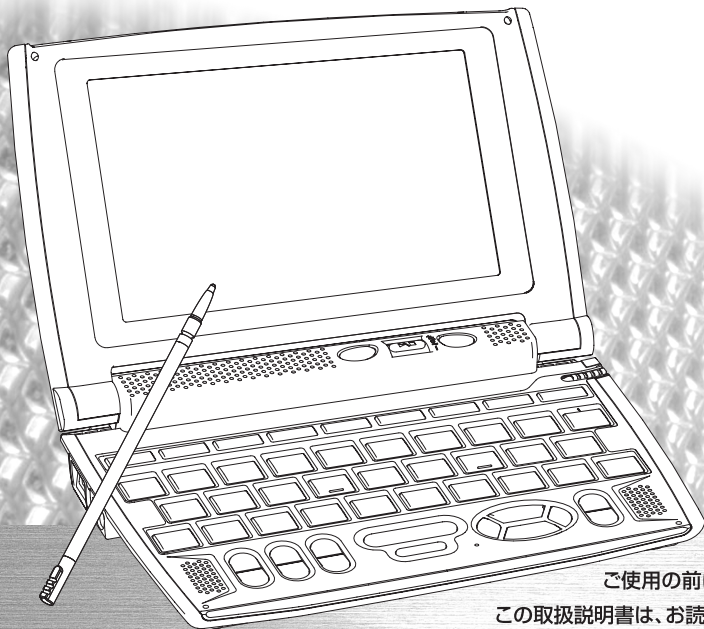
Canon

電子辞書

wordtank V300

取扱説明書

保証書付

ご使用の前に「ご注意とお願い」をよくお読みの上、正しくお使いください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも取り出せる場所に保管してください。

English Quick Reference is enclosed in this instruction manual.

ご注意とお願い

■絵表示について

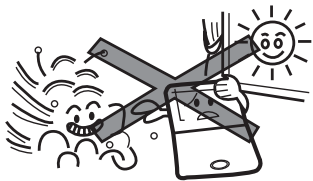
本書では本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を絵表示で示しています。
絵表示の意味は次のとおりです。

⚠**警告**　誤った取り扱いをしたときに、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。

⚠**注意**　誤った取り扱いをしたときに、けがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。

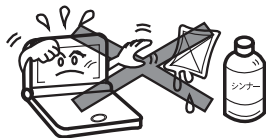
⚠記号は気をつける必要があることを表わしています。

 次の場所ではご使用にならないでください。

●温度変化の激しいところ
●湿度、ごみ、ほこりのあるところ
●直射日光のあたるところ

 テレビやラジオから離してください。

テレビやラジオの近くで使用すると、映像が乱れたり、雑音が入ることがあります。テレビやラジオから離して使用してください。

日常のお手入れについてのお願い

お手入れの際はシンナーなどの揮発性の液体やぬれ雑巾は避け、乾いた柔らかい布をお使いください。

分解しないでください。

本機を絶対に分解しないでください。万一、故障したと考えられる場合は、「保証内容」に記載されていますように、本機お買い上げの販売店、またはキヤノンマーケティングジャパン株式会社修理受付窓口まで保証書を添えて、ご持参、もしくはご郵送ください。

液晶表示画面を強く押さないでください。

液晶表示画面はガラスでできていますので、強く押したり強い衝撃を与えないでください。ガラスが割れてけがをすることがあります。カバンなどに入れて持ち運ぶ際に混み合った電車内や場所では圧力が強くかかり、画面が割れる場合がありますのでご注意ください。

故障などの保証の注意

万一、故障や修理、電池交換によるデータの変化や消失により生じた損害、あるいは、本機使用により生じた逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

その他使用上の注意

本製品から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方は、本製品を胸部（胸のポケット）から離してご使用ください。万一、異常を感じた場合、ただちに本製品を体より離し、医師に相談してください。本機カバーの開閉時に、指をはさまないようご注意下さい。

電池の取り扱い上の注意

⚠ 警告

（1）ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。

（2）万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合にはきれいな水で洗い流し、眼に入ったときにはきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

次のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えますと液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。

（1）火のそばや直射日光のあたるところや炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しないでください。

（2）外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしないでください。

（3）液もれ、破損のおそれがありますので乾電池は充電しないでください。

（4）＋－を正しく入れてください。

（5）新しい電池と使用した電池、他の種類の電池をまぜて使わないでください。

（6）使い切った電池はすぐに本体から取り出してください。

（7）電池は幼児の手の届かない所に置いてください。

電池交換時の注意

電池交換の際は次のことがらを守らないと、データが消去されます。充分ご注意ください。

（1）電池を交換する際は、本体の バックライト ON/OFF キーから電源を切って交換してください。

（2）電池は２ 個とも新しいものに交換してください。

（3）電池の極性（＋、－の方向）を間違えないようにしてください。

充電式電池の取り扱い上の注意

(1) 本機から充電することはできません。市販の充電器から充電してください。

(2) ニッケル水素電池は、お使いにならないときでも自然放電によって残量が減っていきます。できるだけお使いになる直前に充電してください。

(3) 充電状態の異なる電池を組み合わせて使わないでください。

(4) 電池の特性上、お使いになる環境（気温）によって動作時間が異なります。

USB ケーブルの取り扱い上の注意

⚠ 警告

USB ケーブルは次のことを守ってご使用ください。
火災や感電の原因になることがあります。
(1) 重いものを乗せたり、加熱しないでください。
(2) 加工したり、破損しないでください。
(3) ねじったり、引っ張ったりしないでください。
(4) 濡れた手でケーブルやプラグの抜き差しをしないでください。

⚠ 注意

カードスロット（挿入部）、USB 端子部、およびイヤホン端子部などに金属製のピンを入れたり、ゴミを付着させないでください。

USB ケーブルはコンピューターに直接接続してください。

イヤホンの音量についての注意

音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間聞き続けると、聴力に悪い影響を与えることがあります。

カードの取り扱い上の注意

カードの破損や本機の故障を防ぐためにもカードの向き（表裏、前後）を確認の上カードスロットに正しく挿入してください。

カードを本機に挿入したり、取り外す時はカードスロットを顔に向けたりして飛び出してきたカードでケガしないようご使用ください。

パソコンからSDメモリーカードにコピーしたデータは、誤操作、SD メモリーカードの紛失、本機の故障、修理などにより失われることがあります。それらのデータは必ずバックアップとしてパソコンに保存してご使用ください。

商標について

(1) Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

(2) その他の会社名および製品・サービス名は、それぞれを表示するためだけに引用されており、それぞれ各社の登録商標あるいは出願中の商標である場合があります。なお本文中では™ 、®マークは明記していません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

本機のおもな特長

英語学習に必須の発音機能
見出し語や会話文のネイティブ発音、全コンテンツで英語部分を選択し、読み上げるTTS発音*[1]を収録。自分の発音を録音し模範発音と聴き比べることもできます。
☞ 66-72 ページ

センター試験リスニング対策
センター試験のリスニングテストに沿った内容の学習ができます。トレーニング問題やテストで実力を試し、進捗管理ボックスで学習の進み具合を把握できます。
☞ 158 ページ

ディクテーション強化コンテンツ
英語の発音を聞きとり、そのままタイピングするトレーニングです。テスト結果として正解率が一覧でき、学習進度を確認できます。
☞ 153 ページ

バックライト
薄暗い環境でも、操作が可能なバックライト機能を搭載。採光がむずかしい所でも、スイスイ検索できます。
☞ 26 ページ

カードスロット内蔵
コンテンツカードや、MP3形式の音楽を聞くためのカードを使うことができます。また本体のバックアップデータをカードに保存することもできます。
☞ 54、221 ページ

スタイラスによるペンタッチ操作
付属のスタイラスを使って簡単なペンタッチ操作が可能です。スマートアイコンをタップ*[2]してラクラク操作を実現します。
☞ 38 ページ

手書き入力
ひらがなカタカナはもちろん、読み方がわからない漢字、英語も手書き入力で検索できます。大辞林や漢字源では漢字を手書きで入力し、調べることができます。
☞ 42 ページ

複数辞書検索機能
調べたい語句を収録した複数のコンテンツから同時に検索できます。例文検索では、英語による検索が可能です。
☞ 174 ページ

一括検索機能
調べたい語句を5つまで一度に入力して検索できる機能。難しい文章も、わからない単語をいっぺんに入力し、即座に検索できます。
☞ 178 ページ

MP3プレーヤー機能
カードに保存されたMP3形式のデータを本機にて再生することができます。
☞ 224 ページ

USB辞書機能
付属のUSBケーブルでパソコンに接続し、パソコン上のわからない語句を電子辞書の検索機能を使って調べることができます。
☞ 236 ページ

メモ機能
調べた見出し語に日本語・英語対応のメモを記録できます。リスト化し、メモの分類も可能です。学習用メモとしても活用できます。
☞ 210 ページ

*[1] TTS発音…Text to Speech（合成音声）のことです。　*[2] タップ…画面をスタイラスで軽くふれることです。

収録コンテンツ

■ 明鏡国語辞典　(☞80 ページ掲載)
大修館書店　収録項目数　約 70,000 項目

■ スーパー大辞林　(☞83 ページ掲載)
三省堂　収録語数　約 252,000 語

■ 改訂新版　漢字源　(☞89 ページ掲載)
学習研究社　収録親字数　13,112 字

■ 旺文社古語辞典 第九版　(☞98 ページ掲載)
旺文社　収録語数　約 43,500 語

■ 四字熟語辞典　(☞99 ページ掲載)
学習研究社　収録項目数　約 1,400 項目

■ 故事ことわざ辞典　(☞101 ページ掲載)
学習研究社　収録項目数　約 4,300 項目

■ ベーシックジーニアス英和辞典　(☞103 ページ掲載)
大修館書店　収録語句数　約 40,000 語句

■ ジーニアス英和辞典 第３版　(☞103ページ掲載)
大修館書店　収録語句数　約 95,000 語句

■ ジーニアス和英辞典　第２版　(☞108ページ掲載)
大修館書店　収録語句数　約 82,000 語句

■ オックスフォード現代英英辞典 第7版　(☞110ページ掲載)
Oxford Advanced Learner's Dictionary, 7th edition
Oxford University Press　収録語数　183,500 語

■ 英会話とっさのひとこと辞典　(☞114ページ掲載)
DHC　総例文数　約 8,000 例文

■ 徹底例解 ロイヤル英文法 改訂新版　(☞125ページ掲載)
旺文社　収録項目数　約 395 項

■ 世界史事典 三訂版　(☞129ページ掲載)
旺文社　収録項目数　約 7,200 項目

■ 日本史事典 三訂版 (☞130ページ掲載)
旺文社　収録項目数　約 6,800 項目

■ 旺文社 生物事典 四訂版 (☞134ページ掲載)
旺文社　収録項目数　約 7,300 項目

■ 旺文社監修 数学公式集 (☞136ページ掲載)
旺文社　収録項目数　180 項目

■ 旺文社監修 物理公式集 (☞136ページ掲載)
旺文社　収録項目数　72 項目

■ 旺文社監修 無機化学のキーワード (☞137ページ掲載)
旺文社　収録項目数　67 項目

■ 旺文社監修 有機化学のキーワード (☞137ページ掲載)
旺文社　収録項目数　65 項目

■ 旺文社監修 辞書式配列化学反応式 (☞138ページ掲載)
旺文社　化学式　約 260 項目、化学反応式　約 1,170 項目

■ ロイヤル英文法問題集 改訂新版 (☞142ページ掲載)
旺文社　収録項目数　約 2,200 項目

■ 英単語ターゲット1900　3訂版 (☞144ページ掲載)
旺文社　収録項目数　1,900 項目

■ 英単語ターゲット1900 BRUSH-UP TEST　3訂版 (☞151 ページ掲載)
旺文社　収録項目数　1,900 項目

■ 旺文社監修 英単語ターゲット 1900 ディクテーション (☞153 ページ掲載)
旺文社　収録項目数　1,900 項目

■ 英熟語ターゲット1000　3訂版 (☞144ページ掲載)
旺文社　収録項目数　1,000 項目

■ 英熟語ターゲット1000 BRUSH-UP TEST　3訂版 (☞151 ページ掲載)
旺文社　収録項目数　1,000 項目

■ 旺文社監修 英熟語ターゲット1000 ディクテーション
（☞153ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,000 項目

■ 英検Pass 単熟語３級 改訂版　（☞156ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,378 項目

■ 英検Pass 単熟語２級 改訂版　（☞156ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,760 項目

■ 旺文社監修 センター試験リスニング対策
（☞158ページ掲載）

旺文社　試験 10 回（全 250 問）

■ 英語発音クリニック　（☞162ページ掲載）

大修館書店　発音箇所　284 箇所

■ センター試験英語会話表現集　（☞164ページ掲載）

大修館書店　総例文数　87 例文

■ 古文単語・熟語ターゲット400　（☞166ページ掲載）

旺文社　収録項目数　400 項目

■ 漢字ターゲット1700　（☞168ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,700 項目

■ 漢検プチドリル３級 改訂版　（☞168ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,535 項目

■ 漢検プチドリル２級 改訂版　（☞168ページ掲載）

旺文社　収録項目数　1,502 項目

■ 世界史年代暗記ターゲット315　（☞170ページ掲載）

旺文社　収録項目数　約 315 項目

■ 日本史年代暗記ターゲット312　（☞170ページ掲載）

旺文社　収録項目数　約 312 項目

電池を交換するには

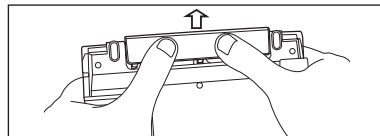
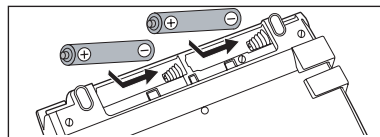
本体の電池が消耗してきた場合、電源ON 時に「電池を交換してください」と表示されますので、すみやかに電池を交換してください。また電池が著しく消耗した時には「電池残量不足の為 処理を実行出来ません 電源をOFF します」が表示され、電源が切れます。この場合も、ただちに電池を交換してください。**本機で使用できる電池は、単４形アルカリ乾電池（LR03）か市販の単４形ニッケル水素電池です。交換の際もこれと同じものをお求めください。**
指定している電池以外は使用しないでください。電池容量、電圧が異なるため、誤動作や故障の原因となります。**交換の際には必ず新品の単4形電池2本をご使用ください。また種類の異なる電池を混ぜて使用することは、絶対に避けてください。**

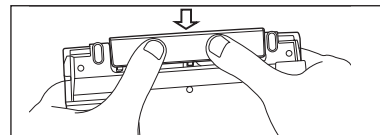
電池残量は画面右上に表示される電池残量表示アイコン の目盛りを目安にしてください。アイコンの表示が に なると、残量不足のため処理を実行できなくなりますので、お早めに電池交換を行ってください。

⚠電池交換時のご注意

電池交換の際は次のことがらを守らないと、**データが消去されます**。充分ご注意ください。

●電池を交換する際は、必ず本体の バックライト ON/OFF キーから電源を切ってから行ってください。
●電池は 2 個とも新しいものに交換してください。
●電池の極性（＋、－の方向）を間違えないようにしてください。

1 電源を切り、本機を裏にして電池ぶた上の左右の矢印の上に指をのせます。それから電池ぶたを押しながらはずします。

2 極性（＋、－の方向）を間違えないように注意しながら、電池を2 個同時に交換します。

3 電池ぶたをもとの位置にもどします。

●画面に「システムを初期化しますか？（単語帳・履歴・ブックマーク・メモデータは削除されます）」が表示された場合は、「いいえ」を選択し、［訳・決定］を押してください。
電池交換後は、環境設定画面にて電池の種類を正しく設定してください。
（電池切替 ☞ 51 ページ参照）

☞オートパワーオフ機能

本機は電池の消耗を防ぐため、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています。電源が切れるまでの時間は、設定メニュー画面の「オートパワーオフ時間」の項目で30分以内で設定することができます。

（オートパワーオフ ☞ 50 ページ参照）

※ 電池が消耗した状態で発音や音声再生を行うと、音がかすれて聞こえることがあります。その場合は、すみやかに電池を交換してください。

☞日本国内での乾電池の廃棄について

使用済みの電池は、＋極と－極をテープで絶縁してから、地方自治体の条例、規則に従って廃棄してください。くわしくは各地方自治体にお問い合わせください。

■ニッケル水素電池について

この製品は、市販のニッケル水素電池を使用することができます。あらかじめ十分に充電をしてから、ご使用ください。

⚠市販の充電式電池を使用する場合のご注意

- ●本機から充電することはできません。市販の充電器から充電してください。
- ●ニッケル水素電池は、お使いにならないときでも自然放電によって残量が減っていきます。できるだけお使いになる直前に充電してください。
- ●充電状態の異なる電池を組み合わせて使わないでください。
- ●電池の特性上、お使いになる環境（気温）によって動作時間が異なります。

☞日本国内での充電式電池の廃棄について

- ●ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ニッケル水素電池の回収・リサイクルについては、下記キヤノンのホームページで確認できます。
  キヤノンサポートページ
  canon.jp/support
- ●交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店へお持ちください。またリサイクル時は電池を分解しないでください。
  充電式電池の回収・リサイクル協力店については有限会社責任中間法人 JBRC ホームページを参照してください。
  http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html

家庭用電源を使うには

別売りの専用アダプタ（AD25）を使って、家庭用電源から電源をとることができます。

⚠ご注意

本機を指定のACアダプタで長期間お使いになる時は、本機より電池を取り出してください。
液漏れ等による故障及び損傷の原因になることがあります。

本機に電池が入っていない場合（ご購入後、初めてご使用になる場合等）

1 ACアダプタのDCプラグを本機の電源ジャックに差し込みます。

2 ACアダプタを100V AC50/60Hzのコンセントに差し込みます。

3 「システムを初期化しますか？」のメッセージが表示されますので、本機をはじめてご使用になる場合は、「はい」を反転表示させた状態で 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して初期化してください。

●初めてのご使用でない場合、「システムを初期化しますか？」のメッセージが表示された後「はい」を選択すると単語帳、履歴等のデータはすべて消去され、すべての設定が初期化されます。「いいえ」を選択した場合、データは失われずそのまま保存されます。

4 画面に「タッチスクリーンの補正 ✕ をスタイラスでタップしてください」のメッセージが表示されます。以降画面の指示に従い操作してください。

（はじめてご使用になる前に ☞ 20ページ参照）

●メニュー画面が表示され使用可能となります。

本機に電池が入っている場合（取扱説明書に従って電池を入れた場合、または既にご使用中の場合）

1 本機の電源が「切」になっていることを確認します。

2 AC アダプタの DC プラグを本体の電源ジャックに差し込みます。

3 AC アダプタを 100V AC50/60Hz のコンセントに差し込みます。

4 バックライト ON/OFF を押し電源を入れます。

⚠ご注意

本機は、単語帳に記憶させた内容、単語の履歴を**通常操作で電源を切る時に**メモリー内部に書き込みます。電源を突然切断すると前回書き込み済み以降の単語帳への書き込みと単語の履歴は失われます。電池の交換と AC アダプタの本体への差し込みは必ず電源を通常操作で切った後で行うようにしてください。

AC アダプタの接続方法

⚠安全上のご注意

- 必ず弊社指定の AC アダプタをご使用ください。
- DC プラグの先端部および電源ジャックには触らないでください。
- AC アダプタを外す時には、本機の電源を「切」にして、AC アダプタ、DC プラグの順に外してください。
- 水のかかる場所等では絶対に使用しないでください。感電や事故の原因となります。
- アダプタの上に布団・毛布などを置いての使用や、熱器具の近くでは使用しないでください。発熱・変形・故障等の原因になることがあります。
- 異常を感じたら、すぐに使用を中止してください。
- ご使用にならない時は、必ず AC アダプタをコンセントから抜いてください。

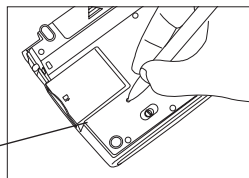
キーを押しても動作しないときは

本機使用中に、強度の外来ノイズや強いショックを受けた場合など、ごくまれにすべてのキーが機能しなくなる等の異常が発生することがあります。このような異常が発生した場合は、リセットスイッチを押して機能をもとにもどしてください。

1 本体裏面のリセットスイッチを押します。

●先のとがったものでリセットスイッチを押します。ただし、**芯の出たシャープペンシル、先の折れやすいもの、針のように先の鋭利なものは使用しないでください。スイッチが押されたままになったり、損傷する可能性**があります。

●リセットスイッチを押すと右下のようなメッセージが表示されます。

リセットスイッチ

2 「はい」を反転表示させた状態で、 = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。

システムを初期化しますか？
（単語帳・履歴・ブックマーク・メモデータは削除されます）
Do you want to reset?
(All words in Wordmemo, History, Bookmark and Memo data will be deleted)
はい　いいえ

⚠ご注意

「はい」を選ぶと、単語帳に登録されたデータ及び履歴データはすべて消去され、すべての設定が初期化されます。
「いいえ」を選択した場合は、データは失われずそのまま保存されます。またカードにあらかじめバックアップデータを保存している場合は、設定の初期化後もカードから登録データを復帰させることができます。
（バックアップを行う ☞ 54ページ参照）
ただし、次のような場合は 必ず「はい」を選択してリセットしてください。

●本機をはじめてご使用になるとき
●長時間電池を入れず放置した後で、再びご使用になるとき

＊強度の外来ノイズや強いショックを受けたことにより、異常が発生した場合は、「いいえ」を選択しても **「メモリデータに異常が発見されましたシステムを初期化します Yes 【訳・決定】」** というメッセージが表示されます。 = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、記憶内容は全て消去され、設定も初期化されます。

もくじ

はじめに

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

辞書系コンテンツを使う

学習系コンテンツを使う

検索機能と便利な機能を使う

Quick Reference

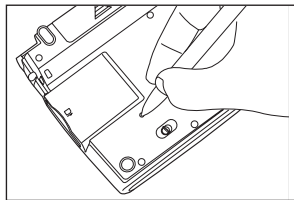
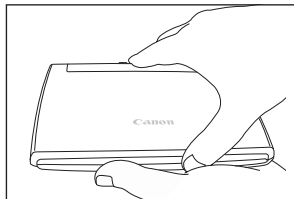
付録

準備［1］付属の乾電池を入れる

付属の単４ 形乾電池（または市販のニッケル水素電池）2 本を９ ページの「電池を交換するには」に従って入れてください。

準備［2］リセット操作（電池タイプの選択・表示画面の濃度調節）をする

1 裏面のリセットスイッチを押してください。

（リセットスイッチについて ☞ 14 ページ参照）

2 図のように本体に指をかけて、上のカバーを開きます。

⚠ご注意

カバーの開閉時に指をはさまないよう、ご注意ください。

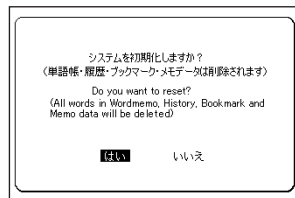
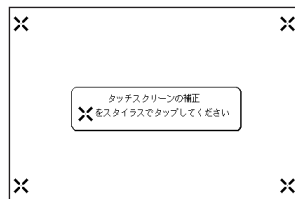
3 表示画面が見やすいように、ディスプレイの角度を調節してください。

4 本機をはじめてご使用になる場合は、「はい」をスタイラスでタップ（スタイラスで画面に軽く触れる）して初期化してください。

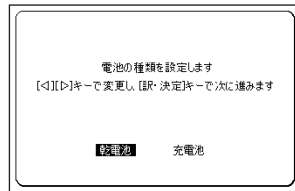
「はい」を反転表示させた状態で [訳・決定] を押しても初期化できます。

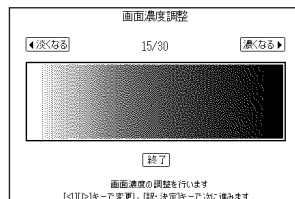
●別売のACアダプター（AD25）を使用する場合は、「家庭用電源を使うには」（☞ 12ページ）をご参照ください。

●リセットの操作中、まれにスタイラスがうまく操作できない場合があります。そうした場合は ◁／▷ でカーソルを「はい」に移動させて選択し、[訳・決定] を押してください。

システムを初期化しますか？
（単語帳・履歴・ブックマーク・メモデータは削除されます）
Do you want to reset?
(All words in Wordmemo, History, Bookmark and Memo data will be deleted)
はい　いいえ

5 画面に「タッチスクリーンの補正 ✕ をスタイラスでタップしてください」のメッセージが表示されます。スタイラスで画面に表示されている４つの ✕ をタップすると、✕ が画面から消えます。

6 リセット操作の終了後、画面に「電池の種類を設定します」と表示されます。◁／▷ でカーソルを移動させ、準備［1］で入れた電池を選択します（ここでは「乾電池」を選択します）。

●設定した電池の種類と実際に入れた電池の種類が異なっている場合、電池の残量表示 ▮▮▮ や電池交換のメッセージが正しく表示されないことがありますのでご注意ください。

はじめに

7 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、画面濃度調節用の画面が表示されます。
◁／▷ でカーソルを移動させ、見やすい濃度に調節してください。

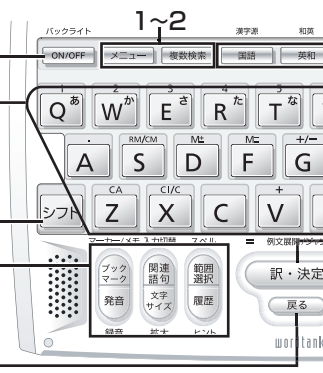
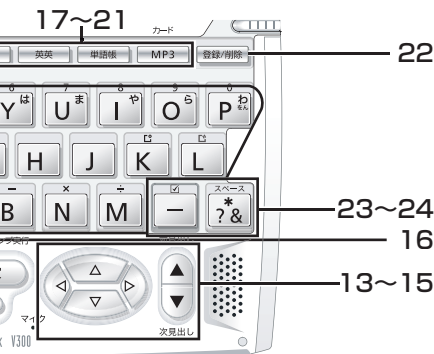
●スタイラスを使う場合は、画面の ◀淡くなる 濃くなる▶ をタップしてください。

8 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、初期化が完了となりメニュー画面が表示されます。

●スタイラスを使う場合は、画面の 終了 をタップしてください。

各部の名称

前面
液晶表示画面
スタイラス
電源 ON/OFF キー
キーボード
スタイラスホルダー
USB ケーブル
（パソコンと実機に接続
して使用します）
カードスロット
裏面
アルカリ乾電池／
ニッケル水素電池：
単４形×２本
電池収納部
リセットボタン
HOLD スイッチ
⏮ ⏭
トラッキング
ボタン
Vol
音量調整
ジョグ
MP3
▷再生／□停止ボタン
発音・音楽を聞くために
USB ポート
（AC アダプタジャック）
イヤホンジャック
イヤホン
スピーカー
マイク

キーのはたらき

No.	キー	はたらき
1	メニュー **メニューキー**	電源がOFFの時に押すとONになり、メインメニューが表示されます。
2	複数検索 **複数検索キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、複数辞書検索画面が表示されます。また他のコンテンツから複数検索画面に移ることができます。
3	バックライト ON/OFF **ON/OFFキー**	電源のON/OFF切り替えに使用します。シフト バックライト ON/OFF と押すと、バックライトが使用できます。
4	**文字入力キー**	文字、数字、英字の入力時また電卓に使用します（1段目のキーは、かな･数字入力時にも使用します）。
5	シフト **シフトキー**	第2機能を使用する時に使用します。キー上部のモード（バックライト、漢字源、和英、カード）や機能（録音、文字拡大）は、シフト を押してから入力します。
6	マーカー/メモ ブックマーク **ブックマーク/マーカー/メモキー**	本文表示画面で、単語や語句をブックマークに登録する時に使います。 単語帳に登録した単語の本文画面で、選択した箇所にアンダーライン（マーカー）を引くことができます。また検索した見出し語にメモをつけることができます。
7	発音 録音 **発音／録音キー**	見出し語や例文の発音を聞く時に使用します。また シフト 発音 録音 で発音比較ができます。
8	入力切替 関連語句 **関連語句／入力切替キー**	本文画面で 句 複 熟 慣 I P が表示されているとき　成句、複合語、熟語、慣用連語、句動詞のリストを表示させることができます。一括検索やメモ機能など使用時は入力を切り替えることができます。
9	文字サイズ 拡大 **文字サイズキー**	文字サイズの切り替えを行う時に使用します。また明鏡国語辞典、大辞林、漢字源では シフト 文字サイズ 拡大 と押すと、文字を1文字ずつ拡大表示することもできます。
10	スペル 範囲選択 **範囲選択／スペルキー**	ジャンプ、TTS発音、マーカーを実行したい語句を選択する時に使用します。また検索画面で入力した語句のスペルチェックを行う時に使用します。
11	履歴 ヒント **履歴／ヒントキー**	今までに調べた語句を各コンテンツ別に一覧表示します（最新のものから順に500件まで記憶されます）。テスト画面で、部分的に単語や訳語を表示するヒント表示ができます。
12	戻る **戻るキー**	キーを押すごとに、今まで表示した画面を1つずつ前にさかのぼって表示します。

番号	分類	キー	説明
13	カーソルキー	前見出し ▲ ／ ▼ 次見出し	本文画面で前後の見出し語に移る時に使用します。見出し語リスト画面では前／次画面に移ることができます。
14	カーソルキー	△ ／ ▽	カーソルを上下に移動させることができます。また次の行および前の行に一行ずつスクロールすることができます。
15	カーソルキー	◁ ／ ▷	カーソルを左右に移動させることができます。本文画面では前／次画面に移ることができます。
16		＝ 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 **訳・決定/例文展開キー**	検索および各種機能を実行する時に使用します。本文画面で 訳・決定 を押すと、例文や解説参照リストが表示されます。電卓機能使用時は「＝」を意味します。
17		漢字源 国語 **国語キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、明鏡国語辞典の検索画面が表示されます。もう1回押すと大辞林の検索画面が表示されます。シフト 国語 と押すと、漢字源の検索画面が表示されます。また他のコンテンツから明鏡国語辞典、大辞林の検索画面に移ることができます。

番号	キー	説明
18	和英 英和 **英和キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、ベーシックジーニアスの検索画面が表示されます。もう1回押すとジーニアス英和の検索画面が表示されます。 シフト 英和 と押すと、和英辞典の検索画面が表示されます。また他のコンテンツからベーシックジーニアス、ジーニアス英和の検索画面に移ることができます。
19	英英 **英英キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、英英辞典の検索画面が表示されます。また他のコンテンツから英英辞典の検索画面に移ることができます。
20	単語帳 **単語帳キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、単語帳のリスト画面が表示されます。また他のコンテンツから単語帳のリスト画面に移ることができます。
21	カード MP3 **MP3キー**	電源がOFFの時に押すとONになり、MP3のリストが表示されます。シフト MP3 と押すと、カードのメニュー画面に移ることができます（カードが入っている場合）。
22	登録/削除 **登録／削除キー**	文字入力中に押すと、1文字ずつさかのぼって文字を消去します。各コンテンツの本文画面で 登録/削除 を押すと、表示中の見出し語が単語帳に登録されます。
23	☑ ー **ハイフン／☑チェックマークキー**	「−」を入力できます。また単語帳、テスト画面、学習コンテンツで学習した語句の頭に☑を入れることができます。
24	スペース ?*& **&/?/*/スペースキー**	成句検索や部品読み検索等の入力画面で ?*& を押すと、単語を結ぶ「&」や部品名を結ぶ「&」を入力できます。ワイルドカード検索で ?*& を押すと、「?」と「*」を入力することができます。またメモ入力中はスペースを入れることができます。

基本の操作

電源を入れる　カバーを開ける／ バックライト ON/OFF を使う

本機のカバーを開けるか、 バックライト ON/OFF を押すと電源が入り、前回電源を切った状態の画面が表示されます（レジューム機能）。
また メニュー 、 複数検索 、 漢字源 国語 、 和英 英和 、 英英 、 単語帳 、 カード MP3 を押しても電源が入り、各コンテンツの初期画面が表示されます。

バックライト機能を使う

シフト バックライト ON/OFF を押すと、薄暗い環境でも操作ができるよう、バックライト機能を使うことができます。
バックライトはキーを最後に押してから、30 秒後に自動的に消灯します。
バックライト消灯中は、電池の消耗を抑えることができます。

バックライト使用時の電池寿命

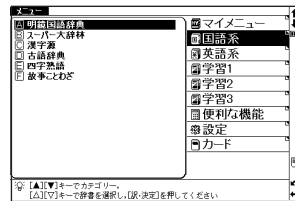
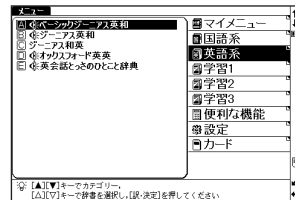
1 時間あたりバックライト点灯 30 秒を 5 回繰り返す場合、アルカリ乾電池で約 63 時間使用できます。

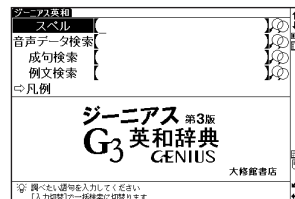
電源を切る　カバーを閉じる／ バックライト ON/OFF を使う

電源が入っている時に本機のカバーを閉じるか、 バックライト ON/OFF を押すと電源が切れます。MP3 再生中は、カバーを閉じたまま再生を継続します。
（MP3 プレーヤー機能を使う ☞ 224 ページ参照）
●電池の消耗を防ぐために、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています（オートパワーオフ機能）。
電源が切れるまでの時間は、設定することができます。
（オートパワーオフ機能 ☞ 10 ページ参照）

カーソルキーの操作 △ / ▽ / ◁ / ▷ と 前見出し▲ / ▼次見出し を使う

メニュー画面からコンテンツを選ぶ

1 メニュー を押し、メニュー画面を表示させます。

2 前見出し▲/▼次見出し でカーソルを移動させ、コンテンツのカテゴリーを選択します。カテゴリーを選択した後、△/▽ でカーソルを移動させ、コンテンツを選択します。

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、コンテンツの検索画面が表示されます。

●表示されたコンテンツ名横のアルファベットを文字入力キーで入力して選択することもできます。

各コンテンツの分類先

国語系	明鏡国語辞典	スーパー大辞林(大辞林)	漢字源
	古語辞典	四字熟語	故事ことわざ
英語系	ベーシックジーニアス英和	ジーニアス英和	ジーニアス和英(和英辞典)
	オックスフォード英英(英英辞典)	英会話とっさのひとこと辞典	
学習 1	ロイヤル英文法	世界史事典	日本史事典
	人名検索	和歌・俳句検索	生物事典
	公式集	化学反応式	
学習 2	ロイヤル英文法問題集	英単語ターゲット	英単語ターゲット BRUSH-UP
	英単語ターゲット ディクテーション	英熟語ターゲット	英熟語ターゲット BRUSH-UP
	英熟語ターゲット ディクテーション	英検 PASS 単熟語 3 級	英検 PASS 単熟語 2 級
	センター試験リスニング対策	英語発音クリニック	センター試験英語会話表現集
学習 3	古文単語・熟語ターゲット400	漢字ターゲット1700	漢検プチドリル 3 級
	漢検プチドリル 2 級	世界史年代暗記ターゲット	日本史年代暗記ターゲット
便利な機能	複数辞書検索	単語帳	MP3
	ボイスレコーディング	USB 辞書	電卓
設定	環境設定		
カード	挿入したカードのコンテンツ名が表示されます。		

● （　　）内は取扱説明書中の表記名です。

画面のスクロール

画面に表示しきれない内容があるときに画面を送ります。

∨∧≚≙ をスタイラスでタップして行うこともできます。

（画面上の表示アイコンについて ☞ 47 ページ参照）

1 行ずつ送る場合

▽ を押すと画面が1行ずつ送られます。

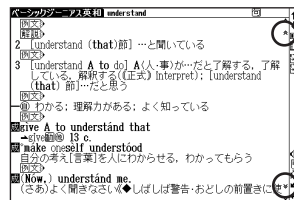
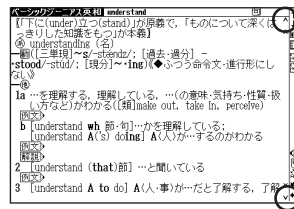
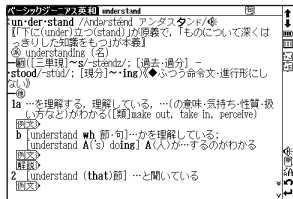
△ を押すと 1 行ずつ戻ります。

スタイラスでは ∨ をタップすると画面が1行ずつ送られ、∧ をタップすると1行ずつ戻ります。

1 画面ずつ送る場合

▷ を押すと画面が 1 画面ずつ送られます。

◁ を押すと 1 画面ずつ戻ります。

スタイラスでは ≫ をタップすると画面が1画面ずつ送られ、≪ をタップすると1画面ずつ戻ります。

前後の見出し語に移る

本文画面で ▼(次見出し) を押すと、収録語順に次の見出し語の本文画面を表示します。

▲(前見出し) を押すと、1 つ前の見出し語の本文画面を表示します。

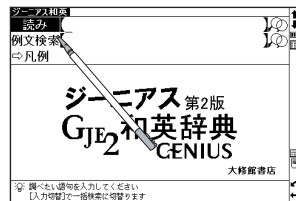
スタイラスでは ↑↓ をタップすると、前後の見出し語の本文画面を表示することができます。

●検索画面で見出し語リストを表示させた場合と、本文画面から前見出し語 、次見出し語を表示させた場合では、見出し語の順番が異なる場合があります。

検索画面から調べたい項目を選び検索する

カーソルキーや画面上のスマートアイコンをタップして設定やメニューの選択および検索をすることができます。

1

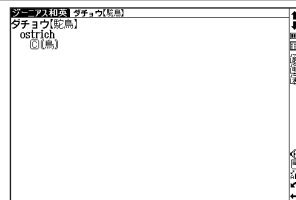
選択したコンテンツ･検索モードの検索画面を表示し、△／▽ でカーソルを移動させ入力欄を選択します(ここでは和英辞典の検索画面を例にします)。スタイラスを使って操作する場合は、選択する入力欄をタップします。

2

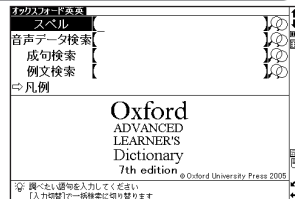
文字入力キーを使い、調べたい単語や語句を入力します。
(文字を入力する ☞ 32 ページ参照)
文字を入力すると同時に、入力した文字からはじまる単語や語句が候補表示されます（すぐ出る検索)。

△／▽ でカーソルを移動させ、調べたい単語や語句を選択します。

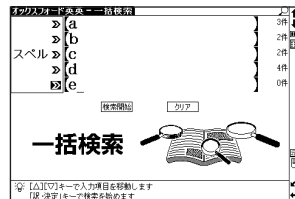
●候補リスト画面で 前見出し▲／▼次見出し を押すと、前ページまたは次ページのリスト画面が表示されます。

3

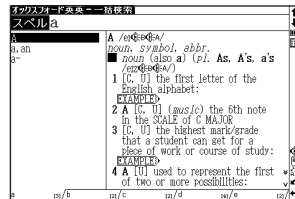
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、選択した単語や語句の本文画面が表示されます。
スタイラスを使う場合は、候補リストから調べたい単語や語句をタップすると黒く反転表示されますので、選択した候補をもう1度タップ（ダブルタップ）すると本文画面が表示されます。

一括検索で複数の検索語の結果から１つを選択し、表示する

1 各コンテンツ・検索モードの検索画面からスペル入力欄の をタップまたは 入力切替 関連語句 を押し、一括検索画面を表示させます（ここでは英英辞典の検索画面を例にします）。

2 スペル入力欄に文字入力キーを使って検索したい言葉を５件まで入力します（ここでは「A」、「B」、「C」、「D」、「E」と入力します）。１件入れるごとに、▽を押し、次の欄に移動させます。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定を押して、検索結果を表示させます。

（一括検索機能を使う ☞ 178ページ参照）

3 入力欄一番上の検索結果から表示されます。

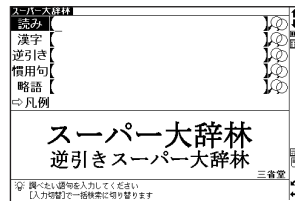
◁／▷ ボタンで画面下の検索結果のフォルダを移動させ、次の検索語を表示させます。

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

文字を入力する

文字入力には、『ローマ字入力』と『かな入力』の2つの方式があります。

（入力方式 ☞ 50ページ参照）

例 題　大辞林の入力画面を使って「だちょう」を入力します

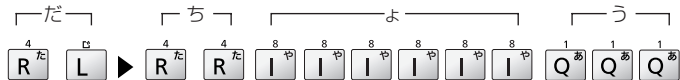
1 漢字源／国語 を２回押して大辞林の検索画面を表示させます。

2 読みを入力します。

『ローマ字入力』のとき

（ローマ字／かな対応表 ☞ 332ページ参照）

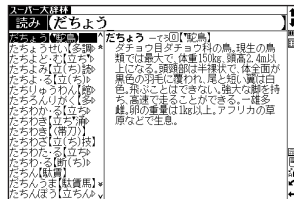
『かな入力』のとき

だ ち ょ う

R L ▶ R R I I I I I I Q Q Q

●同じ行の文字を続けて入力する場合は、▷ を押して入力カーソルを次の入力位置に移動させてください。

（同じ行の文字が続くときの入力 ☞ 34 ページ参照）
（文字の訂正 ☞ 35 ページ参照）

ローマ字入力のポイント

■ 小文字（ぁぃぅぇぉっゃゅょゎ）の入力

X を押した後、小文字の読みを入力します。 [例] X Y A ⇒「ゃ」

ただし、促音（っ）を入力するときは、次にくる子音を続けて押しても入力できます。 [例] Y A T T O ⇒「やっと」

また拗音（ゃゅょ）を入力するときには、直前の文字との組み合わせで入力することもできます。 [例] S I R Y O U ⇒「しりょう」

■「ん」の入力 N を２回続けて押します。 [例] H A N N I ⇒「はんい」

■ その他注意を要する入力

Z I　J I ⇒「じ」　Z U ⇒「ず」　F A ⇒「ふぁ」

D I ⇒「ぢ」　D U ⇒「づ」　V A ⇒「ゔぁ」

かな入力のポイント

■ 大文字と小文字（ぁぃぅぇぉっゃゅょゎ）の入力

該当する文字行に当たるキーを押すと、はじめにその行の大文字が入力でき、次に小文字が入力できます。

[例] Q Q ⇒「い」
Q Q Q Q Q Q Q ⇒「ぃ」

■ 濁音の入力 L と組み合わせて入力します。

[例] W L ⇒「が」

■ 半濁音の入力 K と組み合わせて入力します。

[例] Y K ⇒「ぱ」

■ 同じ行の文字が続くときの入力

例えば、「かき」のように同じ行の文字が続くときは、はじめの文字を入力した後、▷を使ってカーソルを一つ送ってから次の文字を入力します。

[例] W ▷ W W ⇒「かき」

＊入力カーソルは、文字入力後、約2秒で次の入力位置に移動します。

文字の訂正

検索したい文字を間違えて入力した時は、直したい文字だけを選んで訂正することができます。

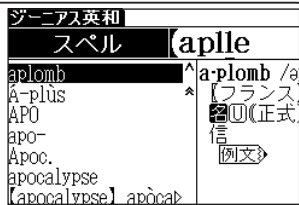
例 題　ジーニアス英和の入力画面で、「aplle」を「apple」に訂正します

1 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「aplle」と入力します）。

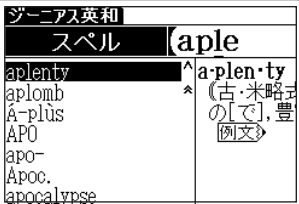
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

文字を削除する場合

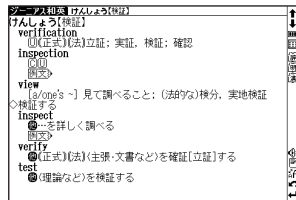
◁／▷ で削除したい文字にカーソルを移動させます（ここでは２つめの「l」を削除します）。

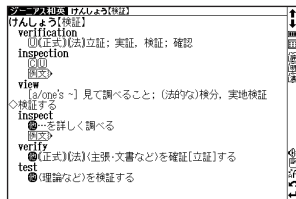
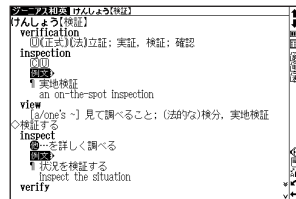
登録/削除 キーを押すとカーソル上の文字だけが削除されます。

文字を挿入する場合

◁／▷ で文字を挿入したい位置にカーソルを移動させます。挿入したい文字を入力します（「p」「l」の間に「p」を挿入する場合はカーソルを「l」に移動させ、文字入力キーを使って「p」を入力します）。

各種機能を実行する 〔例文展開/ジャンプ実行 訳・決定〕 を使う

〔例文展開/ジャンプ実行 訳・決定〕 キーのおもなはたらきを紹介します。

候補リストから検索語を選ぶ

反転バー■■を移動させて 〔例文展開/ジャンプ実行 訳・決定〕 を押す。

例文・解説・コラムを表示する

本文画面で 例文 EXAMPLE 解説 コラム が表示されている場合は、例文、解説またはコラムを表示させることができます。

（例文・解説・コラムの表示 ☞ 38 ページ参照）

●スタイラスでは ↵ が 〔例文展開/ジャンプ実行 訳・決定〕と同じはたらきをします。（画面上の表示アイコンについて ☞ 47 ページ参照）

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

前の操作に戻る 戻る を使う

1つ前の操作に戻ります。

●さらに 戻る を押していくと、今まで表示した画面を1つずつ前にさかのぼって表示します。

●スタイラスでは ↶ が 戻る と同じはたらきをします。（画面上の表示アイコンについて ☞ 47ページ参照）

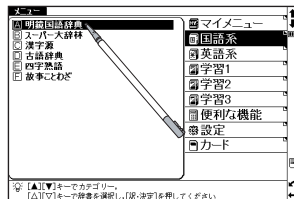
スタイラスを使う

スタイラスを使用することでキーでの操作を省略することができます。見出し語やアイコン等の選択、バーチャルキーでの入力または手書き入力などをすることができます。

メニューの選択

メニュー画面上のコンテンツをスタイラスでダブルタップすると、タップしたコンテンツが選択され検索画面が表示されます。

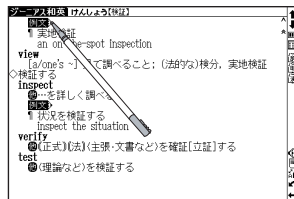
検索する

（検索画面から調べたい項目を選び検索する ☞ 30 ページ参照）

画面のスクロール

（カーソルキーの操作　△／▽／▷／◁ と 前見出し▲／▼次見出し を使う ☞ 27 ページ参照）

例文・解説・コラムの表示

本文画面上のまたは 例文 EXAMPLE 解説 コラム をタップすると、タップした箇所を先頭に例文・解説・コラムが表示されます。再度、アイコンをタップすると非表示になります。

（画面上の表示アイコンについて ☞ 47 ページ参照）

別のコンテンツに切り替える

画面右上の をタップしてメニュー画面を表示させ、コンテンツを選択してください。

（画面上の表示アイコンについて ☞ 47 ページ参照）

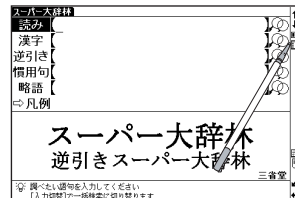
選択を広げる

マルチジャンプでジャンプしたい語句や単語帳でマーカーを引きたい箇所、TTS 発音、すぐ出る発音機能などで、選択範囲を広げたい場合、スタイラスを使って画面の語句を選択することができます。

選択したい語句の最初の文字を軽くタップし、文字を反転させ、そのままスタイラスを離さずに最後の文字までスライドし、反転文字範囲を広げてください。

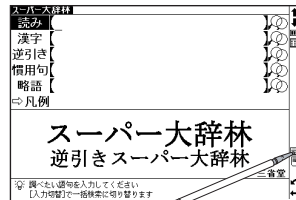
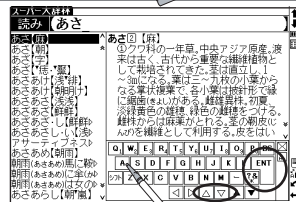
● 選択部分を解除させたい場合は、本文画面の空白部分又は をタップしてください。
（2 文字以上の語句を選択する場合 ☞ 185 ページ参照）

学習項目や単語帳に登録した単語などにチェックマーク☑を入れる

（チェックボックス ☞ 121 ページ参照）
（単語帳を使う ☞ 189 ページ参照）

バーチャルキーを使う

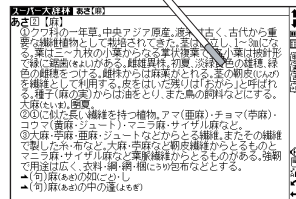
スタイラスでバーチャルキーをタップするだけで簡単に入力することができます。

例題 1　大辞林でバーチャルキーを使い「麻」を入力します

1 大辞林の検索画面を表示させ、スタイラスで をタップします（検索画面に手書き入力画面が先に表示されているときは、をタップします）。画面右下にバーチャルキーが表示されます。

2 スタイラスでバーチャルキーをタップし、読み入力欄に読みを入力します。（ここでは「ASA（あさ）」と入力します）。画面に該当する単語が五十音順に候補表示されます。△／▽ をタップしカーソルを移動させ「あさ【麻】」を選択します。選択後 ENT をタップします。

3 本文画面を表示させせます。

●慣用句、逆引き、略語などを調べたい時は、手順１の後、調べたい入力欄にカーソルを移動させせます。

●バーチャルキーを消したい時はバーチャルキー右上の をタップしてください。

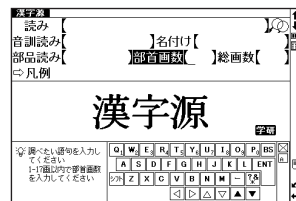
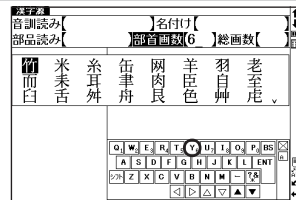
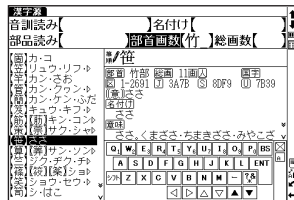
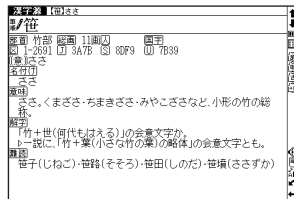
基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

入力訂正

入力訂正は、BSをタップして、間違えた文字を一文字ずつ消去し、もう一度入力し直します。をタップすると入力中の文字を全て消去できます。また◁／▷で削除したい文字や、入力し直したい文字の下にカーソルを移動させ、BSをタップすると、その文字のみ削除したり、入力し直すことができます。

表示方法について

ここではローマ字入力（アルファベットのピンイン）からの入力を基準に説明していますが、環境設定でかな入力モードを選択するとバーチャルキーでもかな入力ができます。

例題2　漢字源で「笹（ささ）」をバーチャルキーから、部首画数で調べます

1 漢字源の検索画面を表示させ、をスタイラスでタップし、バーチャルキーを表示させます（検索画面に手書き入力画面が先に表示されているときは、をタップします）。スタイラスで△／▽をタップし、カーソルを部首画数入力欄に移動させます。

2 「笹」の部首は「竹」で6画なので、Yをタップします。部首画数が6画の部首候補が表示されます。◁／▷／△／▽をタップし、カーソルを「竹」に移動させ、ENTをタップします。部首が「竹」の親字候補が表示されます。

3 △／▽をタップし、調べたい文字を選択します（ここでは「【笹】ささ」を選択します）。

4 ENTをタップし、本文画面を表示させます。

手書き入力をする

検索画面で文字入力ができるコンテンツでは、スタイラスを使用した手書き入力ができます。日本語、アルファベット、数字を手書きで入力することができます（ここではかな入力の操作を紹介します。漢字、数字などの各入力方法別の手順については「コンテンツ活用の基本とコツ」の項目をご参照ください）。

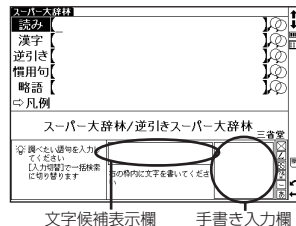
例題 1　手書き入力で大辞林の「あさ（麻）」を調べます

1 大辞林の検索画面を表示させ、バーチャルキーを表示させます。
（バーチャルキーを使う ☞ 40 ページ参照）

2

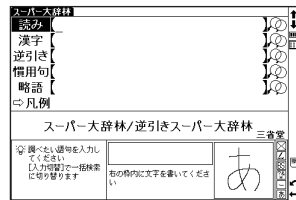
バーチャルキー右の A をタップし、手書き入力画面を表示させます。

●手書き入力画面を閉じたい場合は ☒ をタップしてください。

●検索画面に先に手書き入力画面が表示されているときは、手順 3 から始めてください。

文字候補表示欄　手書き入力欄

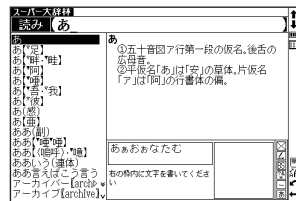
3

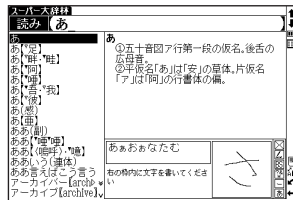
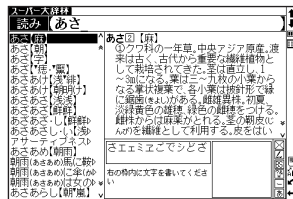
手書き入力欄に一文字ずつ入力します（ここでは「あ」を入力します）。

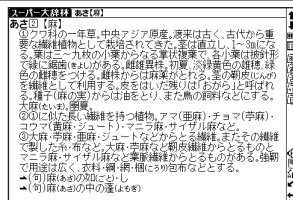
（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46 ページ参照）

4

文字候補表示欄に文字候補が表示されます。読み欄にも表示されます。また画面左には手書き入力欄の文字から始まる見出し語が五十音順に表示されます。

●手書きした文字により、文字を認識するまでの検索時間が長い場合があります。

●読み欄の文字が調べたい文字と違う場合は文字候補表示欄から該当する文字を探し、その文字をスタイラスでタップします。

5 続けて調べたい文字を手書き入力欄に入力します（ここでは「さ」を入力します）。

●見出し語リストから見つける場合、∨∧や︾︽でリストを送り、調べたい語句を選択します。

6 文字候補表示欄に文字候補が表示されます。読み欄にも表示されます。また画面左には手書き入力欄の文字から始まる見出し語が五十音順に表示されます。

7 見出し語リストから調べたい言葉をダブルタップし、本文画面を表示させます（ここでは「あさ【麻】」を選択します）。

●入力訂正について
（入力訂正 ☞ 41 ページ参照）

手書き入力する場合のヒント

- をタップすると、バーチャルキー画面か手書き入力画面が表示されます。漢字源の検索画面と大辞林の漢字検索画面では初期設定として手書き入力が先に表示されます。
- かな入力する場合は、ひらがな･カタカナのどちらを入力しても検索可能です。
- アルファベット入力する場合は、大文字･小文字のどちらを入力しても検索可能です。筆記体は認識できません。
- バーチャルキーに戻したい時は をタップしてください。手書き入力に戻したい時は をタップしてください。
- 手書き入力画面を閉じたい場合は をタップしてください。
- 2 文字以上の文字から成る見出し語を手書き検索する場合、手書き入力欄には 1 文字ずつ入力してください。
- 拗音だけでなく促音も 1 文字ずつ入力してください。
- 文字候補表示欄に該当する文字がない場合は、手書きした文字の形からは該当する漢字を認識できなかったということになります。その場合は 登録/削除 を押し、読み欄に表示されている漢字を削除した後、もう一度手書き入力してください。
- 手書き入力後、表示される漢字候補は、手書き入力時の漢字の書き方や形によって、表示される漢字や配列順序が違う場合があります。
- 手書き入力時の文字の書き方によっては個人差により、文字認識できない場合があります。書き方の良い例を参考に、再度入力し直して下さい。
  （文字を書く時のご注意 ☞ 46 ページ参照）
- 手書き入力の認識速度を環境設定で変更することができます。
  （手書き認識速度 ☞ 51 ページ参照）

手書き入力で認識できる文字

各コンテンツの入力欄を選択すると、手書き入力欄の右下に入力認識できる文字が以下のように表示されます。

あ…漢字、ひらがな、カタカナ

A…アルファベット（大文字·小文字）

1…数字（アラビア文字）

タップすると入力できる文字

?&*…＊、？、＆

ー ー…長音、ハイフン

BS…削除

文字を書くときのご注意

●楷書で丁寧に手書き入力してください。
文字を構成する各部分のバランスが崩れすぎないようにご注意ください。

（良い例）

（悪い例）

●続け字で手書き入力しないでください。
続け字は総画数が違ってくるため、正しく認識できなくなります。

（良い例）

（悪い例）

●歪みがないように手書き入力してください。
極端に傾いた文字を入力しないようご注意ください。

（良い例）

（悪い例）

画面上の表示アイコンについて

キーを押す代わりに、画面上に表示されるアイコンを付属のスタイラスでタップして操作することができます。

おもに画面上部と右側に表示されるアイコン

番号	アイコン	表示アイコンの説明
1		表示中の見出し語に関連語句があることを示します。 （関連語句を調べる ☞186ページ参照）
2	∧∨	画面に表示しきれない前後の画面を1行ずつスクロールさせ見ることができます。 （画面のスクロール ☞28ページ参照）
3		画面に表示しきれない前後の画面を1画面ずつスクロールさせ見ることができます。 （画面のスクロール ☞28ページ参照）
4	⬆⬇	前後の見出し語の本文画面に移動することができます。 （前後の見出し語に移る ☞29ページ参照）
5		電池残量を示します。パソコンから電源が供給されるとアイコン表示が から に変わります。 （電池を交換するには ☞9ページ参照）（USB辞書使用後に電源を切る ☞242ページ参照）
6		メニュー画面を表示します。
7		ディクショナリーリンクアイコン表示中の見出し語と同じ見出し語が他の辞典にもあることを示します。タップするとジャンプすることができます。 （ディクショナリーリンクアイコン ☞48ページ参照）
8		表示中のコンテンツ・モードの履歴を表示します。（履歴機能を使う ☞202ページ参照）
9		画面に表示される文字サイズの切り替えができます。（文字サイズ切替 ☞53ページ参照）
10		表示されている1つ前の画面に戻ります。
11		選択、各種機能の実行など、訳・決定 と同じ働きをします。

発音が確認できる時に表示されるアイコン

アイコン	表示アイコンの説明
(録音アイコン)	発音を録音し、模範発音と比較することができます。　（発音を録音し聞き比べる ☞71ページ参照）
(スピーカーアイコン)	発音を聞くことができます。　（発音を確認する ☞66ページ参照）（すぐ出る発音機能を使う ☞68ページ参照）（TTS発音<合成音声による発音>を読み上げる ☞69ページ参照）

本文画面内部に表示されるアイコン

例文 解説 EXAMPLE コラム	本文画面上に表示されている場合、見出し語の例文、解説やコラムを表示することができます。（例文･解説･コラムの表示 ☞63ページ参照）

ディクショナリーリンクアイコン

表示中の見出し語と同じ見出し語が他のコンテンツにもあることを示します。タップするとジャンプすることができます。

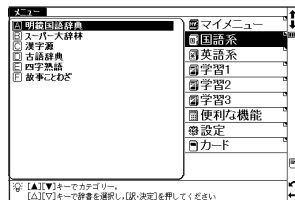
画面上に表示されるアイコンは以下のコンテンツを表します。

- 明 明鏡国語辞典
- 辞 大辞林
- 漢 漢字源
- 古 古語辞典
- 熟 四字熟語
- 故 故事ことわざ
- ベ ベーシックジーニアス英和
- EJ ジーニアス英和
- →E 和英辞典
- →E 英英辞典
- 世 世界史事典
- 日 日本史事典
- 俳 和歌・俳句検索
- 生 生物事典
- 単 英単語ターゲット
- 熟 英熟語ターゲット

（ディクショナリーリンク機能を使う ☞ 180ページ参照）

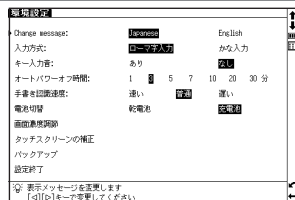
各種機能の設定

入力方式や表示メッセージなど、本機の各種機能の設定を切り替えることができます。

1 メニュー を押すと、メニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面から設定→環境設定を選んで、設定画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

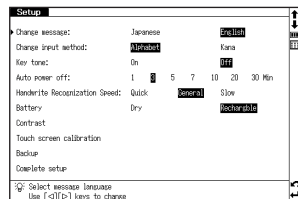
●▽／△ でカーソルを移動させ項目を選択した後、設定／切り替えを行ってください。

●メニュー画面に戻る場合は、設定終了を選択して 訳・決定 を押すか 戻る を押してください。すべての設定は選択すると同時に切り替わります。

☞Change message （表示メッセージ切替）

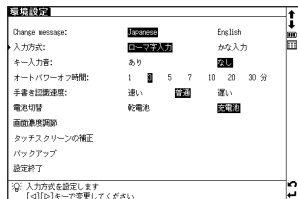
画面に表示されるメッセージを日本語／英語に切り替えることができます。

（初期設定は「Japanese 」です）

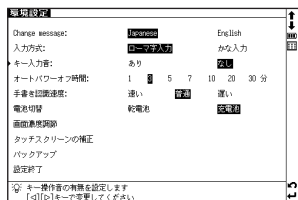
●右の画面は「English」を選択した場合です。

▽／△ で画面上の「Change message 」を選択してください。◁／▷ でメッセージ言語を選択します。選択すると同時に表示メッセージが切り替わります。

入力方式

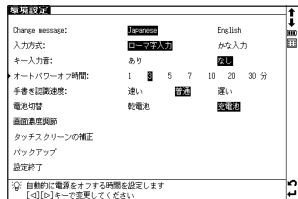
文字の入力の際の入力方式を切り替えることができます。
（初期設定は「ローマ字入力」です）

▽／△ で画面上の「入力方式」を選択してください。◁／▷ で入力方式を選択します。

キー入力音

ピッというキー入力音の有無を設定することができます。
（初期設定は入力音「なし」です）

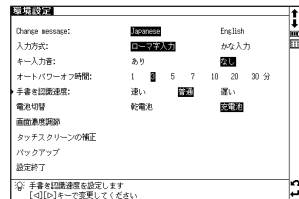
▽／△ で画面上の「キー入力音」を選択してください。◁／▷ でキー入力音の有無を選択します。

オートパワーオフ

本機は電池の消耗を防ぐため、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています。ここでは電源が切れるまでの時間を設定することができます。
（初期設定は「3分」です）

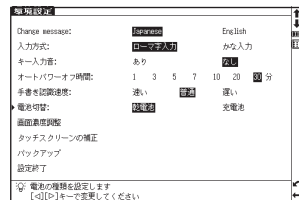
▽／△ で画面上の「オートパワーオフ時間」を選択してください。◁／▷ で電源が切れるまでの時間を１、３、５、７、10、20、30分の中から選択します。

手書き認識速度

手書き入力のときの文字などの認識の速さを設定することができます。
（初期設定は「普通」です）

△／▽で画面上の「手書き認識速度」を選択してください。◁／▷で手書き入力の認識速度を選択します。

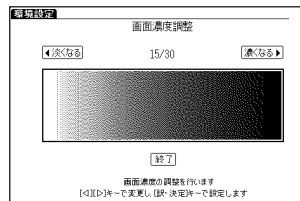
●メモ機能の編集画面使用時では、一時的にメモ機能の画面上で手書き認識速度を設定することができます。
（メモ機能を使う ☞ 210ページ参照）

電池切替

新しく入れた電池の種類により、電池の切り替えを設定します。
設定した電池の種類と実際に入れた電池の種類が異なっている場合、電池の残量表示 や電池交換のメッセージが正しく表示されないことがありますのでご注意ください。
（初期設定は「乾電池」です）

▽／△で画面上の「電池切替」を選択してください。◁／▷で電池の種類を選択します。

画面濃度調節

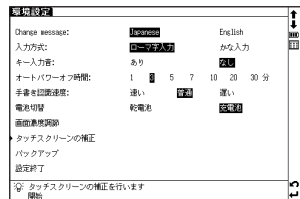
画面の明るさを調節することができます。

▽／△ で画面上の「画面濃度調節」を選択してください。

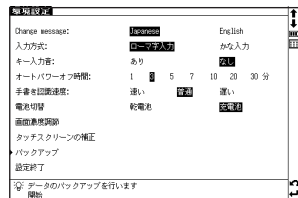
◁／▷ で明るさを調整します。

タッチスクリーンの補正

長い時間スタイラスを使用しなかったり、温度の変化などの原因によりスタイラスが正しく反応しなくなった場合に行います。

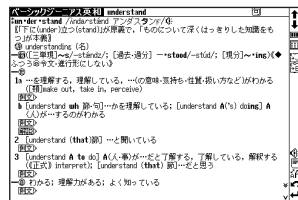
▽／△ で「タッチスクリーンの補正」を選択し、訳・決定 を押します。「タッチスクリーンの補正 をスタイラスでタップしてください」のメッセージが表示されます。

スタイラスで画面に表示されている４つの をタップ（画面に軽く触れる）すると、 が画面から消えます。4つの をすべてタップすると環境設定画面に戻ります。

バックアップ

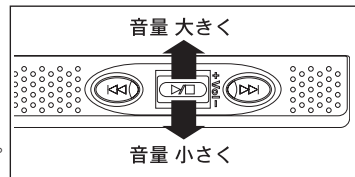
電子辞書内の単語帳（マーカー、チェックマークを含む）、環境設定、ブックマークやメモをバックアップデータとしてカードに保存することができます。

SDメモリーカードをカードスロットに挿入し、▽／△で画面上の「バックアップ」を選択してください。
（バックアップを行う ☞ 54ページ参照）

文字サイズ切替

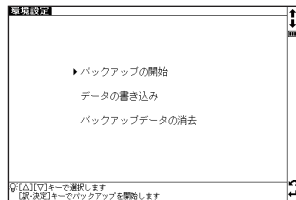
画面に表示される文字のサイズを「標準」サイズ（16dot）／「縮小」サイズ（12dot）／「拡大」サイズ（24dot）に切り替えることができます。
（初期設定は「標準」サイズです）
すべての辞書機能で使えます。本文表示画面で［文字サイズ 拡大］を押すと、「標準」サイズから「拡大」／「縮小」サイズに切り替わります。右は、「縮小」サイズの表示画面です（学習コンテンツや検索モードの一部では「標準」サイズ固定のものがあります）。
見出し語候補リスト表示画面では［文字サイズ 拡大］を押すと、「標準」サイズから「縮小」サイズにのみ切り替わります。

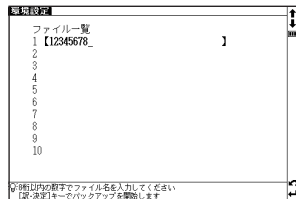
再度［文字サイズ 拡大］を押すと、もとのサイズに戻ります。（24dotの場合は1回押すと12dot、2回押すと16dotに戻ります）
スタイラスを使う場合は画面上のアイコンをタップしてください。

☞音量調整

キーボード上部のジョグを上下に動かし、音量を調整することができます。
画面に現在の音量レベルが表示され、ジョグを手前に押すと小さく、反対側に押すと大きくなります。

- 本体裏面のHOLDスイッチでホールドを有効にすると､ジョグの操作をロックすることができます。ホールドが有効な間は、ジョグによる音量調整はできません。
  （ジョグおよび操作ボタンをロックする ☞ 227 ページ参照）
- MP3 の音量は画面からも調整することができます。
  （MP3 プレーヤー機能を使う ☞ 224 ページ参照）

バックアップを行う

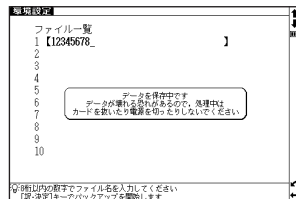
本機の単語帳、環境設定、ブックマークやメモなどのデータを市販のSDメモリーカードに保存します。

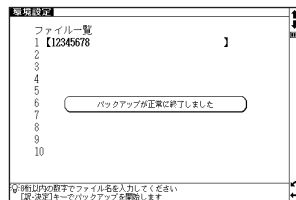
1 SD メモリーカードを本体に挿入します。
環境設定から「バックアップ」を選択して、［訳・決定］を押します。
［▽］／［△］で「バックアップの開始」を選択します。
（バックアップ ☞ 53 ページ参照）

2 「ファイル名を入力してください」の表示後、ファイル一覧にバックアップデータのファイル名を数字で入力してください。

- ファイル名は 8 ケタまでの数字で入力できます。10ファイルまで保存することができます。

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、画面に入力したファイル名と「バックアップを開始してよろしいですか」とメッセージが表示されます。

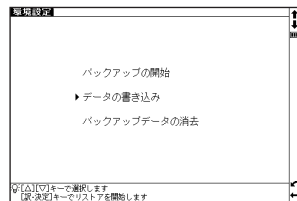
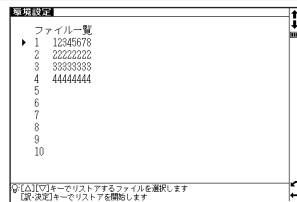
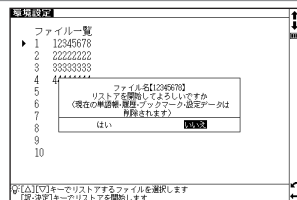
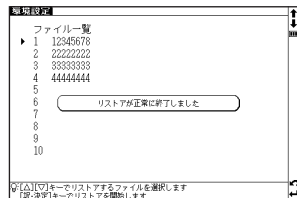
環境設定
ファイル一覧
1【12345678】
2
3
4
5
6
7
8
9
10
ファイル名【12345678】
バックアップを開始してよろしいですか
はい　いいえ
8桁以内の数字でファイル名を入力してください
［訳・決定］キーでバックアップを開始します

4 ◁ で「はい」を選択した後 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、「データ保存中です　データが壊れる恐れがあるので，処理中はカードを抜いたり電源を切ったりしないでください」と表示されます。

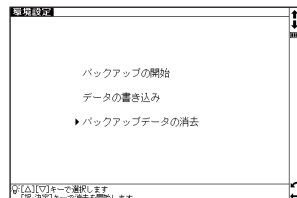
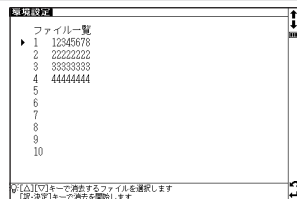
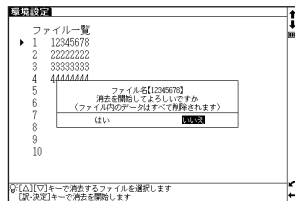
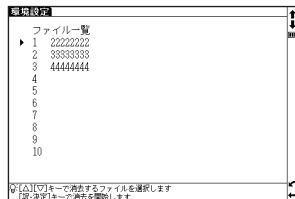
環境設定
ファイル一覧
1【12345678_】
2
3
4
5
6
7
8
9
10
データを保存中です
データが壊れる恐れがあるので，処理中は
カードを抜いたり電源を切ったりしないでください
8桁以内の数字でファイル名を入力してください
［訳・決定］キーでバックアップを開始します

5 バックアップが終了すると、「バックアップが正常に終了しました」と表示されます。

●バックアップ終了後は環境設定画面に戻ります。

データの書き込み（リストア）を行う

SDメモリーカードに保存されたデータを本機に書き込みます。

1 ▽／△ で「データの書き込み」を選択します。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、バックアップデータのファイル一覧が表示されます。

2 ▽／△ で書き込みするファイルを選択し、例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。

3 ファイル名と「リストアを開始してよろしいですか（現在の単語帳・履歴・ブックマーク・設定データは削除されます）」とメッセージが表示されます。

4 「はい」を選択した後 [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、「データ保存中です　データが壊れる恐れがあるので，処理中はカードを抜いたり電源を切ったりしないでください」と表示されます。
書き込みが終了すると、「リストアが正常に終了しました」と表示されます。

バックアップデータを消去する

保存済みのファイルを選択消去します。

1 [▽]／[△] で「バックアップデータ消去」を選択します。
[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、バックアップデータのファイル一覧が表示されます。

2 [▽]／[△] で消去するファイルを選択し、[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押します。

3 ファイル名と「消去を開始してよろしいですか（ファイル内のデータはすべて削除されます）」と表示されます。

4 「はい」を選択した後 訳・決定 を押すと、「データ消去中です　データが壊れる恐れがあるので　処理中はカードを抜いたり電源を切ったりしないでください」と表示されます。
消去が終了すると、「ファイルを消去しました」と表示され、選択したファイルがファイル一覧から削除されます。

バックアップ操作中に表示されるエラーメッセージ

バックアップ操作中にエラーを示すメッセージが表示されることがあります。下記のメッセージが表示された場合は、以下のように対処し、操作をやり直してください。

表示されるエラーメッセージ	対処方法
カードを挿入してください	SD メモリーカードを正しく挿入してください。 （カード<コンテンツカードや SD メモリーカード等>を使う ☞ 221 ページ参照）
このカードは使用できません　ロックを解除するか,別のカードを挿入してください	挿入したSDメモリーカードのロックを解除するか、別のSD メモリーカードを挿入してください。
電池容量が低下しているため,バックアップできません　電池を交換してください	新しい電池に交換してください。 （電池を交換するには ☞ 9 ページ参照）
容量不足のためファイルのバックアップができません　別のカードを挿入してください	ファイル容量が十分あるSDメモリーカードを挿入してください。
バックアップに失敗しました　操作をやり直してください	もう一度操作をやり直してください。
電池容量が低下しているため,リストアできません　電池を交換してください	新しい電池に交換してください。
記録できるデータがありません	リストア可能なデータが記録されたSDメモリーカードを挿入してください。
リストア（または「ファイルの消去」）に失敗しました　操作をやり直してください	もう一度操作をやり直してください。
電池容量が低下しているため,ファイルを消去できません　電池を交換してください	新しい電池に交換してください。
消去するデータがありません	データの内容をもう一度確認してください。

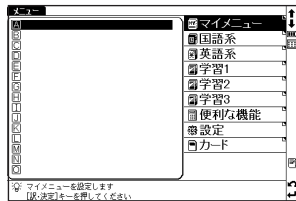
コンテンツ活用のコツ

マイメニューにコンテンツを登録する

頻繁に使用するコンテンツを「マイメニュー」としてメニュー画面に登録することができます。

マイメニューにコンテンツを登録する

1 メニュー画面からマイメニューを選んで、表示させます。

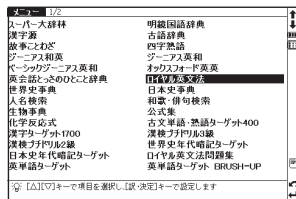
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、コンテンツ選択メニュー画面が表示されます。

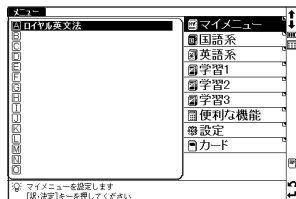
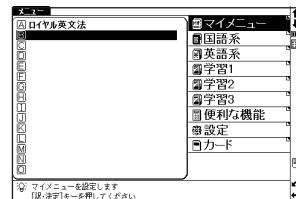
▽／△／◁／▷ でカーソルを移動させ､登録したいコンテンツを選択します（ここでは「ロイヤル英文法」を選択します）。

● ▼（次見出し）で 2/2 のコンテンツ選択メニュー画面を表示することができます。

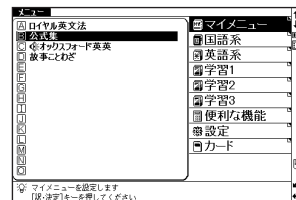
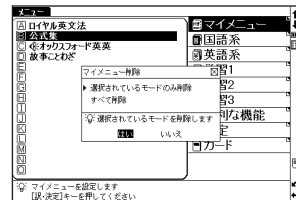
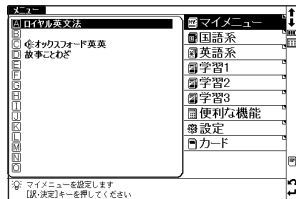
メニュー 1/2

スーパー大辞林
漢字源
故事ことわざ
ジーニアス和英
ベーシックジーニアス英和
英会話とっさのひとこと辞典
世界史事典
人名検索
生物事典
化学反応式
漢字ターゲット1700
漢検プチドリル2級
日本史年代暗記ターゲット
英単語ターゲット
明鏡国語辞典
古語辞典
四字熟語
ジーニアス英和
オックスフォード英英
ロイヤル英文法
日本史事典
和歌・俳句検索
公式集
古文単語・熟語ターゲット400
漢検プチドリル3級
世界史年代暗記ターゲット
ロイヤル英文法問題集
英単語ターゲット BRUSH-UP

[△][▽]キーで項目を選択し､[訳・決定]キーで設定します

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、選択したコンテンツが登録されます。

●コンテンツが選択された状態で 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、検索画面が表示されます。

●手順3の後、▽でカーソルをコンテンツ名が登録されていない欄に移動させ、訳・決定を押します。コンテンツ選択メニュー画面が表示され、コンテンツを追加登録することができます（画面はB欄へ追加登録をするところです）。
●マイメニューに登録したコンテンツを再び登録しようとすると、「既にマイメニューに登録されています」とメッセージが表示されます。

登録したコンテンツを削除する

登録コンテンツは1コンテンツずつ、または一度にまとめてマイメニューから削除することができます。

1 メニュー画面からマイメニューを選んで、表示させます。

2 ▽でカーソルを削除したいコンテンツの欄に移動させます（ここではB欄へ移動させます）。登録/削除を押すと、削除画面が表示されます。
▽／△で「選択されているモードのみ削除」を選びます。◁で「はい」を選んで訳・決定を押します。

3 選択したコンテンツ（ここではⒷ欄に登録した「公式集」）が削除されます。

すべてのコンテンツを削除する場合

▽／△で「すべて削除」を選びます。◁で「はい」を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、登録しているすべてのコンテンツがマイメニューから削除されます。

カードコンテンツを登録させる場合

コンテンツの入ったカードを挿入すると、コンテンツ選択メニュー画面にカードコンテンツもいっしょに表示され、マイメニューに登録することができます。

●一度カードを抜くと、マイメニューのカードコンテンツ名は保存されません。

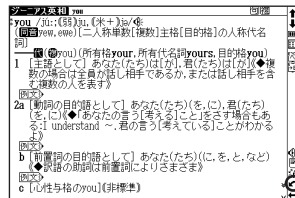
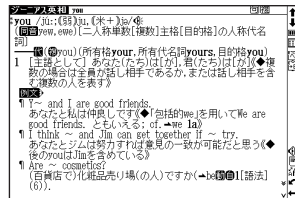
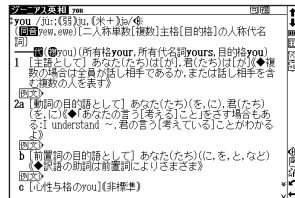
例文・解説・コラムの表示

本文画面上に 例文 EXAMPLE 解説 コラム が表示されている場合は、例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと例文、解説またはコラムを表示させることができます。再度 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、例文、解説またはコラムは非表示になります。

●例文・解説・コラムは、明鏡国語辞典・ベーシックジーニアス英和・ジーニアス英和・古語辞典・英英辞典・和英辞典で表示されます。

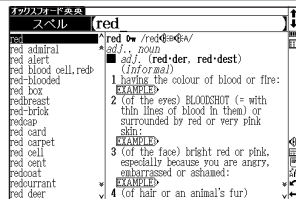
候補リスト画面に戻る

本文画面表示中に 戻る を押すと、候補リスト一覧画面に戻ります。

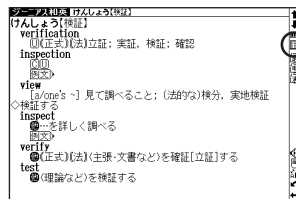
スタイラスを使う場合は、画面右下に表示される ↶ をタップすると戻ることができます。

別の語句を調べる

1 検索後、同じコンテンツ・検索モードで別の語句を調べる場合は、本文画面が表示されたまま、文字入力キーを使って語句を入力します。

オックスフォード英英 apple
apple /ˈæpl/
noun
a round fruit with shiny red or green skin and firm white flesh:
EXAMPLE
—see also ADAM'S APPLE, BIG APPLE, COOKING APPLE, CRAB APPLE, EATING APPLE, TOFFEE APPLE
IDM the apple doesn't fall/never falls far from the tree
(saying, especially NAmE) a child usually behaves in a similar way to his or her parent(s)
IDM the ˌapple of sb's ˈeye
a person or thing that is loved more than any other
IDM ˌapples and ˈoranges
(NAmE) used to describe a situation in which two people or things are completely different from each other:

2 画面が自動的に検索画面に切り替わり、入力欄に文字が入力されます。

別のコンテンツに切り替える

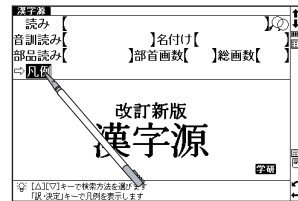
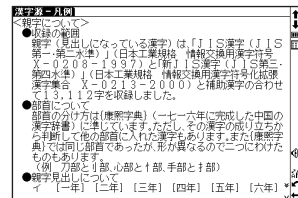
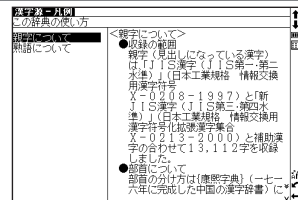
検索画面または本文画面表示中に別のコンテンツに切り替えたい場合は、［複数検索］、［漢字源 国語］、［和英 英和］、［英英］、［単語帳］を押します。または［メニュー］を押してメニュー画面を表示させ、メインメニューからコンテンツを選択します。
スタイラスを使う場合は、画面右上の⊞をタップしてメニュー画面を表示させ、コンテンツを選択してください。

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

辞典の凡例を見る

各辞典の検索画面上に⇨**凡例** の表示がある場合は、表示中の辞典の凡例（編集方針・記号の解説など）を見ることができます。

1 ▽ でカーソルを移動させ、⇨**凡例** を選択すると黒く反転表示します。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと凡例が表示されます。

スタイラスを使う場合は、⇨**凡例** をタップすると黒く反転しますので、もう１度タップして凡例画面を表示させせます。

2 表示されたリストから項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、選択した項目の凡例画面が表示されます。

発音を確認する

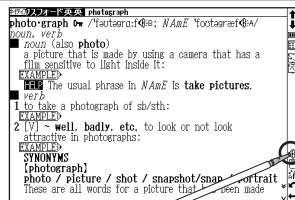
画面上に が表示されている場合は、発音（ネイティブ発音）を確認することができます。

例 題　英英辞典の本文画面で「photograph」の発音を確認します

1 英英辞典で「photograph」の本文画面を表示させます。
発音記号の後に が表示されていることを確認します。
（英英辞典を使う ☞ 110ページ参照）

オックスフォード英英 photograph
photo·graph /ˈfəʊtəɡrɑːf; NAmE ˈfoʊtəɡræf/
noun, verb
■ noun (also photo)
a picture that is made by using a camera that has a film sensitive to light inside it:
EXAMPLE
HELP The usual phrase in NAmE is take pictures.
■ verb
1 to take a photograph of sb/sth:
EXAMPLE
2 [V] ~ well, badly, etc. to look or not look attractive in photographs:
EXAMPLE
SYNONYMS
【photograph】
photo / picture / shot / snapshot/snap / portrait
These are all words for a picture that has been made

2 発音 録音 を押すと、画面に ネイティブ と表示され見出し語が発音されます。

- スタイラスを使う場合は、画面右の をタップしてください。
- 電池容量が不足している場合は、発音機能が作動しないことがあります。

選択キーを使って英語発音と米語発音を確認する場合

英英辞典では英語発音と米語発音を聞き比べることができます。

1 英英辞典「photograph」の本文画面で スペル 範囲選択 を押します。

オックスフォード英英 photograph
photo·graph /ˈfəʊtəɡrɑːf B; NAmE ˈfoʊtəɡræf A/
noun, verb
■ noun (also photo)
a picture that is made by using a camera that has a film sensitive to light inside it:
EXAMPLE
HELP The usual phrase in NAmE is take pictures.
■ verb
1 to take a photograph of sb/sth:
EXAMPLE
2 [V] ~ well, badly, etc. to look or not look attractive in photographs:
EXAMPLE
SYNONYMS
【photograph】
photo / picture / shot / snapshot/snap / portrait
These are all words for a picture that has been made

2 ▽／△／◁／▷ でカーソルを移動させ、A を選択します。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、見出し語の米語発音が確認できます。

●英語発音を確認したい場合は B を選択します。

●複数の発音が収録されている場合には、発音/録音 を押すと（またはスタイラスで画面右の をタップすると）複数の発音が連続して発音されます。例えば英英辞典では英語発音と米語発音を連続して発音します。
スペル 範囲選択 を使うと（またはスタイラスで本文中の をタップすると）、選択した発音のみ確認することができます。

●本文解説中や例文中の英語を スペル 範囲選択 で選び、発音を確認することもできます。
（TTS 発音<合成音声による発音>を読み上げる ☞ 69 ページ参照）
（すぐ出る発音機能を使う ☞ 68 ページ参照）

● TTS やネイティブ音声の発音中に音量を調整することはできません。発音終了後に調整してください。

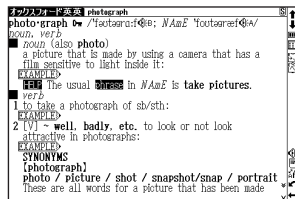
すぐ出る発音機能を使う

本文解説や例文にある英語のネイティブ発音をすぐ出る発音機能を使って確認することができます。発音は英英辞典の音声データに収録されている単語のみとなります。英単語を［スペル 範囲選択］で選べるすべてのコンテンツで使用できます。

例題　英英辞典で「photograph」の本文画面から、「phrase」の発音を聞きます

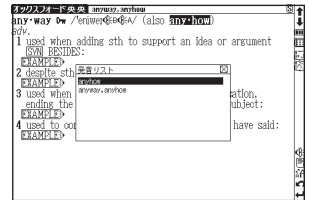
1 英英辞典の「photograph」の本文画面を表示させます。
（英英辞典を使う ☞ 110ページ参照）

オックスフォード英英 photograph
photo·graph /ˈfəʊtəɡrɑːf; NAmE ˈfoʊtəɡræf/
noun, verb
■ noun (also photo)
a picture that is made by using a camera that has a film sensitive to light inside it:
EXAMPLE
HELP The usual phrase in NAmE is take pictures.
■ verb
1 to take a photograph of sb/sth:
EXAMPLE
2 [V] ~ well, badly, etc. to look or not look attractive in photographs:
EXAMPLE
SYNONYMS
【photograph】
photo / picture / shot / snapshot/snap / portrait
These are all words for a picture that has been made

2 ［スペル 範囲選択］を押し、［▽］／［△］／［◁］／［▷］で、カーソルを移動させ、「phrase」を選択します。

3 ［発音 録音］を押すと、画面に［ネイティブ］と表示され「phrase」の発音を聞くことができます。

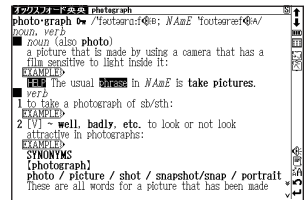
- 選択後、スタイラスで［音声アイコン］をタップしても発音を聞くことができます。
（発音を確認する ☞ 66ページ参照）
- 選択した単語が英英辞典の音声データにない語の場合はTTS発音で読み上げます。
（TTS発音<合成音声による発音>を読み上げる ☞ 69ページ参照）
- すぐ出る発音機能では録音機能、及び発音比較機能は行えません。

1つの単語で2つ以上の発音がある場合

1つの単語で2種類以上の発音（すぐ出る発音）がある場合は、前ページ手順3で 発音/録音 を押した後、リストが表示されます。▽／△ で聞きたい発音を選択し、発音/録音 または 訳・決定 を押してください（スタイラスを使う場合は 🔈 をタップしてください）。リスト画面を閉じたい場合は 戻る を押すか、スタイラスで ☒ をタップしてください。

TTS 発音（合成音声による発音）を読み上げる

本文解説中や例文中に英語が掲載されたコンテンツ・検索モードでは英語部分を選択し、その発音（TTS発音：Text to Speech<合成音声>）を読み上げることができます。

例 題　英英辞典から「photograph」の本文画面の英文をTTS発音で読み上げます

1 英英辞典で「photograph」の本文画面を表示させます。
（英英辞典を使う ☞ 110ページ参照）

2 範囲選択（スペル）を押し、△／▽／◁／▷ でカーソルを移動させ、「a」を選択します。

3 スペル 範囲選択 を再度押すと、画面上の S が反転します。その後、 ▷ を押して反転文字範囲を「it」まで広げます。

（2 文字以上の語句を選択する場合 ☞ 185 ページ参照）

4 発音 録音 を押すと、画面に TTS と表示され選択部分の英語を読み上げます。

- ●英語と他の言語や記号をいっしょに選択した場合は、選択した表記通りに読み上げない場合があります。
- ●選択後、スタイラスで 🔈 をタップしても発音を聞くことができます。（発音を確認する ☞ 66 ページ参照）
- ● TTS 発音中は音量を調整することができません。発音終了後に調整してください。

☞ TTS 発音について

本製品の英語音声読み上げ機能は米国 Fonix Corporation 社の DECtalk™ を使用しています。

英語音声読み上げ機能は一切の誤りなく文章を読み上げることを保証するものではありません。英語音声読み上げ機能の使用により発生した損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社および使用許諾権者では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

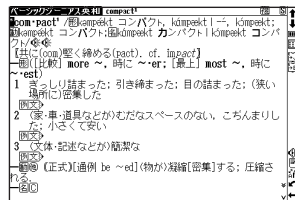
発音を録音し聞き比べる

画面上に🎤が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。

例題　ベーシックジーニアス英和の本文画面で「compact」の発音を録音し、模範発音と聞き比べます

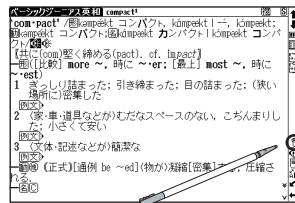
1

「compact」の本文画面を表示させます。範囲選択（スペル）を押します。

（検索方法 ☞ 103ページ参照）

2

▽／△／◁／▷でカーソルを移動させ、本文中の 🔈 を反転させます。
画面右に🎤が表示されていることを確認して、シフト 発音（録音）を押します。

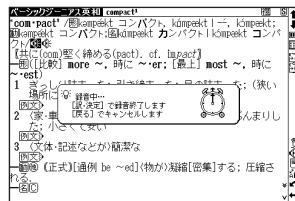
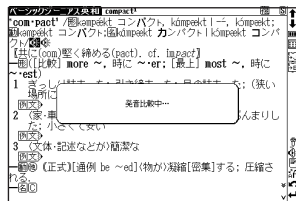
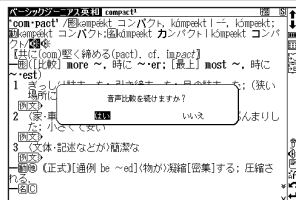
（マルチジャンプ機能を使う ☞ 182ページ参照）

●スタイラスを使う場合は、🎤をタップしてください。

3

「発音中」のメッセージ表示とともに、模範発音が流れます。続いて「録音中」のメッセージ表示に切り替わり録音が開始されますので、模範発音にならって発音します。約1分間で自動的に録音が終了されます。

●録音が終わったら 訳・決定 で録音を終了することもできます。

●途中で録音を中止する場合には 戻る を押してください。録音がキャンセルされ、本文画面に戻ります。

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

4 録音が終了すると、「発音比較中」のメッセージ表示とともに、自動的に録音の再生が行われます。まず、模範音が再生され、その後に録音した自分の発音が再生されます。

5 発音の比較が終わると、「音声比較を続けますか？」のメッセージが表示されます。もう一度聞き比べたい場合には「はい」を選択して 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。

「いいえ」を選択して 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、音声比較は終了し本文画面に戻ります。

- 録音した音声は、音声比較を終了するとともに消去されます。保存することはできません。
- 発音再生中、および録音中に 発音 録音 を押しても発音は繰り返されません。また画面をタップしても操作は実行されません。

発音比較ができるコンテンツ

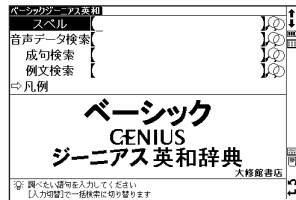
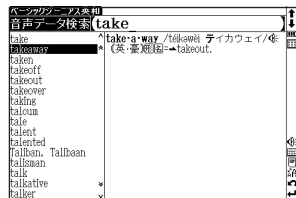
英語系	ベーシックジーニアス英和	ジーニアス英和	英英辞典
	英会話とっさのひとこと辞典		
学習２	英単語ターゲット	英熟語ターゲット	英語発音クリニック
	センター試験英語会話表現集		

音声データ検索をする

ベーシックジーニアス英和、ジーニアス英和、英英辞典では共通の音声データをもつ単語（🔈のついた見出し語）を検索することができます。

例題　ベーシックジーニアス英和から「take」の音声データを持つ見出し語を検索します

1 和英/英和 を押してベーシックジーニアス英和の検索画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103ページ参照）

2 音声データ検索欄に文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「take」と入力します)。画面に入力文字に該当する単語が五十音順に候補表示されます。

3 △／▽でカーソルを移動させ、調べたい単語を選択します（ここでは「takeaway」を選択します)。

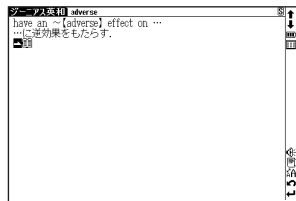
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

検索した語の本文画面に参照ジャンプする

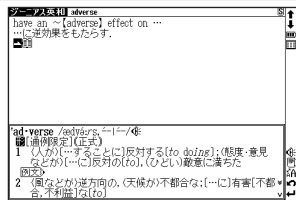
例文検索結果画面や生物事典の図版検索結果画面で にジャンプすると、検索した語のコンテンツ本文画面にジャンプすることができます。

辞典本文画面に参照ジャンプできるコンテンツ
ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　和英辞典　英英辞典　生物事典

例題　ジーニアス英和で「effect」の例文検索から辞典本文画面に参照ジャンプします

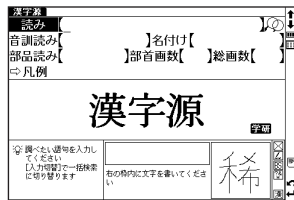
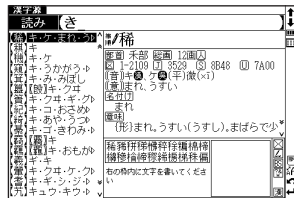
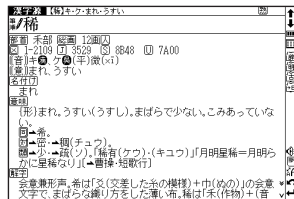
1 106 ページ手順３の本文画面にある の横の を反転させます。
（入力した英単語を含む例文を調べる ☞ 105 ページ参照）

2 が反転されている状態で 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、「adverse」の本文画面にジャンプします。
（参照ジャンプを実行する ☞ 184 ページ参照）

●手順２の後 訳・決定 を押すと、全画面表示されます。続けて 訳・決定 を押すと 例文 が表示され、検索した例文を確認することができます。 戻る を押すと本文画面に戻ります。

基本操作・各種設定・コンテンツ活用のコツ

手書き入力で漢字を入力する

例題　漢字源で「稀」を手書き入力し、意味を調べます

1　漢字源の検索画面から、手書き入力画面を表示させます。手書き入力欄に漢字を入力します（ここでは「稀」と入力します）。

（漢字源を使う ☞ 89 ページ参照）
（手書き入力する場合のヒント ☞ 45 ページ参照）
（文字を書くときのご注意 ☞ 46 ページ参照）

2　画面に該当する言葉が候補表示されます。調べたい言葉をダブルタップします（ここでは「【稀】キ・ケ・まれ・うすい」を選択します）。

3　本文画面が表示されます。

●漢字源の音訓読み、名付け、部品読み欄ではかな入力が、総画数欄では数字が手書き入力できます。
（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46 ページ参照）

手書き入力でアルファベットを入力する

例題　英英辞典の成句検索から「hold」と「on」を使った成句や句動詞を調べます

1

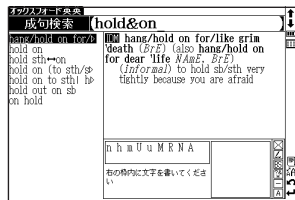
英英辞典の検索画面から [キーボード] [A] をタップし、手書き入力画面を表示させます。スタイラスで成句検索欄をタップします。

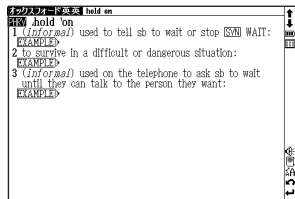
（英英辞典を使う ☞ 110ページ参照）

（手書き入力する場合のヒント ☞ 45ページ参照）

2

アルファベットで「hold」と、成句検索欄に入力されるのを確かめながら、１文字ずつ手書き入力します。つづいて [?&] をタップし、「&」を入力します。同様に「on」と１文字ずつ手書き入力します。

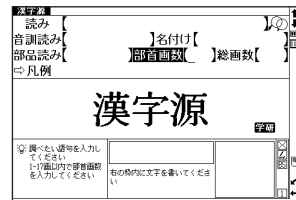
（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46ページ参照）

3

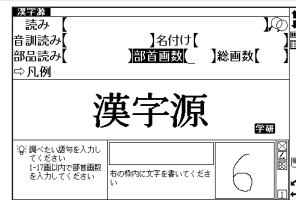
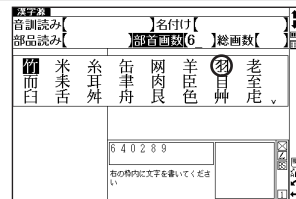
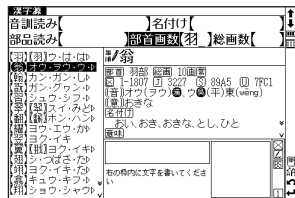
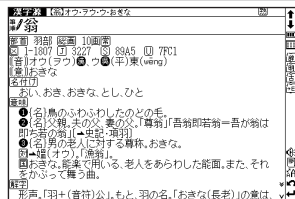
画面に入力した単語すべてを含む成句が候補表示されます。調べたい成句をダブルタップし、本文画面を表示させます（ここでは「hold on」を選択します）。

手書き入力で数字を入力する

例 題　漢字源で「翁（おきな)」を部首検索から数字を手書き入力して調べます

1 漢字源の検索画面から、手書き入力画面を表示させます。スタイラスで部首画数欄をタップします。

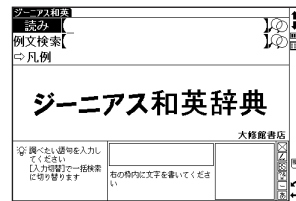
（漢字源を使う ☞ 89 ページ参照）

（手書き入力する場合のヒント ☞ 45 ページ参照）

2 手書き入力欄に部首画数「6」を数字で手書き入力します（「翁」の部首は「羽」で、画数は「6」です）。

（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46 ページ参照）

3 部首画数が６の部首候補が表示されます。調べたい部首をダブルタップします（ここでは「羽」を選択します）。

4 「羽」の親字を候補表示させます。調べたい親字をダブルタップします（ここでは「【翁】オウ・ヲウ・ウ・▷」をタップします）。

5 本文画面が表示されます。

手書き入力で逆引き検索する

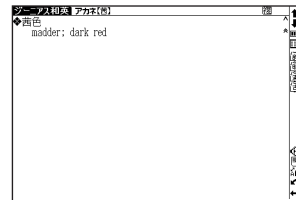
例題　和英辞典で語尾に「いろ」がつく言葉を調べます

1 和英辞典の検索画面を表示させます。[アイコン] [アイコン] をタップし、手書き入力画面を表示させます。

（和英辞典を使う ☞ 108 ページ参照）
（手書き入力する場合のヒント ☞ 45 ページ参照）

2 [アイコン] を２回タップし、「＊」を入力します。つづいて手書き入力欄に入力されるのを確かめながら、文字を入力します（ここでは「いろ」と入力します）。読み欄に「＊いろ」と表示されます。

●「？」を入力する場合は、[アイコン] を１回だけタップしてください。

（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46 ページ参照）

3 画面に語尾に「いろ」がつく言葉が候補表示されます。調べたい言葉をダブルタップします（ここでは「あかねいろ【茜色】」を選択します）。本文画面が表示されます。

●ワイルドカードを挿入した逆引き検索は、コンテンツ・検索モードにより異なりますが、かな、英語による入力で実行できます。

（ワイルドカードサーチ機能を使う ☞ 200 ページ参照）（語句の語尾につく文字を入力し、逆引き検索する ☞ 85 ページ参照）

明鏡国語辞典を使う

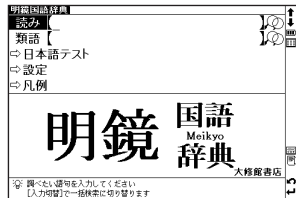
意味を調べるだけでなく、類語検索や日本語テストをすることができます。

日本語の読みを入力し、語義を調べる

例 題　「おもむろに」の語義を調べます

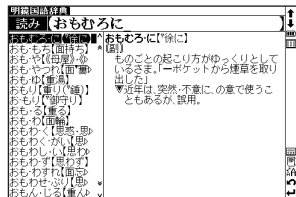
1

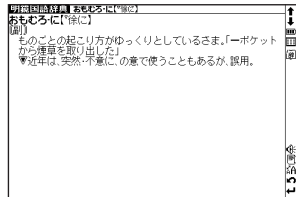
漢字源 国語 を 1 回押して明鏡国語辞典の検索画面を表示させます。

2

読み入力欄に読みを入力します（ここでは「おもむろに」と入力します）。

画面に入力文字に該当する語句が五十音順に表示されます。

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

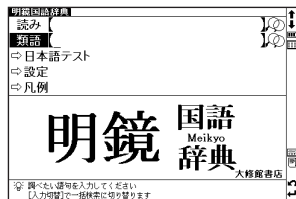
3

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「おもむろに」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

類語を調べる

例 題　「いきさつ」の類語を調べます

1

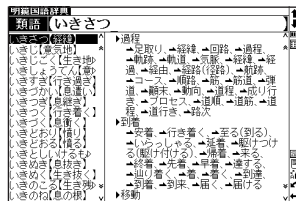
明鏡国語辞典の検索画面を表示させます。

▽ でカーソルを類語に移動させます。

2

類語入力欄に読みを入力します（ここでは「いきさつ」と入力します）。

画面に入力文字に該当する語句が五十音順に表示されます。

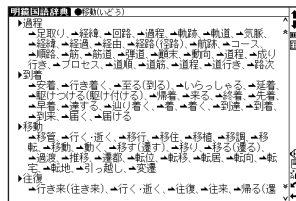
●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「いきさつ」を選択します）。

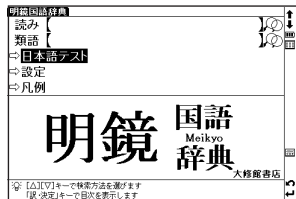
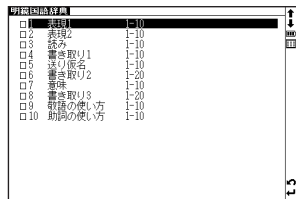
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

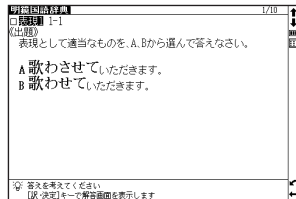
●本文画面上の ▲ を選択すると、参照見出しへのジャンプができます。

（参照ジャンプを実行する ☞ 184 ページ参照）

辞書系コンテンツを使う

日本語テストをする

日本語の意味・表記・語法について二者択一問題のテストをすることができます（全120問）。

1 明鏡国語辞典の検索画面を表示させせます。
▽ でカーソルを「⇨日本語テスト」に移動させ 訳・決定 を押すと、項目リストが表示されます。

2 ▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。

3 選択した項目の本文画面を表示します（ここでは「1　表現1　1－10」を選択します）。
本文画面で 訳・決定 を押すと、解答が表示されます。

●解答とともに、明鏡国語辞典の参照項目が表示されます。参照する場合は 関連語句 を押すと参照項目が表示されます。参照画面で 戻る を押すと、解答表示画面に戻ります。

4 訳・決定 を押すと次の本文画面が表示されます。

●日本語テストでは本文画面の設定を行うことができます。
検索画面で「⇨設定」を選択します。 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

スーパー大辞林を使う

語句の意味を調べるだけではなく、慣用句やことわざを検索することもできます。
また漢字入力による検索ができます。

日本語の読みを入力し、語義を調べる

例 題　「綺羅（きら）」の語義を調べます

1

漢字源 国語 を２回押して大辞林の検索画面を表示させます。

2

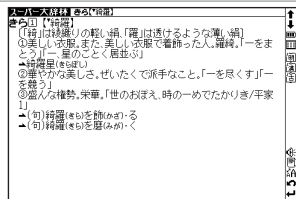
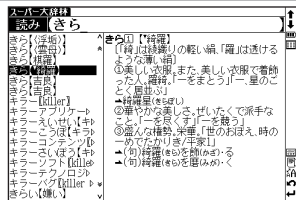
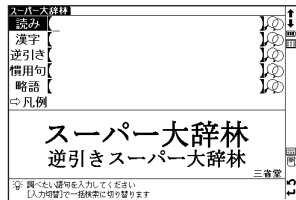
読み入力欄に読みを入力します（ここでは「きら」と入力します）。
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

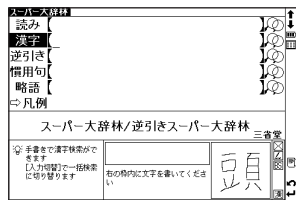
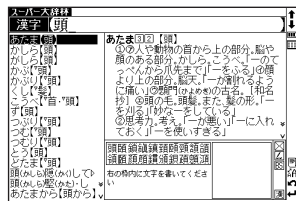
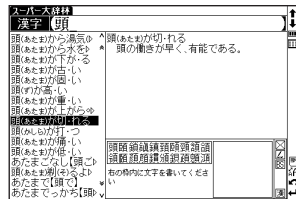
3

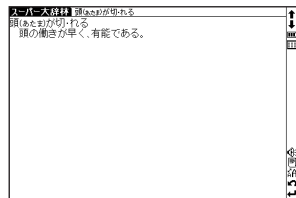
▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「きら【綺羅】」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

検索したい語句を漢字で入力し、調べる

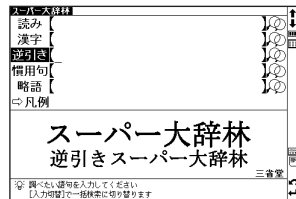
読みがわからない語句も漢字入力（手書き）で調べることができます。漢字かな交じり入力もできます。
漢字入力検索はすべて手書き入力で行います。

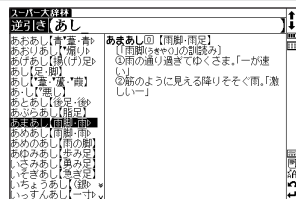
例 題　「頭」という漢字で始まる語句を調べます

1 大辞林の検索画面から、手書き入力画面を表示させます。手書き入力欄に漢字を入力します（ここでは「頭」と入力します）。
（手書き入力する場合のヒント ☞ 45 ページ参照）
（手書き入力で認識できる文字 ☞ 46 ページ参照）

2 画面に該当する漢字が候補表示されます。調べたい漢字をダブルタップします（ここでは【頭】を選択します）。

3 漢字検索欄に「頭」が表示されます。また画面左には入力した漢字から始まる見出し語が五十音順に候補表示されます。

4 見出し語リストから調べたい語句をダブルタップし、本文画面を表示させせます（ここでは ▼(次見出し) を１回押し「頭が切れる」を選択します）。

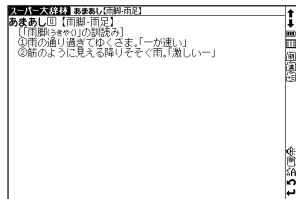
●漢字検索欄に「頭がきれる」と漢字（手書き入力）とひらがな（手書きあるいはキー入力）を入力して検索することもできます。
●漢字入力検索ではワイルドカードサーチを使用することができません。

語句の語尾につく文字を入力し、逆引き検索する

例 題　「あし」を入力し、「あまあし【雨脚・雨足】」を検索します

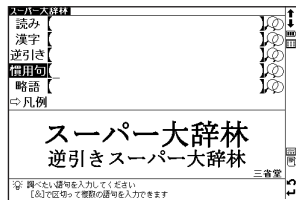
1 大辞林の検索画面を表示させせます。▽ でカーソルを逆引き入力欄に移動させます。

2 読みを入力します（ここでは「あし」と入力します）。
語尾に入力文字がつく語句が五十音順に候補表示されます。

●収録されていない語句を入力した場合は、「見出し語にありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「あまあし【雨脚・雨足】」を選択します）。

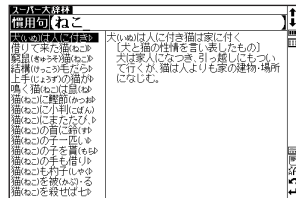
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

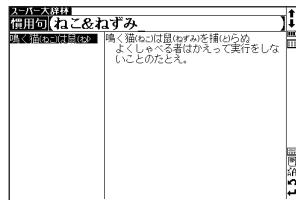
●読み入力欄からでもアスタリスクを使って逆引き検索をすることができます。
（ワイルドカードサーチ機能を使う ☞ 200 ページ参照）

語句を入力し、その語句を含む慣用句やことわざを調べる

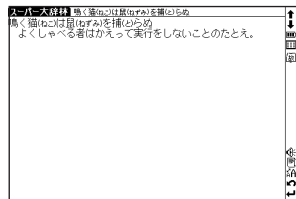
例題 「ねこ（猫）」を含む慣用句やことわざを調べます

1 大辞林の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを慣用句入力欄に移動させます。

2 読みを入力します（ここでは「ねこ」と入力します）。画面に入力文字を含む慣用句やことわざが候補表示されます。

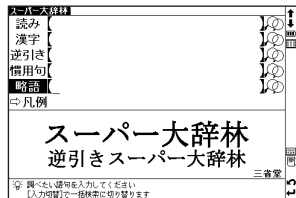
●動詞を入力する場合は、終止形で入力してください（例：借りて⇒借りる）。

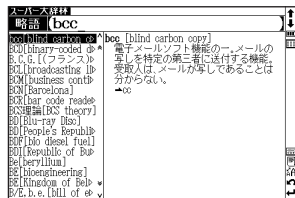
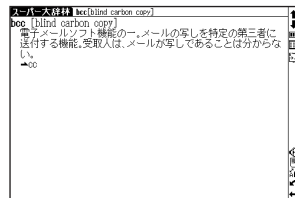
●該当する慣用句がない場合は、「一致する慣用句がありません」というメッセージが表示されます。

3 スペース ?*& で語句を結んで入力します（ここでは「& ねずみ」と入力します）。

●複数の語句を「&」で結んで入力すると、入力した語句をすべて含む慣用句やことわざを検索することができます（慣用句検索では スペース ?*& を押すと「& 」が入力されます）。
●「&」は慣用句検索でのみ入力できます。その他の大辞林検索では入力できません。
●該当する慣用句がない場合は、「一致する慣用句がありません」というメッセージが表示されます。

4 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい慣用句を選択します（ここでは「鳴く猫（ねこ）は鼠（ねずみ）を捕（と）らぬ」を選択します）。

= 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、慣用句の本文画面を表示させます。

略語を入力し、正式名称とその意味を調べる

例 題　「bcc」の正式名称を調べます

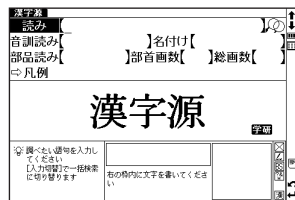
1 大辞林の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを略語入力欄に移動させます。

2 略語を入力します（ここでは「bcc」と入力します）。
画面に入力文字に該当する略語が候補表示されます。

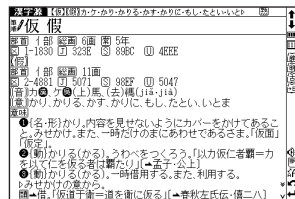
●収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい略語を選択します（ここでは「bcc［blind carbon copy］」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

漢字源を使う

音訓読み、部首画数、総画数からの検索はもちろん、漢字を構成する部品の読みや名前に使われる読みからの検索もでき、本文画面からは筆順を表示することもできます。

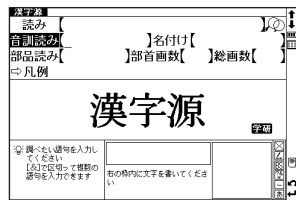
漢字や熟語の読みを入力し、意味を調べる

例 題　「かり」を入力し、漢字と意味を調べます

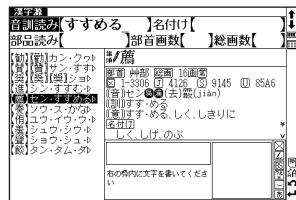
1 シフト 漢字源/国語 と押して漢字源の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に漢字の読みを入力します（ここでは「かり」を入力します）。
画面に入力文字に該当する親字と入力文字からはじまる熟語が五十音順に候補表示されます。
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい親字または熟語を選択します（ここでは「【仮】かり」）を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

音訓読みを入力し、漢字を調べる

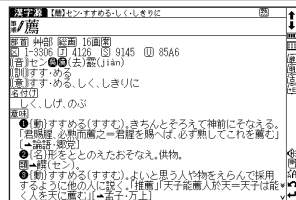
例題　「すすめる（薦める）」の漢字を読みから調べます

1　漢字源の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを音訓入力欄に移動させます。

2　読みを入力します（ここでは「すすめる」と入力します）。
画面に入力文字に該当する親字が候補表示されます。

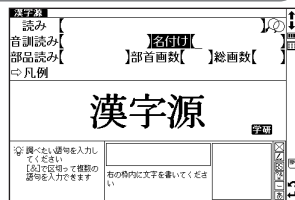
●複数の音訓読みを「&」で結んで入力すると、入力した音訓読みをすべて持つ親字を検索することができます。

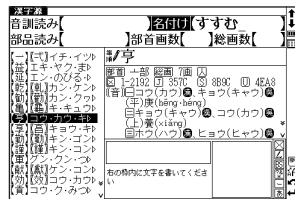
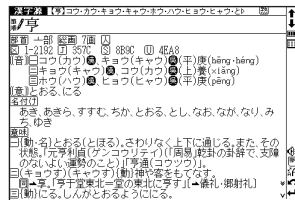
●収録されていない読みを入力した場合は、「一致する親字がありません」というメッセージが表示されます。

3　▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここでは「薦」を選択します）。

［例文展開/ジャンプ実行　訳・決定］を押すと、選択した親字の本文画面が表示されます。

辞書系コンテンツを使う

名前に使われる漢字を調べる

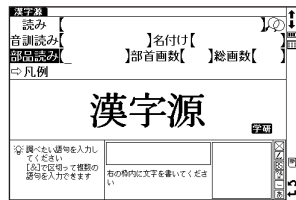
例題　名付け読み「すすむ」に当たる漢字を調べます

1 漢字源の検索画面を表示させます。
▽ でカーソルを名付け入力欄に移動させます。

2 読みを入力します（ここでは「すすむ」と入力します）。画面に入力文字に該当する親字が候補表示されます。

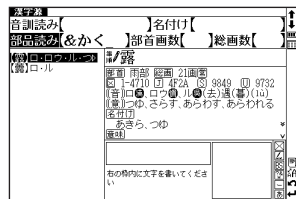
●該当する親字がない場合は、「一致する親字がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい親字を選択します（ここでは「亨」を選択します）。訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

部品名を入力し、漢字を調べる

部品とは、漢字を構成している各々の部分を指します。例えば、「親」という字は「立」「木」「見」のように三つの部品から成り立っています。

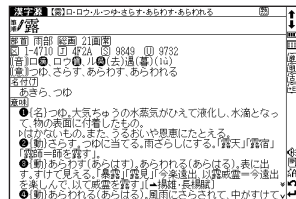
例題　「露（つゆ）」を部品名から調べます（「露（つゆ）」は、「雨」「足」「各」で構成されています）

1 漢字源の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを部品読み入力欄に移動させます。

2 漢字の部品名を入力します（ここでは「あめ（雨）」スペース ?*& 「あし（足）」スペース ?*& 「かく（各）」と入力します）。

●複数の部品を「&」で結んで入力すると、入力した部品すべてから成る親字を検索することができます。

●収録されていない部品名または部品名の組み合わせを入力した場合は、「一致する親字がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここで「露」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、親字の本文画面を表示させます。

辞書系コンテンツを使う

部首画数を入力し、漢字を調べる

例 題　「笹（ささ)」を部首画数から調べます（「笹」の部首は「竹かんむり」で部首画数は「6」です）

1 漢字源の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを部首画数入力欄に移動させます。

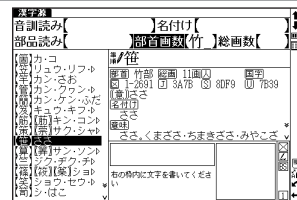
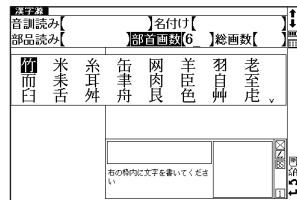
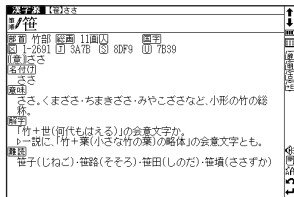
2 画数を入力します（ここでは Y <数字の 6> を入力します）。
6 画の部首が候補表示されます。

●画数を入力し直す場合は、登録/削除 または 戻る を押してください。

▽／△／◁／▷でカーソルを移動させ、調べたい部首を選択します（ここでは「竹」を選択します）。

訳・決定 を押して、「竹かんむり」の親字を候補表示させます。

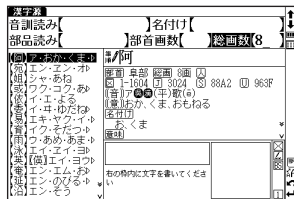
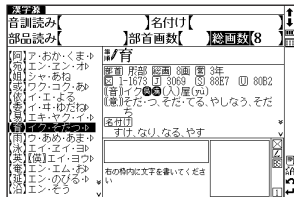
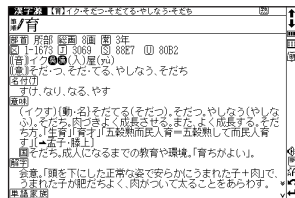
●部首を選び直す場合は、登録/削除 を押してください。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここでは「笹」を選択します）。

4 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

総画数を入力し、漢字を調べる

例 題　「育」を総画数から調べます（「育」の総画数は「8」です）

1 漢字源の検索画面を表示させます。▽でカーソルを総画数入力欄に移動させます。

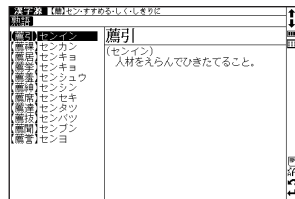
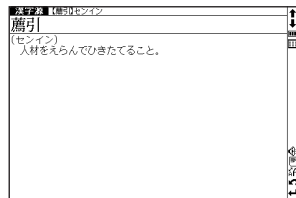
2 総画数を入力します（ここでは I ＜数字の８＞を入力します）。
総画数が８画の親字が候補表示されます。

●総画数を入力し直す場合は、登録/削除 または 戻る を押してください。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここでは「育」を選択します）。

4 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

素早い漢字検索

▲ ／ ▼でカーソルを移動させて音訓読み、部品読み、名付け、部首画数、総画数の条件を複数同時に入力することができます。情報が多ければ多いほど検索対象が絞られ、更に効率的に検索することができます。例えば93ページで調べた「笹」の場合、部品読み「よ（世）」の候補を表示させた後、▼ を押して部首画数「6」を入力し「竹かんむり」を選択すれば、検索結果第 1 画面 に「笹」が表示されます。

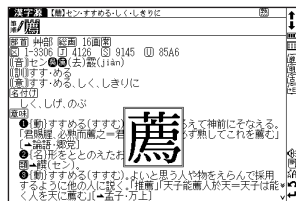
熟語を表示する

本文画面右上に 熟 が表示されている場合は、表示中の親字を含む熟語を表示させることができます。
90ページで調べた「すすめる（薦める）」の本文画面を例に説明します（以下97ページまで）。

1 本文画面の表示中に 関連語句 を２回押すと、熟語が候補表示されます。
（関連語句を調べる ☞ 186 ページ参照）
●スタイラスを使う場合は、画面右上の 熟 を直接タップすると熟語が候補表示されます。

2 ▽／△ でカーソルを移動させ、熟語を選択して 訳・決定 を押すと、熟語の読みと意味が表示されます（ここでは「薦引」を選択します）。

文字を拡大表示する

本文画面の表示中に シフト 文字サイズ を押すと、親字が拡大表示されます。

▽／△／◁／▷で拡大表示したい文字にカーソルを移動させて選択すると、1 文字ずつ拡大表示できます。再度 文字サイズ を押すと、もとの表示サイズに戻ります。

●記号や文字コードなどは選択できません。

漢字の筆順を表示する

本文画面表示中に 範囲選択 を押し 筆順 を反転表示させた状態で 訳・決定 を押すと筆順表示画面に切り替わり、親字の筆順が表示されます。

戻る を押すと本文画面に戻ります。

●親字の横に 筆順 が表示されていない場合は、筆順を表示することはできません。

● 1 文字ずつの拡大表示をしている画面からは筆順表示画面に切り替えることはできません。

●筆順表示画面では筆順を表示しますが、画数通りには表示されない場合もあります。

●漢字源に掲載されている常用漢字 1,945 字と人名漢字 285 字の筆順を表示することができます。

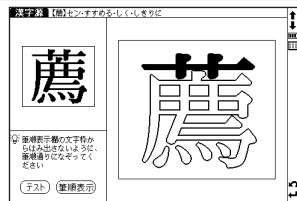
辞書系コンテンツを使う

筆順のテストをする

筆順を調べた後に、筆順のテストをすることができます。

1 筆順が表示された後、スタイラスで画面左下の テスト をタップすると、画面右側の親字が白枠で表示されます。

2 スタイラスを使って、白枠の中を筆順通りになぞります。

- 筆順が間違っている場合は「筆順が間違っています　もう一度正しい筆順でなぞってください」というメッセージが表示され、反転表示になりません。
- もう一度筆順を確認したい場合は 筆順表示 をスタイラスでタップしてください。

3 筆順が正しい場合は「正しい筆順です」というメッセージが表示されます。

- 戻る を押すと本文画面に戻ります。

辞書系コンテンツを使う

古語辞典を使う

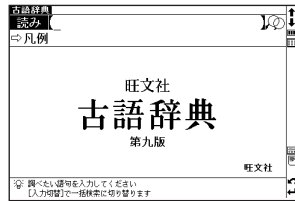
古典で用いられる言葉の意味を検索することができます。

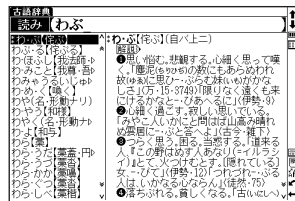
見出し語により関連語句や解説を表示させることができます。

古語の読みを入力し、語義を調べる

例 題　「侘ぶ（わぶ）」の語義を調べます

1 メニュー画面から国語系→古語辞典を選んで古語辞典の検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に語句を入力します（ここでは「わぶ」と入力します）。
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

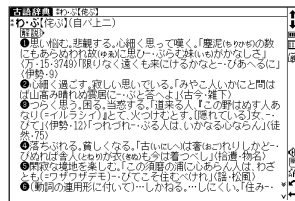
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します。（ここでは「わぶ【侘ぶ】」を選択します）。

訳・決定（例文展開/ジャンプ実行） を押して、本文画面を表示させます。

● 本文画面右上に 慣 複 が表示されている場合は、その見出し語の慣用連語や複合語を表示させることができます。（関連語句を調べる ☞186 ページ参照）

● 本文画面上に 解説 がある場合は、解説を表示させることができます。

（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

四字熟語辞典を使う

一般的に使われる四字熟語について意味、用例、類句などを調べることができます。

四字熟語の読みを入力し、意味を調べる

例 題　「合縁奇縁（あいえんきえん）」の意味を調べます

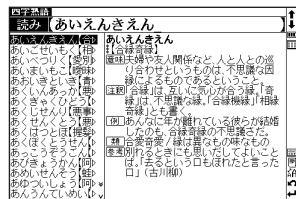
1 メニュー画面から国語系→四字熟語を選んで、四字熟語辞典の検索画面を表示させます。

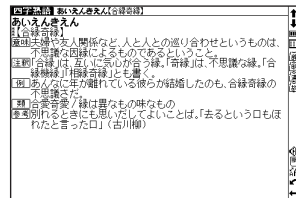
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に熟語の読みを入力します（ここでは「あいえんきえん」と入力します）。

画面に入力文字に該当する熟語が五十音順に候補表示されます。

（文字を入力する☞32 ページ参照）

●収録されていない熟語を入力した場合は、その熟語に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい熟語を選択します（ここでは「あいえんきえん【合縁奇縁】」を選択します）。

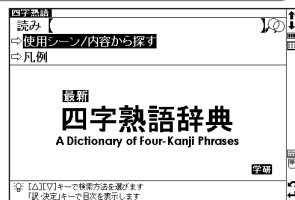
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

使用シーンから調べる

例 題　「⇨使用シーン」から「合縁奇縁」を調べます

1

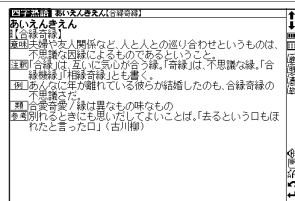
四字熟語辞典の検索画面を表示させます。

▽ でカーソルを「⇨使用シーン／内容から探す」に移動させます。

2

訳・決定 を押すと候補リストが表示されます。

▽／△ で調べたい項目を選択し 訳・決定 を押すと、さらにジャンルを絞り込むことができます。

調べたい四字熟語を選択して 訳・決定 を押すと、選択した四字熟語の本文画面が表示されます。

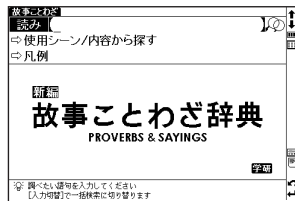
●右の画面は、「使用シーン」→「結婚式」→「あいえんきえん【合縁奇縁】」の順に選択した場合です。

故事ことわざ辞典を使う

故事・ことわざの意味、使用例、類句のほか、意味や発想の似ている英語のことわざなども調べることができます。

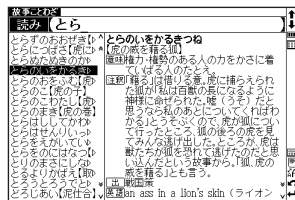
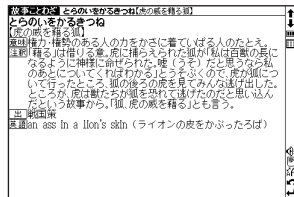
語句を入力し、その語句から始まる故事・ことわざを調べる

例 題　「とら（虎）」で始まることわざの意味と用例を調べます

1 メニュー画面から国語系→故事ことわざを選んで、故事ことわざ辞典の検索画面を表示させせます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に読みを入力します（ここでは「とら」と入力します）。
画面に入力文字からはじまることわざが五十音順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたいことわざを選択します（ここでは「とらのいをかるきつね【虎の威を藉る狐】」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

使用シーンから調べます

使用シーンからことわざを検索することができます。操作方法は「四字熟語辞典」の場合と同じです。

（使用シーンから調べる☞100 ページ参照）

ベーシックジーニアス英和辞典とジーニアス英和辞典を使う

英単語や英語例文を調べることができます（ここではジーニアス英和を例として説明します）。

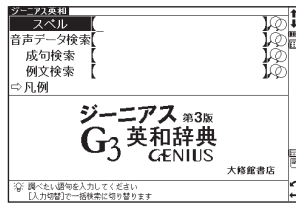
英単語を入力し、和訳を調べる

例 題　「understand」を入力し、和訳を調べます

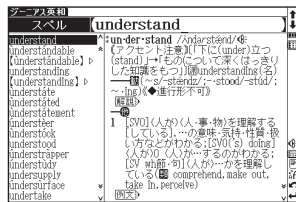
1

和英 英和 を２回押してジーニアス英和の検索画面を表示させます。

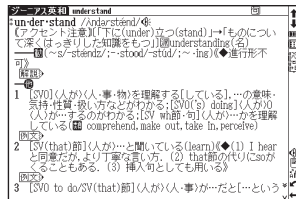
● 和英 英和 を１回押すとベーシックジーニアス英和の検索画面が表示されます。

2

スペル入力欄に英単語を入力します（ここでは「understand」と入力します）。画面に入力文字に該当する単語がアルファベット順に候補表示されます。

●収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示します。

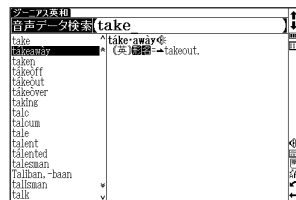
3

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「understand」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●本文画面上に 句 が表示されている場合は、成句を表示させることができます。また 例文 解説 がある場合は、例文･解説を表示させることができます。

（関連語句を調べる ☞ 186 ページ参照）
（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

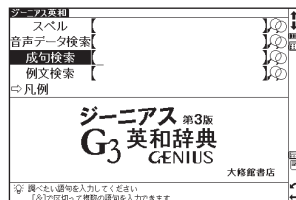
辞書系コンテンツを使う

英単語を入力し、音声データ検索をする

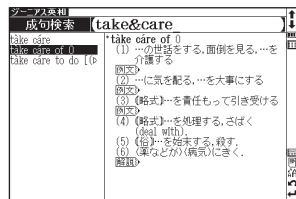
入力した単語に共通する発音をもつ見出し語を検索することができます。
（音声データ検索をする ☞ 73ページ参照）

入力した英単語を含む成句を調べる

英語の成句(熟語)を調べたい時は、複数の英単語を [スペース] で結びながら入力するだけで候補をしぼり込んで検索することができます。

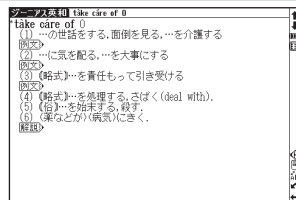
例 題　「take」と「care」を使った成句を調べます

1 ジーニアス英和の検索画面を表示させます。[▽] でカーソルを成句検索に移動させます。

2 単語を入力します（ここでは「take」 [?*& スペース] 「care」と入力します）。画面に入力した単語をすべて含む成句（熟語）が候補表示されます。

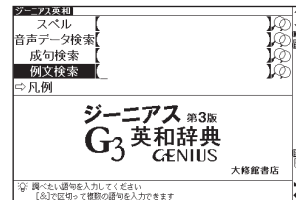
●複数の単語を入力する場合は、単語の後に [?*& スペース] を押して「&」を入力してから次の単語を入力してください。入力した単語をすべて含む成句が表示されます（成句検索では [?*& スペース] を押すと「&」が入力されます）。
●「&」は成句検索では入力できますが、スペル入力検索では入力できません。
●該当する成句がない場合は「一致する成句がありません」というメッセージが表示されます。

---

3 [▽]／[△] でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「tàke cáre of O」を選択します）。
[訳・決定] を押して、成句の本文画面を表示させます。

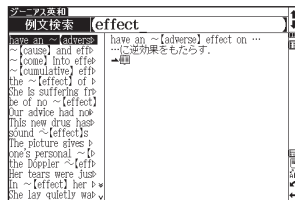
●本文画面上に 例文 解説 がある場合は、例文・解説を表示させることができます。
（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

辞書系コンテンツを使う

入力した英単語を含む例文を調べる

例 題　「effect」を入力し、例文を調べます

1 ジーニアス英和の検索画面を表示させます。[▽] でカーソルを例文検索に移動させます。

2 英単語を入力します（ここでは「effect」と入力します）。画面に入力した単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

●複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。

●該当する例文がない場合は「一致する例文がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「have an ～【adverse】effect on...」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、例文の和訳を表示させます。

● スペース ＊?& を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。

●本文画面上に 📖 がある場合は、検索した例文の辞典本文画面にジャンプすることができます。
（検索した語の本文画面に参照ジャンプする ☞ 74ページ参照）

見出し語の発音を確認する

本文画面上に 🔈 が表示されている場合は、見出し語の発音（ネイティブ発音）を確認することができます。
（発音を確認する ☞ 66ページ参照）

発音を録音し聞き比べる

画面上に🎤が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。

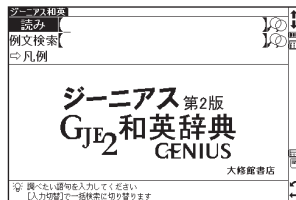
（発音を録音し聞き比べる ☞ 71 ページ参照）

和英辞典を使う

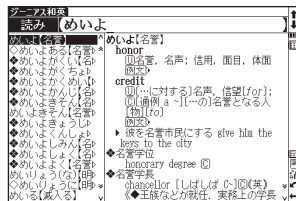
日本語を入力し、英訳を調べることができます。また英語を入力し、本文中に掲載している英語の例文を検索することができます。

日本語の読みを入力し、英訳を調べる

例 題　「名誉（めいよ）」の英訳を調べます

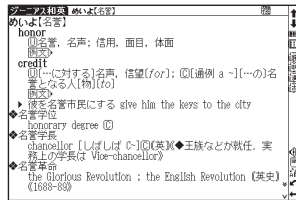
1 シフト 和英/英和 を押して和英辞典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に読みを入力します（ここでは「めいよ」と入力します）。画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

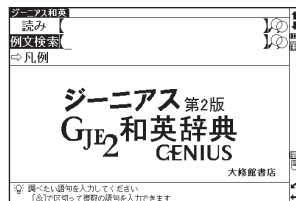
●収録されていない単語を入力した場合は、一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい言葉を選択します（ここでは「めいよ【名誉】」を選択します）。

＝ 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●和英辞典の本文画面上に 複 が表示されている場合は、複合語を表示させることができます。
また 例文 解説 がある場合は、例文・解説を表示させることができます。
（関連語句を調べる ☞ 186 ページ参照）
（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

辞書系コンテンツを使う

入力した英単語を含む例文を調べる

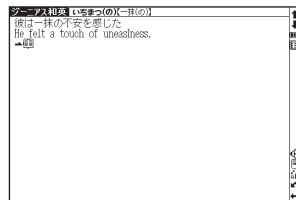
例 題　「touch」を入力し、例文を調べます

1 和英辞典の検索画面を表示させます。▽でカーソルを例文検索に移動させます。

2 英単語を入力します（ここでは「touch」と入力します）。
画面に入力単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

●収録されていない単語を入力した場合は「一致する例文がありません 検索条件を変えるかさらに条件を入力してください」のメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「He felt a touch of uneasiness.」を選択します）。
訳・決定 を押して、選択した例文とその和訳を表示させます。

● ?& を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。

●本文画面上に 📖 がある場合は、検索した例文の辞典本文画面にジャンプすることができます。
（検索した語の本文画面に参照ジャンプする ☞ 74ページ参照）

英英辞典を使う

英語を入力し、その意味を英語で調べることができます。また英語の成句、例文を検索することができます。

英単語を入力し、語義を調べる

例 題　「photograph」を入力し、語義を調べます

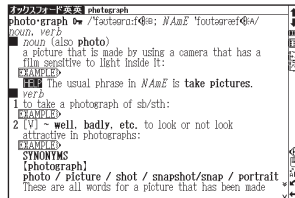
1 英英 を押して英英辞典の検索画面を表示させます。

2 スペル入力欄に英単語を入力します（ここでは「photograph」と入力します）。
画面に入力文字に該当する単語がアルファベット順に候補表示されます。

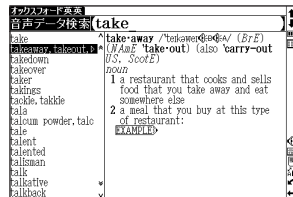
●収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「photograph」を選択します）。
訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●英英辞典の本文画面右上に I P が表示されている場合は、成句や句動詞を表示させることができます。また EXAMPLE がある場合は、例文を表示させることができます。
（関連語句を調べる ☞ 186 ページ参照）
（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

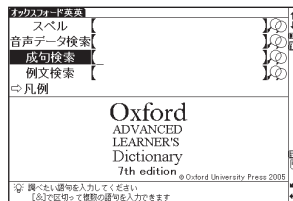
●見出し語の横に 🔑 が表示されている単語は、学習基本語彙（The Oxford 3000™）を表しています（「⇨凡例→OALD活用ガイド→第1部 OALD第7版について 1-5」を参照）。

英単語を入力し、音声データ検索をする

入力した単語に共通する発音をもつ見出し語を検索することができます。

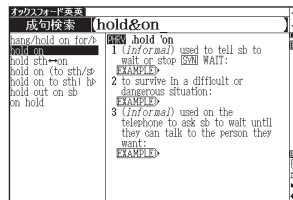
（音声データ検索をする ☞ 73 ページ参照）

入力した英単語を含む成句を調べる

英語の成句（熟語）を調べたい時は、複数の英単語を [スペース ?*&] で結びながら入力するだけで候補をしぼり込んで検索することができます。

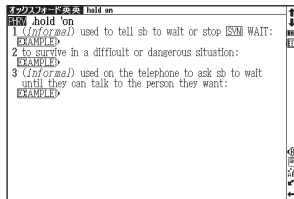
例 題　「hold」と「on」を使った成句または句動詞を調べます

1 英英辞典の検索画面を表示させます。[▽] でカーソルを成句検索に移動させます。

2 単語を入力します（ここでは「hold」 [スペース ?*&] 「on」を入力します）。画面に入力した単語をすべて含む成句（熟語）が候補表示されます。

●複数の単語を入力する場合は、単語の後に [スペース ?*&] を押して「&」を入力してから次の単語を入力してください。入力した単語をすべて含む成句が表示されます。
●「&」は成句検索では入力できますが、英英スペル入力検索では入力できません。
●該当する成句がない場合は「一致する成句がありません」というメッセージが表示されます。

辞書系コンテンツを使う

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「hold on」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●本文画面上に EXAMPLE▷ がある場合は、例文を表示させることができます。
（例文・解説・コラムの表示 ☞ 63 ページ参照）

オックスフォード英英 hold on
PHRV ˌhold ˈon
1 (informal) used to tell sb to wait or stop SYN WAIT:
EXAMPLE▷
2 to survive in a difficult or dangerous situation:
EXAMPLE▷
3 (informal) used on the telephone to ask sb to wait until they can talk to the person they want:
EXAMPLE▷

入力した英単語を含む例文を調べる

例題 「home」を入力し、例文を調べます

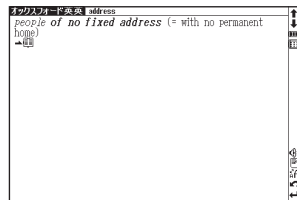
1 英英辞典の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを例文検索に移動させます。

2 英単語を入力します（ここでは「home」を入力します）。
画面に入力した単語を使った例文が、データ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

● スペース ?& を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。
●収録されていない単語を入力した場合は、「一致する例文がありません」というメッセージが表示されます。

辞書系コンテンツを使う

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「people of no fixed address (=with no permanent home)」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、例文の全文を表示させます。

●本文画面上に がある場合は、検索した例文の辞典本文画面にジャンプすることができます。
（検索した語の本文画面に参照ジャンプする ☞ 74 ページ参照）

見出し語の発音を確認する

本文画面上に が表示されている場合は、見出し語の発音（ネイティブ発音）を確認することができます。
（発音を確認する ☞ 66 ページ参照）
●候補リスト上に ▶ のついた派生語の本文画面を表示させた場合は、派生元の単語が発音されます（例えば「photograph」の派生語である「photographically」の本文画面を表示させた場合は派生元の「photograph」が発音されます）。その場合は派生元の単語の本文画面から スペル 範囲選択 で派生語を選択して発音を確認することができます。

発音を録音し聞き比べる

画面上に が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。
（発音を録音し聞き比べる ☞ 71 ページ参照）

英会話とっさのひとこと辞典を使う

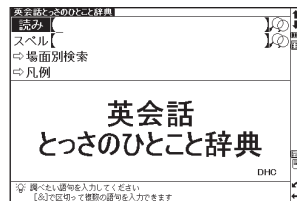
観光やビジネス、長期滞在時などで役立つ会話例を調べることができます。

また会話例文の発音を聞くことができます。

日本語の読みを入力し、入力した語句を含む会話文を調べる

例 題　「れすとらん（レストラン）」を入力し、入力した語句を含む例文を検索します

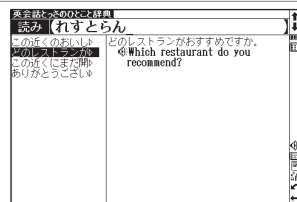
1　メニュー画面から英語系→英会話とっさのひとこと辞典を選んで、[訳・決定]を押します。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2　読み入力欄に日本語の読みを入力します（ここでは「れすとらん（レストラン）」と入力します）。画面に入力した語句を含む例文が、データ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。

●該当する例文がない場合は、「一致する語句がありません」というメッセージが表示されます。

3

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「どのレストランがおすすめですか。」を選択します）。

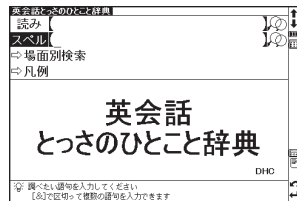
[訳・決定] を押して、本文画面を表示させます。

●動詞を入力する場合は、終止形で入力してください。（例：乗れば→乗る）

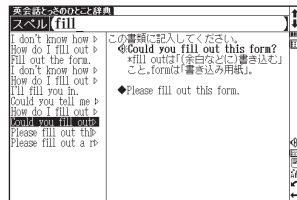
英単語を入力し、会話文を調べる

例 題　「fill」を入力し、入力した単語を含む会話文を調べます

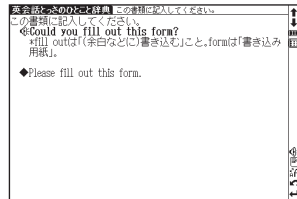
1 英会話とっさのひとこと辞典の検索画面を表示させ、▽ でカーソルをスペル入力欄に移動させます。

英会話とっさのひとこと辞典
読み【
スペル【_
⇨場面別検索
⇨凡例
英会話
とっさのひとこと辞典
DHC
調べたい語句を入力してください
［&］で区切って複数の語句を入力できます

2 英単語を入力します（ここでは「fill」を入力します）。画面に入力した単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

●複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。

●該当する例文がない場合は、「一致する例文がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、例文を選択します（ここでは「Could you fill out this form?」を選択します）。

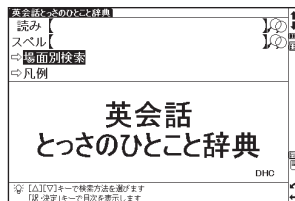
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文を表示させます。

辞書系コンテンツを使う

場面別検索を使って会話文を検索する

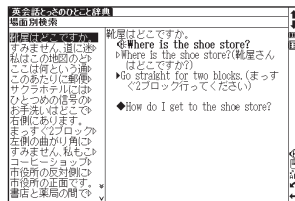
例題　「第６章　海外旅行でつかうひとこと」から例文を検索します

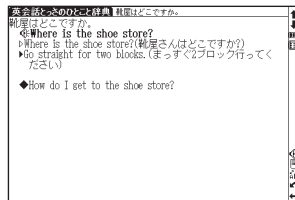
1

英会話とっさのひとこと辞典の検索画面を表示させ、▽でカーソルを場面別検索に移動させます。

2

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、リストが表示されます。▽／△で調べたい章を選択し、例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、さらに詳しい項目リストが表示されます。同じように項目を選択し、項目に含まれる例文を表示させます。

●右の画面は、「第6章　海外旅行でつかうひとこと」→「街を歩くとき」→「道をたずねる」を選択して会話文のリストを表示させた画面です。

3

▽／△でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「靴屋はどこですか。」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文該当箇所を表示させます。

見出し語の発音を確認する

本文画面上に 🔈 が表示されている場合は、見出し語の発音（ネイティブ発音）を確認することができます。

（発音を確認する ☞ 66 ページ参照）

発音を録音し聞き比べる

画面上に 🎙 が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。

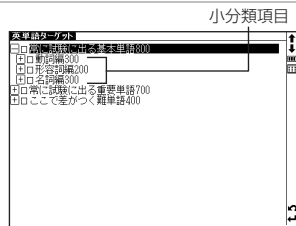
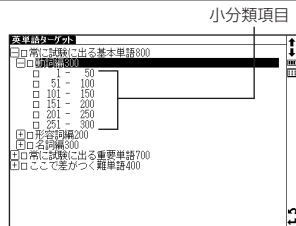
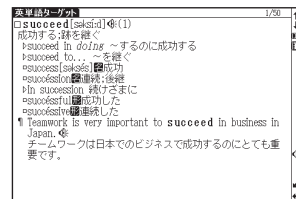
（発音を録音し聞き比べる ☞ 71 ページ参照）

学習コンテンツに共通する基本の操作

ツリー形式リスト - 項目の選択方法

学習コンテンツでは、学習・テストする項目をツリー形式のリストから選択します（ここでは、英単語ターゲットの学習画面を例に説明します）。

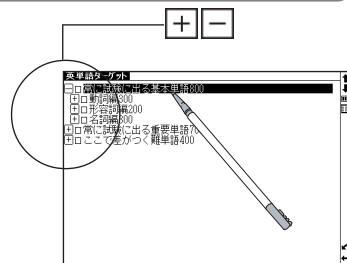
1 検索画面から、▽／△でカーソルを移動させ「⇨ 学習」を選択します。訳・決定を押すと、ツリー形式のリストが表示されます。
（英単語・英熟語ターゲットを使う ☞ 144ページ参照）

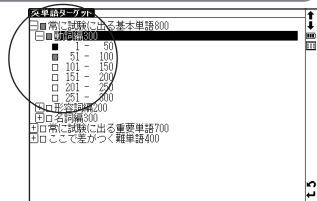
2 ▽／△でカーソルを移動させ、「常に試験に出る基本単語800」を選択します。訳・決定を押すと、選択した項目に含まれる小分類項目のリストが表示されます。

3 ▽／△でカーソルを移動させ、項目「動詞編300」を選択します。訳・決定を押すと、選択した項目に含まれる小分類項目が表示されます。

4 △／▽ でカーソルを移動させ、項目「1-50」を選択します。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、本文画面が表示されます。

ツリー形式リスト ⊞ ⊟ についての説明

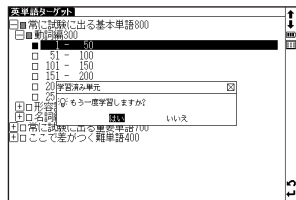
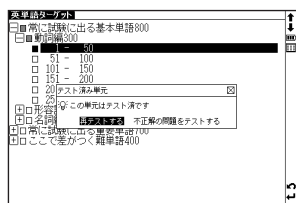
項目の頭に ⊞ が表示されている場合は、さらに小分類の項目があることを示しています。

⊞が表示されている項目を選択して 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 または ▷ を押すと、小分類項目のリストを表示することができます。戻る または ◁ を押すと、小分類項目のリストを表示させる前の状態に戻ります。 ⊟ が表示されている場合は、その項目には、それ以上表示できる小分類項目がないことを示しています。

●スタイラスを使う場合は、項目を直接タップすると小分類項目のリストが表示されます。同じ項目を再度タップすると、小分類項目のリストを表示する前の状態に戻ります。

学習系コンテンツを使う

進捗の記録

リスト上に進捗(しんちょく)の記録が表示されます。
すでに学習（テスト）し終えた項目は、項目の頭にあるボックスが黒く塗りつぶされて表示されます。途中まで学習（テスト）し終えた項目は、ボックスが灰色に塗りつぶされて表示されます。

■ 学習し終わった項目
■ 途中まで学習した項目
□ まだ学習していない項目

学習の進捗が記録されるコンテンツについては、リスト上で、すでに学習し終えた項目を選択した場合、「もう一度学習しますか？」とメッセージが表示されます。◁／▷で「はい」か「いいえ」を選択して［訳・決定］を押します。また途中まで学習した項目を選択した場合には、「最初から学習しますか？」とメッセージが表示されますので、この場合にも「はい」か「いいえ」を選択して［訳・決定］を押します。

テストの場合は、途中までテストした項目を選択した場合、「最初からテストしますか？」とメッセージが表示されます。◁／▷で「はい」か「いいえ」を選択して［訳・決定］を押します。最後までテストした項目を選択した場合には、「この単元はテスト済みです」とメッセージが表示されます。◁／▷で「再テストする」か「不正解の問題をテストする」のどちらかを選択して［訳・決定］を押してください。

チェックボックス

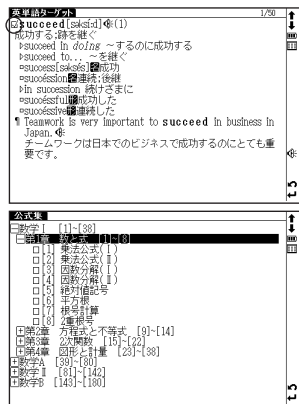
本文画面の見出しの頭にチェックボックスが設けられている学習コンテンツでは、覚えた単語や、見直したい項目などにチェックを入れておくことができます。

[－]を押すと、☑チェックボックスにチェックを入れることができます。再度[－]を押すと、チェックマークを解除することができます。

スタイラスを使う場合は、□チェックボックスを直接タップするとチェックを入れることができます。再度タップするとチェックマークを外すことができます。

世界史年代暗記ターゲット、日本史年代暗記ターゲット、公式集では、リスト表示画面の項目名の頭にもチェックを入れることができます。

●学習設定画面で、チェックマークをまとめて解除することもできます。
（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

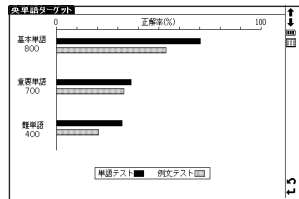
●チェックマークを入れた単語は、学習設定画面で表示・非表示の設定を行うことができます。（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

テスト結果グラフ表示

英単語（英熟語）ターゲット、英単語（英熟語）ターゲットBRUSH - UP、英単語（英熟語）ターゲットディクテーションでは、テストの正解率をグラフで表示することができます。

検索画面から、[▽]／[△]でカーソルを移動させ、「⇨ テスト結果」を選択します。

[訳・決定]を押すと、テスト結果画面が表示されます。各単元の正解率がグラフで表示されます。

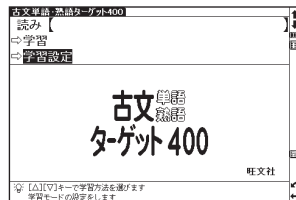
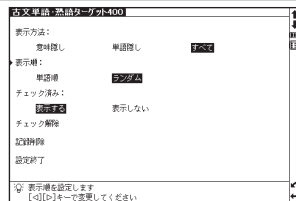
●単元の最後までテストしていない場合も、テスト結果が表示されます。

●テスト結果は、学習設定画面で削除することができます。
（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

学習設定の方法

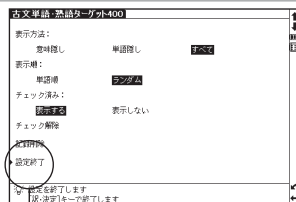
学習コンテンツでは、設定画面で学習・テスト画面の表示方法や順序を設定することができます（ここでは、古文単語・熟語ターゲット400の学習設定画面を例に説明します）。

1 検索画面から、[▽]/[△]でカーソルを移動させ「⇨ 学習設定」を選択します。[訳・決定]を押すと、学習設定画面が表示されます。

（古文単語・熟語ターゲット400を使う ☞ 166ページ参照）

☞ 166ページ参照

2 [▽]/[△]でカーソルを移動させ、設定項目を選択します。各項目の設定内容は、[◁]/[▷]でカーソルを移動させ選択します。

3 [▽]/[△]で「設定終了」を選び[訳・決定]を押すと、設定した内容が保存・反映されます。

設定終了：設定内容を保存します

学習系コンテンツを使う

☞設定項目とその内容

以下を参考に項目を選んで設定してください。検索モードによって設定する項目は異なります。

項目	内容
表示方法	学習画面での単語の表示方法を選択します。
意味隠し	単語の意味・解説部分を隠して表示します。
単語隠し	意味・解説部分は表示し、単語を隠して表示します。
すべて	単語・意味・解説のすべてを表示します。初期設定では「すべて」に設定されています。
表示順	単語の表示順、テストの出題順を選択します。
単語（目次）順	コンテンツに収録されている順番に表示します。初期設定では「単語順」に設定されています。
ランダム	単語や問題の順序を入れ替えて表示します。
チェック済み	チェックマーク（☑）を入れた単語の表示を選択します。
表示する	チェック済み単語を含むすべての単語を表示します。初期設定では「表示する」に設定されています。
表示しない	チェック済み単語を表示しません。
チェック済み単語のチェック解除	チェックマーク（☑）を入れたすべての単語からまとめてチェックマークを外します。
記録削除	学習の進捗記録、テストの記録を削除します。学習進捗の記録あるいはテストの記録が表示される学習コンテンツで設定できます。

■表示方法の設定

各コンテンツで以下のような表示方法を設定することができます

単語／意味の表示設定　英単語・英熟語ターゲット　英検 PASS 単熟語（3 級・2 級）　古文単語・熟語ターゲット400

年号の表示設定　世界史年代暗記ターゲット　日本史年代暗記ターゲット

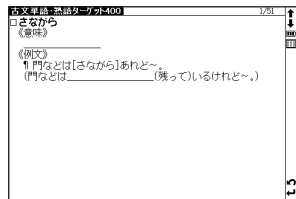
公式／キーワードの表示設定　公式集

表示内容で「意味隠し」を選択した場合

本文画面を表示させると、単語の意味が隠されて表示されます。

（古文単語・熟語を学習する ☞ 167 ページ参照）

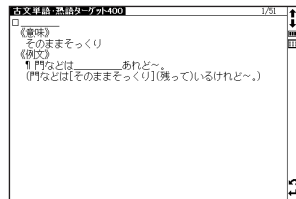
▼（次見出し）を押すと、意味が表示されます。

再度 ▼（次見出し）を押すと、次の見出し語の本文画面が、意味が隠されて表示されます。

表示内容で「単語隠し」を選択した場合

本文画面を表示させると、単語が隠されて表示されます。

（古文単語・熟語を学習する ☞ 167 ページ参照）

▼（次見出し）を押すと、単語が表示されます。

再度 ▼（次見出し）を押すと、次の見出し語の本文画面が、単語が隠されて表示されます。

ロイヤル英文法を使う

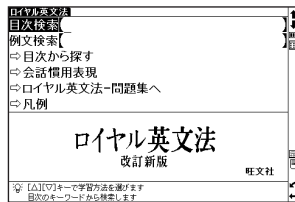
英語の読み書きや口語英語に必要な文法や語法を調べることができます。

キーワードを入力し、目次から検索する

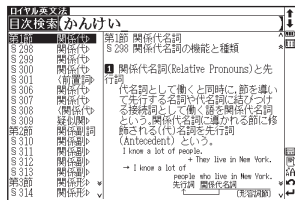
例 題　「かんけい（関係）」を入力し、目次から関係代名詞の項目を調べます

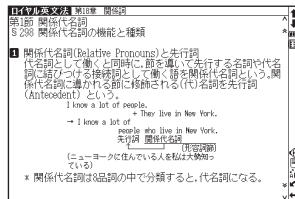
1 メニュー画面から学習1→ロイヤル英文法を選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

ロイヤル英文法
目次検索【　】
例文検索【　】
⇨目次から探す
⇨会話慣用表現
⇨ロイヤル英文法−問題集へ
⇨凡例
ロイヤル英文法
改訂新版
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
目次のキーワードから検索します

2 目次検索欄にキーワードを入力します（ここでは「かんけい」と入力します）。画面に入力した言葉を含む目次項目が候補表示されます。

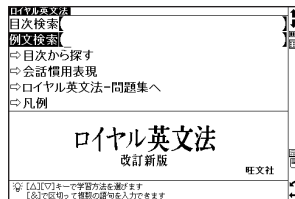
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

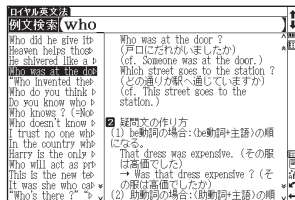
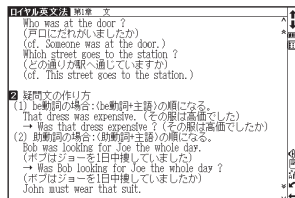
●収録されていない言葉を入力した場合は、「一致する目次がありません。検索条件を変えるか、さらに条件を入力してください」のメッセージが表示されます。

3 [▽]／[△] でカーソルを移動させ、調べたい項目を選択します（ここでは「第1節 関係代名詞」を選択します）。

[訳・決定]（例文展開/ジャンプ実行）を押して、本文画面の該当箇所を表示させます。

入力した英単語を含む例文を調べる

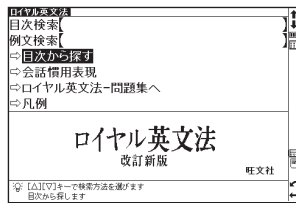
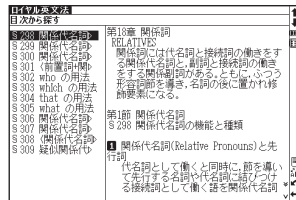
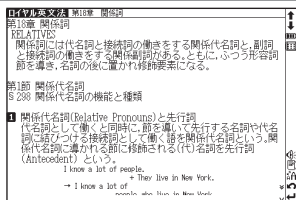
例 題　「who」を入力し、例文を調べます

1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させせます。▽ でカーソルを例文検索に移動させせます。

ロイヤル英文法
目次検索【　】
例文検索【_　】
⇨目次から探す
⇨会話慣用表現
⇨ロイヤル英文法−問題集へ
⇨凡例
ロイヤル英文法
改訂新版
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
[&]で区切って複数の語句を入力できます

2 例文検索欄に英単語を入力します（ここでは「who」と入力します）。画面に入力した単語を使った例文が候補表示されます。

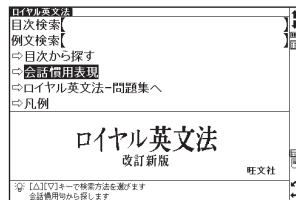
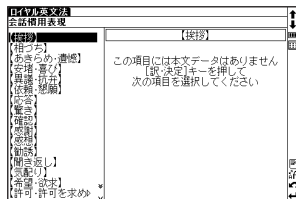
- 複数の英単語を スペース *?& で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。
- 収録されていない単語を入力した場合は、「一致する例文がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「Who was at the door？」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文中の例文を表示させせます。

目次一覧から調べる

例 題　「⇨目次から探す」から関係代名詞の項目を調べます

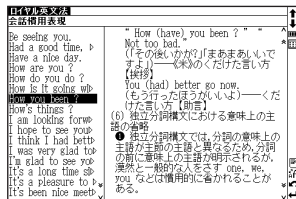
1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを「⇨目次から探す」に移動させます。

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと目次のリストが表示されます。▽／△ で項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは「第18章 関係詞」→「第1節 関係代名詞」→「298 関係代名詞の機能と種類」の順に選択します。

3 本文画面で ▼(次見出し) を押すと次の項目が表示されます。

会話慣用表現を調べる

収録された例文の中から、会話慣用表現をカテゴリー別に調べることができます。

例 題　「⇨会話慣用表現」から挨拶に使われる表現を調べます

1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを「⇨会話慣用表現」に移動させます。

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すとカテゴリーが一覧表示されます。▽／△ でカーソルを移動させ、調べたいカテゴリーを選択します（ここでは【挨拶】を選択します）。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、選択したカテゴリーに含まれる慣用表現リストが候補表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい表現を選択します（ここでは「How you been?」を選択します）。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面中の会話慣用表現を表示させます。

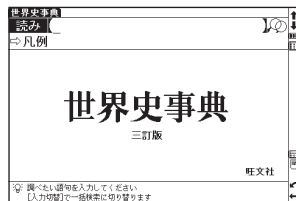
●関連モードへの移動
手順１の画面で「⇨ロイヤル英文法 - 問題集へ」を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、ロイヤル英文法問題集へ移動することができます。同様にロイヤル英文法問題集の検索画面で「⇨ロイヤル英文法へ」を選択すると、ロイヤル英文法へ移動できます。

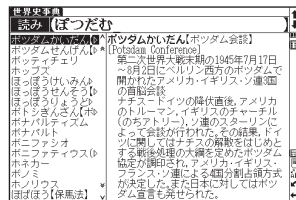
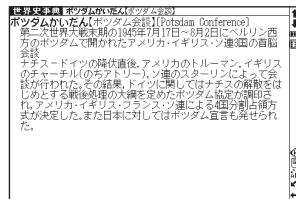
学習系コンテンツを使う

世界史事典を使う

世界史上の事柄や人物について、詳しく調べることができます。

世界史の用語を入力し、その年代や内容を検索する

例 題　「ポツダム」について調べます

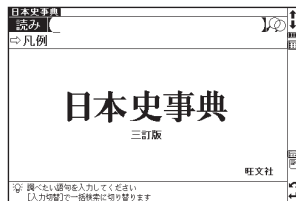
1 メニュー画面から学習１→世界史事典を選んで、検索画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に語句を入力します（ここでは「ぽつだむ」と入力します）。
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

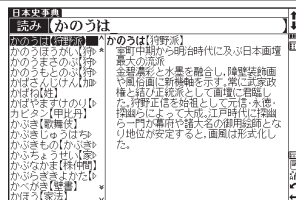
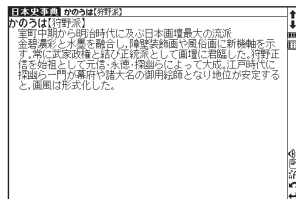
●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「ポツダムかいだん【ポツダム会談】」を選択します）。
訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

日本史事典を使う

日本史上の事柄や人物について、詳しく調べることができます。

日本史の用語を入力し、その年代や内容を検索する

例 題　「狩野派（かのうは）」について調べます

1 メニュー画面から学習１→日本史事典を選んで、検索画面を表示させせます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に語句を入力します（ここでは「かのうは」と入力します）。
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「かのうは【狩野派】」を選択します）。
訳・決定を押して、本文画面を表示させせます。

人名検索を使う

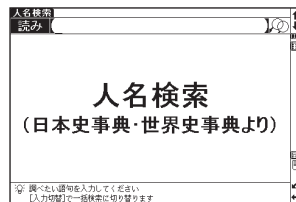
世界史・日本史に登場する歴史上の人物の名前を検索することができます。

歴史上の人物を検索する（世界史・日本史共通）

例 題　「ヒッポクラテス」を検索します

1

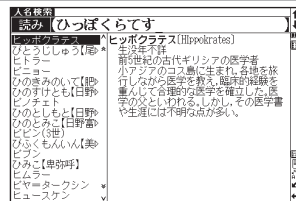
メニュー画面から学習1→人名検索を選んで、検索画面を表示させます。

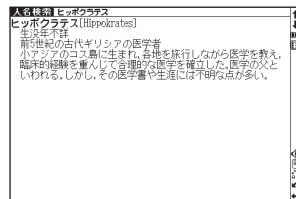
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27ページ参照）

2

読み入力欄に人名を入力します（ここでは「ひっぽくらてす」と入力します）。
画面に入力文字に該当する人名が五十音順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32ページ参照）

●収録されていない人名を入力した場合は、入力した人名に一番近いものから五十音順に表示されます。

3

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい人名を選択します（ここでは「ヒッポクラテス」を選択します）。

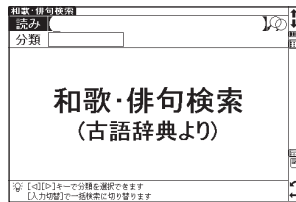
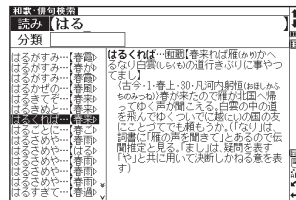
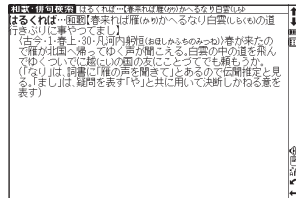
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

和歌・俳句検索を使う

和歌や俳句に含まれる単語を入力し、歌や句の意味を検索することができます。

和歌・俳句に含まれる語句を入力し、句意等を調べる

例 題　「春（はる）」を入力し、和歌を検索します

1　メニュー画面から学習１→和歌・俳句検索を選んで、検索画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

和歌・俳句検索
読み
分類
和歌・俳句検索
（古語辞典より）
[◁][▷]キーで分類を選択できます
[入力切替]で一括検索に切り替えます

2　読み入力欄に読みを入力します（ここでは「はる」と入力します）。
「はる」の語句から始まる和歌（百人一首）・俳句・川柳などが五十音順に候補表示されます。

3　▽／△でカーソルを移動させ、調べたい和歌を選択します（ここでは「はるくれば…」を選択します）。
例文展開／ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

分類項目を選ぶ場合

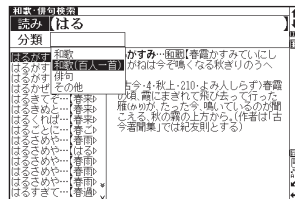
1

読み入力欄に読みを入力します（ここでは「はる」と入力します）。

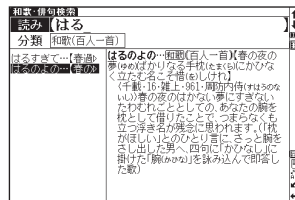
▷ を押すと分類欄に分類項目がプルダウン表示されます。

▽／△ でカーソルを移動させて分類項目を選びます（ここでは「和歌（百人一首）」を選びます）。

●分類項目がプルダウン表示された状態で ◁／▷ を押すと分類項目から読み入力欄にカーソルを戻すことができます。

2

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、「はる」の語句から始まる百人一首が五十音順に候補表示されます。

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい百人一首を選択し 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●読みを入力し分類項目を選ぶと、候補を絞り込むことができます。

生物事典を使う

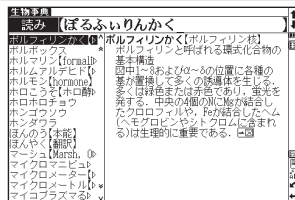
生物学に関する用語を検索することができます。

生物学用語を入力し、用語の意味を調べる

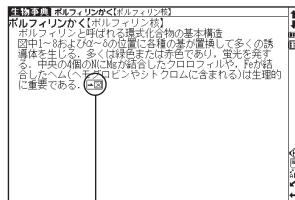
例 題　「ポルフィリン核（かく）」の意味を調べます

1 メニュー画面から学習1→生物事典を選んで、検索画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 読み入力欄に語句を入力します（ここでは「ぽるふぃりんかく」と入力します）。
画面に入力文字に該当する用語が五十音順に表示されます。
（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

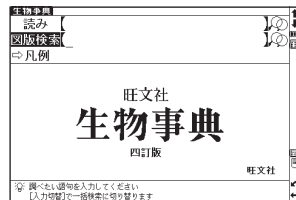
●収録されていない用語を入力した場合は、その用語に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい用語を選択します（ここでは「ポルフィリンかく」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● 本文画面中に 図 アイコンが表示されている場合は、関連図版を参照することができます。
(参照ジャンプを実行する ☞ 184 ページ参照)

図版検索をする

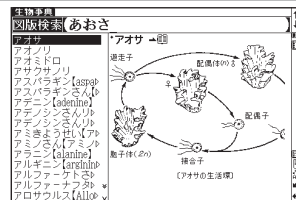
生物学用語を入力し、関連図版を表示することができます。

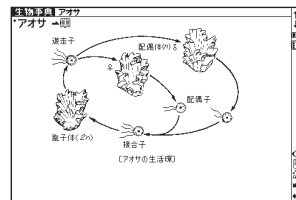
例 題　「アオサ」の図版を検索します

1 生物事典の検索画面を表示させ、▽ でカーソルを図版検索に移動させます。

2 図版検索欄に用語を入力します（ここでは「あおさ」と入力します）。

△／▽ でカーソルを移動させ、図版を表示したい用語を選択します（ここでは「アオサ」を選択します）。

●図版が掲載されている用語中、入力した用語に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● [アイコン] が表示されている場合は、生物事典の本文画面にジャンプすることができます。

（検索した語の本文画面に参照ジャンプする ☞ 74 ページ参照）

公式集を使う

数学・物理の公式と有機化学・無機化学の主要な項目について学習をすることができます。

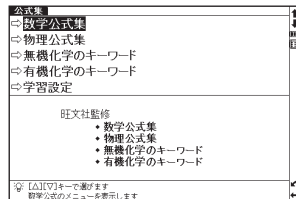
数学公式集と物理公式集を学習する

1 メニュー画面から学習１→公式集を選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

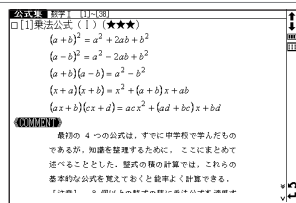
公式集
⇨数学公式集
⇨物理公式集
⇨無機化学のキーワード
⇨有機化学のキーワード
⇨学習設定

旺文社監修
・数学公式集
・物理公式集
・無機化学のキーワード
・有機化学のキーワード

[△][▽]キーで選びます
数学公式のメニューを表示します

2 ▽／△ でカーソルを移動させ、「⇨ 数学公式集」か「⇨ 物理公式集」のどちらかを選択します。訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

3 ▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは、数学公式集「数学Ⅰ」→「第１章　数と式」→「乗法公式（Ⅰ）」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

4 本文画面で ▼（次見出し） を押すと、次の公式の本文画面が表示されます。

●数学公式集の本文画面で表示される★は、重要度を示しています。★の数が多いほど、重要な公式であることを示しています。

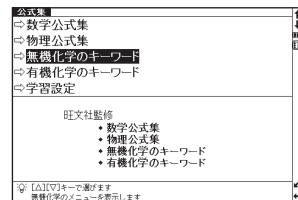
●物理公式集の本文画面で表示される (A)、(B)、(C)は重要度を示しています。(A)が最も重要な公式で(B)→(C)の順となります。

無機化学のキーワードと有機化学のキーワードを学習する

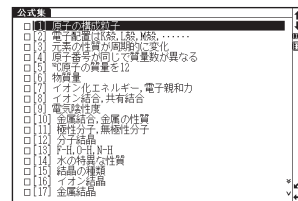
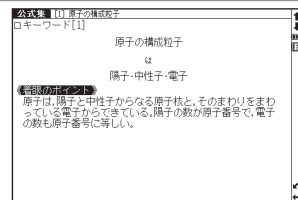
1

公式集の画面を表示させせます。▽ でカーソルを移動させ､｢⇨ 無機化学のキーワード｣か｢⇨ 有機化学のキーワード｣のどちらかを選択します。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

公式集
⇨数学公式集
⇨物理公式集
⇨無機化学のキーワード
⇨有機化学のキーワード
⇨学習設定
旺文社監修
◆数学公式集
◆物理公式集
◆無機化学のキーワード
◆有機化学のキーワード
[△][▽]キーで選びます
無機化学のメニューを表示します

2

▽／△ で項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは、｢⇨ 無機化学のキーワード｣→｢[1] 原子の構成粒子｣の順に選択します。

3

本文画面で ▼(次見出し) を押すと、次の本文画面が表示されます。

●公式集では、学習画面の設定を行うことができます。
公式集の画面で｢⇨ 学習設定｣を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）が表示されます。

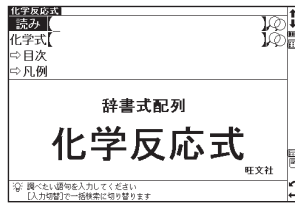
辞書式配列化学反応式を使う

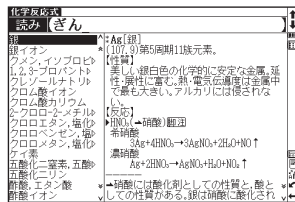
日本語の読みや化学式名の入力、あるいは目次から化学式の検索ができます。

読みを入力する

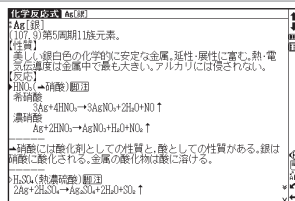
例 題　「銀（Ag）」の化学式を調べます

1　メニュー画面から学習1→化学反応式を選んで、検索画面を表示させます。

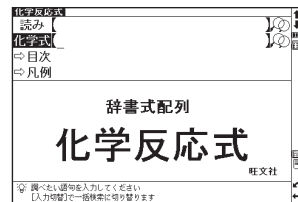
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2　読み入力欄に読みを入力します（ここでは「ぎん」と入力します）。画面に該当する化学式が読みの五十音順に候補表示されます。

●収録されていない読みを入力した場合は、その読みに一番近いものから五十音順に表示されます。

3　△／▽ でカーソルを移動させ、調べたい化学式を選択します（ここでは「銀」を選択します）。

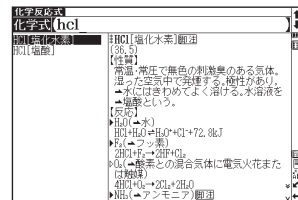
訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

学習系コンテンツを使う

化学式を入力する

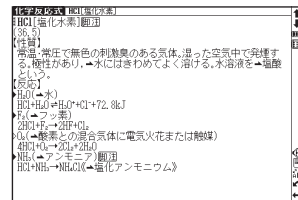
例 題 「塩化水素 [HCl] 」を化学式から調べます

1 辞書式化学反応式の検索画面を表示させ、▽ でカーソルを化学式入力欄に移動させます。

2 化学式入力欄に化学式を入力します（ここでは「hcl」と入力します）。

● スペース *?& を入力し「h」 スペース *?& 「cl」と元素記号ごとに入力して、検索することもできます。

●化学式中の数字は入力できません。数字を省いて入力してください。

3 △／▽ でカーソルを移動させ、調べたい化学式を選択します（ここでは「HCl[塩化水素]」を選択します）。

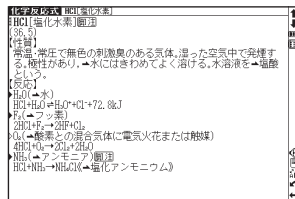
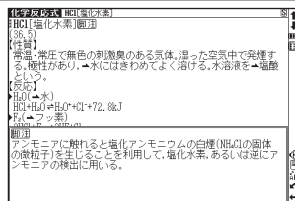
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

学習系コンテンツを使う

脚注を表示する

本文画面に 脚注 が表示されているときは、本文の注釈事項を表示させることができます。

例 題　「塩化水素 [HCl] 」の脚注を表示します

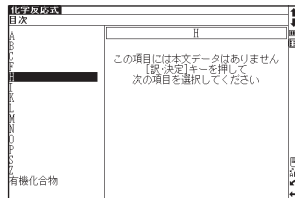
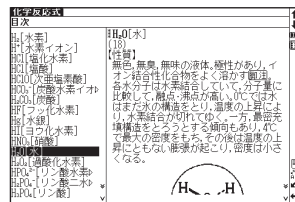
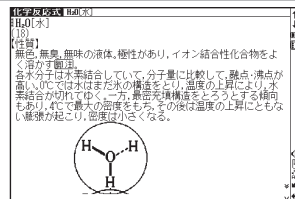
1　「塩化水素 [HCl] 」の本文画面を表示させます。

化学反応式 HCl[塩化水素]
#HCl[塩化水素]脚注
(36.5)
【性質】
常温・常圧で無色の刺激臭のある気体。湿った空気中で発煙する。極性があり，水にはきわめてよく溶ける。水溶液を塩酸という。
【反応】
▶H_2O(水)
$HCl+H_2O \rightleftharpoons H_3O^+ + Cl^- + 72.8kJ$
▶F_2(フッ素)
$2HCl+F_2 \rightarrow 2HF+Cl_2$
▷O_2(酸素との混合気体に電気火花または触媒)
$4HCl+O_2 \rightarrow 2Cl_2+2H_2O$
▶NH_3(アンモニア)脚注
$HCl+NH_3 \rightarrow NH_4Cl$《塩化アンモニウム》

2　脚注 を反転させた状態で 訳・決定 を押して、内容を表示させます。
（参照ジャンプを実行する ☞ 184ページ参照）

●手順2の後、訳・決定 を押すと、脚注の内容が全面表示されます。戻る を押すと本文画面に戻ります。

目次を表示する

例 題　目次から「H_2O [水]」を調べます

1　辞書式化学反応式の検索画面を表示させ、▽ でカーソルを「⇨ 目次」に移動させます。

訳・決定 を押すとアルファベットのリストが表示されます。▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい化学式の頭文字を選択します（ここでは「H」を選択します）。

2 訳・決定 を押すと、H で始まる化学式のリストが表示されます。▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい化学式を選択します（ここでは H_2O[水]を選択します）。

3 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

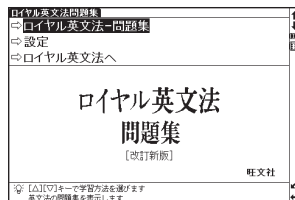
ロイヤル英文法問題集を使う

ロイヤル英文法で学習した内容を、択一問題でテストすることができます。

章別に分類された問題を行う

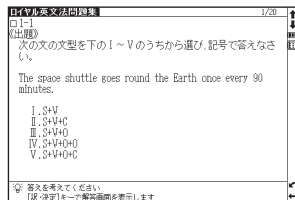
1 メニュー画面から、学習２→ロイヤル英文法問題集を選んで、検索画面を表示させます。

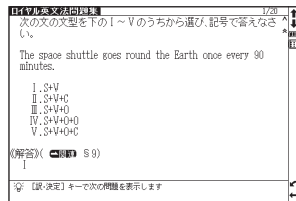
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

ロイヤル英文法問題集
⇨ロイヤル英文法−問題集
⇨設定
⇨ロイヤル英文法へ
ロイヤル英文法
問題集
［改訂新版］
旺文社
［△］［▽］キーで学習方法を選びます
英文法の問題集を表示します

2 訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

3 ▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは､｢第１章　文｣→｢No.1｣→｢出題１｣の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

4 本文画面で［訳・決定］または［▼］を押すと、解答が表示されます。

●解答とともに、ロイヤル英文法の参照項目が表示されます。［関連語句］を押すと参照項目が表示されます。参照画面で［戻る］を押すと、解答表示画面に戻ります。

5 ［訳・決定］または［▼］を押すと次の出題に移ります。

●本文画面の設定を行うことができます。

手順1の画面で、［▽］／［△］でカーソルを移動させ「⇨設定」を選択します。

［訳・決定］を押し、設定画面を表示します。

（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）

●関連モードへの移動

手順1の画面で「⇨ロイヤル英文法へ」を選んで［訳・決定］を押すと、ロイヤル英文法へ移動することができます。同様にロイヤル英文法の検索画面で「⇨ロイヤル英文法 - 問題集へ」を選択すると、ロイヤル英文法問題集へ移動できます。

英単語・英熟語ターゲットを使う

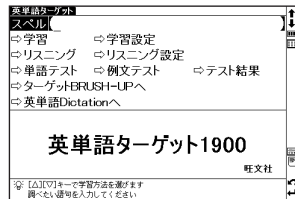
英単熟語について効果的に学習することができます（ここでは英単語の場合を例として説明します）。

英単語を入力し、単語の意味を調べる

例 題　「accomplish」を入力し、英単語の意味と例文を調べます

1 メニュー画面から学習２→英単語ターゲットを選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

英単語ターゲット
スペル
⇨学習 ⇨学習設定
⇨リスニング ⇨リスニング設定
⇨単語テスト ⇨例文テスト ⇨テスト結果
⇨ターゲットBRUSH-UPへ
⇨英単語Dictationへ
英単語ターゲット1900
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
調べたい語句を入力してください

2 スペル入力欄に単語を入力します（ここでは「accomplish」と入力します）。
画面に入力文字に該当する英単語がアルファベット順に候補表示されます。

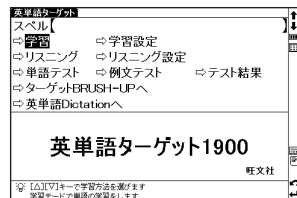
●収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものから表示されます。
●英熟語ターゲットの場合は、複数の英単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語すべてを含む熟語が候補表示されます。複数の単語を入力することで、候補を絞り込んで検索することができます。

3 ▽／△でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択し 訳・決定 を押します（ここでは「accomplish」を選択します）。
選択した英単語の意味と例文が表示されます。

英単語を学習する

例 題　英単語「動詞編 300・1-50」の単語を学習します

1

英単語ターゲットの検索画面を表示させます。

▽ でカーソルを「⇨学習」に移動させます。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

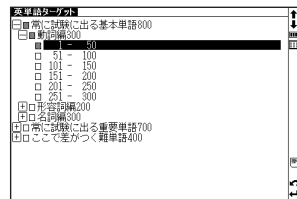
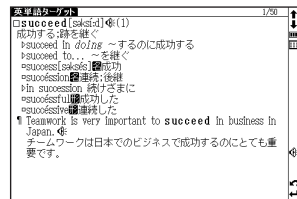
英単語ターゲット
スペル【　】
⇨学習　⇨学習設定
⇨リスニング　⇨リスニング設定
⇨単語テスト　⇨例文テスト　⇨テスト結果
⇨ターゲットBRUSH-UPへ
⇨英単語Dictationへ
英単語ターゲット1900
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
学習モードで単語の学習をします

2

▽／△ で項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「常に試験に出る基本単語800」→「動詞編 300」→「1-50」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

英単語ターゲット
⊟■常に試験に出る基本単語800
⊟■動詞編300
■ 1 - 50
□ 51 - 100
□ 101 - 150
□ 151 - 200
□ 201 - 250
□ 251 - 300
⊞□形容詞編200
⊞□名詞編300
⊞□常に試験に出る重要単語700
⊞□ここで差がつく難単語400

3

▼ 次見出し を押し、次の単語を表示します。

4 各項目の英単語（英熟語）をすべて学習し終えると､｢この単元をテストします｣というメッセージが表示されます。◁／▷でカーソルを移動させ､｢はい｣か｢いいえ｣を選んで 訳・決定 を押します。

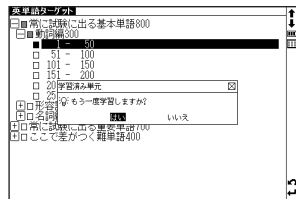
●本文画面の設定を行うことができます。

手順１の画面でカーソルを移動させ､｢ ⇨ 学習設定｣を選択します。訳・決定 を押し、設定画面を表示します。

（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

再度学習するときは

リスト表示画面で一度学習した単元を再度選択した場合は、「もう一度学習しますか？」のメッセージが表示されます。

◁／▷でカーソルを移動させ、「はい」または「いいえ」のどちらかを選択します。

☞「英熟語ターゲット」の会話表現集を見る

英熟語ターゲットの検索画面から「 ⇨ 会話表現集」を選んで 訳・決定 を押すと、場面別会話表現のリストが表示されます。

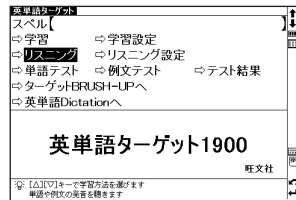
▽／△で場面（SCENE）を選んで 訳・決定 を押すと、本文画面が表示されます。再度 訳・決定 を押すと、太字で示された会話表現についての解説が表示されます。🔊を選んで 訳・決定 を押すと､各会話の発音を確認することができます。

英単語・英熟語のリスニングを行う

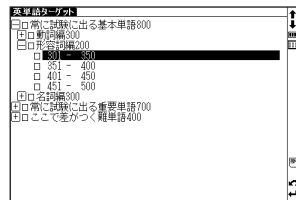
ターゲットに収録されている英単語・英熟語の発音を聞くことができます。

1

英単語ターゲットの検索画面を表示させます。▽ でカーソルを「⇨リスニング」に移動させます。

訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

2

▽／△ でリスニングを行いたい項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「常に試験に出る基本単語800」→「形容詞編200」→「301-350」の順に選択します。

3

訳・決定 を押すと、設定した範囲内の単語（熟語）の意味と発音あるいは設定により例文の発音を連続して読み上げます。

（リスニング設定を行う ☞ 148 ページ参照）

リスニング設定を行う

1 英単語ターゲットの検索画面を表示させます。[▽] でカーソルを「⇨リスニング設定」に移動させます。

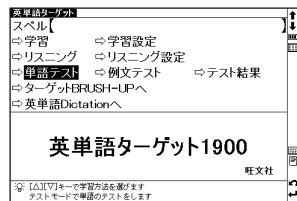
2 以下の項目を参考に選んで設定してください。

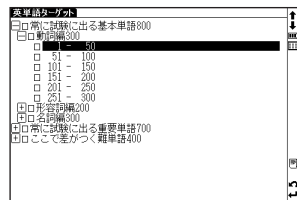
発音		発音する内容を選択できます。
	単語（熟語）	単語（熟語）を発音します。初期設定では「単語（熟語）」に設定されています。
	単語（熟語）と例文	単語（熟語）と例文両方を発音します。
発音順		発音する順序を選択できます。
	目次順	目次順に発音します。初期設定では「目次順」に設定されています。
	ランダム	順不同で発音します。
発音範囲		発音する単元の範囲を選択できます。
	選択した単元のみ	項目リストから選択した単元中の単語（熟語）を発音します。初期設定では「選択した単元のみ」に設定されています。
	選択した単元から最後まで	選択した単元以降の単語（熟語）から最後まで通して発音します。

●発音を途中で停止させたい場合は、[戻る] を押します。発音中は [戻る] の他 [バックライト ON/OFF]、[メニュー]、[複数検索]、[漢字源 国語]、[和英 英和]、[英英]、[単語帳]、[カード MP3] などのコンテンツ・検索モードキーのみ操作できます。

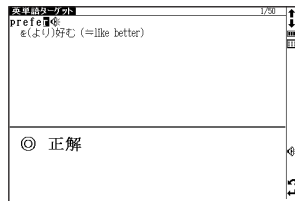
単語テストをする

例題　英単語「動詞編 300・1-50」の単語をテストします

1　英単語ターゲットの検索画面を表示させます。
▽ でカーソルを「⇨ 単語テスト」に移動させます。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

英単語ターゲット
スペル【　】
⇨学習　⇨学習設定
⇨リスニング　⇨リスニング設定
⇨単語テスト　⇨例文テスト　⇨テスト結果
⇨ターゲットBRUSH-UPへ
⇨英単語Dictationへ
英単語ターゲット1900
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
テストモードで単語のテストをします

2　▽／△ で項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目のテスト画面を表示します。ここでは、「常に試験に出る基本単語800」→「動詞編 300」→「1-50」の順に選択します。
（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

3　空欄の箇所に文字入力キーを使って英単語を入力します。

学習系コンテンツを使う

4 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、入力した英単語が正しい場合は「◎正解」が画面に表示されます。入力した英単語が間違っている場合は、「×　不正解　正しくは…」というメッセージとともに、正解が表示されます。

5 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して次の英単語テスト画面を表示します。

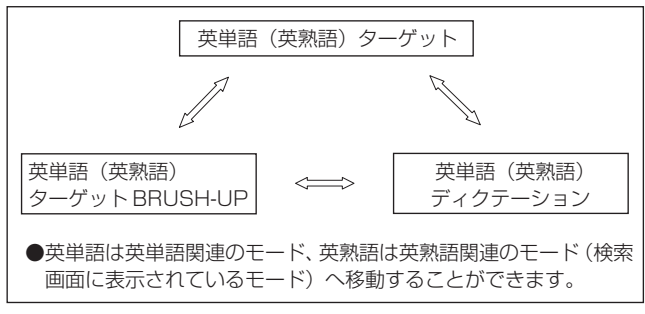
●ここでは、単語テストを例に説明しましたが、例文テストも同じ手順でテストすることができます。

●英単語（英熟語）単語テスト / 例文テストは、テストの正解率をグラフで表示することができます。
（テスト結果グラフ表示 ☞ 121 ページ参照）

関連モードへの移動

単熟語ターゲット、BRUSH-UP、ディクテーションの検索画面では右図のようにそれぞれのモードへ移動することができます。

たとえば手順 1 の画面で「⇨ターゲットBRUSH-UPへ」を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、BRUSH-UPのモードへ移動することができます。同様にBRUSH-UPの検索画面で「⇨英単語ターゲットへ」を選択すると、英単語ターゲットの検索画面へ移動できます。

●英単語は英単語関連のモード、英熟語は英熟語関連のモード（検索画面に表示されているモード）へ移動することができます。

英単語・英熟語ターゲット BRUSH-UP TEST を使う

ターゲットで学習した単熟語を、択一問題でテストすることができます（ここでは英単語の場合を例として説明します）。

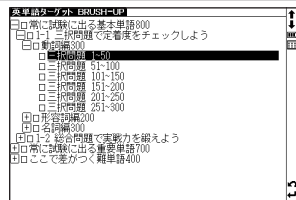
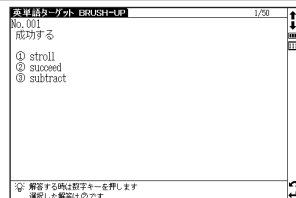
BRUSH-UP テストをする

例 題　「動詞編 300・三択問題 1 ～ 50」をテストします

1 メニュー画面から学習２→英単語ターゲット1900 BRUSH-UP を選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。
この操作を繰り返し、選択した項目のテスト画面を表示します。
ここでは、「常に試験に出る基本単語 800」→「1 - 1 三択問題で定着度をチェックしよう」→「動詞編 300」→「三択問題 1 ～ 50」の順に選択します。

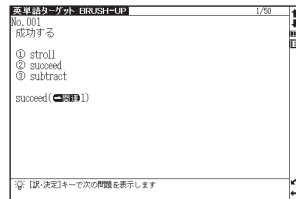
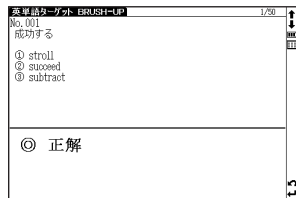
（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

3 文字入力キーを使って、選択肢の中から適当と思われるものを選択します。番号を入力して、訳・決定を押します。

4

画面下に正解か不正解かが表示されます。
［例文展開/ジャンプ実行 訳・決定］を押すと、正解の単語が表示されます。

英単語ターゲット BRUSH-UP 1/50
No. 001
成功する
① stroll
② succeed
③ subtract
◎ 正解

● 正解の単語とともに、英単語ターゲットの参照NO.が表示されます。参照する場合は［入力切替 関連語句］を押します。参照画面で［戻る］を押すと解答表示画面に戻ります。

英単語ターゲット BRUSH-UP 1/50
No. 001
成功する
① stroll
② succeed
③ subtract
succeed(関連1)
［訳・決定］キーで次の問題を表示します

5

［例文展開/ジャンプ実行 訳・決定］を押して、次の出題を表示します。

●テスト画面の設定を行うことができます。
手順1の画面で、カーソルを移動させ「⇨学習設定」を選択します。［例文展開/ジャンプ実行 訳・決定］を押し、設定画面を表示します。
（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）

●英単語（英熟語）BRUSH-UPでは、テストの正解率をグラフで表示することができます。
（テスト結果グラフ表示 ☞ 121ページ参照）

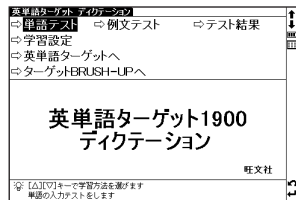
●手順1の画面から「⇨英単語ターゲットへ」または「⇨英単語Dictationへ」を選択するとそれぞれのモードへ移動することができます。
（関連モードへの移動 ☞ 150ページ参照）

英単語・英熟語ターゲットディクテーションを使う

単語や例文の音声を聴き取り、スペルを入力して学習することができます（ここでは英単語の場合を例として説明します）。

単語テストをする

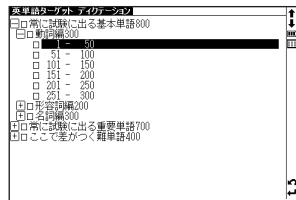
1

メニュー画面から学習２→英単語ターゲットディクテーションを選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2

［訳・決定］を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。［▽］／［△］で項目を選んで［訳・決定］を押します。この操作を繰り返し、選択した項目のテスト画面を表示します。

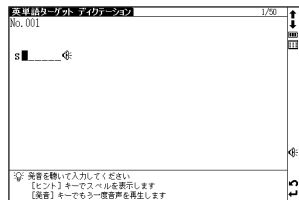
ここでは､「常に試験に出る基本単語 800」→「動詞編 300」→「1-50」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

3

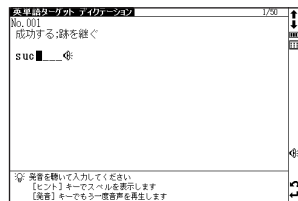
テスト画面を表示すると､自動的に単語の発音が再生されます｡聴き取った単語のスペルを文字入力キーを使って入力します｡正しいスペルのみ入力することができます。

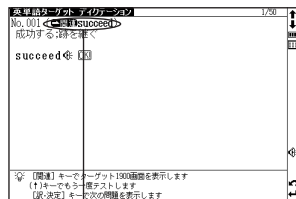
●発音を繰り返し聴く

発音が聴き取れなかった場合は、［発音］を押すと何度でも繰り返し聴き直すことができます。

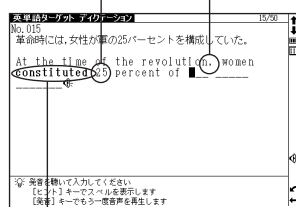
ヒントを使う

文字入力キーを使って1文字目を入力しました。

発音を繰り返し聴いても聴き取れないので、履歴（ヒント）を押します。単語の意味が表示されます。

単語の意味が表示されてもスペルがわからないので、再度履歴（ヒント）を押すとアルファベットが1文字表示されます。

履歴（ヒント）を押すとごとにアルファベットが1文字ずつ表示されます。

4 入力し終わると OK! と表示されます。
訳・決定 を押して、次のテスト画面を表示します。

● 入力し終えると英単語ターゲットの参照単語が表示されます。
参照する場合は 関連語句 を押します。参照画面で 戻る を押すとディクテーション画面に戻ります。

例文テストの場合

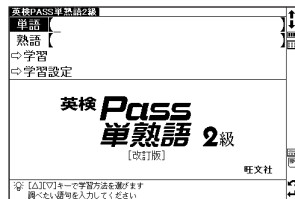
例文テストの場合は、履歴 を押すごとに１単語ずつ表示されます。
テスト画面のアンダーバー（_ _ _）は、数字や記号も含めた文字数で表示されます。
数字やカンマ、ピリオドなどは入力の必要がありません。該当箇所に来ると自動で表示されます。
●ディクテーションでは、テストの正解率がグラフ表示されますが、ヒントを使った問題は正解にカウントされません。

●手順１の画面から「⇨英単語ターゲットへ」または「⇨ターゲットBRUSH-UPへ」を選択するとそれぞれのモードへ移動することができます。
（関連モードへの移動 ☞ 150ページ参照）

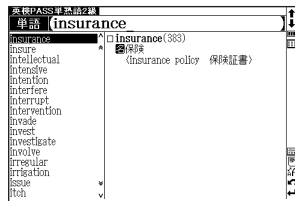
英検Pass単熟語(3級・2級)を使う

英検に出題される英単熟語を検索、学習することができます（ここでは2級の場合を例として説明します）。

英単語を入力し、単語の意味を調べる

1 メニュー画面から学習2→英検Pass単熟語2級を選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27ページ参照）

2 単語を検索する場合は単語欄に、熟語を検索する場合は熟語欄にカーソルを移動させます。文字入力キーを使って単語を入力します（ここでは「insurance」と入力します）。

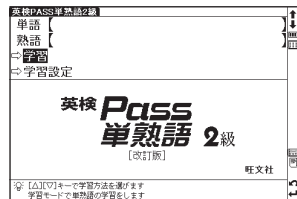
●熟語欄では、複数の英単語を スペース で結んで入力すると、入力した単語すべてを含む熟語が候補表示されます。複数の単語を入力することで候補を絞り込んで検索することができます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、単語（熟語）を選んで 訳・決定 を押します。

選択した単語の意味が、熟語の場合意味と例文が表示されます。

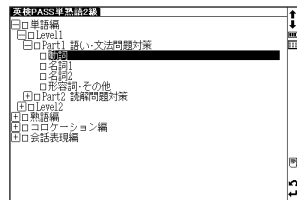
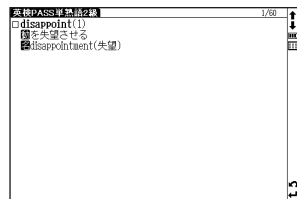
●収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

英単熟語を学習する

1 英検Pass単熟語2級の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを「⇨学習」に移動させます。

訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

2 ▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは、「単語編」→「Level1」→「Part1」→「動詞」 の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目選択の方法 ☞ 118ページ参照）

3 本文画面で ▼(次見出し) を押すと、次の単語の本文画面が表示されます。

●学習画面の設定を行うことができます。
手順1の画面で、カーソルを移動させ「⇨学習設定」を選択します。 訳・決定 を押し設定画面を表示します。
（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）

学習系コンテンツを使う

センター試験リスニング対策を使う

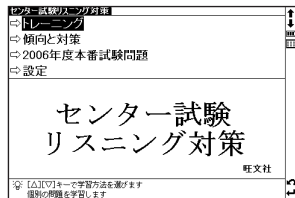
下記の特長別に分類された問題を解くことにより、センター試験リスニング対策の学習をすることができます。

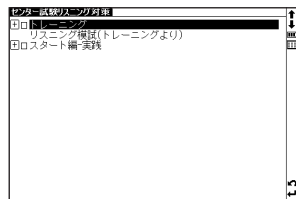
検索画面表示	項目選択後の表示	問題の特長
⇨トレーニング	トレーニング	リスニング試験の練習（トレーニング）問題を行うことができます。
	リスニング模試（トレーニングより）	「トレーニング」で出題した問題の一部を模試形式で行うことができます。
	スタート編－実践	Part1 とPart2 で構成されており、試験問題に慣れるための実践問題を行うことができます。
⇨傾向と対策	類似問題	Part1 とPart2 で構成されており、センター試験の傾向に即した問題を行うことができます。
	試行問題	2004 年に実施されたセンター試験「英語リスニング試行テスト」の問題を行うことができます。
⇨2006 年度本番試験問題		2006 年に実施されたセンター試験問題を行うことができます。

検索画面で項目を選び、リスニング問題を行う

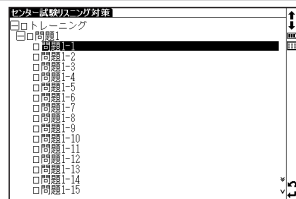
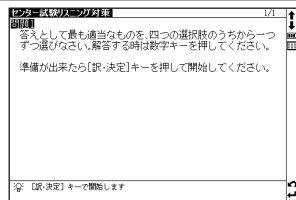
例 題　「⇨トレーニング」から「トレーニング」の問題を行います

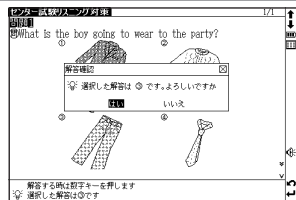
1 メニュー画面から学習２→センター試験リスニング対策を選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 「⇨トレーニング」を選んで 訳・決定 を押し、リストを表示させます。

●「リスニング模試（対策トレーニング）」の場合はリストが表示されず、問題説明画面に移ります（手順2、3をとばして、操作してください）。

3 「トレーニング」を選んで 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目のリストが表示されます。▽／△ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の出題画面を表示します。

ここでは「問題１」→「問題 1-1」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118ページ参照）

4 まず最初に、テスト方法についての説明画面が表示されます。

5 訳・決定 を押すと出題画面が表示され、自動的に音声が再生されます。

文字入力キーを使って、選択肢の中から適切と思われるものを選択し、番号を入力します。確認メッセージが表示されますので、選択した解答に間違いなければ ◁／▷ で「はい」を選択します。解答を選択し直す場合は、「いいえ」を選択して、出題画面に戻ります。

●音声を繰り返し聴く

音声が聴き取れなかった場合は、発音 を押すと何度でも繰り返し聴き直すことができます。

学習系コンテンツを使う

6

[訳・決定]を押すと、正解か不正解が表示されます。

センター試験リスニング対策 1/1
問題1
問What is the boy going to wear to the party?
◎ 正 解

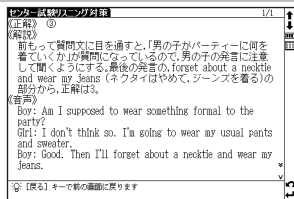
7

数秒後に解説画面が表示されます。

[訳・決定] を押すと項目リストの画面に戻り、次の出題を選択できます。

● 「リスニング模試（対策トレーニング)」の場合は [訳・決定] を押すと次の出題に移ります。

センター試験リスニング対策 1/1
《正解》 ③
《解説》
前もって質問文に目を通すと,「男の子がパーティーに何を着ていくか」が質問になっているので,男の子の発言に注意して聞くようにする。最後の発言の,forget about a necktie and wear my jeans（ネクタイはやめて,ジーンズを着る）の部分から,正解は3。
《音声》
Boy: Am I supposed to wear something formal to the party?
Girl: I don't think so. I'm going to wear my usual pants and sweater.
Boy: Good. Then I'll forget about a necktie and wear my jeans.
［戻る］キーで前の画面に戻ります

8

すべての問題を解き終えると、結果画面が表示されます。得点と各問題の正解・不正解が○×で表示されます。

●得点は１問２点で計算されます。実際のセンター試験とは採点基準が異なります。

センター試験リスニング対策
結果 24 点
問題1
問1 ○ 問2 × 問3 ×
問4 × 問5 ○ 問6 ×
問題2
問7 ○ 問8 ○ 問9 ×
問10 × 問11 × 問12 ○
問13 ○
問題3A
問14 × 問15 × 問16 ○
問題3B
問17 ○ 問18 ○ 問19 ○
問題4A
問20 × 問21 ○ 問22 ×
問題4B
問23 ○ 問24 × 問25 ×

9

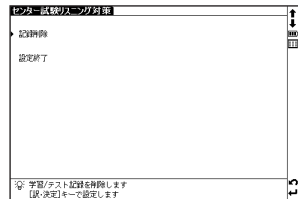
[関連語句] を押すと、参照解説リストが表示されます。 [△]／[▽] でカーソルを移動させ、参照したい解説を選択します。

[訳・決定] を押し、選択した解説を表示します。

解説を参照しない場合は結果画面で [訳・決定] を押すと、項目リストの画面に戻ります。

●解説画面で [戻る] を押すと、参照解説リスト画面に戻ります。

テスト画面の設定

テスト画面の設定を行うことができます。
検索画面で、カーソルを移動させ「⇨設定」を選択します。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、設定画面を表示させ「記録削除」を選択すると、学習、テスト記録が削除されます。
（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）

出題形式の概要

[問題1] 短い対話文を聞き、問いに答えます。画面に表示されている選択肢の中から、答えとして最も適切と思われるものを選択し、番号を入力します。

[問題2] 短い対話文を聞き、問いに答えます。画面に表示されている選択肢の中から、対話文に続く応答として最も適切と思われるものを選択し、番号を入力します。

問題3はAとBの2つの部分に分かれています。

[問題3A] 短い対話文を聞き、問いに答えます。画面に表示されている選択肢の中から、答えとして最も適切と思われるものを選択し、番号を入力します。

[問題3B] 少し長めの対話文を聞き、3つの問いに答えます。画面に対話文に関する問いと選択肢が表示されますので、答えとして適切と思われるものを選択し、出題順に番号を入力します。

●問題と選択肢が2画面以上にまたがって表示されますので、画面をスクロールしてください。取扱説明書内 ☞ 273～279ページにも掲載してありますのでご参照ください。

問題4はAとBの2つの部分に分かれています。

[問題4A] 短い講義を聞き、問いに答えます。画面に表示されている選択肢の中から、答えとして最も適切と思われるものを選択し、番号を入力します。

[問題4B] 短い講義を聞き、3つの問いに答えます。画面に講義に関する問いと選択肢が表示されますので、答えとして適切と思われるものを選択し、出題順に番号を入力します。

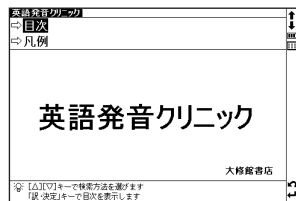
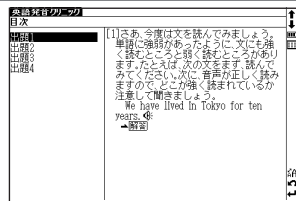
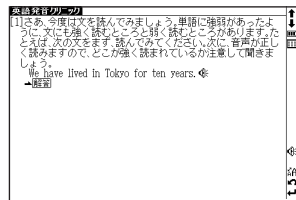
英語発音クリニックを使う

発音機能や小テストを通して英語の音に慣れ親しむことができます。

例 題　「文のリズム（1）」を学習します

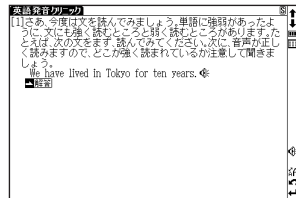
1 メニュー画面から学習２→英語発音クリニックを選んで、検索画面を表示させます。

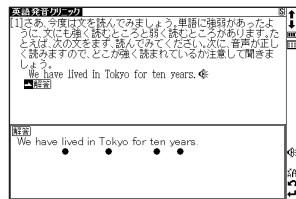
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

英語発音クリニック
⇨目次
⇨凡例
英語発音クリニック
大修館書店
[△][▽]キーで検索方法を選びます
「訳・決定」キーで目次を表示します

2 訳・決定 を押すと項目のリストが表示されます。▽ でカーソルを移動させ、調べたい項目を選択し、訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは「文のリズム（1）」→「出題１」を選びます。

3 本文画面で ▼（次見出し）を押すと次の項目が表示されます。

解答を表示する

本文画面に 解答 が表示されているときは、出題に対する解答を表示させることができます。

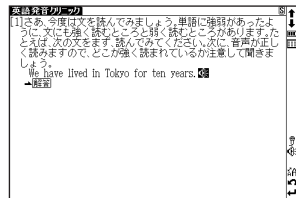
例 題　「文のリズム（1）」の「出題1」の解答を表示します

1 「文のリズム（1）」→「出題1」の本文画面を表示させます。

2 解答 の を反転させた状態で 訳・決定 を押して、内容を表示させます。
（参照ジャンプを実行する ☞ 184ページ参照）

●手順2の後、訳・決定 を押すと、解答の内容が全面表示されます。 戻る を押すと本文画面に戻ります。

発音を確認する

本文画面上に が表示されている箇所では、発音を確認することができます。また、 が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。

（発音を確認する ☞ 66ページ参照）

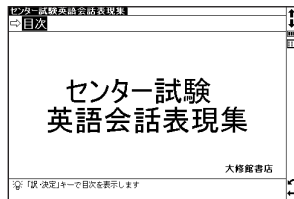
（発音を録音し聞き比べる ☞ 71ページ参照）

センター試験英語会話表現集を使う

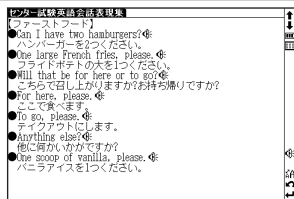
過去のセンター試験に出た語句、表現などをジャンル別にまとめた会話表現集です。
すべての表現で発音を聞くことができます。

目次から会話表現を調べる

例題　「ファーストフード」に関する会話表現を調べます

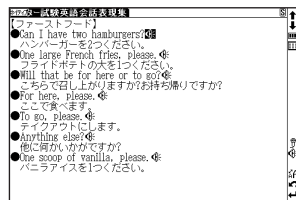
1　メニュー画面から学習２→センター試験英語会話表現集を選んで、検索画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27ページ参照）

センター試験英語会話表現集
⇨目次
センター試験
英語会話表現集
大修館書店
「訳・決定」キーで目次を表示します

2　（例文展開/ジャンプ実行）訳・決定 を押すと項目のリストが表示されます。▽ でカーソルを移動させ、調べたい項目を選択し、（例文展開/ジャンプ実行）訳・決定 を押します（ここでは「ファーストフード」を選びます）。

3　（例文展開/ジャンプ実行）訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

発音を確認する

本文画面上に 🔈 が表示されている箇所では、発音を確認することができます。また、🎤 が表示される場合は、自分の発音を録音して収録されている模範発音と聞き比べることができます。

（発音を確認する ☞ 66ページ参照）

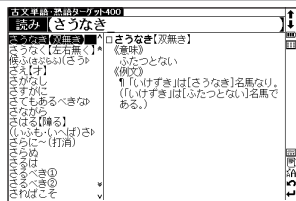
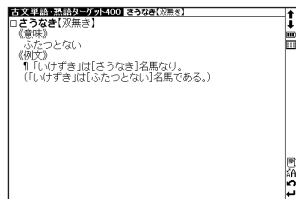
（発音を録音し聞き比べる ☞ 71ページ参照）

古文単語・熟語ターゲット400を使う

古文を読むために欠かせない単語・熟語を学習することができます。

単語の読みを入力し、語義を調べる

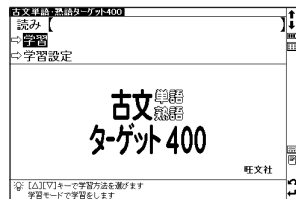
例 題　「双無き（さうなき）」の語義を調べます

1　メニュー画面から学習3→古文単語・熟語ターゲット400を選んで、検索画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27ページ参照）

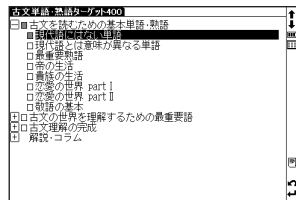
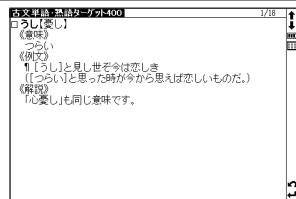
2　読み入力欄に語句を入力します（ここでは「さうなき」を入力します）。画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。
（文字を入力する ☞ 32ページ参照）
●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3　▽／△ でカーソルを移動させ、語句を選択します（ここでは「さうなき」を選択します）。 訳・決定 を押して本文画面を表示します。

古文単語・熟語を学習する

1 古文単語･熟語ターゲット400の検索画面を表示させます。▽ でカーソルを「⇨ 学習」に移動させます。

訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

古文単語･熟語ターゲット400
読み【 】
⇨学習
⇨学習設定
古文 単語 熟語
ターゲット400
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
学習モードで学習をします

2 ▽／△ で項目を選んで 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは､「古文を読むための基本単語･熟語」→「現代語にはない単語」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

古文単語･熟語ターゲット400
⊟■古文を読むための基本単語･熟語
■現代語にはない単語
□現代語とは意味が異なる単語
□最重要熟語
□帝の生活
□貴族の生活
□恋愛の世界 part Ⅰ
□恋愛の世界 part Ⅱ
□敬語の基本
⊞□古文の世界を理解するための最重要語
⊞□古文理解の完成
⊞ 解説･コラム

3 本文画面で ▼（次見出し）を押すと、次の単語の本文画面が表示されます。

●学習画面の設定を行うことができます。

手順１の画面から､▽ でカーソルを移動させ､「⇨ 学習設定」を選択します。訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押し設定画面を表示します。

（学習設定の方法 ☞122 ページ参照）

学習系コンテンツを使う

漢字ターゲット 1700・漢検プチドリル（3級・2級）を使う

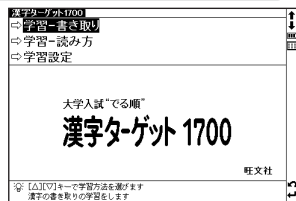
漢字の書き取りや読みを学習することができます。

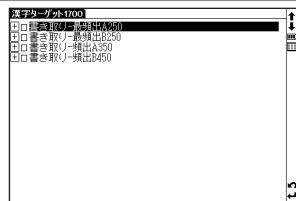
問題を解きながら漢字を学習する

例題　書き取りの学習をします（ここでは、漢字ターゲット 1700 の書き取りを例として説明します）

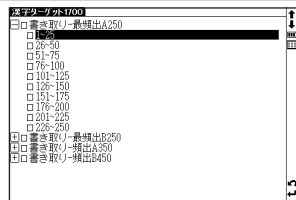
1　メニュー画面から学習3→漢字ターゲット1700を選んで、検索画面を表示させます。

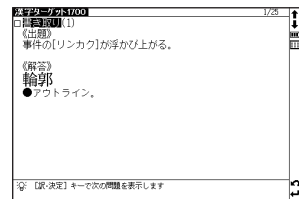
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

漢字ターゲット1700
⇨学習-書き取り
⇨学習-読み方
⇨学習設定
大学入試"でる順"
漢字ターゲット 1700
旺文社
[△][▽]キーで学習方法を選びます
漢字の書き取りの学習をします

2　［訳・決定］を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

● 漢字ターゲット1700では､「⇨ 学習 - 書き取り」と「⇨ 学習 - 読み方」のうちどちらかを選択します。

3　［▽］／［△］で項目を選んで［訳・決定］を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは､「書き取り - 最頻出 A250」→「1 ～ 25」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

4 本文画面で 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 または ▼次見出し を押すと、解答あるいは解答と解説が表示されます。

再度 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 または ▼次見出し を押し、次の出題を表示します。

● 同様の手順で漢字ターゲット1700の検索画面で「⇨学習 - 読み方」を選ぶと、読みの学習をすることができます。
● 学習画面の設定を行うことができます。
手順1の画面から、▽でカーソルを移動させ「⇨ 学習設定」を選択します。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
（学習設定の方法 ☞ 122ページ参照）

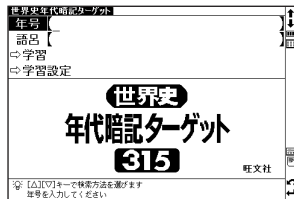
世界史・日本史年代暗記ターゲットを使う

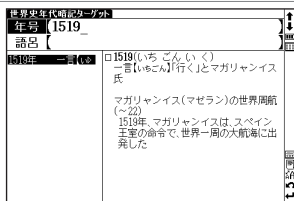
世界史・日本史上の事柄を年号から調べることができます。または語呂からの検索、年号と語呂の両方を使っての絞り込み検索ができます。

年号を入力し、年号から検索する

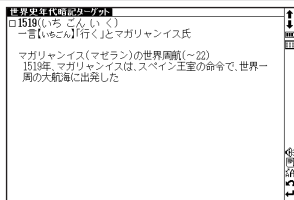
例 題　年号「1519」について調べます（ここでは世界史年代暗記ターゲットの場合を例として説明します）

1 メニュー画面から学習３→世界史年代暗記ターゲットを選んで、検索画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 年号入力欄に年号を入力します（ここでは「1519」と入力します）。
画面に入力年号に該当する項目が年号順に候補表示されます。

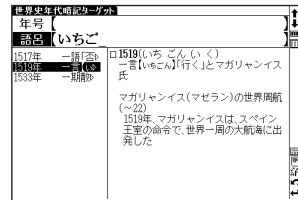
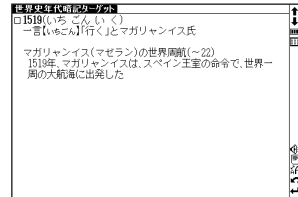
●収録されていない年号を入力した場合は、「見出し語にありません」のメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい年号を選択します。

訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

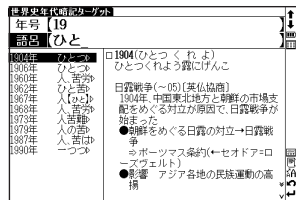
●見出し語には、年号と語呂が表示されます。

語呂を入力し、語呂から検索する

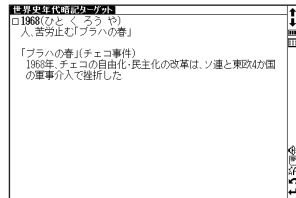
例 題　「いちご」の語呂を入力し、検索します

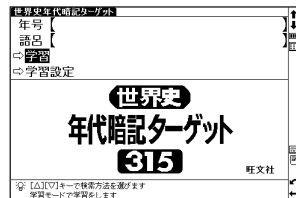
1 世界史年代暗記ターゲットの検索画面で、▽ を押してカーソルを語呂入力欄に移動させます。
語呂を入力します（ここでは「いちご」と入力します）。
入力した語呂に該当する年号が年号順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

2 ▽／△ でカーソルを移動させ、項目を選択します。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

年号と語呂を入力し、絞り込み検索をする

例題　「19」の年号と「ひと」の語呂を入力し、絞り込み検索をします

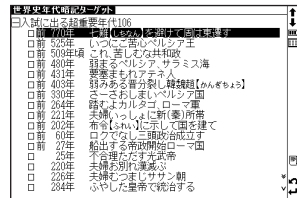
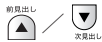
1 世界史年代暗記ターゲットの検索画面で年号を入力します（ここでは「19」と入力します）。続けて ▷ を押してカーソルを語呂入力欄に移動させ、語呂を入力します（ここでは「ひと」と入力します）。
入力した年号と語呂に該当する項目が絞り込み検索され、年号順に候補表示されます。

2 ▽／△ でカーソルを移動させ、項目を選択します。
訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

●カーソルを語呂に移動させた後、年号を入力しなおすには、▷ でカーソルを年号入力欄に戻します。

重要年代について学習する

1 世界史年代暗記ターゲットの検索画面を表示させ、▽ で「⇨ 学習」を選択します。

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

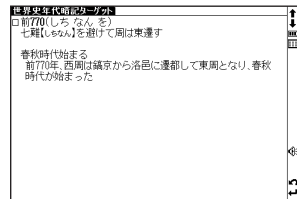
3 ▽ ／ △ で項目を選んで 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。

ここでは、「入試に出る超重要年代106」→「前770年」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 118 ページ参照）

4 前見出し ▲ ／ ▼ 次見出し を押すと、前見出し画面、次見出し画面に移動できます。

●学習画面の設定を行うことができます。
手順 1 の画面から、▽ でカーソルを移動させ「⇨学習設定」を選択します。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。

（学習設定の方法 ☞ 122 ページ参照）

学習系コンテンツを使う

複数辞書検索機能を使う

調べたい語句や語句を含んだ例文を、収録したコンテンツの内容から同時に調べることができます。
語句の語義や漢字、英訳、例文などをまとめて調べたいときに大変便利です。

複数辞書検索ができるコンテンツ

日本語入力時の検索対象コンテンツ
明鏡国語辞典　大辞林　漢字源　古語辞典　四字熟語　故事ことわざ　和英辞典　世界史事典　日本史事典　生物事典

英語入力時の検索対象コンテンツ
大辞林（略語）　ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　英英辞典　英単語ターゲット

成句検索時の対象コンテンツ
ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　英英辞典　英熟語ターゲット

例文検索時の対象コンテンツ
ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　英英辞典

語義や訳を複数辞書検索する（ここでは日本語の複数辞書検索を例に説明します）

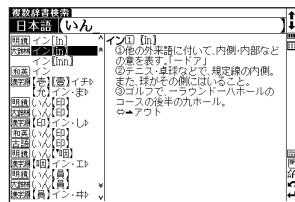
例 題　「いん」を入力し、複数のコンテンツで同時に調べます

1 複数検索 を押して複数辞書検索の検索画面を表示させます。

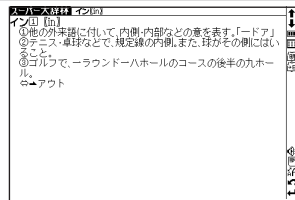
2 日本語入力欄に語句を入力します（ここでは「いん」と入力します）。画面に入力文字に該当する語句が収録コンテンツ名とともに五十音順に候補表示されます。

（文字を入力する ☞ 32 ページ参照）

●収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近い語句から五十音順に表示されます。

---

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたいコンテンツの語句を選択します（ここでは「大辞林 イン【in】」を選択します）。

訳・決定 を押して、語義や漢字、または英訳の本文画面を表示させせます。

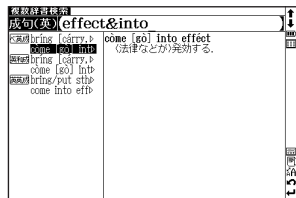
●複数辞書検索で ▲（前見出し）／▼（次見出し）を押した場合は、複数辞書検索の検索順における前後の本文画面を表示します。

成句複数辞書検索をする

例 題　「effect」と「into」を使った成句を複数のコンテンツで同時に調べます

1 複数辞書検索の画面を表示させ、▽ でカーソルを成句（英）入力欄に移動させせます。

検索機能と便利な機能を使う

2 成句（英）入力欄に単語を入力します（ここでは「effect」 [スペース ＊?&] 「into」を入力します）。画面に入力した単語をすべて含む成句（熟語）が候補表示されます。

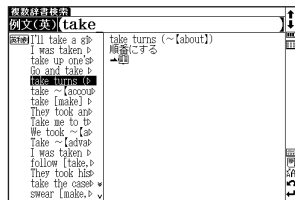
●複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む成句を検索することができます。
●該当する成句がない場合は「一致する成句がありません」というメッセージが表示されます。

3 [▽]／[△] でカーソルを移動させ、調べたいコンテンツの成句を選択します（ここでは「[ベ英成]còme [gò] into efféct 」を選択します）。
[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押して、成句の本文画面を表示させます。

例文複数辞書検索をする

例 題 「take」を入力し､｢take」を使った例文を複数のコンテンツで同時に調べます

1 複数辞書検索の画面を表示させ、 [▽] で、カーソルを例文（英）入力欄に移動させます。

2 例文（英）入力欄に単語を入力します（ここでは「take」と入力します）。画面に入力した単語を使った例文が、候補表示されます。

- 複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。
- 該当する例文がない場合は、「一致する例文がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたいコンテンツの例文を選択します（ここでは「 英和例 take turns（～【about】）」を選択します）。

訳・決定 を押して、例文の本文画面を表示させます。

- 本文画面上に ▤ がある場合は、検索した例文の辞典本文画面にジャンプすることができます。
（検索した語の本文画面に参照ジャンプする ☞ 74 ページ参照）

- 画面上に表示されるアイコンは以下のコンテンツを表します。

明鏡 明鏡国語辞典	大辞林 大辞林	大辞略 大辞林（略語）
漢字源 漢字源	古語 古語辞典	熟語 四字熟語
故事 故事ことわざ	ベ英和 ベーシックジーニアス英和	ベ英成 ベーシックジーニアス英和（成句）
ベ英例 ベーシックジーニアス英和（例文）	英和 ジーニアス英和	英和成 ジーニアス英和 （成句）
英和例 ジーニアス英和 （例文）	和英 和英辞典	和英例 和英辞典（例文）
英英 英英辞典	英英成 英英辞典（成句）	英英例 英英辞典（例文）
世界史 世界史事典	日本史 日本史事典	生物 生物事典
英単 英単語ターゲット	英熟 英熟語ターゲット	

- カードコンテンツの場合は、候補表示リスト上にカードアイコンが表示されます。

一括検索機能を使う

調べたい語句（日本語、英語）を検索画面で5つまで入力し、まとめて調べることができます。長文でわからない語句を複数見つけたときに一度に検索できて便利です（ここでは日本語入力の場合を例として説明します）。

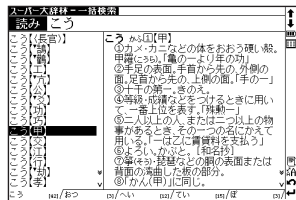
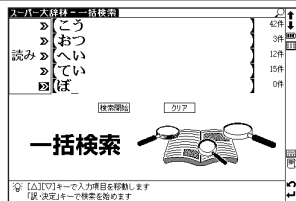
日本語の読みを５つ入力し、５つの語を同時に検索する

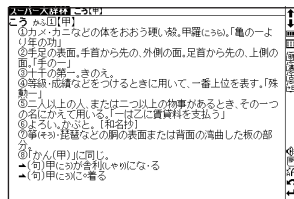
例題　大辞林で５つの単語「甲、乙、丙、丁、戊」を同時に調べます

1 漢字源/国語 を2回押して大辞林の検索画面を表示させます。
スペル入力欄の横の をタップするか、入力切替/関連語句 を押して一括検索画面を表示させます。

2 調べたい複数の単語を1単語ずつ入力します（ここでは上から順に「こう」「おつ」「へい」「てい」「ぼ」と入力します）。△／▽ でカーソルを上下の入力欄に移動させると検索された件数が各単語ごとに表示されます。
例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、検索結果を表示させます。
（文字を入力する ☞ 32ページ参照）

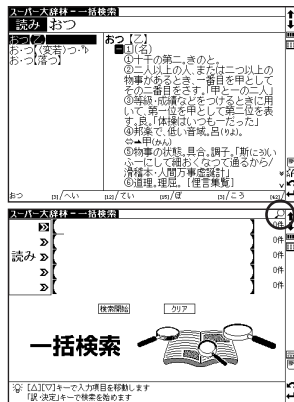
●画面上の 検索開始 をタップしても検索結果が表示されます。
●収録されていない単語を入力した場合は、「該当する項目がありません」と表示されます。

3 一番上に入力した単語（ここでは「こう」）の候補表示が最前面に表示されます。

4 △／▽でカーソルを移動させ、候補表示から調べたい単語を選択します（ここでは「甲」を選択します）。

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

その他の単語の検索結果を表示させる場合

手順３のあと、◁／▷でタブを移動させ、その他の単語を選択して、検索結果を表示させることができます。

●スタイラスで画面下のタブをタップしてもその他の単語の候補表示にジャンプできます。タブには検索した単語と各語の検索候補の数が表示されます（例えば「こう」の検索候補数は「こう（42)」から42件あるとわかります）。

●一括検索の検索画面から元のコンテンツの検索画面に戻る場合は をタップするか、 戻る を押してください。

一括検索機能が使用できるコンテンツ・検索モード

国語系	明鏡国語辞典　大辞林　漢字源（読み）　古語辞典　四字熟語　故事ことわざ
英語系	ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　和英辞典　英英辞典　英会話とっさのひとこと辞典
学習１	世界史事典　日本史事典　人名検索　和歌・俳句検索　生物事典　化学反応式
便利な機能	複数辞書検索

●検索画面に がついている検索モードで実行することができます。

同じ見出し語を他のコンテンツに移って調べる

表示中の見出し語と同じ見出し語が他のコンテンツにある場合、画面にリンクアイコンが表示されます。スタイラスでリンクアイコンを選び、他のコンテンツの同じ見出し語を調べることができます。

例題　ジーニアス英和の本文画面から英英辞典の本文画面にジャンプします

1　ジーニアス英和で「understand」の本文画面を表示させます。

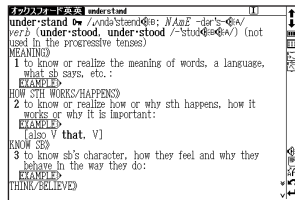
（検索方法 ☞ 103ページ参照）

画面右横にリンクアイコンの 英 英 が表示されます。ベーシックジーニアスと英英辞典にも同じ見出し語が収録されていることを示します。

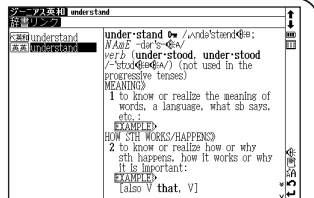
（ディクショナリーリンクアイコン ☞ 48ページ参照）

ジーニアス英和 understand
un·der·stand /ʌ̀ndərstǽnd/
《アクセント注意》[「下に(under)立つ(stand)」→「ものについて深くはっきりした知識をもつ」]派understanding(名)
――動(～s/-stǽndz/;--stood/-stúd/;～·ing)《◆進行形不可》
解説
――他
1 [SVO]〈人が〉〈人·事·物〉を理解する[している],…の意味·気持·性質·扱い方などがわかる;[SVO('s) doing]〈人が〉O〈人〉が…するのがわかる;[SV wh節·句]〈人が〉…かを理解している(類 comprehend, make out, take in, perceive)
例文
2 [SV(that)節]〈人が〉…と聞いている(learn)《◆(1) I hear と同意だが,より丁寧な言い方. (2) that節の代りにsoがくることもある. (3) 挿入句としても用いる》
例文
3 [SVO to do/SV(that)節]〈人が〉〈人·事〉が…だと[…という

2　ここではスタイラスで 英 をタップします。すると、英英辞典の「understand」の本文画面にジャンプします。

- 表示中の見出し語と同じ見出し語が他のコンテンツにない場合は、リンクアイコンは表示されません。
- 画面上の ↶ をスタイラスでタップすると、ジャンプ先の本文画面からもとの画面に戻ります。または 戻る を押しても戻ることができます。

☞ 辞書リンクリストから他コンテンツの本文画面へジャンプする

スタイラスを使わずに、ジャンプすることができます。

手順2で 関連語句（入力切替） を1回押して、辞書リンクを表示させます。 △ / ▽ でジャンプしたいコンテンツを選択します。 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行） を押して、選択したコンテンツの本文画面にジャンプします。

●コンテンツのアイコンとそのコンテンツからリンクできるコンテンツ・検索モードは以下のとおりです。

国語系コンテンツ

表示中のコンテンツ名	リンクできるコンテンツ・検索モードの表示アイコン
[明] 明鏡国語辞典	[辞] [漢] [古] [熟] [故] [→E] [世] [日] [生]
[辞] 大辞林	[明] [漢] [古] [熟] [故] [→E] [世] [日] [生]
[辞] 大辞林 略語検索	[ベ] [→J] [→E] [単]
[漢] 漢字源	[明] [辞] [古] [熟] [故] [→E] [世] [日] [生]
[古] 古語辞典	[明] [辞] [漢] [熟] [故] [→E] [世] [日] [生]
[熟] 四字熟語	[明] [辞] [漢] [古] [故] [→E] [世] [日] [生]
[故] 故事ことわざ	[明] [辞] [漢] [古] [熟] [→E] [世] [日] [生]

学習系コンテンツ

表示中のコンテンツ名	リンクできるコンテンツ・検索モードの表示アイコン
[世] 世界史事典	[明] [辞] [漢] [古] [熟] [故] [→E] [日] [生]
[日] 日本史事典	[明] [辞] [漢] [古] [熟] [故] [→E] [世] [生]
[生] 生物事典	[明] [辞] [漢] [古] [熟] [故] [→E] [世] [日]
[単] 英単語ターゲット	[辞](略)* [ベ] [→J] [→E]

英語系コンテンツ

表示中のコンテンツ名	リンクできるコンテンツ・検索モードの表示アイコン
[ベ] ベーシックジーニアス英和	[辞](略)* [→J] [→E] [単]
[→J] ジーニアス英和	[辞](略)* [ベ] [→E] [単]
[→E] 和英辞典	[明] [辞] [漢] [古] [熟] [故] [世] [日] [生]
[→E] 英英辞典	[辞](略)* [ベ] [→J] [単]

＊　大辞林 略語検索モード

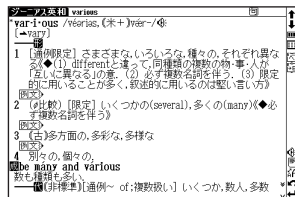
マルチジャンプ機能を使う

指定したコンテンツへジャンプする

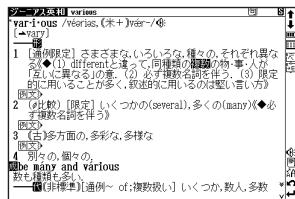
調べた言葉の意味や、例文の中に使われている単語、参照記号「➡」を足掛かりとして、他のコンテンツまたは参照見出しに移ってそれらの意味をさらに詳しく調べることができます。

例 題　「various」の本文画面中の「複数」の意味を調べます

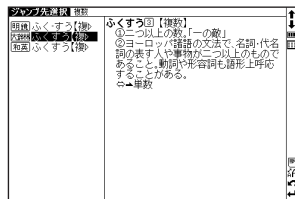
1 ジーニアス英和で「various」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103 ページ参照）

2 スペル 範囲選択 を押すと、S が画面右上に表示されます。▽／△／◁／▷ でカーソルを移動させ、本文中の「複数」を反転表示させます。

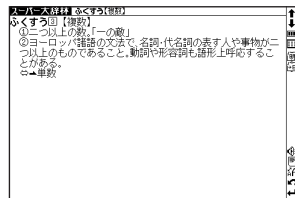
（2 文字以上の語句を選択する場合 ☞ 185 ページ参照）

●ジャンプを解除する場合は、戻る を押してください。

3 = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すとジャンプ先の候補リストが表示されます。

▽／△ でカーソルを移動しジャンプ先を指定します。再度 = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押してジャンプを実行します（ここでは「大辞林 ふくすう【複数】」を選びます）。

検索機能と便利な機能を使う

4 大辞林の「複数」の本文画面が表示されます。

●複数の候補がある場合、リスト表示されますので、▽／△でカーソルを移動し、ジャンプ先を指定します。候補が一語しかない場合、直接その語の本文画面にジャンプします。

スーパー大辞林 ふくすう【複数】
ふくすう③【複数】
①二つ以上の数。「一の敵」
②ヨーロッパ諸語の文法で、名詞・代名詞の表す人や事物が二つ以上のものであること。動詞や形容詞も語形上呼応することがある。
⇔単数

ジャンプ先を指定する画面は、選択している語句によって２つに分類されます。

日本語が選択されている場合、ジャンプ先になるコンテンツ

明鏡 明鏡国語辞典　大辞林 大辞林　漢字源 漢字源　古語 古語辞典　熟語 四字熟語
故事 故事ことわざ　和英 和英辞典　世界史 世界史事典　日本史 日本史事典　生物 生物事典
化学 化学反応式

英語が選択されている場合、ジャンプ先になるコンテンツ

ベ英和 ベーシックジーニアス英和　英和 ジーニアス英和　英英 英英辞典　英単 英単語ターゲット　大辞略 大辞林（略語）

前の画面に戻る

一つ前の画面に戻るときは 戻る を押します。

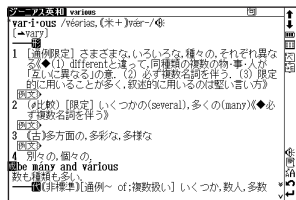
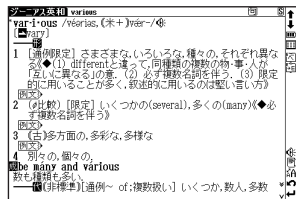
●ジャンプ後の本文画面で 戻る を押すと、ジャンプ先選択の画面に戻ります。

参照ジャンプを実行する

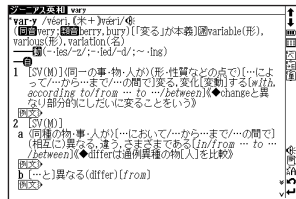
訳語や語義を調べている際に「➡」が画面上に表示された場合は、その単語や語句の参照語にジャンプすることができます。

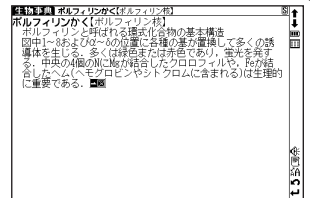
例 題　「various」の本文画面中にある参照語「vary」にジャンプします

1　ジーニアス英和で「various」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103 ページ参照）

2　スペル 範囲選択 を押すと S が画面右上に表示されます。▽／△／◁／▷ でカーソルを移動させ、「➡」を反転させます。

●S が画面右上に表示されます。

●ジャンプを解除する場合は 戻る を押してください。

3　「➡」が反転表示されている状態で 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、参照語「vary」の本文画面へジャンプします。

関連図版を表示させる場合

生物事典の本文画面に ▬図 が表示されている場合は、▽／△／◁／▷ でカーソルを移動させ、▬図 を反転させて 訳・決定 を押すと、関連図版を表示させることができます。

2 文字以上の語句を選択する場合

●ジャンプしたい語句が２文字以上である場合は、範囲選択 を押した後 ▽／△／◁／▷ でカーソルを選択したい語句の最初の文字まで移動させます。範囲選択 を再度押すと画面上の S が反転します。その後、▷ を押して反転文字範囲をひろげてください。

● 戻る を押すとジャンプを解除します。

関連語句を調べる

成句、複合語、類語、熟語、慣用連語、句動詞を表示する

コンテンツの本文画面右上に関連語句アイコンが表示されている場合は、その見出し語を使った成句、複合語（派生語を含む）、熟語、慣用連語、句動詞のリスト画面を表示することができます。

例題　英英辞典で本文画面から成句リストを表示します

1 英英辞典でスペル入力欄に「take」を入力し、「take」の本文画面を表示させます。画面右上に I が表示されていることを確認します。

（検索方法 ☞ 110ページ参照）

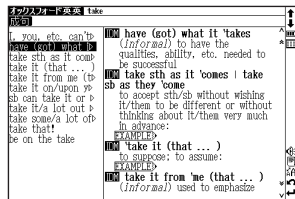
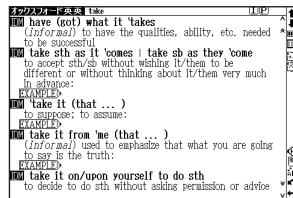
オックスフォード英英 take
take /teɪk/
verb, noun
■ verb (took /tʊk/ taken /ˈteɪkən/)
CARRY/LEAD》
1 ~ sth (with you) | ~ sth (to sb) | ~ (sb) sth to carry or move sth from one place to another:
EXAMPLE
2 to go with sb from one place to another, especially to guide or lead them:
EXAMPLE
3 [VN + adv./prep.] to make sb/sth go from one level, situation, etc. to another:
EXAMPLE
REACH AND HOLD》
4 [VN] to put your hands or arms around sb/sth and hold them/it; to reach for sb/sth and hold them/it:
EXAMPLE

2 関連語句 を押して、「take」の辞書リンクリストを表示させます。

3 関連語句 を再び押して、成句リストを表示させます。

△／▽ でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「have (got) what it 'takes」を選択します）。

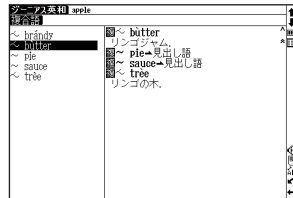
● 「take」には成句のほかに句動詞 P のリストも表示することができます。手順3の後に 関連語句 を押すと、句動詞のリストが表示されます。

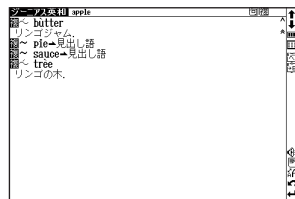
（本文画面に表示される関連語句アイコン ☞ 188ページ参照）

4 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、成句本文画面を表示させます。

例題　ジーニアス英和で本文画面から複合語リストを表示します

1 ジーニアス英和「apple」の本文画面右上に 複 が表示されていることを確認します。

（検索方法 ☞ 103ページ参照）

2 入力切替 関連語句 を３回押して、「apple」の複合語リストを表示させます。▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい複合語を選択します（ここでは「～bùtter」を選択します）。

●複合語リスト画面で 入力切替 関連語句 を再度押すと、本文画面に戻ります。

検索機能と便利な機能を使う

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、複合語の本文画面を表示させます。

本文画面に表示される関連語句アイコン

コンテンツ	表示される関連語句アイコン	備　考
漢字源	熟 熟語	
古語辞典	慣 慣用連語　複 複合語	該当する関連語句がある場合、入力切替 関連語句 を押すと慣用連語と複合語のリストを表示します
ベーシックジーニアス英和 ジーニアス英和	句 成句　複 複合語	該当する関連語句がある場合、入力切替 関連語句 を押すと成句と複合語のリストを表示します
和英辞典	複 複合語	
英英辞典	I 成句　P 句動詞	該当する関連語句がある場合、入力切替 関連語句 を押すと成句と句動詞のリストを表示します

単語帳を使う

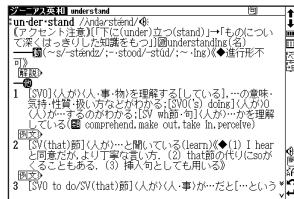
各コンテンツに収録されている単語やカードコンテンツの単語を単語帳に登録することができます。

覚えたい語句を単語帳に登録する

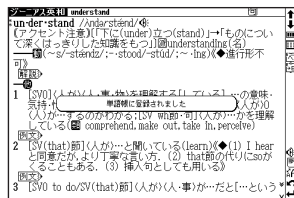
例 題　103 ページで調べた「understand」を単語帳に登録します

1

ジーニアス英和で「understand」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103 ページ参照）

2

［登録/削除］を押すと、画面に「単語帳に登録されました」とメッセージが表示され、表示中の単語本文画面が単語帳に登録されます。

●単語帳には本機収録コンテンツ 1000 件とカードコンテンツの単語 1000 件、合計 2000 件を登録することができます。

☞カードコンテンツの単語を登録する

●カードコンテンツの単語を単語帳に登録することができます（1000件まで）。カードコンテンツは登録するとカードアイコンが表示されます。

●カードを外したり、別のカードを挿入した状態の時は「コンテンツがありません」と表示され、登録した単語を表示させることができません。

登録した単語を単語帳リストから表示する

例 題　前ページで登録した「understand」を単語帳リストから表示します

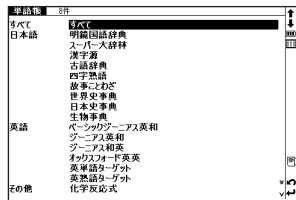
1

単語帳 を押し、単語帳のコンテンツリスト画面を表示させます。

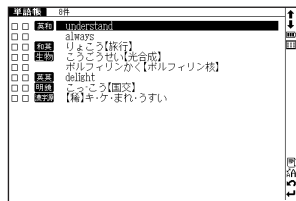
2

△／▽ でカーソルを移動させ、すべてのコンテンツあるいは特定のコンテンツから登録した単語を表示させます（ここでは「すべて」を選択します）。

●登録した総単語数が多い場合やコンテンツ名から調べたい場合は、コンテンツ名を選択します（その場合例題では「ジーニアス英和」を選択します）。

3

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、単語帳リストに登録されているすべての単語が表示されます。

△／▽ でカーソルを移動させ、「英和 understand」を選択します。

4

例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

単語帳のリスト画面に表示されるアイコンとコンテンツ・検索モード名

アイコン	コンテンツ・検索モード名
明鏡	明鏡国語辞典
大辞林	大辞林
漢字源	漢字源
古語	古語辞典
熟語	四字熟語
故事	故事ことわざ
べ英和	ベーシックジーニアス英和
英和	ジーニアス英和
和英	和英辞典
英英	英英辞典
世界史	世界史事典
日本史	日本史事典
生物	生物事典
英単	英単語ターゲット
英熟	英熟語ターゲット
大辞慣	大辞林　慣用句検索
大辞略	大辞林　略語検索
べ英成	ベーシックジーニアス英和 成句検索
英和成	ジーニアス英和　成句検索
英英成	英英辞典　成句検索

●上記以外のコンテンツ・検索モード（例文検索など）で表示した本文画面は単語帳に登録することができません。

コンテンツリスト画面で「すべて」を選択した後、登録された単語の本文画面で ▲(前見出し) ／ ▼(次見出し) を押すと、登録された前後の単語の本文画面が表示されます。またコンテンツリスト画面でコンテンツを選択した後、登録された単語の本文画面で ▲(前見出し) ／ ▼(次見出し) を押すと、選択したコンテンツの単語帳に登録された前後の単語の本文画面が表示されます。

☑チェックボックス

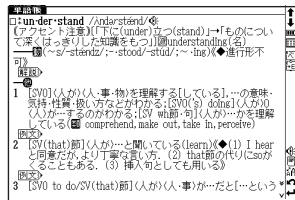
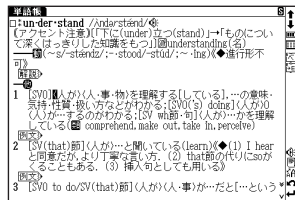
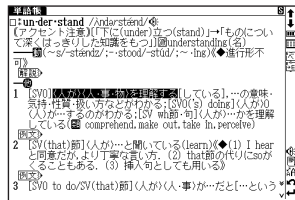
● [－] を押すと単語帳リスト画面、または本文画面の見出し語の頭にあるチェックボックスに、チェックを入れることができます。再度 [－] を押すと、チェックマークを解除することができます。

●単語帳設定画面でチェックマークを付けた単語の表示・非表示を設定することができます。

（単語帳の設定をする ☞ 195 ページ参照）

マーカー機能を使う

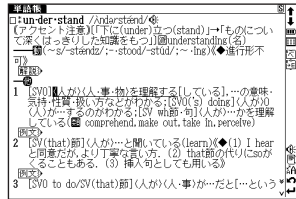
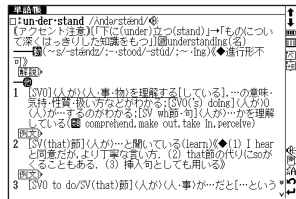
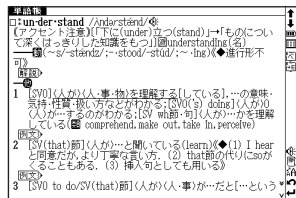
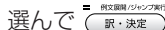
登録した単語帳の本文中にマーカー（アンダーライン）を引きます

1 [単語帳] を押して単語帳リスト画面を表示させます。[▽]／[△] で学習したい単語を選択して [訳・決定] を押し、本文画面を表示させます。

2 本文画面表示中に [範囲選択] を押すと、S が画面右上に表示されます。[▽]／[△]／[◁]／[▷] でマーカーを引きたい箇所の文頭にカーソルを移動させ、[範囲選択] を押します。画面右上の S が黒く反転します。

3 [▷] でマーカーを引きたい箇所の終わりまでカーソルを移動させ、[ブックマーク] を押します。

4 選択した箇所にマーカーが引かれて表示されます。

●登録した単語 1 つにつき、5 箇所までマーカーを引くことができます。

●マーカーを引くと、単語帳リスト画面の右側のボックス（□）が黒くなります。

マーカーを消す

1 マーカーを引いた単語の本文画面を表示させます（ここでは「understand」の本文画面を表示させます）。

2 本文画面表示中に [スペル 範囲選択] を押すと、[S]が画面右上に表示されます。マーカーを引いた箇所の先頭にカーソルを移動させ、[登録/削除] を押します。

3 画面に「選択されているマーカーを削除します」とメッセージが表示されますので、カーソルを移動させ「はい」を選択した後、[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押します。

検索機能と便利な機能を使う

4 「マーカーが削除されました」とメッセージが表示され、マーカーが消された本文画面が表示されます。

単語帳リストからマーカーを消す

単語帳リスト画面で 登録/削除 を押すと、「単語削除,マーカー,チェック解除」の画面が表示されます。
以下の「マーカー解除」の項目からマーカーを解除する単語を選びます。

選択している単語のマーカーを消す

リスト画面で選択されている単語の本文画面中のマーカーのみを解除します。

リスト上の全単語のマーカーを消す

特定の単語帳、または登録されている単語すべての本文画面中のマーカーを解除します。

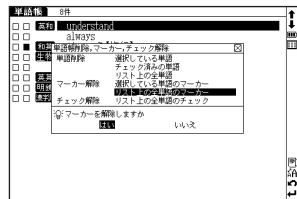
選択している単語のマーカーを消す場合

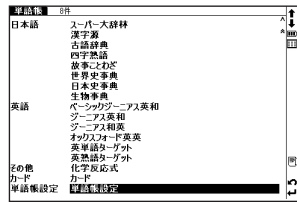
▽／△ で「選択している単語のマーカー」を選びます。◁ で「はい」を選んで 訳・決定 を押すと、選択されている単語の本文画面からマーカーが消されます。

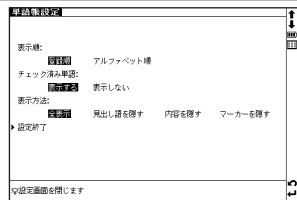
●マーカーを消すと、単語帳リスト画面の右側のボックス（□）が白色に戻ります。

リスト上の全単語のマーカーを消す場合

▽／△ で「リスト上の全単語のマーカー」を選びます。◁ で「はい」を選んで 訳・決定 を押すと、選択した単語帳または単語帳に登録されているすべての単語本文画面からマーカーが解除されます。

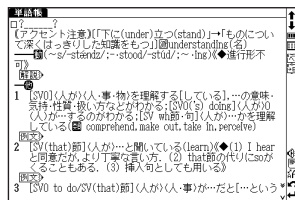
●選択した単語や単語帳の中の単語にマーカーが引かれていない場合は、「マーカーが登録されていません」とメッセージが表示されます。

単語帳の設定をする

1 単語帳 を押して単語帳のコンテンツリスト画面を表示させ、▽ で「単語帳設定」を選択します。

2 訳・決定 を押すと単語帳設定画面が表示されます。

▽／△ で設定したい項目を選択し、◁／▷ で内容を選択します。その後、「設定終了」を選択し、訳・決定 を押して設定内容を保存します。

表示順		登録単語の表示順序を設定します。
	登録順	単語帳に登録した順番です。初期設定は「登録順」に設定されています。
	アルファベット順	英単語ならアルファベット順、日本語なら五十音順に表示します。
チェック済み単語		チェックマーク（☑）を付けた単語の表示を設定します。
	表示する	チェック済み単語を表示します。初期設定は「表示する」に設定されています。
	表示しない	チェック済み単語を表示しません。
表示方法		単語の表示方法を設定します。
	全表示	単語、単語の本文内容をすべて表示します。初期設定は「全表示」に設定されています。
	見出し語を隠す	単語を隠して表示します。
	内容を隠す	単語の本文内容を隠して表示します。
	マーカーを隠す	マーカーを引いた箇所を隠して表示します。

表示方法について

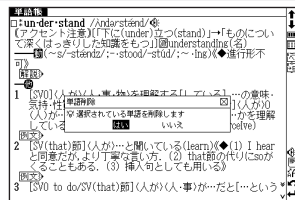
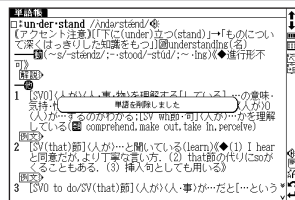
表示方法で「見出し語を隠す」「内容を隠す」「マーカーを隠す」のいずれかを選んで設定すると、単語帳に登録された単語の本文画面でそれぞれの項目が隠されて表示されます。次に ▼(次見出し) を押すと、隠されていた内容が表示されます。暗記をしたり、どの程度理解できたかをテストして確かめるのに便利です。再度 ▼(次見出し) を押すと次の単語に進みます。

●右の画面は「見出し語を隠す」を選択した画面です。

単語帳のデータを削除する

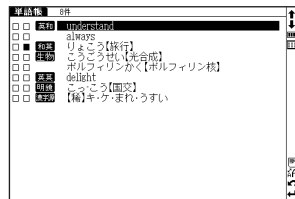
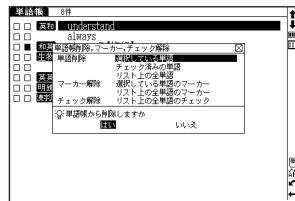
各コンテンツの単語帳に登録したデータは、1単語ずつまたは単語帳ごとにまとめて削除することができます。

1単語ずつ削除する

1 削除したい単語の本文画面を表示させます（ここでは「understand」を削除します）。

2 登録/削除 を押すと、画面に「選択されている単語を削除します」とメッセージが表示されます。

3 「はい」を選択した後 訳・決定 を押すと、「単語を削除しました」とメッセージが表示され、表示中の単語が単語帳から削除されます。

指定項目の単語を削除する

1 単語帳リスト画面を表示させます。▽ でカーソルを削除したい単語へ移動させます。

ここでは、「すべて」→「英和 understand」の順に選択します。

2 [登録/削除] を押すと、「単語削除，マーカー，チェック解除」の画面が表示されます。

3 以下の「単語削除」の項目から削除したい単語に応じて項目を選びます。

選択されている単語	リスト上で選択した単語のみ削除する場合
チェック済みの単語	チェックマーク（☑）を付けた単語を削除する場合
	単語帳リストで選ぶと、選択した単語帳の中のチェック済み単語をすべて削除します。
リスト上の全単語	各コンテンツの単語帳ごと、または登録されているすべての単語を削除する場合
	・削除したいコンテンツの単語帳を表示させると、選択した単語帳中のすべての単語を削除します。 ・コンテンツリスト画面で「すべて」を選ぶと、単語帳に登録されたすべての単語を削除します。

4 [▽]／[△] で単語帳削除の項目を選び、[◁]／[▷] で「はい」を選択します。[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、選択した単語が削除されます。

●選択した単語帳に単語が登録されていない場合は、「単語が登録されていません」とメッセージが表示されます。

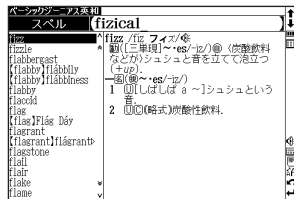
●選択した単語帳に登録された単語にチェックマークが付いていない場合は、「チェック済みの単語はありません」とメッセージが表示されます。

●削除しない場合は、[戻る] を押すと単語帳リスト画面に戻ります。

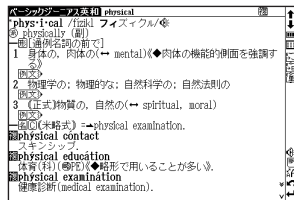
スペルチェック機能を使う

英単語のつづりがはっきりわからないときは、スペルチェック機能で曖昧なつづりのまま候補を絞り込むことができます。

例 題　ベーシックジーニアス英和で「fizical」と入力して「physical」を検索してみます

1 ベーシックジーニアス英和のスペル入力欄に、曖昧なつづりの英単語を入力します（ここでは「fizical」と入力します）。

2 スペル 範囲選択 を押すと、入力した文字にスペルチェックがかけられ、該当する英単語が候補リストに表示されます。

●該当する単語がない場合は、入力文字に類似した単語が候補リストに表示されます。

3 ▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「physical」を選択します）。例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

スペルチェック機能が使用できるコンテンツ・検索モード

ベーシックジーニアス英和　ジーニアス英和　英英辞典の各スペル入力欄

ワイルドカードサーチ機能を使う

英単語のつづりや曖昧な語句を調べる時に、わかるところまで文字を入力し、不明なところは「?」（クエスチョン）または「＊」（アスタリスク）を入力して候補を絞り込むことができます。

不明な文字の代わりに入力する「＊」/「?」をワイルドカードといいます。「＊」は指定文字数に制限がないことを意味します。それに対して「?」は、1つで1文字のみ指定します（「??」と入力すれば2文字を指定したことになります）。「?」を入力するには [スペース *?&] を1回押し、「＊」を入力するには [スペース *?&] を2回押します。

例題 1　ジーニアス英和で「菊（chrysanthemum）」のつづりを「＊」を使って調べます

ジーニアス英和のスペル入力欄に「chr ＊ m」と入力します。

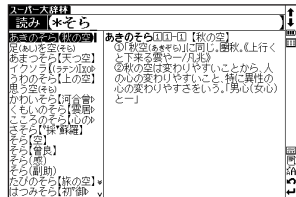
検索対象となる単語は「chr」で始まり、最後が「m」であれば、その間はどんな文字で何文字でもかまわないということになります。

「chr ＊ m」で検索できる単語がアルファベット順に候補表示されます。

例題 2　大辞林で語尾に「そら」のつく語句を逆引きします

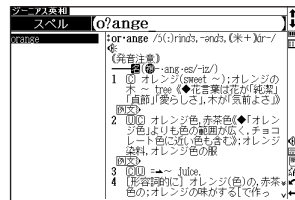
読み入力欄に「＊そら」と入力します。

「そら」が最後につく語句が五十音順に候補表示されます。

●大辞林逆引き検索を使うと、「＊」を入力せずに逆引き検索をすることができます。
（語句の語尾につく文字を入力し、逆引き検索する ☞ 85 ページ参照）

例題３ 「オレンジ（orange)」の２文字目が「r」か「l」か曖昧です。「？」を使って調べます

ジーニアス英和のスペル入力欄に「o？ange」と入力します。検索対象となる単語の文字数は6文字と決められます。その上で2文字目はどの文字でもよいということになります。「？」は、単語の文字数がわかっているときの検索に便利です。

- ●該当する候補がない場合は、「見出し語にありません」が表示されます。
- ●ワイルドカードサーチを使って検索する際に「＊」を使った場合、検索時間が長くなることがあります。途中で検索を中止する場合は、 戻る を押してください。

「＊」は１ヶ所のみ入力できます。

ワイルドカードサーチが使用できるコンテンツ・検索モード

明鏡国語辞典（読み・類語）	大辞林（読み・逆引き・略語）	漢字源（読み）
古語辞典（読み）	故事ことわざ辞典（読み）	四字熟語辞典（読み）
ベーシックジーニアス英和（スペル・音声データ）	ジーニアス英和（スペル・音声データ）	和英辞典（読み）
英英辞典（スペル・音声データ）	日本史事典（読み）	世界史事典（読み）
人名検索（読み）	和歌・俳句検索（読み）	生物事典（読み・図版）
化学反応式（読み）	英単語ターゲット	英検PASS単熟語（3級･2級）（単語）
古文単語・熟語ターゲット400（読み）	日本史年代暗記ターゲット（語呂）	世界史年代暗記ターゲット（語呂）
複数辞書検索（日本語・スペル）		

履歴機能を使う

今までに調べた語句や事柄、人名を履歴として一覧表示させ、見出し語を引き直すことができます。
カード使用時はカードコンテンツの履歴も保存されます。

履歴リストから本文画面を表示する

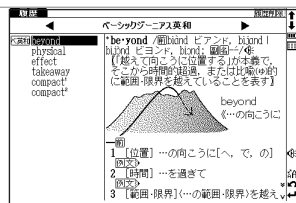
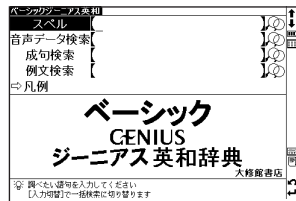
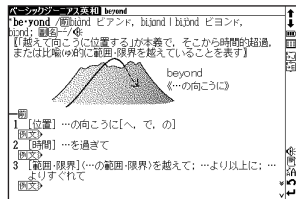
例 題　ベーシックジーニアス英和で調べた「beyond」を引き直します

1 和英/英和 を押してベーシックジーニアス英和の検索画面を表示させます。

●履歴は、コンテンツ・検索モードとカードコンテンツより最新のものから合計500件まで記憶されます（履歴が500件以上になった場合は、新しく語句を調べる度に、古いものから順に消去されていきます）。新しく記憶された語句は上に、古いものは下へと順に表示されます。

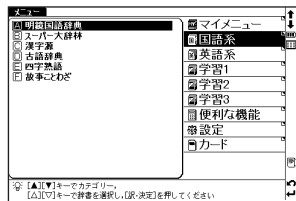
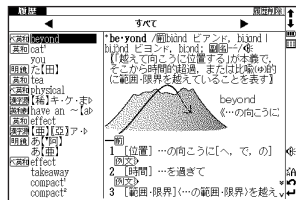
●スタイラスを使う場合は、画面右下の をタップすると履歴表示されます。

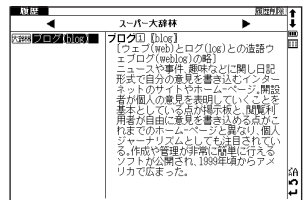
2 履歴/ヒント を押します。ベーシックジーニアス英和で今までに調べた英単語が履歴表示されます。

▽／△ でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「ベ英和 beyond」を選択します）。

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

メニュー画面から履歴表示画面を開く

メニュー画面からコンテンツを指定せずに履歴を表示することができます。

1 メニュー画面を表示させ、履歴（ヒント）を押します。

メニュー
A 明鏡国語辞典
B スーパー大辞林
C 漢字源
D 古語辞典
E 四字熟語
F 故事ことわざ
マイメニュー
国語系
英語系
学習1
学習2
学習3
便利な機能
設定
カード
[▲][▼]キーでカテゴリー，
[△][▽]キーで辞書を選択し，[訳·決定]を押してください

2 「すべて」というタイトルの履歴リストが表示されます。ここでは、すべてのコンテンツの履歴を検索することができます。

件数が多く、「すべて」の履歴リストで検索することがむずかしい場合は、◁／▷ で調べたいコンテンツをさがし、履歴を表示させます（右は大辞林の履歴リストを表示させた画面です）。

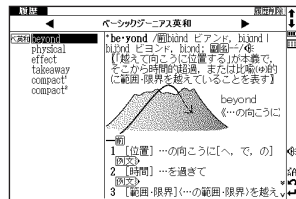
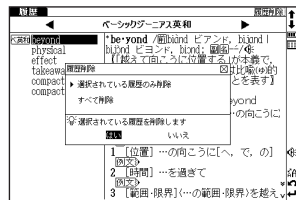
●スタイラスを使う場合は、画面上の ◀▶ をタップします。

☞カードコンテンツの履歴を表示する場合

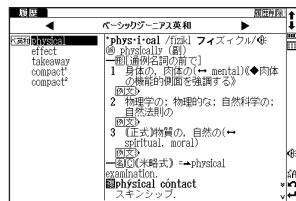
カードコンテンツはカードを取り外すまで本体に履歴データを保存することができます。カードメニューに履歴表示されます（リスト上にカードアイコンが表示されます）。

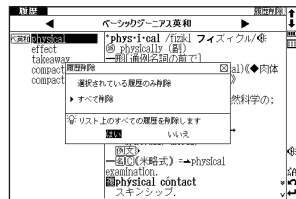
履歴を削除する

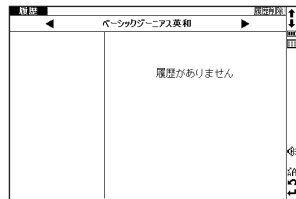
各コンテンツの履歴は、1件ずつまたはコンテンツごとにまとめて削除することができます。

例 題　1件ずつ削除します

1 ベーシックジーニアス英和から履歴リスト画面を表示させます。▽でカーソルを移動させ、履歴リストから削除したい単語を選択します（ここでは「beyond」を選択します）。

2 登録/削除を押すと、履歴削除の画面が表示されます。▽／△で「選択されている履歴のみ削除」を選択し、◁／▷で「はい」を選んで 訳・決定 を押します。

3 選択した履歴が削除され、履歴リスト画面に戻ります。

●削除を中止する場合は 戻る を押すか、「いいえ」を選択した後 訳・決定 を押してください。

例題　コンテンツごとにまとめて削除します

1 ベーシックジーニアス英和の履歴リスト表示画面で 登録/削除 を押すと、履歴削除の画面が表示されます。▽／△ で「すべて削除」を選択し、◁／▷ で「はい」を選んで 訳・決定 を押します。

2 選択したコンテンツの履歴がすべて削除されます。

- 削除を中止する場合は 戻る を押すか「いいえ」を選択した後、訳・決定 を押してください。
- 別のコンテンツの履歴を削除する場合は、履歴リスト表示画面から ◁／▷ で別のコンテンツあるいは「すべて」の履歴リストから、削除したい履歴を表示させます。
- 全コンテンツの履歴をまとめて削除する場合は、「すべて」の履歴リストから実行してください。

履歴機能が使用できるコンテンツ

系				
国語系	明鏡 明鏡国語辞典（読み・類語）	大辞林 大辞林	漢字源 漢字源	古語 古語辞典
	熟語 四字熟語	故事 故事ことわざ		
英語系	べ英和 ベーシックジーニアス英和	英和 ジーニアス英和	和英 和英辞典	英英 英英辞典
	英会話 英会話とっさのひとこと辞典			
学習系	英文法 ロイヤル英文法	世界史 世界史事典	日本史 日本史事典	人名 人名検索
	和俳句 和歌・俳句検索	生物 生物事典	化学 化学反応式	
	英単 英単語ターゲット	英熟 英熟語ターゲット	英検3 英検2 英検PASS単熟語（3級・2級）	
	古文 古文単語・熟語ターゲット400	世年代 世界史年代暗記ターゲット	日年代 日本史年代暗記ターゲット	

●検索モードなどにより、履歴が残らない場合があります。

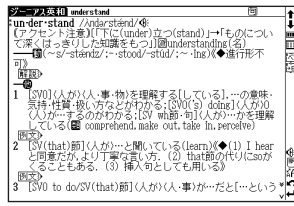
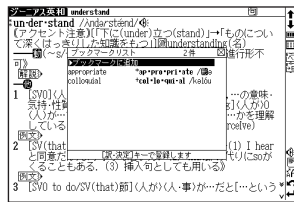
ブックマーク機能を使う

覚えたい単語や語句をブックマークに登録することができます。

単語本文画面をブックマークに登録する

例 題　ジーニアス英和で「understand」をブックマークに登録します

1 ジーニアス英和で「understand」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103 ページ参照）

2 本文画面表示中に （マーカー/メモ ブックマーク） を押すと、ブックマークリストの画面が表示されます。「ブックマークに追加」を選択します。

3 （例文展開/ジャンプ実行 訳・決定） を押すと表示中の単語の表示画面がブックマークに登録されます（ここでは「understand」の本文画面 1 ページ目が登録されます）。

●ブックマークに同じ単語の同じ表示画面がすでに登録されている場合は、「既にブックマークに登録されています」とメッセージが表示されます。同じ単語でも表示箇所が違う場合は登録することができます。

●ブックマークには全コンテンツ合計 500 件の箇所を登録することができます。

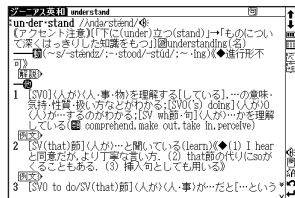
●ブックマークリスト画面右上に、表示中のコンテンツの中でブックマークに登録されている件数が表示されます。

●本文画面に戻るには （戻る） を押します。

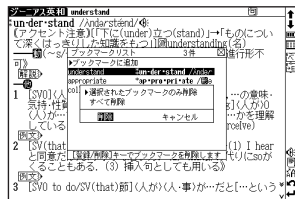
ブックマークに登録された単語を表示する

例 題　ブックマークに登録された「understand」の本文画面を表示します

1　ジーニアス英和の検索画面または本文画面表示中に [マーカー/メモ ブックマーク] を押すと、ブックマークリスト画面が表示されます。

2　[▽]／[△] でカーソルを移動させ、リストの中から表示させたい単語を選択します（ここでは「understand」を選択します）。
[例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、登録された単語の本文該当箇所が表示されます。

単語をブックマークから削除する

ブックマークに登録した単語を削除する場合は、ブックマークリストを表示させ、削除したい単語を選択します。[登録/削除] を押すと、ブックマーク削除の画面が表示されますので、[▽] で「選択されたブックマークのみ削除」を選択し、[◁]／[▷] で「削除」を選んで [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、選択した単語が削除されます。「すべて削除」を選択すると、表示中のコンテンツのブックマークに登録した単語をすべてまとめて削除します。

●削除しない場合は「キャンセル」を選んで [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] を押すと、ブックマークリスト画面に戻ります。

ブックマークが使用できるコンテンツ（検索・本文・リスト画面）および検索モード

国語系	明鏡国語辞典	大辞林	漢字源	
	古語辞典	四字熟語	故事ことわざ	
英語系	ベーシックジーニアス英和	ジーニアス英和	和英辞典	英英辞典
	英会話とっさのひとこと辞典			
学習系	ロイヤル英文法	世界史事典	日本史事典	生物事典
	化学反応式			
複数辞書検索（本文画面）	日本語	英語		

●成句検索、例文検索画面ではブックマーク機能は使用できません。またカードコンテンツにも使用することができません。

メモ機能を使う

調べた単語や語句に書き込み可能なメモをつけることができます。

メモ編集画面を表示する

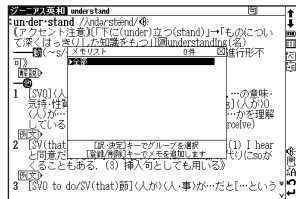
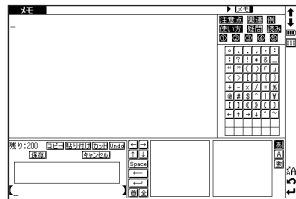
例 題　ジーニアス英和で「understand」のメモ編集画面を表示します

1

ジーニアス英和で「understand」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 103 ページ参照）

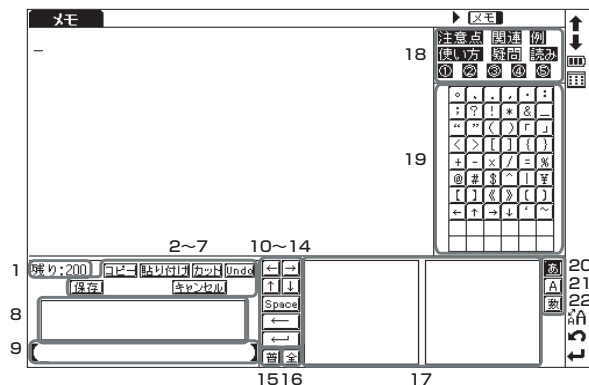
本文表示中に［マーカー/メモ ブックマーク］を２回押すと、メモリストが表示されます。

2

［登録/削除］を押し、メモ編集画面を表示します。

●メモ編集画面は、コンテンツの検索画面からも表示することができます。

●メモはコンテンツごとに登録されます。例えば同じ単語でも他の辞書のメモリストに登録したメモを表示することはできません。

●メモがすでに登録されている場合に［登録/削除］を押すと、「すでにメモに登録されています」と表示されます。

●全コンテンツ合計 500 件のメモを登録することができます。

メモ編集画面のアイコンとキーのはたらき

1	残り文字数表示	メモ入力の時、あと何字まで入力できるかわかります。1件のメモに最高200字まで入力できます。
2	コピー	選択したメモ入力欄の文字をコピーします。
3	貼り付け	メモ入力欄でコピーした文字を貼り付けます。
4	カット	選択したメモ入力欄の文字を切り取ります。
5	Undo	編集操作（コピー 貼り付け カット）の1つ前の状態に戻します。
6	保存 戻る	編集したメモを保存し、本文画面に戻ります。
7	キャンセル	編集したメモを保存せず、編集前の状態のままにします。
8	文字候補表示欄	入力した文字を候補表示します。
9	入力文字／メッセージ表示欄	キー入力した文字を表示したり「[戻る]キーで保存します」など文字の入力切替に関するメッセージを表示します。
10	←／→ ◁／▷	カーソルを左右に移動させることができます。

11	↑／↓　△／▽	カーソルを次の行および前の行に移動させることができます。
12	Space　スペース ?&*	スペースを挿入します。
13	←　登録/削除	文字を削除します。
14	↵　= 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定	カーソル位置から改行をします。
15	速／普／遅	メモ入力欄の手書き認識速度を調整することができます（アイコン順に、速度を速い→普通→遅いの３種類に調整することができます）。 ●この速度調整はメモ入力欄を閉じるまで有効です。
16	全／半	アルファベットを入力する時、全角および半角の入力設定ができます。
17	手書き入力欄	２つの欄に手書きでメモを入力することができます。 （メモ入力欄に記入する ☞ 213ページ参照）
18	メモ用アイコン	メモ入力欄にアイコンを貼り付けることができます。
19	記号アイコン	メモ入力欄に記号を挿入することができます。
20	あ	選択すると、ひらがな、カタカナ、漢字を入力できます。
21	A a	選択すると、アルファベットを入力できます。 ●いずれかが表示されている状態で 発音/録音 を２秒以上押すと大文字／小文字の入力切替ができます。
22	数	選択すると、数字を入力できます。

☞入力言語切替

入力切替 関連語句 を押すごとに、あ → A → 数 の順に手書き入力のモードを切り替えることができます。

↓↑（２秒押し）

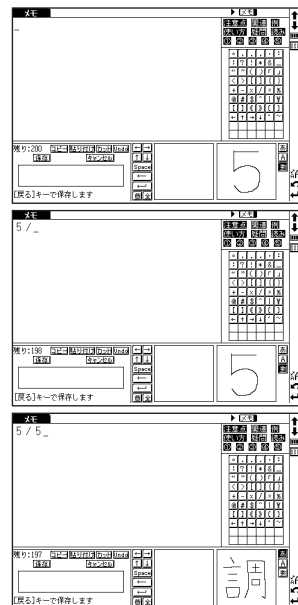
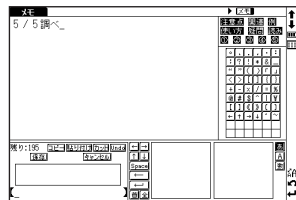
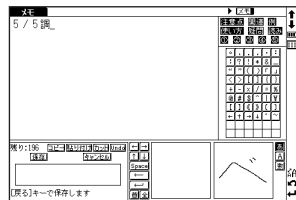
a

手書き入力の場合は各アイコンをスタイラスでタップしてください。

メモ入力欄に記入する

例 題　メモ入力欄に「5/5 調べ」と記入します

2 つの方法で記入できます（画面は手書き入力の手順を表示しています)。

	手書き入力でおこなう場合	おもにキー入力でおこなう場合
1	スタイラスで 数 をタップし、手書き入力欄に「5」と入力します。	入力切替 関連語句 で 数 を選択し、T（5 な）を押します。
2	記号リストで「/」をタップし、つづけて手書き入力欄に「5」と入力します。	スタイラスで記号リストの「/」をタップし、再び T（5 な）を押します。
3	スタイラスでタップ後 あ を選択し、手書き入力欄に「調」と入力します。 （入力言語切替 ☞ 212 ページ参照）	入力切替 関連語句 で あ を選択します。文字入力キーを使って「しらべ」と入力し、訳・決定（＝ 例文展開/ジャンプ実行）を押します。文字候補表示プルダウンリストから「調べ」を選択し、訳・決定（＝ 例文展開/ジャンプ実行）を押します。 （入力言語切替 ☞ 212 ページ参照）

4	あ をタップし、手書き入力欄に「べ」と入力します。	
5	メモ入力欄に「5/5 調べ」が表示されます。	

●文字が正しく認識されなかった時は、文字候補表示欄から △／▽／◁／▷ でカーソルを移動させ、調べたい文字を選択します。

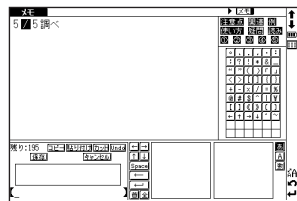
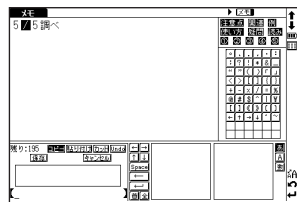
（手書き入力する場合のヒント ☞ 45 ページ参照）

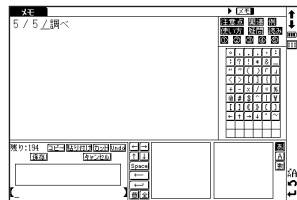
（文字を書くときのご注意 ☞ 46 ページ参照）

●右画面のように、2 文字をそれぞれ 2 つの手書き入力欄に入力することもできます。

メモを編集する

例 題　メモ入力欄に書いた「5/5 調べ」を「/」コピー&ペーストして「5/5/ 調べ」にします

1 「5/5 調べ」の「/」をスタイラスで選択し反転させます。

2 コピー をタップします。

3 ◁／▷ でカーソルを「調」に移動させ、 貼り付け をタップします。

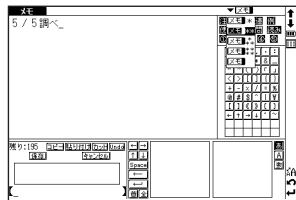
「/」が「5」と「調」の間にペーストされます。

- コピー が反転している間は、次に貼り付けされるまでコピーデータを記憶します。
  保存 をタップし、編集したメモを登録します（ 戻る を押しても、メモを保存することができます)。保存すると「メモを登録しました」が表示され、登録した語句の本文画面に戻ります。
- キャンセル をタップすると、編集したメモは保存されないまま、登録語の本文画面に戻ります。
- メモの編集中、コピー、貼り付け、カットなどの作業の 1 つ前の状態にしたい時は、 Undo をタップします。

メモを活用する

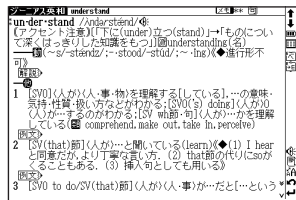
編集したメモを分類します

例題　前ページで編集した「understand」を [メモ]** に分類します

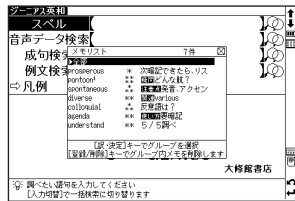
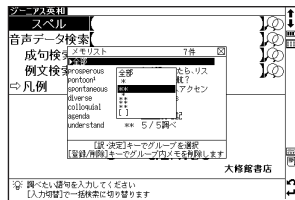
1

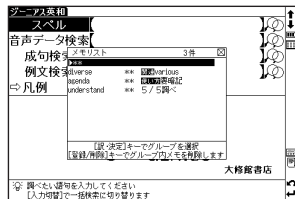
「understand」のメモ編集画面で [メモ]** をタップすると、メモの分類先がプルダウン表示されます。
分類先を選びタップします（ここでは [メモ]** を選択します）。

2

戻る を押してメモを保存し、「understand」の本文画面に戻ります。表示中の単語のメモが「 [メモ]** 」に分類され、画面右上のメモ表示が「 [メモ]** 」に変わります。

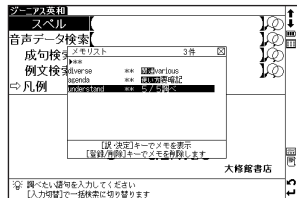
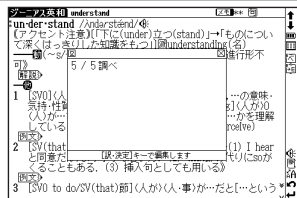
●分類先を変更したい場合は、同じ手順で分類先を選択しなおします。

メモリスト画面で登録した単語を選択表示します

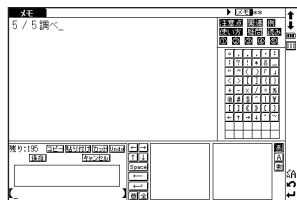
例 題 メモ** に分類されている単語のみリスト表示します（ここではメモが複数登録されている場合を例に挙げます）

1 マーカー/メモ ブックマーク を2回押してメモリスト画面を表示します。

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、「全部」を選択すると分類先がポップアップ表示されます。▽ でカーソルを移動させ分類先を選択します（ここでは メモ** を選択します）。

3 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、メモ** に登録されている単語のみがリスト表示され、メモリスト上段の表示項目が ▶** に変わります。

●表示したい分類を切り替えたい場合には、同じ手順で分類を選択しなおします。「全部」を選択すると、メモリストに登録されている単語すべてが表示されます。

メモリストに表示された単語のメモ編集画面を呼び出します

例 題　前ページでリスト表示された「understand」のメモ編集画面を呼び出します

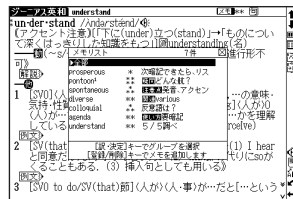
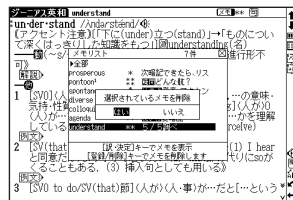
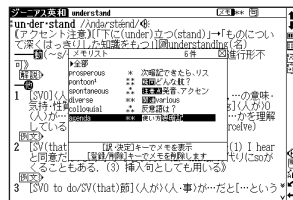
1 ▽／△ でカーソルを移動させ、分類表示の「全部」のリストあるいは分類リストから単語を選択します（ここでは メモ** のリストを表示してから「understand」を選択します）。

2 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押すと、呼び出すメモのプレビュー画面が表示されます。

3 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押して、メモ編集画面を表示させます。

- メモリストは各コンテンツごとに登録されるため、他のコンテンツで登録したメモは見ることができません。
- 各コンテンツの本文画面からも同様の手順でメモを呼び出すことができます。
- プレビュー画面左上の 図 を押しても、メモ編集画面を表示できます。右上の ☒ を押すと 戻る キー操作と同様にプレビュー画面が閉じます。

メモリストのデータを削除する

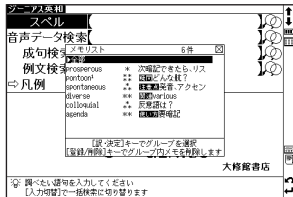
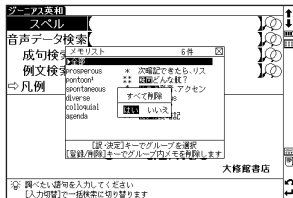
各コンテンツのメモリストに登録したデータは、1件ずつまたはリストごとまとめて削除することができます。

1件ずつメモを削除します

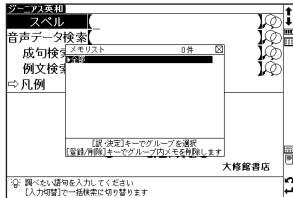
1 削除したいメモが保存されている単語の本文画面を表示させます（ここではジーニアス英和の「understand」を削除します）。

マーカー/メモ ブックマーク を2回押し、メモリストを表示させます。

2 カーソルを「understand」に移動させ、登録/削除 を押すと、画面に「選択されているメモを削除」とメッセージが表示されます。

3 「はい」を選択した後 = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、表示中のメモが削除されます。

メモを一括削除します

1 検索画面を表示させます(ここではジーニアス英和の検索画面を表示させます)。

マーカー/メモ ブック マーク を２回押し、メモリストを表示させます。

2 登録/削除 を押すと、画面に「すべて削除」とメッセージが表示されます。

3 ◁／▷ で「はい」を選択した後 ＝ 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、リスト内のメモすべてが削除されます。

● ＝ 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押し、プルダウンリストでメモの種類を選択すると、各メモグループごとの一括削除ができます。

●一括削除は検索画面および候補リスト画面表示でのみ実行できます。本文画面ではできません。

カード（コンテンツカードや SD メモリーカード等）を使う

コンテンツカードを使用したり、市販のSDメモリーカードに保存されたMP3形式のデータを再生することができます。電子辞書の設定データをバックアップ保存したり、音声を録音することもできます。

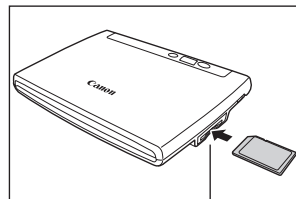
カードを挿入する

カードスロット

1 電子辞書の電源を切ります。

2 カードをラベル面を上にまた切り欠きの向きを右画面のようにして、「カチッ」と音がするまでゆっくりカードスロットの奥まで入れます。

●コンテンツを収録したコンテンツカードやSDメモリーカードを取扱説明書では「カード」と表記します。

●カードは下記の容量のものが使用できます。
16MB/32MB/64MB/128MB/256MB/512MB/1GB/2GB
SD SDロゴは登録商標です。

⚠ご注意

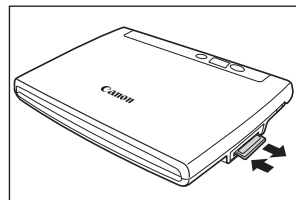
●カードの破損や本機の故障を防ぐためにもカードの向き（表裏、前後）を確認の上カードスロットに正しく挿入してください。
●カード以外のものを挿入しないでください。カードや挿入部が破損する恐れがあります。
●使用するカードの容量、ファイルの保存状態などにより認識までに時間がかかる場合があります。

カードを取り出す

1 電子辞書の電源を切ります。
カードを軽く押し込みます。

●カードは軽く押し込んで手を離すと少し飛び出してきますので、指で軽くおさえてください。

2 カードを取り出します。

●ゆっくりとまっすぐ引き抜いてください。

⚠カード出し入れ時のご注意

●データの読み出し中や書き込み中は、絶対にカードを取り外したり、電池を取り外さないでください。カードや電子辞書本体が破損する恐れがあります。
●カードを取り付け、電源を入れたときは、カード内の情報確認のため、画面が表示されるまでに時間がかかることがあります（カードの容量や書き込まれているデータ量により、表示されるまでの時間が異なります）。

カード使用時のエラーメッセージ

表示されるエラーメッセージ	対処方法
カードを挿入してください	カードを正しく挿入してください。
このカードは使用できません ロックを解除するか別のカードを挿入してください	挿入したカードの書き込み禁止スイッチのロック状態を解除するか、別のカードを挿入してください。

コンテンツカードを使う

コンテンツカードを本体に挿入し、使用することができます。

●カードコンテンツと本体のコンテンツとでは使用できる機能が一部異なる場合があります。
操作方法や取り扱い方法についてはカードコンテンツの取扱説明書をご覧ください。

電子辞書データのバックアップをカードに保存する

電子辞書内の単語帳（マーカー、チェックマークを含む）、環境設定、ブックマークやメモをバックアップデータとして SD メモリーカードに保存することができます。

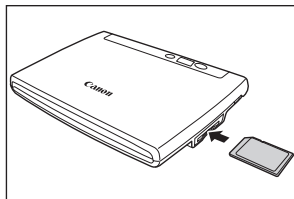
（バックアップを行う ☞ 54 ページ参照）

MP3 プレーヤー機能を使う

MP3形式のデータ（以降「MP3データ」と表記します）が収録されたSDメモリーカードを本体に挿入し、再生することができます。

MP3 データを再生する

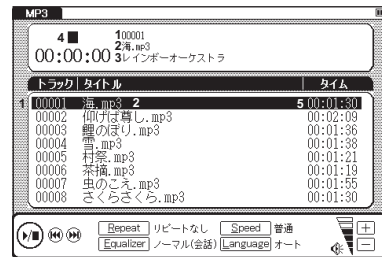
1 SD メモリーカードを本体に挿入します。

（カード〈コンテンツカードやSD メモリーカード等〉を使う ☞ 221 ページ参照）

2 カード MP3 を押して MP3 プレーヤー画面を表示させます。

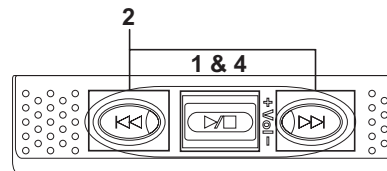
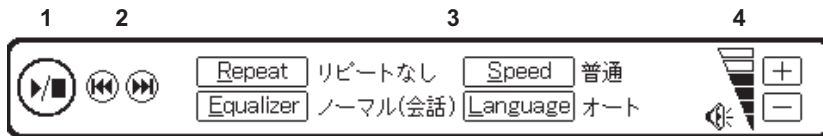
△／▽ でカーソルを移動させ、再生したいタイトルを選択し 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押します。

●再生中でも他の機能の操作を行うことができます。ただし、高ビットレートのファイルを再生すると、検索などの時間が長くなったり、音が途切れたりすることがあります。

MP3 データリスト画面について

1	MP3 データのトラック番号が表示されます。
2	曲のタイトルが表示されます。タイトルがないMP3データの場合、ファイルの保存名が表示されます。タイトルが長くリストに入りきらない場合は、タイトルの右側に ▷ が表示されます。
3	アーティスト名が表示されます。 ●アーティスト名はひらがな、カタカナ、英語の表記となります。またデータの形式や保存方法などにより表示されない場合があります。
4	再生状況が表示されます（▶は再生中を、❚❚ は一時停止中を、■は停止を表します）。
5	各 MP3 データごとの再生時間が表示されます。

●データの形式や SD メモリーカードの状態、保存方法などにより、再生できないことがあります。
●ダウンロードした音楽も再生できます。
●再生音は、イヤホンやスピーカーから聞くことができます。

MP3 プレーヤー使用時のアイコン、操作ボタン、キーのはたらき

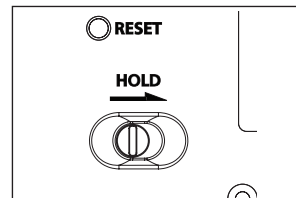
画面上のアイコン、キーボード上部の操作ボタン、キー入力により MP3 プレーヤーを操作することができます。

はタップ、操作ボタン・キーは押すことで、下記の操作ができます（アイコンの「長押し」はスタイラスで行ってください）。

	アイコン／操作ボタン／キー入力	操作
1	／ ▷/□ ／ 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定	〈再生していない時〉 ／ ▷/□ ／ 訳・決定 1 度押すと再生します。 〈再生している時〉 ／ ▷/□ ／ 訳・決定 1 度押すと一時停止します。 ▷/□ 約 2 秒間押すと停止します。 ／ 訳・決定 約 2 秒間押して、キーから指（あるいはスタイラス）をはなすと停止します。
2	／	再生中に 1 度押すと前の曲を頭出しします。
	／	再生中に 1 度押すと次の曲を頭出しします。
3	Repeat ／ R	リピート設定を選ぶことができます。 （リピート設定を選択する ☞ 227 ページ参照）
	Equalizer ／ E	サウンド設定を選ぶことができます。 （サウンド設定を選択する ☞ 228 ページ参照）
	Speed ／ S	スピード設定を選ぶことができます。 （スピード設定を選択する ☞ 229 ページ参照）
	Language ／ L	表示言語の設定を選ぶことができます。 （言語設定を選択する ☞ 229 ページ参照）
4	＋ − ／ Vol	音量を調整することができます。 （画面のアイコンを使って音量を調整する ☞ 230 ページ参照） また、で現在の音量レベルが表示されます。

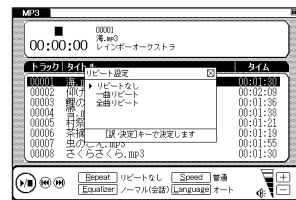
● MP3 プレーヤーを再生しながら、他のコンテンツの検索もすることができます。
また、上記のリストの 1、2、4 の操作はカバーを閉じた状態でも操作ボタンやジョグにより行うことができます。

ジョグおよび操作ボタンをロックする

操作ボタンやジョグの誤作動を防ぐために本体裏面のHOLDスイッチで、これらの操作をロックすることができます。

本体裏面のHOLDスイッチを右にスライドすると、キーボード上部のジョグおよび操作ボタンが働かなくなります。
左にスライドすると、ロックが解除されます（右はロックが解除された状態を表示させた画面です）。

MP3 プレーヤー使用時の各種機能の設定

リピート設定を選択する

R キーを押すか、Repeat をタップします。リピート設定の画面が表示されます。
△／▽ でカーソルを移動させ、以下の設定から選びます。

リピートなし	訳・決定 を押すと、MP3 データはリピートされずすべてのトラックを再生し終わると、停止します。
1曲リピート	訳・決定 を押すと、選択した MP3 データを繰り返し再生します。
全曲リピート	訳・決定 を押すと、MP3 データをすべてリピートします。

●初期設定は「リピートなし」です。

A-Bリピート設定をする

MP3データ再生中にリピートを開始したい箇所（A地点）で、A キーを押します。リピートの終点箇所で再び A キーを押すとB 地点が指定され、直ちにA-B 間のリピートが開始されます。

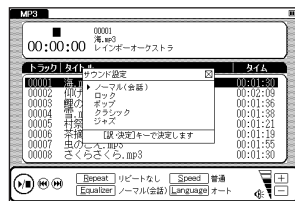
●B 地点を指定しなかった場合は、指定したMP3 データの再生が終了すると自動的に設定が解除されます。

A-Bリピートを停止する

A-B リピート中に A キーを押すとリピートを停止することができます。

サウンド設定を選択する

E キーを押すか、Equalizer をタップします。サウンド設定の画面が表示されます。

△／▽ でカーソルを移動させ、以下の設定から選びます。

ノーマル（会話）	訳・決定 を押すと、サウンド設定がノーマルの状態になります。
ロック	訳・決定 を押すと、ロック音楽に向いたソリッドな迫力あるサウンドになります。
ポップ	訳・決定 を押すと、ポップス音楽に向いた軽やかで明朗なサウンドになります。
クラシック	訳・決定 を押すと、クラシック音楽に向いた躍動的なサウンドになります。
ジャズ	訳・決定 を押すと、ジャズ音楽に向いた重厚なサウンドになります。

●初期設定は「ノーマル」です。

●音源によっては、サウンド設定の効果が明瞭でないものがあります。

スピード設定を選択する

MP3 データの再生スピードを選ぶことができます。語学学習用に最適です。

S キーを押すか、Speed をタップします。スピード設定の画面が表示されます。

△／▽ でカーソルを移動させ、以下の設定から選びます。

遅　い	訳・決定 を押すと、MP3 データのスピードが遅くなります。
普　通	訳・決定 を押すと、MP3 データのスピードが普通になります。
早　い	訳・決定 を押すと、MP3 データのスピードが早くなります。

●初期設定は「普通」です。

言語設定を選択する

MP3プレーヤー機能の画面に表示される言語を選ぶことができます。例えば、MP3ファイルをパソコンで作成した時、ファイル名やタイトルを下記の言語で保存した場合は、言語設定を選択し正しく表示させることができます。

L キーを押すか、Language をタップします。言語設定の画面が表示されます。

△／▽ でカーソルを移動させ、以下の設定から選びます。

日本語	例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、日本語の文字を基準とした表示になります。
中国語	例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、中国語の文字を基準とした表示になります。
韓国語	例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、韓国語の文字を基準とした表示になります。
オート	例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押すと、自動で言語判断します。

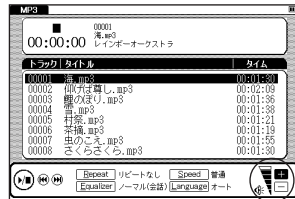
●初期設定は「オート」です。

● MP3 データのファイルにない言語を選択した場合[?]と表記され、文字が表示されません。

画面のアイコンを使って音量を調整する

MP3 機能画面ではジョグの他にアイコンによって音量調整をすることができます。

＋をタップすると大きく、－をタップすると小さくなります（右は音量を大きくしている画面です）。選択した＋アイコンが反転します。

音量のレベルを の黒い部分が増えると音量が大きく、黒い部分が減ると小さくなることで確認することができます。

MP3 データの保存先と取り扱いについて

MP3 ファイルの作成、および SD メモリーカードへの書き込みは、本機ではできません。パソコン等の対応機器を用いて MP3 ファイルを作成後、市販の SD メモリーカードに書き込んでください。またパソコン上で作成した MP3 ファイルを SD メモリーカードへ保存する場合には、ボイスレコーディング機能（☞ 231 ページ参照）で作成された「recording」というフォルダには保存しないでください（それ以外の場所に保存ください）。

●ファイル名に特殊な記号や文字は表示されません。

●パソコンから SD メモリーカードにコピーした MP3 データは、誤操作、カードの紛失、本機の故障、修理などにより失われることがあります。それらのデータは必ずバックアップとしてパソコンに保存してご使用ください。なお MP3 データをパソコン等から SD メモリーカードへ保存する操作手順については各対応機器の取扱説明書にてご確認ください。

MP3 データ（ビットレート 128Kbps）再生時の電池寿命

中間音量でイヤホンにてカバーを閉じた状態で連続再生した場合、充電式ニッケル水素電池で約4.5時間使用できます。

ボイスレコーディング機能を使う

市販のSDメモリーカードに音声を録音し、MP 3 形式のデータとして保存することができます。

音声を SD メモリーカードに録音する

1 SD メモリーカードを本体に挿入します。

（カード〈コンテンツカードや SD メモリーカード等〉を使う ☞ 221 ページ参照）

2 メニュー画面から便利な機能 → ボイスレコーディングを選んで、ボイスレコーディング画面を表示させます。

（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

3 N を押すと、録音が開始されます。画面に「録音中」とメッセージが表示されます。

●スタイラスでは New をタップします。

● 1 回の録音で最長約 2 時間まで録音することができます。

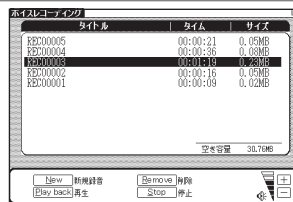
4 S を押すと、録音が終了されます。画面に録音時間と録音データのサイズ、空き容量が表示されます。

●スタイラスでは Stop をタップします。

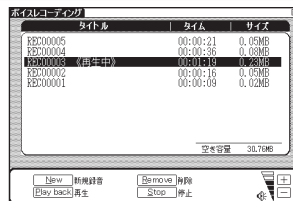
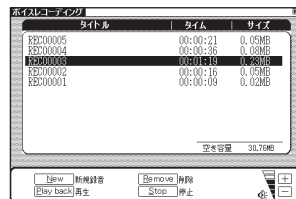
カード使用時のエラーメッセージ

表示されるエラーメッセージ	対処方法
カードを挿入してください	SD メモリーカードを正しく挿入してください。
空き容量不足により録音ができません 別のカードを挿入してください	不要なファイルを削除するなどして、空き容量を増やしてください。
空き容量が不足しているため録音を中止します	

録音データを再生する

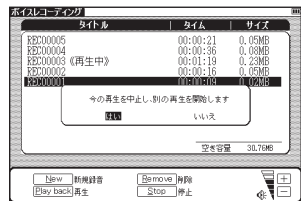
1 ボイスレコーディング画面を表示させます。△／▽ でカーソルを移動させ、再生したいタイトルを選択します。

2 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 または P わ を押すと、再生が開始されます。選択したタイトル部分に《再生中》と表示されます。

●スタイラスでは Play back をタップします。

3 S（RM/CM）を押すと、再生が終了されます。

●スタイラスでは Stop をタップします。

再生途中で別の録音データを再生したい場合

1 再生中に ▽／△ でカーソルを移動させ、別のタイトルを選択します。

2 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）または P（わ）を押すと、画面に「今の再生を中止し、別の再生を開始します」とメッセージが表示されます。◁／▷ で「はい」を選択し 訳・決定（例文展開/ジャンプ実行）を押します。

再生中の音声が停止され新たに選択した録音データが再生されます。選択したタイトル部分に《再生中》とメッセージが表示されます。

録音データを削除する

1 ボイスレコーディング画面を表示させます。△/▽でカーソルを移動させ、削除したいタイトルを選択します。

2 登録/削除 または R を押します。録音データの削除画面が表示されます。

●スタイラスでは Remove をタップします。

3 △/▽ カーソルを移動させ、以下の項目から削除したい録音データに応じて項目を選びます。

「選択されている録音データのみ削除」を選択する場合	◁/▷で「はい」を選択し、訳・決定を押すと、選択した録音データが削除されます。
「すべて削除」を選択する場合	◁/▷で「はい」を選択し、訳・決定を押すと、SDメモリーカードに保存されたすべての録音データがまとめて削除されます。

●ボイスレコーディング機能は本体へ録音データを保存するものではありません。ボイスレコーディング機能をご使用の際は、市販のSDメモリーカードをご用意ください。SD メモリーカードは保存したデータの不用意な消失を防ぐためにも、電源を切ってから取り出してください。

録音データのファイルについて

SD メモリーカードに録音された音声データは MP3 形式で保存されます。ファイル名は「RECnnnnn.mp3」というフォーマットで自動的に命名されます（n は数字を表します）。

ボイスレコーディングで録音した音声は「¥CANON¥recording¥」のフォルダに保存されます。

（MP3 データの保存先 230 ページ参照）

ビットレートは 24kbps です。

USB辞書機能を使う

パソコンで選択した語句を電子辞書本体に転送し、その意味を調べることができます。
この機能はソフトウェアをインストールしてから使用できます。必ず「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みの上、お使いのパソコンの動作環境が下記の内容に合うかをお確かめください。また「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意された場合のみ使用できます。

ソフトウェア使用許諾契約書

キヤノンマーケティングジャパン株式会社（以下「弊社」といいます）が提供するドライバ（以下「本ソフトウェア」といいます）を利用されるお客様には、本契約に同意していただく必要がございます。なお、本ソフトウェアをご利用された場合、お客様が本契約の内容に同意したものとみなし、お客様と弊社との間で契約が締結されたものとします。

1 使用許諾

(1) 弊社は、お客様に対して、本ソフトウェアに対応するキヤノン製品を利用する目的で本ソフトウェアを使用する非独占的権利を許諾します。お客様は、当該目的以外で本ソフトウェアを使用したり、第三者に対する再使用許諾、譲渡、貸与、頒布、転載等の処分を行ってはなりません。

(2) お客様は、本ソフトウェアの全部または一部を修正、改変、リバース・エンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブル等することはできません。また、第三者にそのような行為をさせてはなりません。

(3) お客様が本契約の定めに違反した場合、お客様は、当然に本ソフトウェアの使用権を喪失し、直ちに本ソフトウェアおよびそのすべての複製物を、利用不能な程度に破棄または消去しなければならないものとします。

2 権利の帰属

(1) 本ソフトウェアおよびその複製物の著作権その他の知的財産権は、その内容により弊社に帰属します。

(2) お客様は、本ソフトウェアに付された商標、名称あるいは権利表示を消去、変更等してはならないものとします。

3 保証の否認・免責

(1) 弊社は、本ソフトウェアが、お客様の特定の目的のために適当であること、もしくは有用であること、または本ソフトウェアに瑕疵その他の不具合がないこと、その他本ソフトウェアに関していかなる保証もいたしません。

(2) 弊社は、本ソフトウェアの使用に付随または関連してお客様に生ずる直接的または間接的な損失、損害等について、いかなる場合においても一切の責任を負いません。

4 輸出の禁止

お客様は、日本国政府または該当国の政府より必要な許可等を得ることなしに、本ソフトウェアの全部または一部を、直接または間接にも輸出してはなりません。

5 準拠法・専属合意管轄裁判所

(1) 本契約の準拠法は日本法とします。

(2) 本契約に関連する一切の訴訟については、東京地方裁判所を第一審の専属合意管轄裁判所とします。

☞ 動作環境

OS

Windows 2000 SP4以上、Windows XP、Windows Vistaの日本語版

パソコン

以下の条件を充たす IBM PC/AT 互換（DOS/V）機

Windows 2000、Windows XP、Windows Vistaの日本語版がプリインストールされたUSBポート標準装備のもの

●その他、Windows 2000、Windows XP、Windows Vistaが推奨する動作環境に準拠。

●機器の構成により正常に動作しない場合があります。

●他の OS（Windows 3.1/95/NT 等）から Windows 2000、 Windows XP および Windows Vista にバージョンアップされたパソコンでの動作保証はいたしません。

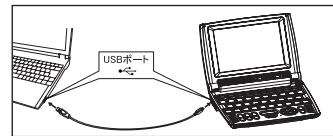
● Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

USB 辞書をパソコンにインストールする

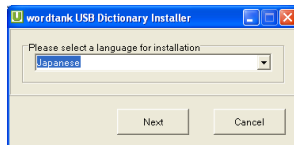
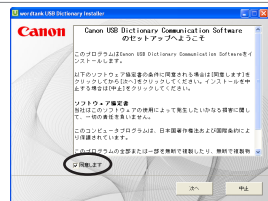
1 パソコンと実機を付属の USB ケーブルで接続します。

●必ず、パソコン本体のUSBポートに直接接続してください。USBハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。

● Windows 2000 または Windows XP をお使いの場合は、パソコンの管理者権限でログオンしてください。

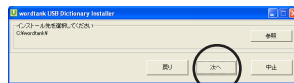
●パソコン接続中、電子辞書はパソコン本体から電源が供給されます（電源残量を示すアイコンが ▭ から ▭ に変わります。

2 マイ コンピュータ上の「WORDTANK」ドライブを開き、インストーラーをダブルクリックします。パソコン画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

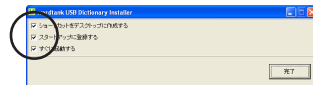
●動作環境によりパソコン画面の表示は異なる場合があります。

3 インストールメッセージの言語をプルダウンメニューから選択します（ここでは「Japanese」を選択します）。

4 NEXT をクリックすると、「ソフトウェア協定書」の画面が表示されます。内容を確認後、「同意します」にチェックマークを入れます。

5 次へ をクリックすると、USB 辞書ソフトウェアのインストール先を指定します（特に指定しない場合はＣドライブのフォルダ「wordtank」に保存されます）。

次へ をクリックすると、自動的にインストールを開始します。

●本ソフトウェアはパソコンに認識されるとリムーバブルディスクとしてアクセスすることができます。

検索機能と便利な機能を使う

6 各項目にしたがい、USB 辞書の設定を行い 完了 をクリックします。

ショートカットをデスクトップに作成する	デスクトップ上にUSB 辞書のショートカットアイコンを作成したい場合はチェックマークを入れます。
スタートアップに登録する	パソコンの起動時に、USB 辞書を起動したい場合はチェックマークを入れます。
すぐに起動する	インストール終了と同時にUSB 辞書を起動したい場合はチェックマークを入れます。

以上でインストールを完了します。

USB 辞書の設定を行う

パソコンのタスクバー上のUSBアイコンを選択し右クリックすると、以下のような設定を行うことができます。

ホットキーとメッセージ表示の設定

ポップアップウィンドウから「ホットキー設定（K）」選択し、検索を実行させるホットキー（ショートカットキー）を設定します。

1 設定したいキーのラジオボタンをクリックし、アルファベットを入力します（初期設定は「Alt ＋ Q」です）。

2 検索実行時にパソコン上にメッセージを表示したい場合はチェックマークを入れます。

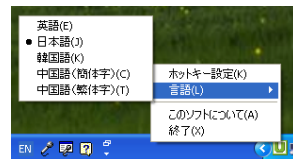
3 設定を完了したら、確定 をクリックします。

●USB辞書ソフトウェアのホットキーに、パソコンのアプリケーションのショートカットと同じキーを設定した場合（例えば「Ctrl+C」などは通常、コピー操作として使用されています）、USB 辞書ソフトウェアのホットキー設定が優先されます。通常のパソコン操作で使用するショートカットキーと重ならないように設定してください。

検索機能と便利な機能を使う

言語の設定

ポップアップウィンドウから「言語（L）」選択し、続けて表示されるポップアップウィンドウから表示言語を設定します。英語、日本語、韓国語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）の中から選ぶことができます（初期設定はインストール時に選択した言語です）。

●動作環境によりパソコンの画面表示は異なる場合があります。

USB 辞書機能を使って語句を検索する

インストール手順完了後、パソコン画面からテキストを選び、その意味を調べます（ここでは「pursue」の意味を調べます）。

1 USB ケーブルがパソコンと本機に接続されていることを確認します。

2 前ページでパソコンにインストールした「wordtank USB Dictionary」を起動させ、パソコン画面でテキストデータの「pursue」を選択します。

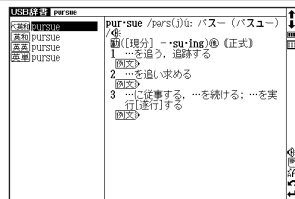
●USB 辞書のインストール時に「スタートアップに登録する」や「すぐに起動する」を選択した場合はソフトウェアを手動で起動する必要はありません。

●（USB 辞書をパソコンにインストールする ☞ 237 ページ参照）

operational status of IM activities, is used
marketing companies, but also by our bu
Canon is working to restructure recycling
develop technologies for its 3R* activities
continues to pursue economy and efficier

3 ホットキーで指定された操作を実行すると、本機に文字データが送られ、検索を開始します（初期設定では「Alt+Q」です）。

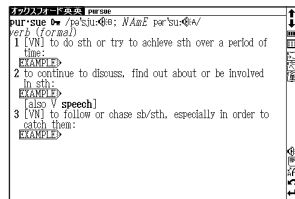
4 画面に検索結果が以下のように表示されます（右は複数の候補が検索された場合の画面です）。

検索結果が複数の場合	検索文字に該当する語句が候補リスト画面に表示されます（右画面参照）。
検索結果が 1 つだけの場合	その語句の本文画面が表示されます。

▽ ／ △ でカーソルを移動させ、調べたいコンテンツの語句を指定します。

●収録されていない語句を選択した場合は、その語句に一番近いものを候補表示します。

● 戻る を押すと、USB 通信画面に戻ります。

5 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます（ここでは「英英 pursue」を選びます）。英英辞典の「pursue」の本文画面が表示されます。

●USB 辞書機能を使って検索できる語句は Microsoft Office の Word、Excel、PowerPoint および Internet Explorer (一部のプラグインやスクリプトを用いたコンテンツでは正しく検索できない場合があります) 上で選択できるテキストデータの語句です。またお使いになる環境により文字を正しく認識できない場合があります。

USB 辞書使用後に電源を切る

パソコンに接続している間、電源はパソコン本体から供給されオートパワーオフ機能が無効になります（実機画面のアイコン表示が から に変わります）。電源を切りたい場合は、タスクバーの「ハードウェアを取り外すかまたは取り出す（U）」より、一度接続を解除してからUSBケーブルを取り外します。

1 USB 辞書画面を表示させた状態で、パソコン上で接続を解除します。

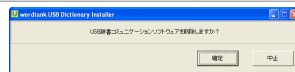
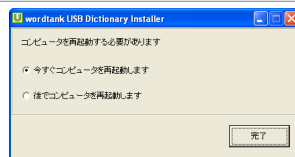
2 USB辞書画面にパソコンとの接続が解除された絵が表示されたことを確認したうえで、USB ケーブルを取り外します。

3 本機の バックライト ON/OFF を押して電源を切ります。

●USB辞書機能を使用していないときも、ケーブルを接続している間はパソコンから電源をとることができます（その間、実機画面の電源残量を示すアイコンは となります）。ただしパソコンが古かったり、USBハブ経由で接続した場合は電源の供給量が十分でなくなり、通常の操作ができなくなることがあります。その場合は、電池をご使用ください。

USB 辞書をパソコンからアンインストールする

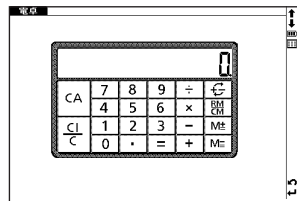
1 パソコンと実機を付属の USB ケーブルで接続します。

2 マイ コンピュータ上の「WORDTANK」ドライブを開き、インストーラーをダブルクリックします。
「USB 辞書コミュニケーションソフトウェアを削除しますか？」と表示されます。

3 確定 をクリックすると、「コンピュータを再起動する必要があります」と表示されます。「今すぐコンピュータを再起動します」または「後でコンピュータを再起動します」のいずれかを選択します。

4 完了 をクリックすると、再起動後にアンインストールが完了します。

●パソコンと実機を接続していない場合は、パソコンの「プログラム（P）」から wordtank→Uninstall を選択して手順 2 から 4 を実行します。

電卓機能を使う

文字入力キーやバーチャルキーを使って、四則計算やメモリ計算などをすることができます。

1 メニュー画面から便利な機能 → 電卓を選んで、電卓画面を表示させます。
（メニュー画面からコンテンツを選ぶ ☞ 27 ページ参照）

2 次ページの計算例を参考に計算を行います。

●計算を行う前に、Z（CA）を押してください。
●画面上のバーチャルキーを使って入力することもできます。
（バーチャルキーを使う ☞ 40 ページ参照）

電卓機能使用時のキーボード

一般計算		
計算例	操　作	表　示
▼一般計算		
140 - 35 + 22 = 127	140 [−/B] 35 [+/V] 22 [=/訳・決定]	(　127.)
2 × 2　3 = 6	2 [×/N] 2 [CI/C/X] 3 [=/訳・決定]	(　6.)
9 ÷ 5 × 3.2 + 7 = 12.76	9 [÷/M] 5 [×/N] 3 [・/A] 2 [+/V] 7 [=/訳・決定]	(　12.76)
(2+4) ÷ 3 × 8.1 = 16.2	2 [+/V] 4 [÷/M] 3 [×/N] 8 [・/A] 1 [=/訳・決定]	(　16.2)
▼自乗・べき乗		
4^2 = 16	4 [×/N] [=/訳・決定]	(　16.)
■ [×/N] の後続けて [=/訳・決定] を（n-1）回押すと、n 乗が得られます。		
▼逆数計算		
1/5 = 0.2	5 [÷/M] [=/訳・決定]	(　0.2)
■ [÷/M] [=/訳・決定] を続けて押せば、逆数が求められます。		

一般計算		
計算例	操　作	表　示
▼定数計算		
2 + 3 = 5	2 V(+) 3 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(5.)
4 + 3 = 7	4 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(7.)
1 - 2 = -1	1 B(−) 2 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(-1.)
2 - 2 = 0	2 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(0.)
2 × 3 = 6	2 N(×) 3 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(6.)
2 × 4 = 8	4 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(8.)
6 ÷ 3 = 2	6 M(÷) 3 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(2.)
9 ÷ 3 = 3	9 訳・決定(= 例文展開/ジャンプ実行)	(3.)
■アンダーラインが引かれた数字が自動的に定数になります。乗数の場合は、定数を先に入力します。		

▼メモリ計算		
3 × 4 = 12	3 N(×) 4 D(M+)	(M 12.)
-) 6 ÷ 0.2 = 30	6 M(÷) A(・) 2 F(M−)	(M 30.)
-18	S(RM/CM)	(M -18.)
+) 200	200 D(M+)	(M 200.)
182	S(RM/CM)	(M 182.)
	S(RM/CM)	(182.)

オーバーフロー		
数値の整数部が12桁を越える計算または計算結果の場合、または除数0の割り算を行った場合、オーバーフローサイン（ERROR）を表示して、以降の置数、計算を停止します。		
計算例	操　作	表　示
1234567890 × 10000 =12345678900000 オーバーフロー	1234567890 N（×） 10000 訳・決定（= 例文展開/ジャンプ実行）	(E　　12.3456789000)
6 ÷ 0 = 0	6 M（÷） 0 訳・決定（= 例文展開/ジャンプ実行）	(E　　0.)

- 「E」と表示されたとき、計算を続ける場合は X（CI/C） を、新たな計算を始めるときは Z（CA） を押してください。
- 戻る を押すとメニュー画面に戻ります。

おぼえておくと便利なキーのはたらき

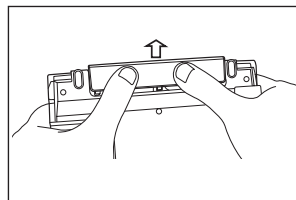
キー	名称	説明
Z（CA）	クリアオールキー	計算中にこのキーを押すと、メモリも含めたすべての計算をクリアにします。
X（CI/C）	入力訂正キー	入力した数値を訂正するキーです。誤って数値を入力した直後にこのキーを押すと、表示がクリアされるので、正しい数値を入力し直すことができます。 2回続けて押すと、計算途中の内容をすべてクリアできます（メモリ計算の内容はクリアされません）。
D（M±）	メモリプラスイコールキー	数値または演算結果をメモリに加算するときに使用します。
F（M=）	メモリマイナスイコールキー	数値または演算結果をメモリから引くときに使用します。
S（RM/CM）	リコールメモリ／クリアメモリキー	1回押すとメモリ内の数値を呼び出します。2回続けて押すと、メモリ内の数値をクリアします。

Before Initial Use

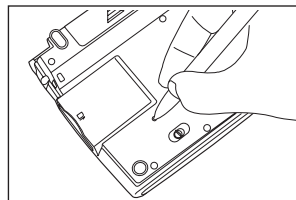
■ Insert the batteries

1 Turn off the device and position your thumbs on the arrows on the battery compartment cover located on the bottom of the device. Push the cover in the direction of the arrows to remove the cover.

2 Insert the two attached AAA size batteries and make sure that their poles (+ and -) are correctly aligned.

3 Install the battery cover again.

■ Reset device

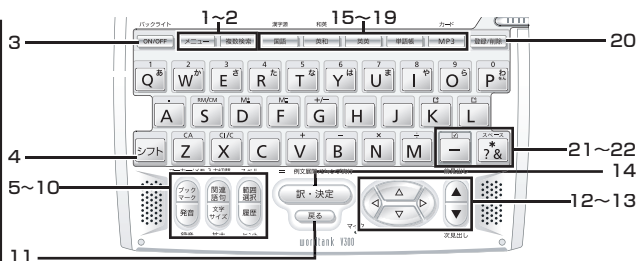
1 Press Reset on the bottom of the device.

2 Open the device cover and adjust the display angle for the best visibility.

3 A message that reads " システムを初期化しますか?/Do you want to reset? ". To initialize the system, select " はい " and press the 訳・決定 button.

4 A message that reads " タッチスクリーン補正 ⁑ をスタイラスでタップしてください"(Touch screen calibration. Please tap ⁑ mark) appears on the display. With the stylus pen, tap the four ⁑ at the corners and then they will be disappeared.

5 After the display for the battery type setting and for the contrast adjustment setting, the menu is displayed, and the device is ready for use.

Key Functions

No.	Key	Function
1	メニュー	Menu Key
2	複数検索	Multiple Search Key
3	バックライト ON/OFF	• On/Off Key • Press シフト and then バックライト ON/OFF to use back light function.
4	シフト	Shift Key
5	マーカー/メモ ブックマーク	• Bookmark words/phrases in main text screen. • Underline selected items in Wordmemo. • Create/edit Memo
6	発音 録音	• Pronunciation Key • Press シフト and then 発音 録音 to start voice comparison and voice recording.
7	入力切替 関連語句	• Refer to common expressions, compound words, fixed expressions, phrasal verbs and idioms. • Shift input method in single entry search /Memo edit screen, etc.
8	文字サイズ 拡大	• Alter display font size • Zoom one character
9	スペル 範囲選択	• Select words in Jump, TTS and Maker fuctions. • Run spell checker in the spell input of Basic Genius Eng-Jpn, Genius Eng-Jpn, Oxford Eng-Eng dictionaries.
10	履歴 ヒント	• Display the previous History of searched words in the current dictionary. • Show some hints in the Study Contents.
11	戻る	Return Key
12	前見出し ▲ / ▼ 次見出し	Previous/Next entry headword key

No.	Key	Function
13	△/▽/◁/▷	Cursor key (screen/line scroll)
14	= 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定	• Enter/Translate • Example sentence key
15	漢字源 国語	• Meikyo/Daijirin Key • Press シフト and then 漢字源 国語 for Kanjigen Key
16	和英 英和	• Basic Genius Eng-Jpn/Genius Eng-Jpn Key • Press シフト and then 和英 英和 for Genius Jpn-Eng Key.
17	英英	Oxford Eng-Eng Key
18	単語帳	Wordmemo Key
19	カード MP3	• MP3 Player Key • Press シフト and then カード MP3 to see the card contents menu.
20	登録/削除	Register/Delete key
21	☑ —	• Input hyphen (-) • Check a tick box in Wordmemo and Study contents.
22	スペース * ? &	• Input * or ? in wild card search. • Input & to link words in example search. • Insert space in Memo.

Basic Operations

■ Turn the power on　Open the device cover/Press バックライト ON/OFF

Either open the device cover or press バックライト ON/OFF to turn on the power. The last viewed screen appears on the display (resume function).

The device can also be turned on by pressing any of following keys: メニュー 複数検索 漢字源 国語 和英 英和 英英 単語帳 カード MP3.

The initial screen of the selected content appears on the display.

■ Turn the backlight on

Press シフト and バックライト ON/OFF operates the backlight to enable reading in poorly lit environments. The backlight automatically goes out if none of the keys are pressed for 30 seconds.

■ Turn the power off　Close the device cover/Press バックライト ON/OFF

When the device is power on, close the device cover or press バックライト ON/OFF turns the power off. If the cover is closed during MP3 playback, playback continues with the cover closed.

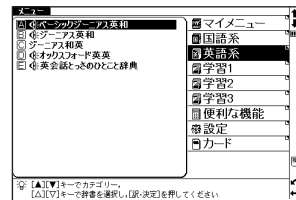
The unit itself will automatically turn off to save energy in case it has not been used for a certain period (Auto power off function).

■ Select contents from the menu screen

1 Press メニュー to display the menu screen. Select a content category by moving the cursor with 前見出し ▲ ▼ 次見出し. After selecting a category, move △ ▽ to select the desired content.

2 Press 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 to display the search screen.

＊ Content can also be selected by pressing the alphabet key of the letter right of the displayed content.

Quick Reference

Category of each content

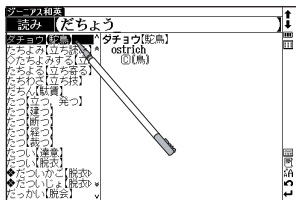
Japanese	Meikyo	Super Daijirin	Kanjigen
	Kogo	Four-Kanji Phrases	Proverbs & Sayings
English	Basic Genius Eng-Jpn	Genius Eng-Jpn	Genius Jpn-Eng
	Oxford Eng-Eng	Eng conversation	
Study 1	Royal Eng Grammar	World History Dictionary	Japanese History Dictionary
	Biographical Search	Waka Haiku Search	Dictionary of Biology
	Formulas & Keywords	Chemical Equation	
Study 2	Royal Eng Grammar BRUSH-UP	Eng Words Target	Eng Words Target BRUSH-UP
	Eng Words Target Dictation	Eng Idioms Target	Eng Idioms Target BRUSH-UP
	Eng Idioms Target Dictation	Eiken 3rd Grade	Eiken 2nd Grade
	Listening-Center exam	Eng Pronunciation Clinic	Eng Dialogue-Centre exam
Study 3	Kobun Target 400	Kanji Target 1700	Kanken 3rd Grade
	Kanken 2nd Grade	World History Rote Target	Japanese History Rote Target
Tools	Multiple Search	Wordmemo	MP3
	Voice Recording	USB Dictionary	Calculator
Setup	Setup		
Card	Card menu		

■ Search words/phrases/sentences

1 Move △ ▽ to select an input field. Enter a search word or phrase with the character keys.

2 A list of matched words/phrases will be displayed on the left side. A preview of a chosen headword is displayed on the right side.

3 Move △ ▽ to select the appropriate word/phrase on the list and press 訳・決定 to display the main text screen for the selected word/phrase.

＊ Press 文字サイズ to change the font size.

■ Scroll screen

1 Arrows (⋀ ⩓ or ⋁ ⩔) indicate that the contents of the screen cannot be fully displayed. Press △ ▽ to scroll up or down one line at a time.

2 In the search result list, press ▲ (or tap ⩓) to scroll up by screen or press ▼ (or tap ⩔) to scroll down by screen.

3 In the main text screen for the searched word, press ▷ (or tap ⩔) to scroll forward to the next screen or press ◁ (or tap ⩓) to scroll back to the previous screen of the text.

4 In the main text screen for the searched word, press ▲ to display the previous entry or ▼ to display the next entry.

■ Display example sentences , column or references

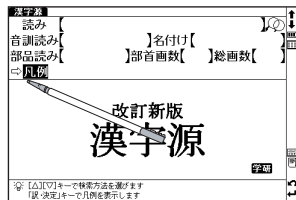
When 例文, EXAMPLE, コラム or 解説 appear on the main text screen, press 訳・決定 to display example sentences, column or reference. Press 訳・決定 again to close.

■ Return to search result screen

While the main text screen is displayed, press 戻る to return to the search result screen.

■ See dictionary guide

1. When ⇨凡例 appears on the initial search screen of any dictionary, a user guide is available.

2. Move △ ▽ in the search screen, select ⇨凡例 and press 訳・決定 to refer to the guide.

■ Tree structure list < Descriptions of + and − >

+ in front of an item on the tree structure list indicates that the item contains sub-items. Select an item with + in front of it and then press the 訳・決定 or ▷ key to display the list of sub-items.

Press the 戻る or ◁ key to return to the condition before the sub-items were displayed. − in front of an item indicates that no sub-items are contained for the items.

＊ When using the stylus, tapping an item displays a list of sub-items. Tapping the same item again returns to the condition before the sub-items were displayed.

Select from the selection list, enter a list or icons by tapping with the stylus pen.

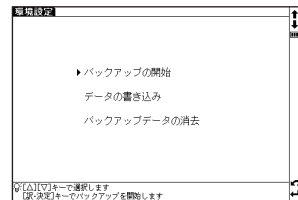
Switch display language
At the set-up menu screen, the display language can be switched between Japanese and English. The Set-up menu screen can be found on the Menu screen.

■ Data backup

This feature saves the dictionaries, environmental settings, bookmarks, memos and other data of this device on a SD Memory Card.

1 Load a SD Memory Card into the device. Select " バックアップ " (Backup) from the settings and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].
Select " バックアップの開始 " (Start Backup).

2 Enter a name for the data file in the file list. File names can be up to 8 numerical characters long. Press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].

3 Select "はい" (Yes) to confirm file backup and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to start data backup.
＊ Do not eject the SD Memory Card or turn the power off while backing up data.
Backup is complete when the message "Data has been successfully backed up." appears on the display.

■ Write data from SD Memory Card

Data saved on SD Memory Card can be written into the device.

1 Select " データの書き込み "(Restore the Data) on the screen and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].
A list of backed up data files appears on the display. Select the file to write into the device and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].

2 Press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to start data writing.

■ Delete backup data

Saved files can be selected for deletion.

1 Select " バックアップデータの消去 " (Clear the backup file) on the screen and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].
A list of backed up data files appears on the display. Select the file to delete and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定].

2 Select " はい " (Yes) and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定]. The file deletion operation starts.

Smart Icons

Various functions can be used by tapping the icons on the screen with the stylus pen.

Icons displayed up and right of screen

No.	Smart Icons	Discription
1	句 複 熟 I P 慣	Indicates that there are related words or phrases.
2	∧∨	Tap to display the previous or next line of text that could not be displayed in the current screen.
3		Tap to display the previous or next screen of text that could not be displayed in the current screen.
4	⬆⬇	Tap to display the search result screen for the previous or next entry.
5		Indicates the amount of power remaining in the batteries. As the power remaining in the batteries becomes low ( ), fewer segments are displayed in the icon. Indicates using power from PC during connecting with USB.
6		Tap to display the menu screen.
7		These icons indicate that the currently displayed entry word is also listed in other dictionaries. Tap the icon to jump to the corresponding dictionary.
8		Tap to display the history of dictionaries and modes that were displayed.
9		Tap to change the size of the characters displayed in the screens.
10		Tap to display the previous screen.
11		Tap to perform the same operation as if the key is pressed, for example, selecting 訳・決定 and performing functions.

Icons displayed when pronunciation can be checked

Smart Icons	Discription
🎤	Tap to record a pronunciation and compare it with the dictionary pronunciation.
🔊	Tap to hear the dictionary pronunciation.

Icon displayed in text screen

	When any of the above icons appear in the search result screen, example sentences, references or column for the entry word can be displayed.

Dictionary link icons

These icons indicate that the currently displayed entry word is also listed in other dictionaries. Tap the icon to jump to the corresponding dictionary.

The icons displayed on the screen represent each dictionary as follows:

- 明 Meikyo
- 辞 Super Daijirin
- 漢 Kanjigen
- 古 Kogo
- 熟 Four-Kanji Phrases
- 故 Proverbs & Sayings
- 大 Basic Genius Eng-Jpn
- EJ Genius Eng-Jpn
- →E Genius Jpn-Eng
- →E Oxford Eng-Eng
- 世 World History Dictionary
- 日 Japanese History Dictionary
- 俳 Waka Haiku Search
- 生 Dictionary of Biology
- 単 Eng Words Target
- 熟 Eng Idioms Target

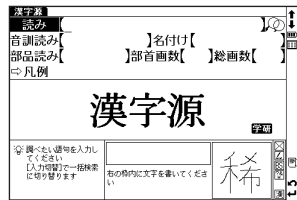
How to search (e.g. using Kanjigen Dictionary)

With Kanjigen dictionary, you can conduct a search using Chinese characters, Japanese pronunciations, the radical stroke count or the total stroke count. You can also search by writing the character.

■ Search by writing

1. Write a character carefully in the writing recognition box with the stylus pen.

2. Candidate characters will be shown in the candidate box. Select the appropriate character and tap it with the stylus pen.

＊ The writing recognition box can only handle one character at a time.
＊ Compound words can only be entered one by one.

Tap [keyboard icon] to display the virtual keyboard. Tap [A] on the right side of the keyboard to open the writing recognition box. To return to the virtual keyboard screen, tap [pen icon].

In the writing recognition box, the input method can be switched by tapping [あ] (Japanese Hiragana, Japanese Katakana and Japanese Kanji), [A] alphabet (uppercase and lowercase) or [1] (numeral).

Hear the pronunciation

1. In the search result list screen or the main text screen for each dictionary, if the [speaker icon] mark appears in the Smart Icon bar or in the content of the explanation, the pronunciation of the entry word or example sentence are available. Press [発音/録音] to check the pronunciation data.

2. For touch screen operation, directly tap [speaker icon] with the stylus pen once to select and twice to playback the pronunciation.

Use Quick Speech function

The natural voice pronunciation of English words in the contents can be played back on the contents which have English words on the main text screen and be able to select by スペル 範囲選択. The pronunciation is based on the sound data by Eng-Eng dictionary.

1 Press マーカー/メモ ブックマーク and move ◁ △ ▽ ▷ to select the word.

2 Press 発音 録音 to hear the pronunciation.

＊ Directly tapping the speaker icon with the stylus pen after the word selection can also play the pronunciation.

■ Read TTS pronunciation

English text appearing in screens can be selected and read aloud by TTS (Text To Speech), if the selection is a phrase or word which does not include in sound data of Eng-Eng dictionary.

1 Display the search result of "photograph" in Eng-Eng dictionary.

Press スペル 範囲選択 and move △ ▽ ◁ ▷ to select "a".

2 Press スペル 範囲選択 again to highlight S on the display. After that, press ▷ to extend the highlighted area to "it".

3 Press 発音 録音. "TTS" appears on the display and the selected English is read aloud.

＊ If non-English words are selected together with English words, only the English words are read aloud.

Check your pronunciation

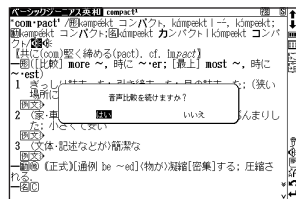
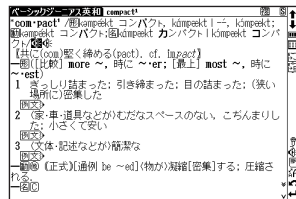
1 After selecting mark in the main text screen, use the stylus pen to tap on the right side of the search result screen.

2 While the message " 発音中 " (Playing...) is displayed, the sample pronunciation is played back.

3 When the message " 録音中 " (Recording...) appears, the recording will then be started. Please pronounce the word.

4 After about one minute, recording will be ended. Both the sample and recorded pronunciations will be automatically played back while the message " 発音比較中 " (Comparing...) is displayed.

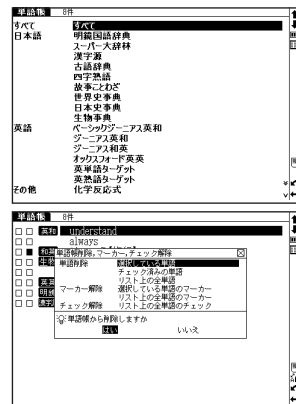
5 When the pronunciation comparison is finished, the message " 音声比較を続けますか？ " (Do you want to continue the comparison?) appears. Select " はい " (Yes) and press 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 to hear the recorded pronunciation again. If " いいえ " (No) is selected, the pronunciation comparison ends and the search result screen is displayed.

＊ The recorded pronunciation is erased when the pronunciation comparison is finished. It cannot be saved.

Use the Wordmemo

1 Register headwords

In the main text screen for dictionaries, press [登録/削除] to copy the word into the Wordmemo. Press [単語帳] to see the list of headwords previously registered. Headwords are categorized by dictionary name automatically. Select "すべて" (All) to display all registered headwords.

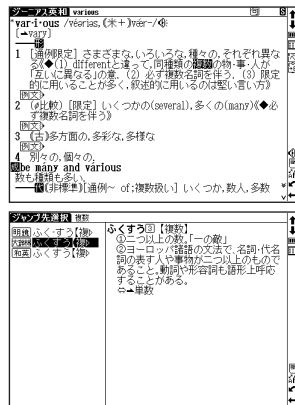
2 Delete Wordmemo data

In the list of headwords, press [登録/削除]. When the message "単語帳から削除しますか" (Delete headwords from Wordmemo) appears, select "はい" (Yes) and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to confirm the deletion.

Use the Multi Jump function

1 In the main text screen of any dictionary, press [スペル 範囲選択] and use ◁ △ ▽ ▷ to select the word you wish to search in another dictionary. If it is a phrase, press [スペル 範囲選択] again and press ▷ to expand the selection block.

2 Press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to display destinations. Use ◁ △ ▽ ▷ to select the appropriate dictionary and press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to jump to the destination.

＊ If there is only one jump target, the jump will be directly executed.

＊ If ➡ is shown in the main text screen, use Jump function to select ➡. Press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to see the reference.

Use Wild Card Search

1 In Japanese and English spelling input, "?" and "＊" can be used as uncertain letter(s). If "＊" is entered at the start followed by letters, Reversed Search can be used.
While "?" represents one character, "＊" has no restriction.

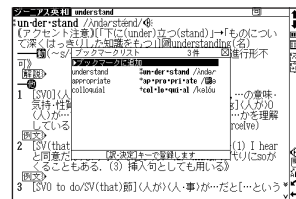
2 For example, entering "chr＊m" in English can provide the search result "chrism, chrysamthemum..etc" (headwords that start with "chr" and end by "m").

Quick Reference

Use the Bookmark function

1 In the main text screen of any dictionary, press [ブックマーク (マーカー/メモ)] and select "ブックマークに追加" (Add to Bookmark) option, then press [訳・決定 (＝ 例文展開/ジャンプ実行)] to add the current headword to the Bookmark.

2 In the initial search screen and main text screen of any dictionary, press [ブックマーク (マーカー/メモ)] to display the Bookmark headword list (for the current dictionary). Use [△] [▽] to select a headword listed, then press [訳・決定 (＝ 例文展開/ジャンプ実行)] to display the main text screen for the word.

3 In the Bookmark headword list, Use [◁] [△] [▽] [▷] to select a headword listed, then press [登録/削除] to remove the headword.

Use the History function

1 In the initial search screen and main text screen of any dictionary, press [履歴 (ヒント)] to display the History of headwords previously searched in the current dictionary.

2 Use [◁] [▷] to select any dictionary and use [△] [▽] to select any headword listed, press [訳・決定 (＝ 例文展開/ジャンプ実行)] to display the main text screen for the word. Press [登録/削除] to remove the word from History.

View and test the Stroke Order

1 If 書 appears in the main text screen of. Kanjigen, press [スペル 範囲選択] to view the stroke order of the Chinese character.

2 Press [戻る] to return to the main stroke order screen then tap [テスト] with the stylus to start the stroke order test.

Use the Multi-Key Search function

1 In the initial search screen of any dictionary and the Multiple Dictionary Search, plural keywords can be entered. If [icon] appears next to input fields, press [入力切替 関連語句] or tap [icon] with the stylus to display the Multi-Key Search screen.

2 Up to 5 entries can be entered at a time. The restriction of the original input method will be applied in the Multi-Key Search. The number of matched results for the word completely inputted will be shown at the end of the input field when the cursor is moved to other field by pressing [△] [▽].

3 While the input field or [検索開始] is highlighted, press [例文展開/ジャンプ実行 訳・決定] to start a search.

Press [クリア] and [戻る] to reset the entry. Press [入力切替 関連語句] or tap [icon] with the stylus to return to the single entry search screen.

4 In the search result screen, each matched word will provide its own list. Press [◁] [▷] to shift among different result lists.

Use the Memo function

1 In the main text screen of any dictionary, press マーカー/メモ ブックマーク twice (once for the Bookmark function) and 登録/削除 to enter the Memo edit screen.

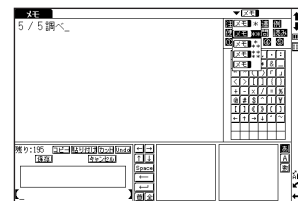
2 In the edit screen , press 入力切替 関連語句 to shift to the input mode. あ (Japanese) → A (Alphabet) → 数 (Number). When using A, press 入力切替 関連語句 longer than 2 seconds to change the mode to the alternative input mode (A ⇔ a) .

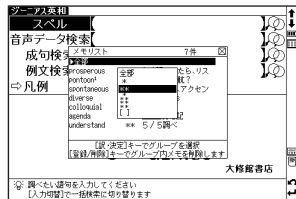
3 When using 漢 あ (Japanese) mode, the character conversion function is available. Enter the letter(s) and press = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 to convert.

4 There are two writing recognition boxes. Both of them are effective simultaneously. Using the two boxes consecutively can speed up the input process. Writing recognition speed can be adjusted by tapping 速 (Quick) ⇔ 普 (General) ⇔ 遅 (Slow) at the middle lower part of the edit screen (The adjustment will be effective throughout the editing process).

5 コピー (Copy) 貼り付け (Paste) カット (Cut) and Undo (Undo) functions are operated by the stylus. Use the stylus to select a block of words, tap コピー / カット to copy/cut the source, and tap 貼り付け to paste the source onto the specified position where the cursor located.

6 Tap メモ to set up Memo Group option. Choose ✻/✻✻/⁂/⁑⁑ to group the Memo. The selected icon will be shown next to メモ.

Quick Reference

7 In the main text screen of any dictionary, press [ブックマーク] twice and [訳・決定] to display Memo Management screen. Use [△] [▽] to select an appropriate group and press [訳・決定] to confirm. The list of Memos with the selected group will be displayed.

8 When the Memo Management screen is displayed, select an appropriate Memo and press [訳・決定] to modify . Press [戻る] to close the Memo screen.

Use cards (Content Card and SD Memory Card)

■ Insert cards

1 Turn power to the device on.

2 With the label facing upward, carefully slide the card into the slot until hearing it lock in place.

＊Do not insert anything other than cards into the slot. Other objects may damage the slot and cards.

■ Eject cards

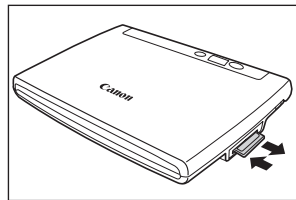
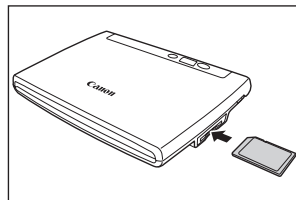
1 Turn power to the device off.
Gently push the card inward.

＊ When you release your hand, the end of the card pops out, therefore keep one finger gently pressed against the edge of the card.

2 Pull the card out.

＊ Carefully pull the card out straight out.

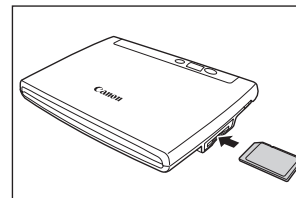
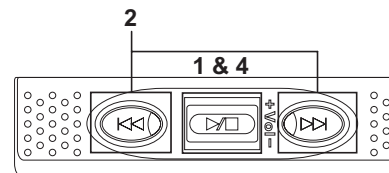
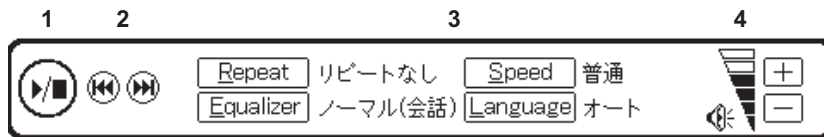
■ Use content cards

Load a content card into the devise.
Press [シフト] and [MP3] to display the card content menu screen. Move [▽] [△] to select the content, and press [訳・決定].

Use the MP3 player

■ Play back MP3 data

Load a SD Memory Card into the device.

Press カード MP3 to display the MP3 player screen.

Move ▽ △ to select a title, and press 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定.

■ Icons, operating buttons and keys for using the MP3 player

The following operations can be performed by tapping icons or pressing operating buttons or keys. (Use the stylus to press and hold icons.)

	Icon/Operating button/Key	Operation
1	▶/■ / ▷/□ / = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定	< When not in the playback mode > ▶/■ / ▷/□ / = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 : Press once to start payback. < During playback > ▶/■ / ▷/□ / = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 : Press once to pause playback. ▷/□ : Press and hold to stop payback. ▶/■ / = 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 : Press and hold for 2 seconds and release the keys to stop playback.
2	⏮ / ⏮	During playback, press once to jump to the beginning of the previous title.
	⏭ / ⏭	During playback, press once to jump to the beginning of the next title.
3	Repeat / R (4 た)	Select the repeat playback mode. The initial setting is " リピートなし " (OFF).
	Equalizer / E (3 さ)	Select the sound mode. The initial setting is " 普通 " (Normal).
	Speed / S (RM/CM)	Select the speed mode. The initial setting is " ノーマル(会話)" (Normal <Speech>).
	Language / L	Select the display language. The initial setting is " オート " (Auto).
4	+ − / ▷/□ Vol	Adjust the volume. The current volume level is displayed by .

* You can search for other content while playing back content on the MP3 player.

■ Lock the jog and operate buttons

Slide the HOLD switch on the rear panel of the device to the right locks the jog and operate buttons on the keyboard. Slide it to the left unlocks the controls.

■ Set A-B repeat playback

During MP3 playback, press A to mark the start (point A) of the repeat title. Press A again to specify the end point of the repeat title (point B). Repeat playback starts immediately between points A and B.

＊If point B is not set, the repeat mode automatically turns off at the end of playback.

■ Stop A-B repeat playback

Press A during repeat playback to stop the repeat mode and play from the start.

Storage location of MP3 data

This device cannot create data files on cards. Create a folder for MP3 data somewhere on your PC other than the "recording" folder and make sure special characters do not appear in file names.

Use Voice recording

Audio can be recorded on SD Memory Cards and saved as audio data in MP3 format. This audio can be recorded on cards and played back.

■ Record audio to cards and play back

1 Load a SD Memory Card into the device.

Select " ボイスレコーディング " (Voice Recording) from the menu screen to display the voice recording screen.

2 Press N to start recording.

＊ Tap New with the stylus.

Press S to stop recording. The recording time, amount of recorded data and available memory are shown on the display.

＊ Tap Stop with the stylus.

3 Move △ ▽ to select a title. Then, press 訳・決定 or P to start playback.

＊ Tap Play back with the stylus.

4 Press S to stop playback.

＊ Tap Stop with the stylus.

■ Erase recorded data

Move [△] [▽] to select a title.

Press [登録/削除] or [R] to display the recorded data erase screen. The recorded data will be erased.

＊ Tap [Remove] with the stylus.

* To prevent mistakes that can cause saved data to be lost, turn the power off before ejecting the card.

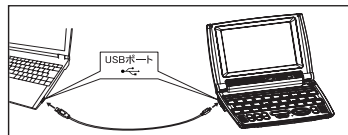
Recorded data files
Audio data recorded on cards is saved in MP3 format and automatically named with a "RECnnnnn.mp3" format. (n is a letter of the alphabet or a number.) Audio recorded via the voice recording feature is saved in the "¥CANON¥recording¥" folder.
Bit rate is 24 kbps.

Use the USB Dictionary function

■ Install the USB Communication software in your PC.

1 Directly connect your PC and the electronic dictionary with a USB cable. Open the "WORDTANK" drive from My Computer of your PC and start installation. Execute the software to start the installation.

2 Select a word or phrase on the PC monitor. Use the hot keys (press [Alt] + [Q] keys as default setting) to start the search in the electronic dictionary.

3 Select words/phrases to check from the candidate list. Press [訳・決定] to display the main text screen.

■ Change the setting of the software.

Right-click on the USB Dictionary tray icon (if it is running) in the taskbar of your PC and you will see a popup menu. This enables you to change hot keys and the display language.

■ Power consumption in the USB Dictionary.

While connected to a PC, the USB Dictionary draws its power from the PC (not the battery), therefore the auto power off feature is deactivated.

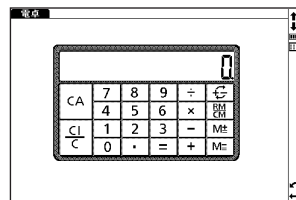
Before physically un-plug the USB cable, stop the USB device in Windows first, then, un-plug the USB cable between the product and the PC. When the cable is disconnected, the power consumption will change back to battery.

■ Uninstall the software from the PC.

1. Open the "WORDTANK" drive from My Computer of your PC and double-click on the Installer.
2. Click on the [YES] to process forward. Select either "Restart now." or "Restart later.". The uninstallation will be completed after the PC is restarted.

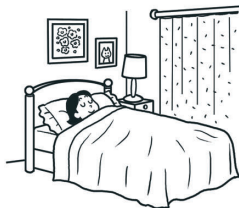
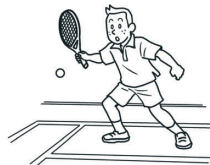
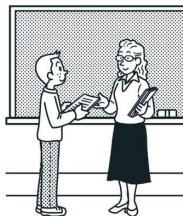
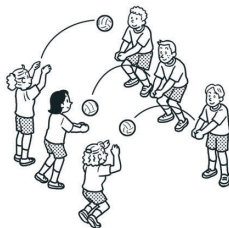
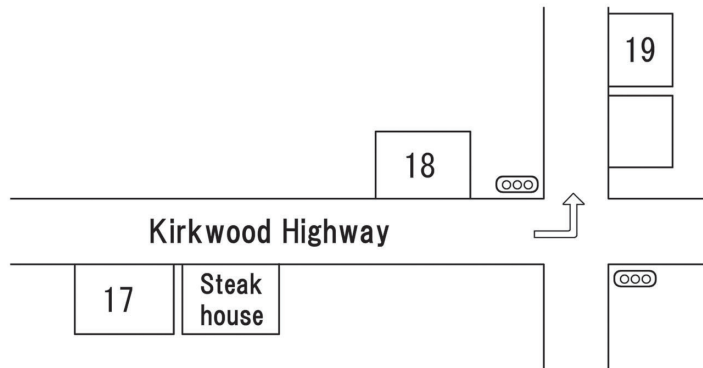
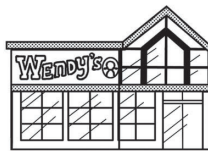
Use the calculator

Select "Calculator" from the menu screen to display calculator screen.

* Press [CA Z] to clear the entry area before performing calculations.
* Numbers can be entered using the virtual keys on the screen.
* When "E" is displayed, press [Cl/C X] to continue the current calculation. Press [CA Z] to perform a new calculation.
* Press [戻る] to return to the menu screen.

センター試験リスニング対策イラスト

本機に表示の際、2画面以上にまたがる「問題3B」のイラストを出題先ごとに掲載します。

「トレーニング」→「リスニング模試」より

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
	17	18		19

Windy Hills
19
18
Kirkwood Highway
17
Steak
house
①
식당
KOREAN B.B.Q
KOREAN
B.B.Q
KOREAN
B.B.Q
②
CITY HALL
③
Mary's house
④
⑤
WENDY'S
⑥

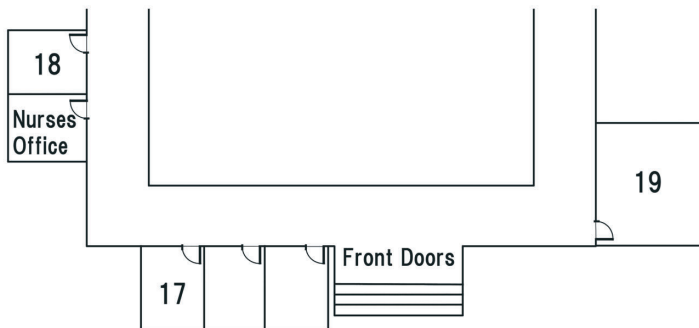
Sun.
Mon.
Tues.
Wed.
Thurs.
Fri.
Sat.
1
2
17
3
18
4
5
19
6
①
②
③
④
⑤
⑥

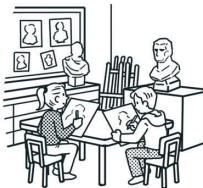
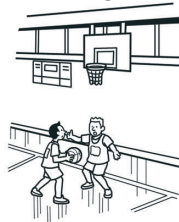
18

Nurses Office

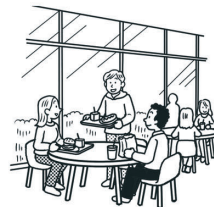
19

Front Doors

17

①

②

③

④

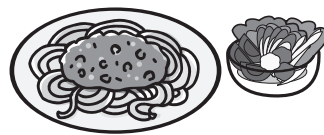
⑤

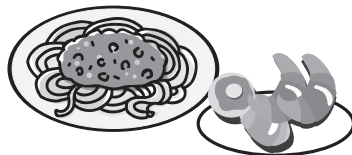
⑥

「トレーニング」→「スタート編 - 実践」→「part 2」より

Set A	Set B	Set C	Set D	Set E	Set F
	17		18		19

①

②

③

④

⑤

⑥

「傾向と対策」→「傾向と対策 - 類似問題」→「part 1」および「part 2」より

part 1

①

②

③

④

⑤

⑥

part 2

1st	2nd	3rd	4th	5th	6th
	17		18		19

①

cheese

②

mustard

③

lettuce

④

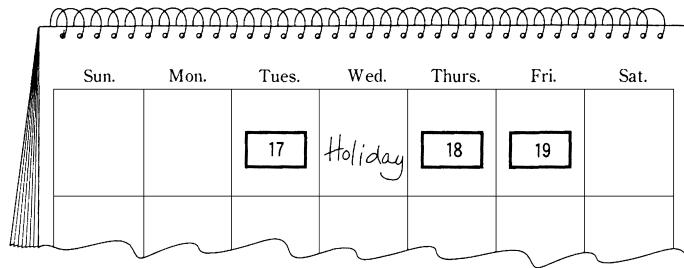
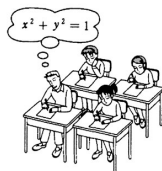
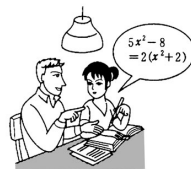
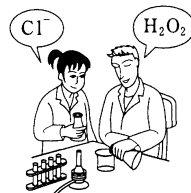
oil

⑤

onion

⑥

ham

「傾向と対策」→「傾向と対策 - 試行問題」より

古語辞典　国語・国文法用語解説

■　古文の読解学習に必要な国語用語および国文法（文語文法）用語を収めて解説した。
■　配列は五十音順に従った。
■　△印は、この用語解説中に見出し語として収めて解説してある項目。

	用語	解説
〔あ〕	天草版（あまくさばん）	キリシタン版の１つ。文禄（ぶんろく）・慶長（１５９２—１６１５）のころに、天草学林で刊行された本。宣教師の日本語学習書として使われ、当時のことば、特に、口語を知るうえで貴重な資料。「伊曾保（いそほ）物語」「平家物語」「ドチリナ・キリシタン」などがある。
〔い〕	イ音便（いおんびん）	→音便（おんびん）
	意志の助動詞（いしのじょどうし）	動作や状態の実現・中止について話し手（書き手）の意志を表す助動詞。文語では、△推量の助動詞のうち「む」「まし」「べし」「じ」「まじ」に、この用法がある。これらのうち、「まし」は疑問の語とともに用いられる場合で、意志といっても、その裏に実現不可能という気持ちが含まれ、「じ」「まじ」は打消の意志を表す。「いざ、いと心安き所にてのどかに聞こえむ（＝申シ上ゲヨウ）」〈源・夕顔〉「しやせまし（＝シタモノダロウカ）せずやあらまし（＝シナイデオイタモノダロウカ）」〈徒然・９８〉
	已然形（いぜんけい）	文語の△活用形の１つ。「すでに（已）そうなっている事態（然）を表す」ことから已然形という。係助詞「こそ」の結びに使われるほか、「書けど」「よけれども」「遠ければ」のように、助詞「ど」「ども」「ば」が付いて使われる。用法は、 （１）特定の付属語が付いて用いられる場合 ①助詞「ど」「ども」が付いて確定の逆接（…デアルケレドモ）の意を表す。「ははその色はうすけれど」〈古今・秋下〉「文（ふみ）を書きてやれども返りごともせず」〈竹取・貴公子たちの求婚〉 ②助詞「ば」が付いて確定の順接（…デアルカラ・…ナノデ）の意を表す。「春立てば」〈古今・春上〉「吉野（よしの）の山し近ければ」〈古今・冬〉 （２）単独に用いられる場合 ①係助詞「こそ」の結びとなる。「もののあはれは秋こそまされ」〈徒然・１９〉「遣（や）り水より煙（けぶり）の立つこそをかしけれ」〈徒然・１９〉➡本文「係り結び（かかりむすび）」 ②上代では、それだけで逆接や順接を表すこともある。「大舟を荒海（あるみ）にこぎ出弥舟（やふね）たけ（＝シキリニ舟ヲコグケレドモ）わが見し子らがまみは著（しる）しも」〈万・７・１２７０〉「家離（さか）りいます吾妹（わぎも）を停（とど）めかね山隠しつれ（＝山ガ隠シテシマッタノデ）心ど（＝シッカリシタ心）もなし」〈万・３・４７４〉

	一般条件 （いっぱんじょうけん）	→条件法（じょうけんほう）
	異本 （いほん）	同一の古典作品であっても、伝えられた本文の違いによって種々の相違のあることがある。その相違は、作者が初稿本を訂正した場合もあるが、多くは、転写の際の誤写や脱落、あるいは追加や書きかえなどによって生じたものである。これら本文に違いのある本を互いに「異本」という。たとえば「源氏物語」には、①青表紙本　②河内（かわち）本　③別本（①②以外のもの）の３類があり、「枕草子」にも、雑纂（ざつさん）形態の伝能因本、三巻本、類纂（るいさん）形態の堺（さかい）本、前田本など多くの異本がある。語り物では特に異本の生じる機会が多く、「平家物語」は２２類４４種の異本がある。
	いろは歌 （いろはうた）	→本文「いろは（伊呂波）」
	韻 （いん）	漢字の△字音（じおん）を分けて頭声と尾声とにするとき、その尾声を韻という。頭声の子音を除き去った部分で、ふつう１つか２つの母音より成るが、これに子音が付くものもある。韻の部分が同じものや似たものを同韻の字として、詩や律文の句尾に用いて音律を整える。これを△押韻（おういん）、または「韻をふむ」という。なお、韻を△四声（しせい）によって分け、同韻の字を分類して、元代以後、平声（ひょうしょう）３０、上声（じょうしょう）２９、去声（きょしょう）３０、入声（にっしょう）１７の１０６韻とし、今日も漢詩を作るときなどに用いる。
	隠語 （いんご）	仲間意識や秘密を守るために、自分たちの仲間だけに通用する特別な意味をもった語。たとえば「しょば（＝場所）」「しゃり（＝飯）」などの類。博徒（ばくと）・香具師（やし）・犯罪者などが多く用いる。商人が数字を符丁で言ったりするのも１種の隠語である。
〔う〕	ウ音便 （うおんびん）	→音便（おんびん）
	受身の助動詞 （うけみのじょどうし）	他から動作を受ける意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）に、この用法がある。上代には「ゆ」も用いた。「思はぬ人の衣（きぬ）に摺（す）らゆな（＝摺ラレルナ）」〈万・７・１３４２〉。これらの助動詞で表される受身の表現は、国語では生物が主語になることが多く、無生物が主語になることはまれであった。後者の場合を「非情の受身」とよぶことがある。また、国語の受身は、多く被害を受ける意を含み、これを「迷惑の受身」とよぶことがある。「かう討ち捨てられて」〈源・桐壺〉 なお、軍記物では、△使役の助動詞「す」「さす」を受身の箇所に用いることがある。「弓手（ゆんで）のひざ口を射させ、痛手なれば心静かに自害せん」〈平家・４〉などであるが、これはきわめて特殊な表現（受動的な表現をきらったもの）で、△武士詞（ぶしことば）といわれるものである。
	歌枕 （うたまくら）	和歌の中に詠まれ、親しまれた諸国の名所。香具山・逢坂山（おうさかやま）・鴫立沢（しぎたつさわ）・白河の関・竜田川など。多くは現地に臨まずに詠まれた。芭蕉（ばしょう）の「おくのほそ道」には、数々の歌枕をたずねたことが記されている。

付録

	打消の助動詞（うちけしのじょどうし）	否定の助動詞ともいう。文語には「ず」（口語には「ない」「ぬ（ん）」）がある。これに打消推量の「じ」「まじ」を加えることもある。「じ」は「む」の打消で、現代語の「ないだろう」に当たる。「まじ」は「べし」の打消で、現代語の「まい」に当たる。なお「まじ」が用いられるのは中古以降で、上代には「ましじ」が用いられた。「君が心は忘らゆましじ」〈万・２０・４５０６〉。また、この時代の「ゆくへを知らに」〈万・２・２０１〉の「に」も打消の助動詞として扱うことがある。「忘れせなふも」〈万・１４・３４３８〉「寝なへ子」〈万・１４・３５５０〉の「なふ（特殊型）」は東国で行われた打消の助動詞である。
〔え〕	婉曲表現（えんきょくひょうげん）	物事を述べる場合、事態を直接に表現することをさけて、やんわりとやわらげて表現すること。助動詞の「めり」は婉曲の表現に用いられることがあり、中古末期には例が多い。 また、文法的には、△推量の助動詞「む」「らむ」「けむ」などを用いて、婉曲に表現したり、命令の表現で、命令形を用いると強くなりすぎるというような場合に、推量の助動詞「む」を用いて、「とくこそ試みさせたまはめ（＝ハヤクオタメシニナルノガヨロシイデショウ）」〈源・若紫〉などのように「…したほうがよい」という意の勧誘表現をとったりするのもこの中に入る。
	延言（えんげん）	「語る→語らふ」「言ふ→言はく」「取る→取らす」のような現象を１音が延びて２音となったとみる江戸時代の文法用語。賀茂真淵（かものまぶち）が「語意考」で取り上げて以来、語釈・語源の説明などに広く用いられたが、現在は延言として説明することはしない。
〔お〕	押韻（おういん）	詩や韻文で、句の終わりに同じ△韻を用いて音律を整えることをいい、「韻をふむ」ともいう。漢詩の五言絶句では、承・結の２句に、七言絶句では、起・承・結の３句に韻をふむ。このように、語末の音をそろえることを「脚韻」といい、欧米の詩にも例が多い。これに対し、語頭の音をそろえることを「頭韻」といい、わが国の歌や韻文にも例が見える「よき人のよしとよく見てよしと言ひしよし野よく見よよき人よく見」〈万・１・２７〉
	奥書（おくがき）	→跋（ばつ）・本文「おくがき」
	送り仮名（おくりがな）	（１）漢字と仮名を用いて文を書くときに、漢字の読み方を明らかにするために、漢字の次に書き添える仮名。「書く」の「く」、「読む」の「む」の類。その表記の基準については、昭和４８年６月内閣告示（昭和５６年一部改正）「送り仮名の付け方」によるものが多い。 （２）漢字を訓読するときに、漢字の右下方（再読の文字には左下方）に添える仮名。助詞・助動詞・活用語尾などを、片仮名で示す。古く、漢字を本体にして「捨て仮名」ともいったが、今は「送り仮名」という。
	男手（おとこで）	→本文「をとこで」

	踊り字 （おどりじ）	同じ字の繰り返しを示す符号。仮名の「ゝ」「〱」、漢字の「々」「〻」がある。反復符号・繰り返し符号ともいう。たとえば「ちゝはゝ」「もろ〱」「堂々」「堂〻」など。「ゝ」「〻」は中国で漢字の反復に用いられ、「〱」は「ゝゝ」の連綿から生まれたもの、「々」は中国の「〻」を誤ったところからきた国字である。今日では、使用法が固定し、「ち々」「山〱」は誤りとする。「〻」も「屢〻（しばしば）」「稍〻（やや）」など特定の場合に用いる。
	折り句 （おりく）	→本文「をりく」
	音 （おん）	→字音（じおん）
	音節 （おんせつ）	音声の単位の１つ。国語で、音を細かに区切って発音するときに、いちばん小さい単位として意識するものをいう。たとえば「秋」はア〔a〕キ〔ki〕、「花」はハ〔ha〕ナ〔na〕の２つに切ることができる。この各々を音節という。〔a〕〔k〕〔i〕〔h〕〔n〕は、それぞれ△単音であるので、ア〔a〕は１単音で１音節、キ〔ki〕ハ〔ha〕ナ〔na〕は２単音で１音節を構成している。撥音（はつおん）「ン」、促音「ッ」も１音節であり、日本語ではこれを除いて音節の終わりには必ず母音が来、このような音節の特徴を開音節という。なお、わが国の仮名は、ふつう１つの音節をそのまま１字として書き表すので「音節文字」といい、ローマ字は、母音と子音を別々に書き表すので「単音文字」という。なお、日本語の音節数は１１０余といわれ、４０００から７０００の音節があるといわれる英語に比較してはるかに少ない。日本語の表音文字である仮名が音節文字であるのも、この音節数が比較的に少ないことと関連しているともいわれる。
	女手 （おんなで）	→本文「をんなで」
	音便 （おんびん）	発音の便宜上、語中・語尾の音節で、もとの音に変化が生じる現象をいう。音便には次の４種がある。 （１）イ音便…語中・語尾のキ・ギ・シ（まれに、リ・テ）の音がイの音に変化する現象。 活用しない語では「きさきのみや」→「きさいのみや」・「まして」→「まいて」など。 文語動詞では、カ行・ガ行・サ行の四段活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「いとかうしもおぼい（し）たるは、いかなるにか」〈落窪〉 文語形容詞では、連体形「―き」「―しき」の形が△体言または△終助詞「かな」などに連なるときに現れる。「さすがに若い（き）人にひかれて」〈更級〉 文語助動詞では「べし」「まじ」の連体形「べき」「まじき」が「べい」「まじい」となることがある。「名乗ることはあるまじい（き）ぞ」〈平家〉「はしたなくもあべい（あるべき）かな」〈源・朝顔〉

		イ音便が盛んに用いられるようになったのは中古以降で、形容詞連体形のイ音便形「—い」「—しい」は、中世、終止形としても用いられ、現在の口語形容詞の終止形・連体形となった。 （２）ウ音便…語中・語尾のク・グ・ヒ・ビ・ミなどの音がウの音に変化する現象。 活用しない語では、「かみべ（頭）」→「かうべ」・「まらびと（客人）」→「まらうと」など。 文語動詞では、ハ行・バ行・マ行の四段活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」などに連なるときに現れる。「ときどき通ひ給う（ひ）けるわかんどほり腹の君」〈落窪〉 文語形容詞では、連用形「—く」「—しく」の形が他の△用言や助詞「て」に連なるときに現れる。「ただ春宮（とうぐう）をぞ、いと恋しう（く）思ひ聞こえ給ふ」〈源・葵（あふひ）〉 ウ音便は上代にはあまり用いられず、中古以降盛んに用いられるようになった。 （３）撥（はつ）音便…語中・語尾のニ・ビ・ミ・リ・ルの音が撥音「ん」に変化する現象。 文語動詞では、バ行・マ行の四段活用、△ナ行変格活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「わかすすきに手きるきるつんだる（つみたる）菜を」〈土佐〉「朋友死んで（死にて）よらんところなし」〈仮名論語〉 △ラ行変格活用・文語形容詞・形容動詞（ナリ活用）の連体形が助動詞「なり」「めり」に連なるときに現れる。「木幡（こはた）山はいとおそろしかん（る）なる山ぞかし」〈源・浮舟〉「をかしと目とまることはあん（る）めれど」〈玉勝間〉 なお、撥音は、表記されなかったり、他の字で代用されたりしている場合がある。 （４）促（そく）音便…語中・語尾のキ・シ・チ・ヒ・リの音が促音（＝ツマル音）「っ」に変化する現象。 文語動詞では、タ行・ハ行・ラ行の四段活用、△ラ行変格活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「各（おのおの）弓を引きて箭（や）を放って（放ちて）馳（は）せ違（か）ふ」〈今昔〉 促音便は中古後期に広く行われるようになったが、その初期にすでに促音便があったと思われる例がある。ただし、促音を表す文字がなかったので、その表記はない。
〔か〕	会意 （かいい）	△六書（りくしょ）の１つ。今までにできあがっている漢字を２つ以上組み合わせて１つの字形を作り、特定の意味と音とを表すもの。たとえば「林」は木がたくさん茂っている場所、「炎」は火が盛んに燃えるさまを表している。会意は、△象形や△指事の構成方法を一歩進めたものといえる。➡六書（りくしょ）
	開音節 （かいおんせつ）	→音節（おんせつ）
	開合 （かいごう）	「開」は開音・開口音ともいい、口の開きの広い音、「合」は合音・合口音ともいい、口の開きの狭い音。古く、オ列長音に開音〔ɔː〕合音〔oː〕の２種があり、歴史的仮名遣いでいえば、オウ・コウなどは鎌倉時代から長音化し、室町時代末に合音〔oː〕となり、アウ・カウ・アフ・カフは、鎌倉時代にアオ・カオ、室町時代に開音〔ɔː〕となり、

付録

		その後近世初期までに合音〔oː〕となって、一本化した。
	回想の助動詞 （かいそうのじよどうし）	➡過去の助動詞（かこのじよどうし）
	返り点 （かえりてん）	漢文を訓読するとき、国語の語順に合うように、下から上に返って読むことを示す符号。返り点には、（1）レ点（レ）、（2）一二点（一、二、三…）、（3）上下点（上、下または上、中、下）、（4）甲乙点（甲、乙、丙…）、（5）天地点（天、地または天、地、人）があり、レ点で間に合わないときに、一二点、一二点で間に合わないときに上下点というように、用いる順序が決められている。レ点は1字だけ返る場合で、下の字の左肩に添え、その他の点は左下方に添える。2字の熟語に返る場合は、熟語の上の字の左下方に、3字の熟語に返る場合は、いちばん上の字の左下方に添える。
	係助詞 （かかりじよし）	➡係助詞（けいじよし）
	カ行変格活用 （かぎようへんかくかつよう）	動詞の活用の1つ。略してカ変という。活用形はイ・ウ・オの三段の音からなり、ウ段音に「る」「れ」、オ段音に「よ」の付いたものである。また、活用は語幹と語尾の区別がない。文語の命令形は中古までは「こちゐて来（こ）（＝コチラへ連レテコイ）」〈更級〉のように「こ」の形も用い、のちには「こよ」がもっぱら用いられた。活用する動詞は、文語では「来（く）」（口語では「来（く）る」）1語だけであるが、これが他の動詞と複合して「参りく」「まうでく」「出（い）でく」などのカ変の複合動詞をつくることがある。
	隠し題 （かくしだい）	➡本文「かくしだい」
	格助詞 （かくじよし）	△体言、または体言に準じる語（用言・助動詞の連体形）などに付いて、それの付いた文節が、それを受ける文節に対して、どういう資格関係（格）に立つかを示す助詞をいう。 文語の格助詞 （1）主語（主格）を示すもの…が・の 「雀（すずめ）の子を犬君（いぬき）が逃がしつる」〈源氏・若紫〉「うぐひすの鳴く」〈古今・春上〉 （2）連体修飾語（連体格）を示すもの…が・の 「梅が枝（＝梅ノ枝）に」〈古今・春上〉「この源氏の物語」〈更級〉 （3）連用修飾語（連用格）を示すもの…を・に・へ・と・より・から・にて・して 「鳥をうらやみ、霞（かすみ）をあはれび」〈古今・仮名序〉「あづまに行きけるに」〈伊勢・7〉 参考　上代は△連体修飾語を示すものとして「つ」「な」、△連用修飾語を示すものとして「ゆ」「ゆり」「よ」も用いられた。「沖つ風（＝沖ニ吹ク風）」〈万・15・3614〉「吾家（わぎへ）の方よ（＝ヨリ）」〈記・中〉「田子の浦ゆ（＝ヲ通ッテ）」〈万・3・321〉

	用語	解説
	確定 （かくてい）	→条件法（じようけんほう）
	確定条件 （かくていじようけん）	→条件法（じようけんほう）
	過去の助動詞 （かこのじよどうし）	過去を表す助動詞。文語では「き」「けり」（口語では「た」）がこれに属する。「き」は過去に存在し、現在は存在しなくなっている事実を表す場合（したがって、おのれの経験として語ることが多い）、「けり」は、過去にあった事実で、それが現在と何らかの関連をもっているということを述べるのに用いられる。「けり」が他から伝え聞いた過去の事実を回想する場合に用いられるのもそうした事情による。この「過去の助動詞」を「回想の助動詞」ということもある。それは、過去という「時」を表すというよりも、過去の事実を回想するという気持ちが強いという理由にもとづく。「鬼のやうなるもの出（い）で来て殺さむとしき」〈竹取・蓬莱の玉の枝〉「人目をもるる涙なりけり」〈続後撰・恋１〉
	仮借 （かしや）	△六書（りくしよ）の１つ。漢字そのものの意味内容とは関係なしに、その字の音を借りて別の物や事柄を表すもの。たとえば、「北」はもともと「にげる・そむく」の意であるが、「ホク」の音を借りて方角を表す意に転用する。また「革」は「かわ」の意であるが、「カク」の音を借りて「革新」「改革」というように「あらためる」意に用いる。「△万葉仮名」は、国語を写すために漢字を仮借的に使用したものである。➡六書（りくしよ）
	歌体 （かたい）	一首の歌は、５音・７音を基本単位として、いくつかの句に分かれる。その句の音数の配列の形体によって分類したものを「歌体」という。たとえば、「万葉集」では、短歌（５・７・５・７・７）・長歌（５・７・５・７・５・７……５・７・７）・旋頭歌（せどうか）（５・７・７・５・７・７）の３種があり、ほかに短歌に１句（７音）が加わって、仏足石歌体（５・７・５・７・７・７）というのもある。仏足石歌体は、奈良薬師寺の仏足石歌２１首が、この歌体であるところから名づけられたもの。「みあとつくる石の響きは天（あめ）に到（いた）り地（つち）さへ揺（ゆ）すれ父母（ちちはは）がために諸（もろひと）のために」〈歌謡〉。このほか、これらより古く、上代には、片歌（かたうた）（５・７・７）という歌体もあった。「はしけやし我家（わぎへ）の方（かた）よ雲居（くもゐ）たち来（く）も」〈記・中〉。中古以後になると、今様（いまよう）（７・５・７・５・７・５・７・５）などの諸体を生じた。「仏は常にいませども現（うつつ）ならぬぞあはれなる　人の音せぬ暁（あかつき）にほのかに夢に見え給ふ」〈梁塵秘抄〉
	片仮名 （かたかな）	漢字の字画を省略してできた△表音文字（「ハ」のように漢字「八」の全画からできたものもある）。漢文や仏典の訓読・注釈に際し、「△万葉仮名」の偏（へん）・旁（つくり）・冠・脚など、漢字の一部を用いて記すようになったのが初めで、中古の初期に、南都（＝奈良）の僧侶（そうりよ）たちによって用いられた。その後、一般に通用しはじめ、字体もまちまちであったが、しだいに統一された。片仮名はもともとが漢文の訓点であるため、漢文脈系統のものや注釈などに用いられた。

付録

	活用 （かつよう）	△用言・△助動詞などが、他の語への切れ続きのうえで語形が規則的・体系的に変化すること。たとえば「読む」という語は、助動詞「ず」に付くときには「読ま」、助動詞「けり」に付くときには「読み」、ふつうに言い切るときには「読む」というように変化する。この活用のあるものは、自立語では動詞・形容詞・形容動詞、付属語では助動詞である。 ➡活用形（かつようけい）・活用語尾（かつようごび）
	活用形 （かつようけい）	△用言・△助動詞などの語形変化の形。△未然形・△連用形・△終止形・△連体形・△已然（いぜん）形（口語文法では仮定形）・△命令形の 6 種類がある。なお、各活用形の名称は、その活用形のもついくつかの用法のうち、おもな用法をとって名づけたものである。したがって、終止形であっても「死ぬべし」のように、終止せずに、下に助動詞などの付く場合がある。また、すべての活用語が 6 種類の活用形全部をもつとはかぎらず、特に助動詞では未然形や連用形や命令形などを欠く場合も多い。活用形は、古く、各活用形が独自の意味をもったと考えられるが、口語などでは命令形がその活用形としての独自の意味をもつほかは、「書かない」「書けば」のように下に他の語が付いた形で意味がとらえられるようになる。
	活用語 （かつようご）	△活用のある単語をいう。△自立語では、△動詞・△形容詞・△形容動詞、△付属語では△助動詞。
	活用語尾 （かつようごび）	△用言の活用で、形の変わる部分をいう。単に「語尾」ということもある。活用語から△語幹を除いた部分。「読む」という語では「読ま・読み・読む・読む・読め・読め」と変わる。この「ま・み・む・む・め・め」を活用語尾という。国語では、△音節を単位として語形の変化を考えるのがふつうであるから、動詞などの中には語幹と活用語尾との区別がつけられないものもある。たとえば「見る」「来（く）」など。↔語幹
	仮定 （かてい）	→条件法（じょうけんほう）
	仮定条件 （かていじょうけん）	→条件法（じょうけんほう）
	仮名遣い （かなづかい）	仮名を用いて国語を書き表すうえの規則をいう。仮名遣いが問題とされるのは、同じ音に 2 種類以上の仮名の書き方があるとき、または同じ仮名に 2 種類以上の発音があるときである。たとえば、「顔」は「かほ（△歴史的仮名遣い）」「かお（現代仮名遣い）」の 2 通りがあり、「あ」は「仰（あふ）ぐ」の場合は「ア」、「桜花（あうくわ）」の場合は「オ」と発音するなどである。これらの問題が起こる原因は、表記が固定するのに対して、発音が変化するからで、前例の「顔」を「かほ」と書くのは、古くは「かお」でも「かを」でも書き表せない発音をもっていたからである。仮名遣いを表記方法によって分けたものに、鎌倉初期ごろの「△定家仮名遣い」、江戸初期、契沖（けいちゅう）の定めた「△歴史的仮名遣い」、昭和 6 1 年内閣告示「現代仮名遣い」がある。

	可能動詞 （かのうどうし）	可能の意を表す動詞。中世後期ごろに発生した。△四段活用動詞（口語では五段活用動詞）が同じ行の△下一段活用に転じて可能の意味をもつもので、「書く→書ける」、「読む→読める」の類。「これを中とは読めぬぞ」〈史記抄〉
	可能の助動詞 （かのうのじよどうし）	…できる、という意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）にこの用法がある。「冬はいかなる所にも住まる」〈徒然・５５〉「胸のみふたがりて、物なども見入れられず」〈源・少女（をとめ）〉。上代には「ゆ」「らゆ」も用いられた。「眠（い）の寝（ね）らえぬに」〈万・１５・３７００〉。これらの助動詞は中古ごろまで打消や反語とともに用いられるのがふつうであり、肯定文の中での用法が多く見られるようになるのは中世以降である。命令形はない。なお△推量の助動詞「べし」も可能の意を表す場合がある。「羽なければ空をも飛ぶべからず」〈方丈〉
	雅文 （がぶん）	古い時代（おもに平安時代）の文章およびその文体をまねて作った文章（△擬古文）をいう。江戸時代には古代の言語を正しく風雅なものと考え、後世の言語を卑俗なもの（俗文といった）とする考え方があって、それから出た名称。➡擬古文（ぎこぶん）
	上一段活用 （かみいちだんかつよう）	動詞活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のイ段の音と、それに「る」「れ」などが添加されるという形式をもつもの。文語ではこれに属する動詞は少なく、「着る」「似る」「煮る」「干（ひ）る」「嚔（ひ）る」「簸（ひ）る」「見る」「射る」「鋳（い）る」「沃（い）る」「居（ゐ）る」「率（ゐ）る」のほか、その複合語である「かへりみる」「おもんみる」「試みる」「ひきゐる」「用ゐる」など１０数語である。語幹と活用語尾とに分けられないものが多い。
	上二段活用 （かみにだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のイ段・ウ段の音と、それに「る」「れ」などが添加されるという形式をもつもの。たとえば「起く」「過ぐ」「落つ」など。この種の活用をする動詞は、口語ではほとんど上一段になるが、「恨む」のように、五段活用をするものがある。また、「生く」「帯ぶ」などは、古く四段にも活用した。
	カリ活用 （かりかつよう）	文語形容詞の活用で「—から」「—かり」「—かる」「—かれ」（ク活用）あるいは「—しから」「—しかり」「—しかる」「—しかれ」（シク活用）の系列を、特に取り出して「カリ活用」ということがある。これらは連用形「—く」「—しく」に動詞「あり」が付いたもので、本来の形容詞の補助活用とみられ、ふつう形容詞の活用の中に含めて考えられている。
	漢語 （かんご）	中国から入ってきた外来語、およびそれにならってわが国で作った音読する漢字の熟語をいう。「客」「剣」「平和」「勇気」などの類。「銭（ぜに）」「梅（うめ）」「絵（ゑ）」なども、中国から入った語といわれているが、その伝来も古く、外来語と考えられないくらいである。漢語は名詞として用いられるものが大部分であるが、動詞…「御覧ず」「装束（さうぞ）く」・形容詞…「怠々（たいだい）し」・形容動詞…「大事なり」「堂々たり」・副詞…「突然」「切（せつ）に」などとしても用いられる。

付録

	用語	解説
	感嘆文（かんたんぶん）	→感動文（かんどうぶん）
	感動詞（かんどうし）	品詞の１つ。△自立語で△活用がなく、主語・述語・修飾語・被修飾語にもならず、接続することもない。一般に文のはじめにあって、独立語として用いられる。感嘆詞・間投詞・終止詞ともいう。文語の感動詞は意味のうえから次の３種類に分けられる。 （１）感動を表すもの…ああ・あっぱれ・あな・あはや・あはれ・あら・さても・すは　など （２）呼びかけを表すもの…いかに・いざ・いさや・いで・なう・なうなう・やよ　など （３）応答を表すもの…いな・いなや・いや　など
	間投助詞（かんとうじよし）	種々の語に付いて、文節の終わりにあり、語勢・語調を整え、余情を添え、感動の意を表す助詞。これに属する文語の助詞は「や」「よ」「を」など。上代には、「ろ」「ゑ」なども用いられた。「少納言よ」〈枕・雪のいと高う降りたるを〉「あはれ、いと寒しや」〈源・夕顔〉「昨日今日とは思はざりしを」〈伊勢・１２５〉「よしゑやし浦はなくとも」〈万・２・１３１〉「伊香保ろに」〈万・１４・３４２８〉
	感動文（かんどうぶん）	文を、その性質上から分類した場合の１種で、感動の意味を表すもの。文のはじめに感動詞がくることが多く、また、切れる文節に感動の意味を示す△終助詞を用いることが多い。「あはれ、いと寒しや」〈源・夕顔〉「三笠（みかさ）の山に出でし月かも」〈古今・羇旅〉➡文の種類（ぶんのしゆるい）・平叙文（へいじよぶん）・疑問文（ぎもんぶん）・命令文（めいれいぶん）
	願望の助動詞（がんぼうのじよどうし）	→希望の助動詞（きぼうのじよどうし）
	刊本（かんぼん）	一般に印刷刊行された図書をいうが、狭義には、近世およびそれ以前の木活字本、銅活字本、整版本などをいう。➡版本（はんぼん）
	完了の助動詞（かんりようのじよどうし）	動作または作用が完結している意を表す助動詞。文語では「つ」「ぬ」「たり」「り」がこれに属する。完了の助動詞を時を表すものとする説があるが、時とは区別して考えられる。動作や作用自体に重点をおいて、それが完結する意を表す。 「陣の外に引き棄てつ」〈枕・うへにさぶらふ御猫は〉「つゆ寝ずなりぬ」〈枕・しのびたる所に〉「講師（かうじ）、物、酒おこせたり」〈土佐〉「顔はいと赤く摺（す）りなして立てり」〈源・若紫〉 「つ」「ぬ」の２語の区別については諸説があって定めにくいが、自分の積極的な意志による事態に「つ」、そうでない事態に「ぬ」を用いるという説が有力である。

付録

〔き〕	擬古文 （ぎこぶん）	江戸時代から明治初年にかけて、国学者などが主として平安時代の仮名文をまねて作った文章をいう。作者は、賀茂真淵（かものまぶち）・村田春海（はるみ）・橘千蔭（たちばなちかげ）・本居宣長（もとおりのりなが）・藤井高尚（たかなお）・清水浜臣（はまおみ）らが有名である。和文または△雅文ということもある。☛雅文（がぶん）
	起承転結 （きしようてんけつ）	漢詩の△絶句において、第１句を起句、第２句を承句、第３句を転句、第４句を結句（合句）といい、第１句はその述べるところを起こし、第２句はこれを承（う）け、第３句は変化させるために転じ、第４句は全体を結ぶというように作る。転じて、文章を作る場合などにもこの方法が応用されることがある。
	擬人法 （ぎじんほう）	人でないものを人になぞらえて表現する修辞法。無生物を生きもののように考えて「風叫ぶ」「浪（なみ）怒る」や、動植物を人になぞらえて「花笑ひ、鳥歌ふ」という類。古くから用いられ、表現の効果も大きい。
	擬声語 （ぎせいご）	物の音響や音声などをそのまままねて写した語。「とんとん」「かちかち」「ばたばた」「わんわん」「かあかあ」の類。こどもが犬を「わんわん」というように、事物の名や動作は、その音や声を写したことから起こったものが多く、「かり（雁）」「ほととぎす」はその鳴き声を、「すす(啜)る」はその音を模したものといわれる。
	擬態語 （ぎたいご）	事物の状態をある音によって象徴的に写した語。軍記物に多い。「信頼卿（のぶよりきよう）の上にむずと付き給ふ」〈平治〉「ほろほろと山吹散るか滝の音」〈笈の小文・芭蕉〉
	既定 （きてい）	➝条件法（じようけんほう）
	既定条件 （きていじようけん）	➝条件法（じようけんほう）
	希望の助動詞 （きぼうのじよどうし）	希望を表す助動詞。願望の助動詞ともいう。文語では「まほし」「たし」（口語は「たい」）がこれに属する。「まほし」は上代に使われた「まくほし」が転じたものとされ、中古・中世に用いられた。「くはしく御有り様も奏し侍らまほしきを」〈源・桐壺〉。「たし」は中古末期に現れ、中世には「まほし」に代わって用いられるようになった。「家にありたき木は松・桜。松は五葉もよし。花はひとへなる、よし」〈徒然・１３９〉
	疑問文 （ぎもんぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、疑問または反語の意味を表すもの。文中に疑問・反語を表す名詞・副詞・助詞「や」「か」などが用いられ、切れる文節が「や」「か」などで終わることが多い。「雲のいづこに月やどるらむ（疑問）」〈古今・夏〉「月やあらぬ春や昔の春ならぬ（反語）」〈古今・恋５〉☛文の種類（ぶんのしゆるい）・平叙文（へいじよぶん）・命令文（めいれいぶん）・感動文（かんどうぶん）
	脚韻 （きやくいん）	➝押韻（おういん）
	逆接 （ぎやくせつ）	➝接続（せつぞく）

付録

	逆態接続（ぎやくたいせつぞく）	→接続（せつぞく）
	旧仮名遣い（きゆうかなづかい）	→歴史的仮名遣い（れきしてきかなづかい）
	校合（きょうごう）	△写本や△刊本において、他の写本や△流布本（るふぼん）・△異本を対校（＝比べ正スコト）して正しい本文を求める作業。この作業には、諸本の相違した箇所のみを取りあげるものから、字形・行数・文字の加除に及ぶ詳細なものまである。その成果の一部または全部を示した本を「校本（こうほん）」、校訂者がもっとも原本に近いとして示す形を「定本」という。→定本（ていほん）
	去声（きよしょう）	→四声（しせい）
〔く〕	ク活用（くかつよう）	文語形容詞の活用の１つ。連用形の語尾が「…く」の形をとるもの。たとえば「よし」「おもしろし」「めでたし」「遠し」などがこれに属する。「〈から〉・く〈かり〉・し・き〈かる〉・けれ・〈かれ〉」（〈　〉内はこの系列から特に取り出してカリ活用とよぶこともある）と活用する。なお、未然形に「く」の形を認める説もある。➡カリ活用（かりかつよう）・シク活用（しくかつよう）
	句切れ（くぎれ）	短歌を５・７・５・７・７の５句に分けて、第１句で切れる場合を「初句切れ」、第２句で切れる場合を「２句切れ」というようによぶ。２句切れ・４句切れは△五七調といい、万葉集などに多くみられ、３句切れは△七五調といい、新古今集などに多い。なお、連歌・俳諧（はいかい）でも△切れ字を用いて「句切れ」という語を使用することがある。初句切れ「悔（くや）しかも／かく知らませばあをによし国内（くぬち）ことごと見せましものを」〈万・５・８０１〉。２句切れ「わが背子はいづく行くらむ／奥つ藻の隠（なばり）の山を今日か越ゆらむ」〈万・１・４３〉。３句切れ「見渡せば花も紅葉もなかりけり／浦のとまやの秋の夕暮れ」〈新古今・秋上〉。２句切れ・４句切れ「春過ぎて夏来たるらし／白栲（しろたへ）の衣ほしたり／天の香具山」〈万・１・２８〉
	ク語法（くごほう）	「言はく」「恋ふらく」「恋しけく」のように、語尾が「く」になって体言のように用いられる活用語の一用法。たとえば「語らく」「老ゆらく」「為（す）らく」「来（く）らく」などのように動詞に付き、「寒けく」「悲しけく」などのように形容詞に付き、「（有ら）なく」「（有り）けらく」などのように助動詞に付く。これらの用法について、従来から諸説があったが、接続がまちまちのために説明しにくかった。そこで、これを統一的に説明するために、「―aku」という語を考え、この語がそれぞれの連体形に付いてできたものであるとする、古くからの説が近年有力になった。たとえば、語らくkataru（連体形）＋aku→katar aku→kataraku　ただ、この考えには、「―aku」という語が単独で用いられた例がない点、△過去の助動詞「き」の連体形「し」に接続した場合、たとえば「言ひしく」などの「―しく」について例外として考えなければならない点など、問題がある。

付録

	語	解説
	屈折語 （くっせつご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として屈折（inflexion）の形態をもっている場合で、印欧語族、ハム・セム語族の諸言語が代表例。屈折とは、ある単語がその語形の一部を変化し、これによって文中における他の語に対する文法的関係を示す方法である。➡膠着語（こうちゃくご）・孤立語（こりつご）
	句点 （くてん）	→句読点（くとうてん）
	句読点 （くとうてん）	文の切れ目に付けるくぎり符号。元来、句点「。（まる・しろまる）」読点「、（てん）」から出た名称で、ふつうには「。」と「、」をいうが、そのほか「，（コンマ）」「．（ピリオド）」「・（なか点・くろまる）」「　」（かぎ）『　』（ふたえかぎ）（　）（まるがっこ）〔　〕（かくがっこ）などを含める場合もある。句読点の古い例は中古初期の点本（漢文に訓点を付けた本）に見えるが、しだいに仮名文に用いられるようになった。
	廓詞 （くるわことば）	江戸時代、遊里で遊女などが使った遊里独特のことば。江戸時代初期に京都の島原で使いはじめられ、のち江戸吉原にも伝わり、著名となった。発生の理由は、客の貴賤（きせん）上下、出身地の違いなどから、その平等性を考慮したものと思われる。「ありんす（＝アリマス）」「わちき（＝ワタシ）」「ぬし（＝オマエサン）」など。
	訓 （くん）	→字訓（じくん）
	訓点語 （くんてんご）	漢文を訓読した言語。△訓点によって書かれているもの、漢文を読み下したものに現れている言語。漢語が多く、漢文にひかれた特殊な語法がある。会話文・引用文が△地（じ）の文と同性質で、敬語も少ない。和文に用いられない古語や独特の語彙（ごい）がある。
	訓読 （くんどく）	漢文を国語の語法に従って逐語的に訳読すること。音のまま読む漢字も、訓で読む漢字もあるが、文全体は国語の語序に従って読む。したがって、漢文と国文とでは語序が異なるので、反読（返読・倒読）が起こり、また同一の漢字を２回読む△再読とか、訓読しない置き字などということが起こる。

付録

〔け〕	係結 （けいけつ）	➡本文「係り結び（かかりむすび）」
	敬語 （けいご）	聞き手（読み手）や話の中の人物に対する敬意を表す特別の語や言い方。ふつう、話し手（書き手）が、話の中の人物に関して敬意を表す△尊敬語、動作する人を低めるなどして、その動作の相手を高める△謙譲語（または謙遜（けんそん）語）、話しぶりを丁寧にする△丁寧語の3種類に分類する。「何事をかのたまは（尊敬）む事は承ら（謙譲）ざらむ」〈竹取・貴公子たちの求婚〉「夜ふけ侍り（丁寧）ぬべし」〈源・桐壺〉 ➡尊敬語（そんけいご）・謙譲語（けんじようご）・丁寧語（ていねいご）
	敬語動詞 （けいごどうし）	敬語の意味（尊敬・謙譲・丁寧）をあわせもつ動詞。 （1）尊敬語〔文語〕ます・います・たまふ・おはす・おはします・おぼす・のたまふ 〔口語〕いらっしゃる・なさる・くださる （2）謙譲語〔文語〕たまはる・うけたまはる・つかまつる・奉る・参る・まうづ・まかる・申す・聞こゆ 〔口語〕さしあげる・いただく（＝モラウ・食ウ・飲ム） （3）丁寧語〔文語〕侍り・候（さぶら）ふ 〔口語〕ございます・たべる・いただく（＝食ウ）
	形式名詞 （けいしきめいし）	△普通名詞のうち、意味のうえからいって名詞としての実質を備えず、名詞としての一般的形式しかもっていないもの。そのまま単独で用いることはなく、必ず修飾する語を必要とする。「親のため、妻子のためには恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり」〈徒然・１４２〉 ↔実質名詞
	係助詞 （けいじよし）	種々の語に付いて、助詞を含む文節に強意・疑問などの意味を添え、それを受ける文節に一定の制約を加える助詞。文語では「は」「も」「ぞ」「なむ」「や」「か」「こそ」がこれに属する。「は」「も」の結びは終止形であるから、他の係助詞のように形態上から結びを制約することはないが、意味上からの制約がある。「ぞ」「なむ」「や」「か」は連体形で結び、「こそ」は已然形で結ぶ。➡本文「係り結び（かかりむすび）」
	形声 （けいせい）	△六書（りくしよ）の1つ。意味を表す漢字と、音を示す漢字とを組み合わせ、新しい意味を表すように作られた漢字をいう。たとえば△象形文字の「水」は、「みず」という広い意味をもつが、その意味を限定して水に関係するある事物を示すために、「水（＝氵）」に、それぞれ別個の音を示す漢字をそえて別の漢字をつくる。「汁（じふ）」は「十（じふ）」が音を表し「しる」の意。「汗（かん）」は「干（かん）」が音を表し、皮膚から出る水「あせ」の意。「諧声（かいせい）」ともいう。 ➡六書（りくしよ）

付録

	敬体 （けいたい）	口語の文体を、おもに指定（断定）の表現に現れる特徴から、常体（—だ体・—である体）・敬体（—です体・—でございます体・—であります体）の２つに分けることがある。敬体は、特に丁寧語を用いた口語の文体で、動詞には「ます」が付くのがふつうである。一般に、話しことばには敬体が多く、書きことばには常体が多い。
	形容詞 （けいようし）	品詞の１つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾が、文語では「し」、口語では「い」になる△用言。物事の性質・状態を表す。活用の種類としては、ク活用（から・くかり・し・きかる・けれ・かれ）・シク活用（しから・しく／しかり・し・しき／しかる・しけれ・しかれ）の２つがある。形容詞の語幹（シク活用は終止形）は「あなおもしろ」のように、単独で用いられ、また「あやしのわざ」のように、助詞「の」を伴って用いられることがある。上代には、語幹（シク活用は終止形）に「み」をつけて、原因・理由を表す用法がある。「都を遠み（＝都ガ遠イノデ）」〈万・１・５１〉「君を愛（うつく）しみ（＝君ガナツカシイノデ）」〈万・４・５６９〉。また、下に「さ」「み」「け」「げ」などを伴って名詞となる場合がある。「暑さに乱れたまへる御有り様を」〈源・帚木（ははきぎ）〉。なお、上代には未然形・已然形に「—け」「—しけ」という形があった。「明けむあしたに消（け）なば惜しけむ」〈万・８・１６５０〉「奈良の大路（おほち）は行きよけど」〈万・１５・３７５０〉。日本語の形容詞は「海青し」のように、それだけで述語になれるという特徴がある。
	形容詞型活用の助動詞 （けいようしがたかつようのじょどうし）	活用のしかたが形容詞に準じる助動詞。文語では、①ク活用型…たし・べし・ごとし　②シク活用型…まほし・まじ（上代は、ましじ・らし）がこれに属する。ただし、活用形は形容詞とまったく同じというのではなく、その活用形のいくつかを欠いているものがある。
	形容動詞 （けいようどうし）	品詞の１つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾が、文語では「なり」「たり」、口語では「だ」となる△用言。物事の性質・状態を表す。文語では、ナリ活用（なら・なりに・なり・なる・なれ・なれ）・タリ活用（たら・たりと・たり・たる・たれ・たれ）の２種類がある。 元来、形容動詞は「静かにあり→静かなり」「堂々とあり→堂々たり」のように、連用形の１つの形としている「—に」「—と」に動詞「あり」が付いたもので、「静かに」「堂々と」だけでは種々の意味（たとえば、打消・推量など）を表すことができないので、「あり」を付けて動詞のように働かせようとしたものである。なお、△タリ活用の語幹は漢語が多い。 形容動詞の語幹は「波静か」のように単独で用いられる。また、下に助詞「の」を伴って用いられることがある。「あはれの鳥と言はぬ時なし」〈万・１８・４１１３〉。接尾語「さ」を伴って名詞ともなる。「しづかさや岩にしみ入る蝉（せみ）の声」〈おくのほそ道・立石寺・芭蕉〉 形容動詞は活用のしかたが動詞に近く、状態性の意味を表し、連用形が副詞法になることが形容詞に近いという、動詞と形容詞との中間の性格の語である。

付録

	形容動詞型活用の助動詞 （けいようどうしがたかつようのじょどうし）	活用のしかたが△形容動詞に準じる助動詞。文語では①ナリ活用型…なり（＝断定）・べらなり　②タリ活用型…たり（＝断定）がこれに属する。
	謙譲語 （けんじょうご）	△敬語の１種。動作する人に関することを謙遜（けんそん）していうことによって、動作を受ける人への敬意を表す言い方。謙遜語とも。文語では、 （１）接頭語…拝—（読）・愚—（見） （２）代名詞…まろ・わらは （３）動詞…聞こゆ（＝申シアゲル）・承る（＝ウカガウ）・奉る（＝サシアゲル）・賜る（＝イタダク）・申す（＝申シアゲル）・まかづ（＝退出スル）・参る・まうづ（＝参上スル・ウカガウ）・候（さぶら）ふ（＝伺候スル） （４）△補助動詞…聞こゆ・奉る・申す・給ふ（下二段活用）・まつる・参らす　など。 なお、文語動詞では、ただ、動作を受ける人への敬意を表すために使われることが多い。
	謙遜語 （けんそんご）	→謙譲語（けんじょうご）
〔こ〕	語彙 （ごい）	ある範囲の単語の集まりを総体的にさしていう。集まりを形づくる個々の単語を直接的にさすのではない。アイヌ語の語彙といえば、アイヌ語に用いられる単語の総体をさし、近松の語彙といえば、近松の作品に現れた単語の総体をさす。したがって「『夕波千鳥』は柿本人麻呂の語彙である」などというのは適当ではない。
	口語 （こうご）	もともとのことばの意味では話しことばをいい、現代語の話しことばと、それにもとづく書きことば（＝口語文）とを合わせてもいう。 ↔ 文語
	合成語 （ごうせいご）	→複合語（ふくごうご）
	膠着語 （こうちゃくご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として膠着（agglutination）の形態をもっているもので、日本語・トルコ語、その他ウラルアルタイ語族の諸言語がそれであるといわれる。膠着とは、単語の前後に、意味があっても独立しない辞を連結してその単語の意味を修飾したり、文中の他の単語に対する文法的関係を示したりする方法である。➡屈折語（くっせつご）・孤立語（こりつご）

付録

	呼応 （こおう）	１つの文の中で、前にくるある特定の語によって、これを受ける語が一定の言い方をする現象。副詞の呼応をさしていうことが多い。すなわち△叙述の副詞が前に来るときは、それに応じる語があとに要求される。 （１）打消の語を要求するもの…決して・絶えて・いさ・つゆ・え。「人はいさ心も知らず」〈古今・春上〉 （２）禁止の語を要求するもの…ゆめ・断じて・決して。「ゆめ心おきたまふな」〈源・若菜下〉 （３）「べし」を要求するもの…すべからく・まさに。「すべからくまづその心づかひを修行すべし（＝当然）」〈徒然・２１７〉 ほかに願望・比況・推量・仮定の語を要求するものなどがある。なお、呼応に係り結びの関係を含める場合もある。 ➡ 叙述の副詞（じょじゅつのふくし）
	古活字本 （こかつじぼん）	文禄２（１５９３）年以降、慶安（１６４８～１６５２）年間ごろまでに、活字で印刷刊行された書物をいう。慶長勅版・伏見版・嵯峨本（さがぼん）などが有名であるが、広く民間でも行われていた。銅活字本は少なく、ほとんどが木活字本。江戸時代末期の木活字本に対する語。
	語幹 （ごかん）	△活用語で、活用語尾を除いた、形の変化しない部分をいう。たとえば「読む」の「読（よ）」、「高し」の「高（たか）」、「静かなり」の「静か」など。また「見る」「得（う）」「来（く）」「す」などのように語全体が変化するため、活用語尾との区別ができないものもある。↔ 語尾
	語根 （ごこん）	語構成要素の１つで、それだけでは単独に用いられない、また、これ以上分解することのできない単語の基本的意味をもつもの。「ほのめく」「ほのかに」「ほの暗い」「ほのぼの」の「ほの」、「しづかに」「しづ心」「しづしづ」の「しづ」など。 語根は、「ほのめく」のように△接辞と合したり、「ほのぼの」のように、それ自身重なったり、「ほのぐらし」のように他の単語と合したりして単語を作る。語根と接頭語を比較すると、接頭語がそれの付く語に単に付属的な意味を加えるのに対して、語根は、それの付く語の中心となる意味を表しているところが異なる。
	五七調 （ごしちちょう）	わが国の詩歌は、５音・７音を音数律の基本単位として、その反復・配列によって構成されることが多い。五七調は、上５音、下７音の結合から成る調子で、上軽く、下重く、そのために安定感があって、典雅・荘重なリズムを形成する。古く万葉集の長歌に多く見られたが、古今集を経て新古今集の時代になると、△七五調が盛んとなり、五七調は衰えた。長歌の場合は５音・７音の反復でそのまま五七調であるが、短歌では△２句切れや４句切れになる場合を五七調とよぶ。五七調は和歌以外の詩歌にも用いられ、特に明治以後は詩のスタイルの一体として用いられている。

付録

	五十音図 （ごじゅうおんず）	仮名を、縦の行（ぎょう）に△子音、横の列に△母音をそろえて配列した図をいう。 わ　ら　や　ま　は　な　た　さ　か　あ ゐ　り　い　み　ひ　に　ち　し　き　い う　る　ゆ　む　ふ　ぬ　つ　す　く　う ゑ　れ　え　め　へ　ね　て　せ　け　え を　ろ　よ　も　ほ　の　と　そ　こ　お 縦の行は、それぞれ最初のかなによって、ア行・カ行などとよび、横の列は、ア段・イ段などとよぶ。五十音図は国語の音節のすべてを示しているものではない。たとえば、△濁音・△半濁音・△拗（よう）音・△促（そく）音・△撥（はつ）音などがない。しかし、代表的な音節はほぼ集められており、しかもその配列が音節相互の関係を明らかにしているので、古くから音の転換・変化、語源の解釈、仮名遣い、△活用などに用いられている。現在では、仮名の字母表としても用いられ、「いろは」やアルファベットの代わりに、辞書・索引・名簿などにおける見出し語の配列の基準として使われている。 なお、この図の起源については諸説があるが、中古中期ごろにはすでに成立していたと考えられる。ただ古くは配列の順序が今と違っているものがあるなどさまざまであり一定しない。
	詞書 （ことばがき）	→本文「ことばがき」
	語尾 （ごび）	→活用語尾（かつようごび）
	固有名詞 （こゆうめいし）	△名詞のうちで、ある１つの事物に限って用いられるもの。人名、地名、書名などがそれである。たとえば、「芭蕉（ばしょう）」「奈良」「万葉集」。これには、「東京駅」「京都市長」のように複合したものもある。
	孤立語 （こりつご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として孤立（isolation）の形で文を構成する習慣があるもので、古代中国語がその例としてあげられる。孤立とは、単語が連なって文を構成するとき、各単語が語尾変化とかその他文法的関係を示す変化をまったくもたないで連結される形態をいう。

付録

〔さ〕	最高敬語（さいこうけいご）	平安時代に、帝（みかど）や后（きさき）に対する尊敬語として、「たまふ」に尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」を併せた「せたまふ」「させたまふ」「しめたまふ」を用いることが多いので、これを他の場合と区別して最高敬語といっている。このほか、尊敬語の「おはします」「のたまはす」「御覧ぜらる」、謙譲語の「奏す」「啓す」「きこえさす」などもあり、これらも含めていう場合もある。
	再読（さいどく）	漢文の訓読において、同じ字を2回読むこと。たとえば、「将」は「まさに…す」、「宜」は「よろしく…べし」、「須」は「すべからく…べし」、「当」は「まさに…べし」、「猶」は「なほ…ごとし」、「未」は「いまだ…ず」など。これらは国文法にいう△叙述（陳述）の副詞の、呼応という語法である。
	サ行変格活用（さぎょうへんかくかつよう）	動詞活用の1つ。略してサ変という。活用は（せ・し・す・する・すれ・せよ）。このように活用する動詞は「す」と「おはす」の2語（口語では「する」だけ）である。ただし「す」は他のいろいろな語と合して多くの複合動詞をつくる。 ➡サ変複合動詞（さへんふくごうどうし） 参考　「おはす」は、四段活用と下二段活用との両様の活用があったとして、サ行変格活用と見ない説もあるが、その根拠となる用例については問題があり、サ変と見るのが妥当であろう。
	サ変複合動詞（さへんふくごうどうし）	サ行変格活用動詞（文語では「す」、口語では「する」）が、国語の名詞・漢語、その他に付いて、複合動詞となったもの。サ変動詞の「す」だけでは動作を漠然と表すだけであるから、その上に実質を示す語を添えたもので、その数は非常に多い。一例を示すと、 （1）国語の名詞と複合したもの…旅す・やどりす・もみぢす・かうぶりす・心す （2）漢語名詞と複合したもの…奏す・命ず・嘆ず・読経（どきやう）す・保存す （3）形容詞の音便形と複合したもの…全うす・久しうす・かたじけなうす （4）形容動詞と複合したもの…新たにす・専（もつぱ）らにす （5）形容詞の語幹に「み」の付いた名詞と複合したもの…甘んず（甘みす）・安んず（安みす）
	三句切れ（さんくぎれ）	→句切れ（くぎれ）

〔し〕

子音（しいん）

△母音に対する名称で、気息の通る路（みち）を、一時閉鎖するか、または狭まりをつくることによって生じる音。子音は、発音される場所によって唇内音・舌内音・喉内（こうない）音の3種に分けられ、発音される方法によって破裂音・摩擦音・破擦音・鼻音・流音の5種に分けられる。なお、声帯の振動によって発音するものを有声音、振動によらないで発音するものを無声音というが、これらを総合して、国語にふつう用いられる子音を表にすると次のようになる。↔母音（ぼいん）

		唇内音	舌内音	喉内音
破裂音	無声音	p	t	k
	有声音	b	d	g
摩擦音	無声音	F	s ʃ	h
	有声音	w	z ʒ j	
破擦音	無声音		ts tʃ	
	有声音		dz dʒ	
鼻音	有声音	m	n	ŋ N
流音	有声音		r	

使役の助動詞（しえきのじよどうし）

他に動作・作用をさせるという意味を表す助動詞。文語では、「す」「さす」「しむ」がこれに属する。「夜ごとに人をすゑて守らせければ」〈伊勢・5〉「名を三室戸（みむろど）斎部（いむべ）の秋田を呼びてつけさす」〈竹取・かぐや姫の生ひ立ち〉「生（しやう）を苦しめて目を喜ばしむるは、桀（けつ）・肘（ちう）が心なり」〈徒然・121〉
なお、「す」「さす」「しむ」が尊敬の意を表すことがあるが、その場合は常に「給ふ」「おはします」「らる」などの尊敬を表す語とともに用いられるときで、単独の場合は必ず使役の意である。

字音（じおん）

単に、音（おん）ともいう。中国から伝わった発音に従った漢字の読み方で、呉音（ごおん）・漢音・唐音（または宋音（そうおん））の順に渡来。

（1）呉音…行（ぎやう）・京（きやう）・清（しやう）・和（わ）・火（くわ）中国南方の呉地方の発音。わが国に最初に入った音で、上代に用いられた。仏教関係の語などに多い。

（2）漢音…行（かう）・京（けい）・清（せい）・和（くわ）・火（くわ）隋（ずい）・唐（とう）の音をいう。上代以後、正音として伝えられ、漢文や仏典を読む場合に主として用いられた。

（3）唐音（宋音）…行（あん）・京（きん）・清（しん）・和（を）・火（こ）中古中期以後、近世にかけて、宋・明（みん）・清（しん）の音が中国の商人や、中国より帰国した留学僧（特に禅宗関係）によって伝えられた。

付録

	用語	解説
	字音仮名遣い（じおんかなづかい）	漢字の字音を仮名で表記する場合のきまり。△歴史的仮名遣いの立場では「公(こう)・甲(かふ)・好(かう)・光(くわう)」「東(とう)・答(たふ)・唐(たう)」と書き、現代的仮名遣いの立場では、それぞれ「こう」「とう」と書き表す。今日は現代仮名遣いによる字音仮名遣いが行われている。
	シク活用（しくかつよう）	文語形容詞の活用の１つ。連用形の語尾が「…しく」の形をとるもの。「うつくし」「恋し」などがこれに属する。「〈しから〉・しく〈しかり〉・し・しき〈しかる〉・しけれ・〈しかれ〉」（〈　〉内はこの系列から特に取り出してカリ活用とよぶこともある）と活用する。なお、未然形に「しく」の形を認める説もある。 ➡カリ活用（かりかつよう）・ク活用（くかつよう）
	字訓（じくん）	単に、訓（くん）ともいう。漢字に対する国語の訳語が、その漢字の読み方として固定したもの。たとえば「中」を「なか」「うち」「あたる」、「国」を「くに」と読む類。
	自己敬語（じこけいご）	自敬表現ともいう。自分の動作・事柄・所有に尊敬語を用いること。実際に高貴の人は自分に尊敬語を用いたものであるともいい、また高貴の人のことばを、伝え手や作者の立場から、尊敬語に言い換えたものであるともいう。 「〔大葉子（おおばこ）が自ら詠んだ歌〕大葉子は領巾（ひれ）振らすも」〈欽明紀〉「〔帝（みかど）が、自身の動作を〕顔かたちよしときこしめして、御使ひをたびしかど」〈竹取・御門の求婚〉「〔後白河法皇が、自身の動作を〕御行水をめさばやとおぼしめすはいかがせんずる」〈平家・３・法皇被流〉
	指事（しじ）	△六書（りくしょ）の１つ。象形文字のように、絵画的にその形を表せない事柄を、点または線などを用いたり、象形文字のある部分に符号を付けたりして示すもの。たとえば、「一・二・三」は、線によってその数を表す。「上」は、線の上に点を打って、ある物または基準の上に物があることを示す。「本」は、象形文字と組み合って、「木」の下にしるしを付けて、木の根もとの意を表す。➡六書（りくしょ）
	四声（しせい）	漢字音の高低法。平声（ひょうしょう）・上声（じょうしょう）・去声（きょしょう）・入声（にっしょう）の４種。平声を除いた他の３声を仄声（そくせい）という。平声は平らな調子、上声ははじめが低く語尾が高くなる調子、去声ははじめが高く語尾が低くなる調子、入声はｐ・ｔ・ｋの△子音などで終わる急な調子。平声と仄声を合わせて平仄（ひょうそく）という。
	七五調（しちごちょう）	わが国の詩歌は、５音・７音を音数律の基本単位として、その反復・配列によって構成されることが多い。七五調は、上７音、下５音の結合から成る調子で、上重く、下軽く、そのために不安定な感じがある反面、軽妙流暢（りゅうちょう）なリズムを形成する。和歌においては、古今集から多くなり、新古今集において最も多く用いられた。短歌における七五調とは、△３句切れになる場合をいう。なお、七五調は和歌以外の種々の歌謡、散文の△道行（みちゆき）文などにも用いられ、明治以後は詩のスタイルの一体として広く盛んに用いられている。

	実質名詞 （じつしつめいし）	△普通名詞のうち、具体的にしても抽象的にしても、一定の実質概念のある名詞をいう。たとえば「ことすでに重畳（ちようでふ）せり（＝事件ガスデニ重ナッテイル）」〈平家・１・殿上闇討〉は、実質を備えているので実質名詞である。これに対して、「ただ今の一念、むなしく過ぐること（＝過ギテ行クコト）を惜しむべし」〈徒然・１０８〉は、実質を備えていないので形式名詞とする。↔形式名詞
	指定の助動詞 （していのじよどうし）	→断定の助動詞（だんていのじよどうし）
	自動詞 （じどうし）	動作や作用をそれ自身だけのはたらきとして表す動詞。「水流る（ラ下二）」「湯沸く（カ四）」などで、「水を流す（サ四）」「湯を沸かす（サ四）」のように、一般に「…を…する」という形をとる他動詞と区別される。しかし、自動詞にも他動詞のように「…を」という言い方をする場合もある。「音（ね）を泣く」「寝（い）を寝（ぬ）」。古く、日本語の自動詞は、その動詞の表す事態が当事者と何のかかわりもなく起きたことを述べる場合に用いたとされ、西欧語の自動詞とはその用法が違っていたとされる。↔他動詞
	地の文 （じのぶん）	物語・小説などで、会話でない叙述の部分の文章をいう。ふつう、書きことばがおもに用いられるところから、会話文とは語彙（ごい）・語法が異なることが多いが、平安時代の仮名文学では、会話文と地の文とで語彙・語法の差が少ない。そのため、この時代は言文一致の時代ともいわれる。
	自発の助動詞 （じはつのじよどうし）	動作・作用が自然に起こる意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）に、この用法がある。上代には「ゆ」も用いられた。「京思ひいでらる」〈源・総角（あげまき）〉「筆を執れば物書かれ」〈徒然・１５７〉「都の手ぶり忘らえにけり」〈万・５・８８４〉「瓜（うり）食（は）めば子ども思ほゆ栗（くり）食めばまして偲（しぬ）はゆ」〈万・５・８０６〉＝自然可能の助動詞。
	下一段活用 （しもいちだんかつよう）	動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のうち「エ」段一段に変化するもの。これに属する動詞は、口語では「得（え）る」「聞こえる」「受ける」など多いが、文語では「蹴（け）る」１語である。「蹴る」は上代にはワ行下二段に活用したようである。「蹴散、これをくゑはららかすと云（い）ふ」〈神代紀〉
	下二段活用 （しもにだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図の「ウ」「エ」二段に変化するもの。「得（う）」「投ぐ」「出（い）づ」「述ぶ」「流る」「聞こゆ」「植う」など。これらは、口語ではすべて下一段活用になる。また、下二段に活用する語で、古く△四段活用であったものがある。「隠る」「恐る」「忘る」「乱る」「埋（うづ）む」「分く」など。
	写本 （しやほん）	筆写された本。写本には著者の「自筆本」と、それを転写した「転写本」とがあり、転写本には、さらに文字を写しただけの「謄写本」と、筆跡まで模した「模写本」とがある。また、模写本は、原本を傍らに置いてこれを模した「臨模本」と、薄く透明な紙をのせてなぞった「影写本」とに分かれる。わが国の写本は、古く仏書・漢籍の筆写に始まり、しだいに史書・歌集・物語などに及んだ。

付録

	終止形 (しゅうしけい)	△活用形の1つ。文の終止に使われる。文語では文を終止するほか、「らむ」「めり」「べし」などの助動詞や、「とも」「や」「な」などの助詞に連なる用法がある。「しづ心なく花の散るらむ」〈古今・春下〉「今更に山へ帰るなほととぎす」〈古今・夏〉。活用形のうち、いちばんもとになる形と考えられて、「基本形」「基本の形」ともいわれる。
	終止法 (しゅうしほう)	単語が言い切りの用法に立つことをいう。この場合、品詞や語形に一定の制約がある。常に終止法に立つ品詞は、感動詞と終助詞だが、△体言・形容詞、形容動詞の語幹もこの用法に立つことがある。「風かよふ寝ざめの袖(そで)の花の香にかをる枕(まくら)の春の夜の夢」〈新古今・春下〉「あな、きよら」〈源・柏木(かしはぎ)〉。△活用語では終止形・命令形がこの用法をもっているが、係り結びの関係から連体形・已然形がこの用法に立つこともある。
	修飾語 (しゅうしょくご)	他の文節に連なって、その意味をくわしく限定する文節。△用言を修飾するものを連用修飾語、△体言を修飾するものを連体修飾語という。「蓑虫(みのむし)いとあはれなり」〈枕・虫は〉「花ぞむかしの香に匂(にほ)ひける」〈古今・春上〉➡被修飾語(ひしゅうしょくご)
	終助詞 (しゅうじょし)	文末にあって種々の語に付いて、疑問・反語・禁止・詠嘆・感動・命令・願望・強意などの意を表し、文を終止させる助詞。これに属する助詞は、「か」「かな」「が」「がな」「かし」「なむ」「ばや」など。ほかに、「かも」「がも」「な」「ね」「に」「こそ」などがあるが、これらは上代に多く用いられた。「心知れらむ人に見せばや」〈後撰・春下〉「はや言へかし」〈土佐〉➡助詞(じょし)
	重箱読み (じゅうばこよみ)	漢字の熟語・複合語で、たとえば「重箱(じゅうばこ)」(食物などを入れる重ね箱)のように、上部を△音で読み、下部を△訓で読む読み方。「合羽(かっぱ)」も同様なので「合羽読み」ともいう。そのほか「縁組(えんぐみ)」「頭取(とうどり)」「王手(おうて)」なども、この読み方。➡湯桶読み(ゆとうよみ)
	重文 (じゅうぶん)	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の1つ。1つの文において、対等の主語・述語の関係が2つ以上成り立っているものをいう。 山　紫にして　　水　明らかなり 主　　述　　　　主　　述 　　対　　　　　　　対
	熟語 (じゅくご)	△複合語の1種。2つ以上の単語が結合して、ある固定した意味を表す語。「春風」「落ち葉」「嬉(うれし)涙」「足弱(あしよわ)」など。 ➡複合語(ふくごうご)

付録

	主語 （しゅご）	文の成分の１つ。「何がどうする」「何がどんなである」「何が何である」などの文で、「何が」に相当する△文節。主語は述語に呼応し、述語の前に位置するのが原則であるが、省略される場合が多い。主語を構成する文節は、だいたい次のようなものから成り立っている。①△体言、または体言に助詞の付いたもの。「風吹き、雨さへ降りぬ」②用言・活用連語の連体形、またはそれに助詞の付いたもの。「雁（かり）などのつらねたるが、いとちひさく見ゆるはいとをかし」〈枕・春はあけぼの〉③対等の語を並列したり、助詞・接続詞で結合させたりしたもの。「人は、かたち・ありさまのすぐれたらんこそ、あらまほしかるべけれ」〈徒然・１〉。日本語では主語が不可欠の要素でもないということ、他の修飾語との用法上の区別がつけにくいということなどから、修飾語の１種であるとする説もある。 ↔述語
	述語 （じゅつご）	文の成分の１つ。「何がどうする」「何がどんなである」「何が何である」などの文で、「どうする」「どんなである」「何である」に相当する△文節。述語は日本語では文末に位置し、文の内容を統合する。述語を構成する文節は、次のようなものから成り立っている。①△用言・活用連語、またはそれに助動詞の付いたもの。「風吹き、雨さへ降りぬ」②△体言、または体言に助詞の付いたもの。「火もとは、樋口富（ひぐちとみ）の小路とかや」〈方丈〉③用言・活用連語に補助用言の付いたもの。「宝を費やし、心を悩ますことは、すぐれてあぢきなくぞ侍る」〈方丈〉④対等の語の重なったもの。「綾（あや）も物の色も珍らかに清らなり」↔主語
	順接 （じゅんせつ）	→接続（せつぞく）
	準体言 （じゅんたいげん）	活用語の連体形が、活用語としての意味・性質をもちながら、一方では△体言の資格をもって扱われるものをいう。「愛憐（あいれん）の情うすきに似たり」の「うすき」、「過ぎたるは及ばざるが如（ごと）し」の「過ぎたる」「及ばざる」など。山田孝雄氏の説。
	準体助詞 （じゅんたいじょし）	「これは私のです」「新しいのがよい」の「の」のように、それ自身としては断続の意味をもたず、種々の語に付いて体言と同じはたらきをする助詞。文語では「の」「が」など。「前（さき）の守（かみ）今の（＝今ノ守）も」〈土佐〉「この歌はある人のいはく大伴（おほともの）黒主が（＝大伴黒主ノ歌）なり」〈古今・雑上〉 参考　準体助詞は、橋本進吉氏の説く助詞の１つ。格助詞として取り扱う説もある。
	順態接続 （じゅんたいせつぞく）	→接続（せつぞく）

付録

	序 （じょ）	（1）書物などの初めに記す文で、「はしがき」ともいう。著作に至った由来などを書く場合が多い。古今和歌集には、仮名序と真名序とがある。↔跋（ばつ） （2）「序詞」を「序」ということがある。➡序詞（じょし）
	象形 （しょうけい）	△六書（りくしょ）の1つ。物の形をかたどったもので、漢字の原型をしのばせる文字である。日・月・山・木・人・口・馬・魚・弓・刀・門・戸など。➡六書（りくしょ）
	条件法 （じょうけんほう）	前に述べた事柄が、あとに述べた事柄の条件になっている場合の用法で、次の3種がある。 （1）仮定条件…ある事柄を仮定した表現法 ①順接…「もし…なら」の形。文語では接続詞「さらば」「しからば」を用い、また、△活用語の未然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「もし…ても」の形。文語では接続詞「さりとて」を用い、また、動詞の終止形・形容詞の連用形に「と」「とも」を付ける。 （2）確定（既定）条件…ある事柄が既に成り立ったものとしての表現法 ①順接…「…なので」の形。文語では接続詞「されば」「しかれば」などを用い、また、△活用語の已然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「…だけれど」の形。文語では接続詞「さりながら」「さるに」「しかれども」などを用い、また、活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付ける。 （3）一般（恒常）条件…ある事柄がある場合には、いつもきまって同じ結果を生じるとしての表現法 ①順接…「であればいつも…（だ）」の形。活用語の已然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「…であってもいつも…（だ）」の形。活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付ける。➡接続（せつぞく）
	畳語 （じょうご）	△複合語の1種。同一の語を重ねてつくった語。「ほのぼの」「われわれ」「重ね重ね」「人々」など。また、広義には同じような意味を重ねた語をいうこともある。「広大」「展開」「狭隘（きょうあい）」など。
	上声 （じょうしょう）	→四声（しせい）
	常体 （じょうたい）	→敬体（けいたい）
	状態の副詞 （じょうたいのふくし）	△副詞の1種。主として動詞を修飾して、その動作・作用の状態をくわしく定める副詞。「大蛍ゆらりゆらりと通りけり」〈おらが春・一茶〉「つれづれと降り暮らして」〈源・帚木（ははきぎ）〉。また、状態の副詞の中には、下に助詞「の」を伴って体言を修飾するものがある。「しばしの程」「すべての国々」「わざとの使ひ」＝情態の副詞。

付録

	初句切れ （しょくぎれ）	→句切れ（くぎれ）
	序詞 （じょことば）	→序詞（じょし）
	助詞 （じょし）	品詞の１つ。△付属語で△活用がないもの。 （１）△自立語（または自立語に助動詞の付いたもの）に付いて、その語と他の語との関係を示すはたらきをする。「梅が枝（え）」「夏の夜」（連体修飾） （２）その語に一定の意味を添えるはたらきをする。「風さへ吹き出（い）でたり」（添加） 助詞は、どういう語に付き、どういう語にかかっていくかという基準に従って、次の６種類に分けられることが多い。 （１）格助詞　（２）接続助詞　（３）係助詞　（４）副助詞　（５）終助詞　（６）間投助詞　→　各項参照 これらのうち、係助詞と副助詞とを合わせて副助詞、終助詞と間投助詞とを合わせて終助詞とし、全部で４種類とすることもあり、また、これらのほかに、△並列助詞、△準体助詞などを立てる説もある。＝テニヲハ・助辞。
	助字 （じょじ）	漢文で、文末に用いる「也」「焉」「哉」「乎」「歟」、格を示す前置の「於」「于」、代名詞的な後置の「之」「者」、接続を示す「而」「以」、動詞の相に関する「令」「使」「被」などをいう。これらは、漢文訓読の場合、国語の助詞・助動詞に当たるもので、そのうちには国語にあてて読む習慣がないものもあって、それを「置き字」とよぶことがある。
	叙述の副詞 （じょじゅつのふくし）	△副詞の１種。修飾される △用言の叙述のしかたを限定して、これに一定の言い方を要求する副詞。この叙述の副詞を受けて一定の言い方で結ぶ関係を「副詞の呼応」という。＝陳述（ちんじゅつ）の副詞・呼応の副詞。 (１)打消の語を要求するもの…いさ・つゆ・必ずしも・え・つやつや (２)禁止の語を要求するもの…ゆめ・断じて (３)願望の語を要求するもの…なにとぞ・ひとへに・いかで (４)比況の語を要求するもの…あたかも・さながら (５)推量の語を要求するもの…恐らく（は）・けだし・いかばかり (６)打消推量の語を要求するもの…よも・をさをさ (７)仮定の語を要求するもの…もし・たとひ・よし（や）・かりに (８)断定・肯定の語を要求するもの…正に・実に (９)疑問・反語の語を要求するもの…いかで（か）・など（か）・豈（あに）・いづくんぞ (10)「べし（当然・適当・命令）」を要求するもの…すべからく・宜（よろ）しく・当（まさ）に

付録

	助数詞 （じょすうし）	接尾語の１種。数を表す語に添えて、その数量や順序を示すもの。「一本」「三冊」「五号」。 ➡ 数詞（すうし）
	助動詞 （じょどうし）	品詞の１つ。△付属語で△活用のあるもの。それ自身では△文節を作らず、△自立語に付いて、種々の意味を添えてその叙述を助ける。「散らむ」「咲きけり」「我も人なり」 　助動詞の分類については、(１)接続による分類　(２)活用による分類　(３)意味による分類　の3方面から考えられる。 (１)接続による分類 　①△用言または助動詞に付くもの 　　(ア)未然形に付くもの…す・さす・しむ・る・らる・ず・む・むず・じ・まほし・まし・り（サ変のみ） 　　(イ)連用形に付くもの…き・けり・つ・ぬ・たり(完了)・たし・けむ 　　(ウ)終止形に付くもの…べし・まじ・らむ・めり・らし・なり（伝聞）（以上、ラ変・形容詞・形容動詞以外に） 　　(エ)連体形に付くもの…べし・まじ・らむ・めり・らし（以上、ラ変・形容詞・形容動詞に）・なり（断定）・ごとし 　　(オ)已然形に付くもの…り（四段のみ） 　②△体言その他に付くもの 　　　体言に付くもの…なり・たり（断定） 　　　助詞に付くもの…ごとし (２)活用による分類 　①動詞型 　　(ア)四段型…む・けむ・らむ・す（尊敬）・ふ（継続） 　　(イ)下二段型…す・さす・しむ・る・らる・つ 　　(ウ)ラ変型…たり(完了)・り・けり・めり・なり（伝聞） 　　(エ)サ変型…むず 　　(オ)ナ変型…ぬ 　②形容詞型 　　(ア)ク活型…たし・べし・ごとし 　　(イ)シク活型…まほし・まじ 　③形容動詞型…なり（断定）・たり（断定） 　④特殊型…ず・まし・き・らし・じ（「らし」「じ」を無変化型とする説もある） (３)意味による分類 　①使役…す・さす・しむ 　②受身…る・らる

付録

		③可能…る・らる ④自発…る・らる ⑤尊敬…る・らる・す・さす・しむ ⑥打消…ず・じ・まじ ⑦推量…む・むず・けむ・らむ・らし・べし・まじ・じ・まし・めり ⑧過去…き・けり ⑨完了…つ・ぬ・たり・り ⑩希望…たし・まほし ⑪断定…なり・たり ⑫比況…ごとし ⑬伝聞・推定…なり
	自立語 （じりつご）	それみずからで１つの△文節になることができる単語をいう。自立語で△活用のあるものに動詞・形容詞・形容動詞があり、活用のないものに名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞がある。↔付属語
〔す〕	推定の助動詞 （すいていのじょどうし）	△推量の助動詞の１つ。あるよりどころによってかなりの確実性を認めつつ推量する意味を表す。文語では「らし」がこれに属する。「この川にもみぢ葉流る奥山の雪げの水ぞ今まさるらし」〈古今・冬〉の「この川にもみぢ葉流る」が推定のよりどころを示している。このように「らし」はその推定のよりどころが文中に示されることが多い。終止形に接続する「なり」にも推定の意がある。 ➡ 伝聞推定の助動詞（でんぶんすいていのじょどうし）
	推量の助動詞 （すいりょうのじょどうし）	推量の意を表す助動詞。文語では推量の助動詞が分化・発達していて多様性に富んでいる。 （１）む…（ふつうの推量）「夕べには朝（あした）あらむことを思ひ」〈徒然・９２〉 （２）むず…（ふつうの推量）「遠き御守りでこそ候はむずれ」〈平家・７・忠度都落〉 （３）らむ…（現在の推量）「六条わたりにも、いかに思ひ乱れ給ふらむ」〈源・夕顔〉 （４）けむ…（過去の推量）「前（さき）の世にも御契りや深かりけむ」〈源・桐壺〉 （５）べし…（必然・当然の推量）「漢詩（からうた）などいふべし（＝吟ジテイルニチガイナイ）」〈土佐〉 （６）めり…（主観的推量）「今様は、むげにいやしくこそなり行くめれ（＝ヨウダ）」〈徒然・２２〉 （７）まし…（△反実仮想）「この木なからましかばとおぼえしか」〈徒然・１１〉 （８）らし…（根拠のある推定）「秋の夜は露こそことに寒からし（＝冷タイニチガイナイ）」〈古今・秋上〉 推定の助動詞（すいていのじょどうし）

付録

		（９）じ…（打消の推量）「心に思ひ残すことは、あらじかし」〈源・若紫〉 （10）まじ…（打消の推量）「さる人あるまじければ」〈徒然・１２〉なお、これらの助動詞は、推量から転じて、意志・希望・勧誘・仮定・婉曲（えんきょく）などの意を表すのにも用いられる。
	数詞（すうし）	名詞の１つ。数量、または数によって順序を表すもの。 （１）数量の数詞（基数詞）…一つ・二・三本・四冊・五軒 （２）順序の数詞（序数詞）…第一・二番・三つ目・四号・五位 上記のうち、いくつ・何本・何番のように、不定の数量や順序を表すものを不定数詞ということがある。また、「三本」「五軒」などの「三」「五」のように数を表す語を本数詞、「本」「軒」のように数を表す語に添えたものを△助数詞という。 ➡ 助数詞（じょすうし）
〔せ〕	清音（せいおん）	△五十音図の各音節と、それに応じる△拗音（ようおん）の各音節（キャ・キュ・キョ・シャ・シュ・ショ・チャ・チュ・チョ・ニャ・ニュ・ニョ・ヒャ・ヒュ・ヒョ・ミャ・ミュ・ミョ・リャ・リュ・リョ）をいう。すなわち、△子音を全く含まないア行の△音節と、無声子音のｋ・ｓ・ｔ・ｈ、有声子音のｎ・ｍ・ｙ・ｒ・ｗを含む音節をいう。 ➡ 濁音（だくおん）・半濁音（はんだくおん）
	絶句（ぜっく）	漢詩の一体。△起承転結の４句から成る。各句の字数によって、五言絶句・七言絶句の２種がある。△律詩とともに、南北朝から唐にかけて完成された近（今）体詩。△押韻（おういん）・△平仄（ひょうそく）などにも厳密なきまりがある。
	接辞（せつじ）	△接頭語と△接尾語の総称。単独に用いられることがなく、必ず他の単語に付いてある意味を添える。「み空（＝接頭語）」「春めく（＝接尾語）」。➡ 接頭語（せつとうご）・接尾語（せつびご）
	接続（せつぞく）	前に述べる事柄と、あとで述べる事柄とのつながりの関係をいう。次の２種がある。 （１）順接（じゅんせつ）…順態接続ともいう。あとで述べる事柄が、前に述べる事柄の順当な結果であると考えられる場合。接続詞の「さらば」「しからば」（以上、仮定）「されば」「しかれば」（以上、確定）などを用いたり、活用語の未然形（仮定）・已然形（確定・一般条理）に△接続助詞「ば」を付けて表したりすることが多い。 （２）逆接（ぎゃくせつ）…逆態接続ともいう。あとで述べる事柄が、前に述べる事柄の順当でない結果であると考えられる場合。△接続詞の「さりとて」（仮定）「さりながら」「さるに」「しかれども」（以上、確定）などを用いたり、動詞の終止形や形容詞の連用形に、接続助詞「と」「とも」を付け、また、△活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付けて表したりすることが多い。
	接続語（せつぞくご）	仮定・事実を示して、ある条件を提示する文節。たとえば、「しかれども、ひねもすに浪（なみ）・風たたず」〈土佐〉のような△接続詞、「日あしければ、船出（い）ださず」〈土佐〉のように△接続助詞が付くものなどを「接続語」とする。接続語をたてない立場では、これらを「連用修飾語」と見る。

付録

	接続詞 （せつぞくし）	品詞の１つ。△自立語で△活用がなく、主語・述語・修飾語のいずれにもならず、文の構成のうえからは比較的独立していて、もっぱら文節や文を接続する語。 (１)その種類は、意味のうえから次の４通りに分けられる。所属する 語は文語の場合を示す。 ①並立の意を表すもの…および・ならびに・また ②添加の意を表すもの…なほ・かつ・しかうして・しかも ③選択の意を表すもの…または・あるいは・あるは・もしくは・もしは ④条件を表すもの (ア)順接…かかれば・かくて・かくして・しからば・しかれば・さらば・されば・したがって・よって・ゆゑに (イ)逆接…されど・さりながら・さるを・しかるに・しかれども・ただし (２)用法としては、前のことばの受け方によって、次の２つの場合がある。 ①１つの文の中にあって、△文節と文節とを結びつける。「朱雀院（すざくゐん）ならびに村上二代の御母后（ははきさき）におはします」〈大鏡・基経〉「行く川の流れは絶えずしてしかももとの水にあらず」〈方丈〉 ②２つの文を結びつける。「死期すでに近し。されどもいまだ病（やまひ）急ならず」〈徒然・２４１〉
	接続助詞 （せつぞくじょし）	活用語またはそれに準じるものに付いて、それの付いた語の意味を、次の△用言または用言に準じるものに続ける助詞。 (１)接続による分類 ①未然形に付くもの…ば・で ②連用形に付くもの…て・して・つつ・ながら ③終止形に付くもの…と・とも（形容詞は連用形に接続） ④連体形に付くもの…が・に・を・も ⑤已然形に付くもの…ば・ど・ども (２)意味による分類 ①条件　(ア)仮定　順接…ば・と 　　　　　　　　　逆接…と・とも 　　　　(イ)確定　順接…ば・して・で 　　　　　　　　　逆接…ど・ども・が・に・を・も ②列叙　(ア)異時…て 　　　　(イ)同時…て・つつ・ながら・や

付録

	接頭語（せっとうご）	△接辞の１つ。それ自身で単独に用いられることがなく、必ずほかの単語の上に付いて、それらにある意味を添えるもの。接頭語が付いてできた語の品詞は、接頭語の付かないもとの語と同一である。 (１)名詞に付くもの…み(御)代・おん(御)声・ご(御)病気・み空・ま昼・さ霧・を(小)川 (２)動詞に付くもの…さまよふ・との曇る・たばしる・い行く・うち見る (３)形容詞に付くもの…たやすし・いちはやし・け近し・を(小)暗し・うすら寒し
	接尾語（せつびご）	△接辞の１つ。それ自身で単独に用いられることがなく、必ずほかの単語の下に付いて、それらにある意味を添えるもの。この点、△助詞または△助動詞に似ているが、助詞・助動詞は自由にどんな語にも付くのに対して、接尾語は、付く語が限られていて、慣用のものだけにしか付かない。接尾語が付いてできた語の品詞は、接尾語によってきまる。そこで、これが付いて、その語の品詞が変わらないものと、変わるものとの２種がある。 (１)品詞が変わらないもの…入道どの・私ども・君たち・これら・殿ばら (２)品詞が変わるもの ①名詞を作るもの…深み・高さ・眠げ ②動詞を作るもの…春めく・鄙(ひな)ぶ・黄ばむ・花やぐ ③形容詞を作るもの…男らし・をこがまし・なまめかし ④形容動詞を作るもの…しのびやかなり・悲しげなり ⑤副詞を作るもの…身づから・手づから
〔そ〕	候文（そうろうぶん）	文語文のうち、おもに書簡に用いられた１種の文体。「候（そうろう）」という語が「あり」の代わりに、また△補助動詞として、文末に多く用いられたところからこの名がある。平安時代から私的な文書に使われはじめ、鎌倉時代以後は盛んに用いられるようになり、江戸時代になると公文書にも使われた。明治以後にも長く残っていたが、現在は私的にもきわめて少なくなった。
	促音（そくおん）	現代の表記で、少し小さい「っ」で書かれる音韻。「つまる音」ともいう。「あっぱれ」「いっさい」など。漢字音の影響によって生じたといわれるが、古くはその表記法が動揺していて、その位置に何の表記もなかったことがある。現代の表記法が確立したのは平安時代末期（１２世紀）ごろという。
	促音便（そくおんびん）	→音便（おんびん）
	尊敬語（そんけいご）	△敬語の１種。話の中のある人を敬うために、その人に関することに特別の表現をする言い方。文語の場合を分類すると、次のようになる。

付録

		(1)尊敬の意の接辞を用いる ①接頭語…み（―代・―心）・おん（―身・―有り様）・貴（―兄）・尊（―父）・令（―息）・高（―見）・芳（―翰（かん）） ②接尾語…殿（入道―）・氏（田中―）・女史（跡見―）・うぢ（近藤―） (2)尊敬の意の単語を用いる ①名詞…上・君・おこと ②代名詞…貴殿・みまし ③動詞…あそばす（＝ナサル）・います・ます・まします・おはす・おはします（＝イラッシャル）・大殿ごもる（＝オ寝（やす）ミニナル）・のたまふ（＝オッシャル）・おぼす・おぼしめす（＝オ思イニナル）・きこす・きこしめす（＝オ聞キニナル・召シ上ガル）・御覧ず（＝ゴランニナル）・しろす・しろしめす（＝オ知リニナル・オ治メニナル）・たぶ・たまふ（＝クダサル） ④補助動詞…おはす・おはします（眺め―）・たまふ（書き―）・たぶ・たうぶ（侍り―）。 ⑤助動詞…る・らる・す（下二段）・さす・しむ（上代は、す（四段）も）
	尊敬の助動詞 （そんけいのじよどうし）	尊敬の意を表す助動詞。文語では「る」「らる」「す（下二段）」「さす」「しむ」に、この用法がある。「す」「さす」「しむ」は使役の意から尊敬の意に転じたもので、単独で用いられることがなく、常に「たまふ」「らる」のような△尊敬語に重ねて用いられる。「つゆまどろまれず明かしかねさせたまふ」〈源・桐壺〉「この大臣（おとど）の作らしめ給へりける詩を」〈大鏡・時平〉。なお、上代には「す（四段）」も用いられた。「この岳（をか）に菜摘ます（＝摘ンデイラッシャル）児（こ）」〈万・1・1〉
	尊大語 （そんだいご）	自分の権威を誇示したり、自分の地位の高さを明らかにしたりするために、話し手が自分に対して尊敬語を用いたり、聞き手の動作に謙譲語を用いたりして、話し手である自分を高める言い方。「大納言これを聞きてのたまはく、『船に乗りては、楫取（かぢとり）の申すこと（＝コノワタシニ申シアゲルコト）をこそ、高き山とたのめ、などかく頼もしげなく申すぞ（＝コノワタシニ申シアゲルノダ）』」〈竹取・竜の頸の玉〉
〔た〕	対偶中止法 （たいぐうちゆうしほう）	２つの文節が対等の関係にあるとき、下の対等語の意味（打消、受身など）が、上の対等語に及び、上の対等語が連用形の△中止法をとることをいう。たとえば、「今めかしく、きららかならねど」〈徒然・１０〉の「ね」は打消の助動詞であるが、「きららかなり」だけを打ち消しているのではなく、「今めかし」も打ち消している。この場合の「今めかしく」が対偶中止法である。「走る獣は、をりにこめ、くさりをさされ、飛ぶ鳥は、翼をきり、籠（こ）に入れられて」〈徒然・１２１〉は、「さされ」の「れ」、「入れられて」の「られ」は受身の助動詞であるが、いちいち「こめられ」「きられ」といわないで「こめ」「きり」というように対偶中止法が用いられている。

付録

	体言 （たいげん）	事物の実体を表す語の意。△名詞・△代名詞・△数詞の３品詞がこれに属するとされるが、日本語の文法上の性質からみて、これら３つを区別する必要はないと考えられるので、代名詞と数詞を名詞の中に含め、体言すなわち名詞であるとする説がふつう認められている。体言の文法上の特質としては、（１）それだけで△文節を構成することができる　（２）活用がない　（３）文の主語になることができる　（４）△格助詞を伴うことができる　などが挙げられる。 ↔ 用言
	体言止め （たいげんどめ）	和歌などにおいて、たとえば「駒（こま）とめて袖（そで）打ちはらふかげもなし佐野のわたりの雪の夕暮れ」〈新古今・冬〉のように、第５句を体言でいいきる言い方をいう。俳句や散文などにもこの種の言い方があり、これも「体言止め」ということがある。体言止めは、いいきったあとに余韻・余情が残るので、詠嘆の心情を表現する場合に用いられる。新古今集には、この修辞法が多く使われていて、１つの特徴をなしている。
	対等語 （たいとうご）	→対等の関係（たいとうのかんけい）
	対等の関係 （たいとうのかんけい）	２つまたはそれ以上の△文節が、互いに対等の資格で連なっている場合、そのそれぞれの文節を対等の関係にあるといい、それぞれの文節を「対等語」という。対等の関係を「並立（へいりつ）の関係」とよび、対等語を「並立語」と名づける説もある。 この関係には、次の２つの場合がある。 （１）２つ以上の用言の連なっているもの。「生まれ、死ぬる人、いづ方より来たりて、いづ方へか去る」〈方丈〉「神楽（かぐら）こそ、なまめかしく、おもしろけれ」〈徒然・１６〉 （２）２つ以上の体言の連なっているもの。「作文（さくもん）、和歌、管絃（くわんげん）の道、また有職（いうそく）に公事（くじ）の方、人の鏡ならんこそいみじかるべけれ」〈徒然・１〉「山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば」〈古今・冬〉 対等語は、その位置を互いにとりかえても（（１）の用言の場合には語形の一部に変化が生じるが）その関係は変わらない。たとえば、「神楽（かぐら）こそ、なまめかしく　おもしろけれ」は、「神楽こそ、おもしろく　なまめかしけれ」と言いかえることができる。
	代名詞 （だいめいし）	△名詞（体言）の１種。事物の名に代えて、直接にそのものを指示していう語。これには次の２種類がある。 （１）人代名詞 　自称は話し手（書き手）が自己をさし示すのに用い、対称は、相手（聞き手・読み手）をさし示すのに用い、他称は相手以外の者をさし示すのに用いる。他称のうちで近称は話し手に近い者を、中称は相手に近い者を、遠称は話し手からも相手からも遠い者をさす。不定称は話し手にわからない者、また、さす者がきまらない場合に用いる。

付録

自称	対称	他称			不定称
		近称	中称	遠称	
あ・あれ わ・われ おのれ それがし わらは 余・予	な なれ なんぢ そこ そち そなた	こ これ	そ それ	か かれ あ あれ	た たれ なにがし それがし

（2）指示代名詞

	近称	中称	遠称	不定称
事物	こ これ	そ それ	か かれ あ あれ	いづれ なに
場所	ここ	そこ	あそこ あしこ かしこ	いづこ いづく いづら
方向	こち こなた	そち そなた	あち あなた かなた	いづち いづかた

このほか、△反照代名詞と呼んで、「おの」「おのれ」などの語を区別していうこともある。

濁音（だくおん）

ガ・ザ・ダ・バ行と、それに応じる△拗音（ようおん）の△音節（ギャ・ギュ・ギョ・ジャ・ジュ・ジョ・ヂャ・ヂュ・ヂョ・ビャ・ビュ・ビョ）をいう。すなわち、有声・無声の対立をもつ有声子音を含む音節をいう。

➡清音（せいおん）・半濁音（はんだくおん）

他動詞（たどうし）

動作や作用を他に対するはたらきかけ、または他をつくりだすはたらきとして表す動詞。「水を流す（サ四）」「湯を沸かす（サ四）」のように、一般に「…を…する」という形をとり、「水流る（ラ下二）」「湯沸く（カ四）」の△自動詞と区別される。他動詞だけの動詞には、打つ・殺す・招く（四）・着る（上一）・蹴（け）る（下一）・投ぐ・兼ぬ（下二）などがある。

付録

		古く、日本語の他動詞は、その動詞の表す事態が、当事者の意図に基づいて起きたことを述べる場合に用いたとされ、目的語との関係で他動詞が決定される西欧語の他動詞とは、その用法が異なっていたとされる。↔自動詞
	タリ活用 （たりかつよう）	文語形容動詞の活用の１つ。終止形が「…たり」といいきるもの。この活用形は、元来副詞「…と」の形にラ変動詞「あり」が結合してできたもので、「…と・あり」から「…たり」に転じたもの。タリ活用は漢語をもととする場合が多く、中古・中世の漢文訓読体の文章や和漢混交文の中に見られることが多い。（たら・たりと・たり・たる・たれ・たれ）と活用する。「青山峨々（がが）として松吹く風索々（さくさく）たり」〈平家・１０・千手前〉
	田居にの歌 （たゐにのうた）	「手習いの詞（ことば）」の１つ。同じ仮名をくり返すことなくつくった４７字の歌詞で、天禄元年（９７０）源為憲（ためのり）の著した「口遊（くちずさみ）」に見える。 たゐ(田居)にい(出)で　な(菜)つ(摘)むわれ(我)をぞきみ(君)　め(召)すと　あさ(求食)りお(追)ひゆ(行)くやましろ(山城)の　う(打)ちゑ(酔)へるこ(子)ら　もは(藻葉)ほ(干)せよ　えふね(舟)　か(繋)けぬ 作者は不明。成立は「口遊」の著作に近いころかと思われる。「△あめつちの詞」と違って、ア行の「え」とヤ行の「え」の区別がない。➡本文「あめつちの詞（あめつちのことば）」
	単音 （たんおん）	音声学のうえでの最小単位。簡単にいえば、単独に発音することのできる音声である。単音には△母音と△子音とがある。たとえば、ア（ａ）も単音、カ（ka）の（ｋ）も（ａ）も単音である。カ（ka）のように単音が２つ連なったものは、別に△音節（おんせつ）という。➡音節
	断定の助動詞 （だんていのじよどうし）	ある事柄を「…である」「…だ」と判断し、いいきる意を表す助動詞。文語では「なり」「たり」がこれに属する。「たり」は体言だけに付く。また「たり」は中古には用例が少なく、中世以降、△和漢混交文などに多く用いられた。伝聞推定の「なり」や完了の「たり」とは、他の語への接続や意味のうえから区別される。「心憂（う）の事や、翁丸（おきなまろ）なり」〈枕・うへにさぶらふ御猫は〉「忠盛（ただもり）備前守（びぜんのかみ）たりし時」〈平家・１・殿上闇討〉＝指定の助動詞。
	単文 （たんぶん）	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の１つ。主語・述語の関係がただ１回しか成立していない最も単純なもの。 ➡複文（ふくぶん）・重文（じゆうぶん） 花の色は（主）　移りにけりな。（述） 竹取りの翁（おきな）といふ者（主）　ありけり。（述）

〔ち〕	中止法 （ちゅうしほう）	△連用形の用法の１つ。文を途中で一時中止する用法で、前の△文節と後の文節とが対等の関係にある場合が多い。この中止法に立つ連用形を、特に中止形ということがある。「山吹の清げに、藤（ふぢ）のおぼつかなき様したる」〈徒然・１９〉「遠き家は煙（けぶり）にむせび、近きあたりはひたすら焔（ほのほ）を地にふきつけたり」〈方丈〉
	直音 （ちょくおん）	△五十音図の各音節。すなわち、△母音だけから成る△音節、または△子音と母音とから成る音節。現代の表記では、仮名１字で書く。 ↔拗音（ようおん）
	陳述の副詞 （ちんじゅつのふくし）	→叙述の副詞（じょじゅつのふくし）
〔つ〕	対句 （ついく）	修辞法の１つ。意義の相対する２つ以上の同形式の句を並べて、対立させた形式。意味の明瞭（めいりょう）・音調の快感・暗唱のしやすさなどという効果をねらって、同語の繰り返しの発達したものと思われる。元来は漢詩文の修辞であるが、わが国でも古くから用いられ、祝詞（のりと）・記紀歌謡・万葉集（長歌）、その他語り物などに好んで用いられた。「賢（さか）し女（め）をありと聞かして麗（くは）し女をありと聞こして、さ婚（よば）ひにあり立たし婚ひにあり通はせ」〈記・上〉「落花の雪に踏み迷ふ片野の春の桜狩り、紅葉の錦（にしき）を着て帰る嵐（あらし）の山の秋の暮れ……」〈太平記・２〉＝対偶法。
	月並調 （つきなみちょう）	古い伝統を守るだけで、新しみのない卑俗な俳句をいう。もと正岡子規（まさおかしき）の新派運動から見て、伝統を守る旧派に対して「月並風（つきなみふう）」といったところから生じた。「月並」とは月次（つきなみ）で、例月の俳句会をいう。
〔て〕	定家仮名遣い （ていかかなづかい）	平安時代の末にまとめられた仮名遣いの規範。藤原定家の書と考えられる「下官集（げかんしゅう）」に「をお」「えへゑ」「ひゐい」の３類８字について約７０語を挙げ、「をみなへし」「おく山」「おもふ」「ふえ」のようにそれぞれ用いるべき仮名を示している。これは、当時混乱していた仮名の使い方を正そうとして、その準拠を平安後半期の文献に求めたものである。俗に、行阿（ぎょうあ）の撰（せん）した「仮名文字遣い」（貞治２年、１３６３年以後の成立）が「定家仮名遣い」の名で世に伝えられたが、これは、行阿の祖父親行が定家の承認を得た項目を根拠にし、「定家仮名遣い」を基にして増補したものと考えられる。実例を見ると、「定家仮名遣い」には「を（お）くつゆ」「お（を）しむ」「お（を）のへの松」など若干の誤りを含むが、現在では、この「お」「を」の使い分けはアクセントの違いによるものと理解されている。
	程度の副詞 （ていどのふくし）	△副詞の１種。△用言を修飾して、その状態の程度をくわしく限定する語。「やや深う入る所なりけり」〈源・若紫〉「山ぎは少しあかりて」〈枕・春はあけぼの〉。また、「いま暫（しばら）く」「ただ一人」などのように、他の副詞や数量・場所・方角などを表す体言を修飾する場合がある。

付録

	丁寧語（ていねいご）	△敬語の１種。話し手（書き手）が自分の言葉づかいを丁寧にすることによって、聞き手（読み手）に敬意を表す言い方である。「文語」では「侍り」「候ふ」の２語がこれで、動詞および補助動詞として用いられる。口語の「お」は丁寧語としても使われるが、文語の「御（おん）・（お）」は、尊敬の意をもつので、丁寧語ではない。「はやう、まだ下臈（げらふ）に侍りしとき、あはれと思ふ人侍りき」〈源・帚木（ははきぎ）〉「年改まりて何事かさぶらふ」〈源・浮舟〉（以上、動詞）「山の鳥も驚かしはべらむ」〈源・若紫〉「おのづからかたのやうにまねび候ひなむ」〈狭衣〉（以上、補助動詞）。丁寧語は尊敬語・謙譲語が転ずることが多く、区別のむずかしいことがある。
	定本（ていほん）	流布している多数の△異本を研究し、伝承・書写の誤りを校訂して、最も正確に原本に近く到達したと考えられる本文。広義には厳密な意味でなく、標準的な本文というくらいに使われることもある。
	底本（ていほん）	ある本の本文を校訂（他の伝本と比べて本文を訂（ただ）すこと）するに当たって、その主たるよりどころとした本。「藍本（らんぽん）」（「青は藍（あい）より出（い）づ」の故事から）ともいい、また「定本」とまぎらわしいので、「そこほん」とも呼ばれる。一般に原本に近い古写本や流布本が底本に選ばれることが多い。 ➡校合（きょうごう）
	転注（てんちゅう）	△六書（りくしょ）の１つ。漢字を変えずにその漢字の意義を転用することをいう。この場合、△字音が変わるのがふつう。たとえば、「楽（がく）（＝音楽）」は常に人の心をなごやかにし、たのしませるところから、「たのしむ」の意に転用され、音も「ラク」と変わる類。 ➡六書（りくしょ）
	伝聞推定の助動詞（でんぶんすいていのじょどうし）	ある事実を他から聞いたことにもとづいて述べ（伝聞）、また、ある根拠にもとづく不確実な判断で、事実をその音・声や周囲の状況から推測・判断して述べる（推定）助動詞。伝聞は口語の「…そうだ」、推定は口語の「…ようだ」と言い換えられる。これに属する文語の助動詞は、活用語の終止形に接続する「なり」である。「この十五日になむ月の都よりかぐや姫の迎へにまうで来（く）なる（伝聞＝来ルソウデス）」〈竹取・かぐや姫の昇天〉「吉野（よしの）なる夏実（なつみ）の川の川淀（かはよど）に鴨（かも）ぞ鳴くなる（推定＝鳴イテイルヨウダ）山かげにして」〈万・３・３７８〉。この用法は江戸時代以来、詠嘆を表すとされていたが、今では伝聞推定という説が広く認められている。なお、助動詞「けり」も過去の事実の伝聞の意味を表す場合がある。「昔、男ありけり（＝イタソウダ）」〈伊勢・２〉
〔と〕	頭韻（とういん）	→押韻（おういん）
	唐音（とうおん）	→字音（じおん）

付録

	用語	解説
	動詞 （どうし）	品詞の1つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾がウ段（文語のラ変だけがリ）となる△用言。それだけで述語になることができ、事物の動作・作用・存在を表す。活用のしかたから、文語動詞では9種類（四段・上一段・上二段・下一段・下二段・カ変・サ変・ナ変・ラ変）、口語では5種類（五段・上一段・下一段・カ変・サ変）に分けられる。別に、△自動詞・△他動詞の分け方や、△敬語動詞、△補助動詞の分け方もある。
	動詞型活用の助動詞 （どうしがたかつようのじょどうし）	活用のしかたが動詞に準じている助動詞。文語では、 ①四段型…む・けむ・らむ・す（尊敬）・ふ（継続） ②下二段型…す・さす・しむ・る・らる・つ ③ラ変型…たり（完了）・り・けり・めり・なり（伝聞） ④サ変型…むず ⑤ナ変型…ぬ ただし、△活用形は動詞とまったく同じというのではなく、その活用形のいくつかを欠いているものもある。
	倒置 （とうち）	修辞法の１つ。感動・余韻を表したり語勢を強めたり、または語調を整えたりするために、△文節の順序を変える表現法。和歌や会話に多い。「契りきなかたみに袖（そで）をしぼりつつ末の松山波越さじとは」〈後拾遺・恋４〉
	読点 （とうてん）	→句読点（くとうてん）
	ト書き （とがき）	演劇などの台本で、せりふのあと、または前に、出演者の動作などを指示した部分。たとえば、 ○正兵衛「もはや逃れぬわが命、この場において潔く」 ト腹を切らうとする。 〈歌舞伎・十六夜清心（いざよひせいしん）〉 ○白蓮「……内に居るから案じるな」 ト奥よりお虎（とら）出て来たり、 お虎「御新造様、さぞお嬉（うれ）しうござりませう。……」 〈歌舞伎・十六夜清心〉 のように、「ト」から書き始めるのでこの名が生まれた。のちには、必ずしも「ト」がなくても、この部分を「ト書き」とよぶ場合がある。
	特殊活用型の助動詞 （とくしゅかつようがたのじょどうし）	活用のしかたが特殊で、△用言のいずれにも似ていない助動詞。文語では、「ず」（打消）「まし」（反実仮想）「き」（過去）「じ」（打消推量・打消意志）「らし」（推量）がこれに属する。このうち「じ」「らし」を△無変化型の助動詞として、別に立てる考えもある。

	独立語 （どくりつご）	△主語・△述語・△修飾語などのいずれにも属せず、比較的独立して用いられる△文節。形のうえでは独立しているように見えるが、意味のうえで関連をもつ。感動・呼びかけ・応答・提示・接続などの場合に用いられる。「あはれ今年の秋もいぬめり」〈千載・雑上〉「いでや、この世にうまれては」〈徒然・１〉「さて冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ」〈徒然・１９〉＝独立節。
〔な〕	ナ行変格活用 （なぎようへんかくかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△五十音図のナ行における△母音の転換（ナ・ニ・ヌ・ネ）と、連体形に「る」、已然形に「れ」の添加とを合わせた活用形式をもつもの。これに属する動詞は、文語の「死ぬ」「往（い）ぬ」の２語であるが、「死ぬ」は口語では五段活用となり、「往ぬ」は標準的な口語では用いられない。完了の助動詞「ぬ」が、ナ行変格と同形式の活用をするのは、「往ぬ」と意味において通うものがあるからだと思われる。「ぬ」の語源は「往ぬ」からであるとの説もある。「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用する。
	ナリ活用 （なりかつよう）	文語形容動詞の活用の１つ。終止形が「…なり」の形をとる。「きよらなり」「静かなり」など。元来、「…に」の形と、ラ変動詞「あり」との融合したものであるから、活用の形はラ行変格と同じである。しかし、元の形である「…に」もそのままで連用形として認めるので、その点でラ変と異なる。「夕日はなやかにさして、…烏（からす）のねどころへ行くとて三つ四つ二つなど飛びゆくさへあはれなり」〈能因本枕・春はあけぼの〉
〔に〕	二句切れ （にくぎれ）	→句切れ（くぎれ）
	入声 （につしよう）	→四声（しせい）
〔は〕	排律 （はいりつ）	漢詩の一体。△絶句・△律詩とともに近（今）体詩の１つ。絶句は４句、律詩は８句と定められているのに対し、句数はおおよそ１２句以上できまりがない。首聯（しゆれん）と尾聯（びれん）は律詩に準じ、中間の聯はそれぞれ△対句をなしている。杜甫（とほ）の「傷春」（５言）、呉穀人の「仏手柑」（７言）はその例である。
	跋 （ばつ）	著書の末尾に記す文で、「奥書（おくがき）」または「後書（あとがき）」ともいう。その書の由来などを研究する場合に参考になることが多い。たとえば、枕草子の跋文は、その成立事情や、流布の経緯、題号の問題などについて、重要な問題を提供している。↔序
	撥音 （はつおん）	現代の表記で「ん」「ン」と書かれる音韻。「はねる音」ともいう。漢字音の影響によって生じたといわれるが、古くはその表記法が動揺していて、その位置に表記がなかったり、「む」や「い」を用いたりした。現代のような表記法が確立したのは、だいたい平安時代末期（１２世紀）ごろという。
	撥音便 （はつおんびん）	→音便（おんびん）

付録

	反語 （はんご）	話し手が、肯定あるいは否定の確信をもっていながら、一応疑問の形で相手に問いかける言い方。疑問に対する答えを求めるのではなく、確信している答えが発せられるのを期待することによって、強調または余情を投げかける表現法である。文語では、「や」「か」のほか、「やは」「かは」「やも」「かも」を使うことが多い。「寝（い）もぬらめやも（＝ネラレヨウカ、イヤ、ネラレハシナイ）古（いにしへ）思ふに」〈万・１・４６〉「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」〈伊勢・４〉「あとまで見る人ありとはいかでか知らん（＝ドウシテ知ロウカ、イヤ、知ルハズガナイ）」〈徒然・３２〉
	反実仮想 （はんじつかそう）	すでに存在する事実に反対の状態を仮定して、その仮定のもとである状態を想像して述べる推量表現。「もし…だったら…だろう（のに）」と言い換えられる。古代は「…ませば…まし」の形、中古以後は「…ましかば…まし」「未然形＋ば…まし」の形で表されることが多い。「わが背子（せこ）と二人見ませばいくばくかこの降る雪のうれしからまし」〈万・８・１６６２〉「まして竜（たつ）を捕らへたらましかば、又こともなく、我は害せられなまし」〈竹取・竜の頸の玉〉
	反照代名詞 （はんしょうだいめいし）	△代名詞の１つ。「おの」「おのれ」「自分」などのように、自称・対称・他称にかかわりなく、その人自身、その物自体をそれに再び戻ってさし示す代名詞である。「橘（たちばな）はおのが枝枝なれれども玉に貫（ぬ）くとき同（おや）じ緒に貫く」〈天智紀〉「人はおのれ（＝自分自身）をつづまやかにし」〈徒然・１８〉＝反射代名詞・再帰代名詞。
	反切 （はんせつ）	中国で、字音を示すために用いた１つの方法で、求める字の頭音と同じ頭音の字を上に、求める字の△韻と同韻の字を下において、この２字から字音を求めるもの。たとえば「東」について、「徳紅反」とあれば、徳（tok）の頭音（t）と、紅（hong）の韻（ong）とによってtongの音を導き出す方法。なお、唐代までは「○○反」、宋（そう）以後は「○○切」といい、日本では、「かへし」ともいった。
	半濁音 （はんだくおん）	パ行とそれに応じる△拗（よう）音の△音節（ピャ・ピュ・ピョ）をいう。半濁音といっても、音韻上では、Ｐはｂに対するもので、ｂが有声音・濁音であるのに対し、Ｐは無声音・清音という関係にある。「半」というのは、中世に濁音を「◦◦」の印で示したのに対し、半濁音を「◦」で示すところからきているという。「◦」の符号は元来は古辞書で清音に読む印として使われていたが、室町時代末期ごろから半濁音の符号として用いられるようになった。➡清音（せいおん）・濁音（だくおん）
	版本 （はんぽん）	印刷された図書・書物の意。板本・刻本・摺（す）り本・摺（す）り巻とも称する。 現存する版本で最古のものは、称徳天皇の発願による１枚板の「百万塔陀羅尼（だらに）」〈宝亀元年（７７０）〉である。平安時代末期から鎌倉時代には、「春日（かすが）版」が最も名高く、奈良興福寺の僧院が講学に必要な経典を出版した。ついで奈良の版本の影響のもと、高野山の「高野版」、紀州の「根来（ねごろ）版」、延暦（えんりゃく）寺の「比叡

		（ひえい）版」が現れ、また京都では知恩院を中心とする「浄土教版」、また別に「東寺版」の開版を見るに至った。室町時代には、宋（そう）・元の刊本が輸入され、五山中心の禅僧によってその複製が行われ（五山版）、仏典・儒書が盛んに刊行された。室町時代末期に至ると西洋および朝鮮から活字印刷の技術がそれぞれ別に輸入され、出版はいよいよ盛んになり、ついに江戸時代初期の活字本黄金時代を迎えた。刊本の需要の増加につれて、版本は活版から多く製版印刷に転じ、営業者の版元による「町版」の普及を見るに至り、仮名草子・浮世草子の類が刊行され世に迎えられた。さらに、江戸時代中期以降には、読本（よみほん）・洒落（しやれ）本などのほか、国学関係の書、俳諧（はいかい）書などの版本が盛んに出版された。
〔ひ〕	比況の助動詞 （ひきようのじよどうし）	１つの意義を他の意義に比べ、たとえて述べる助動詞。比喩（ひゆ）の助動詞ともいう。述べようとする事物・状態を具体化してわかりやすくしたり、また、あからさまに表現できない事柄について抽象化したり、婉曲（えんきよく）にしたりするときに用いる。文語では「ごとし」がこれに属する。「道に長じぬる一言、神のごとしと人思へり」〈徒然・１４５〉
	被修飾語 （ひしゆうしよくご）	文の成分の１つ。修飾語によって修飾される語または△文節。国語では語序のきまりがあり、修飾語のあとに来るのがふつうで、特別の場合を除き先行することはない。➡修飾語（しゆうしよくご）
	非情の受身 （ひじようのうけみ）	→受身の助動詞（うけみのじよどうし）
	否定の助動詞 （ひていのじよどうし）	→打消の助動詞（うちけしのじよどうし）
	比喩·譬喩 （ひゆ）	ある事物を表現する場合、これに類似する他の事物によって表現すること。これには直喩・隠喩・諷喩（ふうゆ）・活喩がある。(１)直喩…「たとへば」「あたかも」「如（ごとし）」「似たり」などの語を用いる。「蟻（あり）のごとく集まる」　(２)隠喩…「たとへば」「如し」などの語を用いないでいう。「雪の肌」「氷の刃（やいば）」　(３)諷喩…裏面にある意味をこめて婉曲（えんきよく）にいう。たとえ話。寓話。「井の中の蛙（かわず）大海を知らず」 (４)活喩…△擬人法に同じ。「花笑ひ鳥歌ふ」
	表意文字 （ひよういもじ）	「意字」ともいう。漢字など、おのおのの文字がある意味に対応している文字。意味だけを表すのではなく、音をも表すことから表意文字の名は適当でないとし、むしろ語と対応するのであるとして、表語文字という名が使われるようにもなった。↔表音文字（ひようおんもじ）
	表音文字 （ひようおんもじ）	「音字」ともいう。△字音がその言語に用いられる音の単位である△単音１個または△音節１個を表す文字。前者（単音文字）にはローマ字などがあり、後者（音節文字）には、日本の仮名文字などがある。↔表意文字（ひよういもじ）

	表語文字 （ひようごもじ）	→表意文字（ひょういもじ）
	平声 （ひょうしょう）	→四声（しせい）
	平仄 （ひょうそく）	→四声（しせい）
	平仮名 （ひらがな）	国語を表記する△表音文字（音節文字）。古くは「かな」「かんな」といわれ、「△万葉仮名」を草書体にくずして書く「草仮名（そうがな）」が、さらにやわらげられ、簡略化されてできた文字である。平仮名の字体が現行のものに一定したのは明治時代以後で、その以前には、異体の文字「△変体仮名」も併用された。平仮名の作者を弘法（こうぼう）大師とするのは根拠のない俗説で、中古初期、相当の年月にわたって、多くの人の手によって成立したものと推定される。平仮名は、最初、主として消息や和歌を記すのに用いられ、しだいに日記や物語類まで書かれるようになったらしい。当時、漢字・漢文は男子の専有物であり、女性は多く平仮名を用いたので、平仮名は「女手（おんなで）」とも称されたが、男性も場合に応じて平仮名を利用し、和歌や物語などを記した。
	品詞 （ひんし）	単語を性質・形態・用法にもとづいて分類した種別。個々の単語は、それぞれいずれかの品詞に所属することになり、また、所属品詞を確認することによって、その語の文法上の性質や職能を明らかにすることができる。単語を分類することを「品詞分類」というが、通常、△動詞・△形容詞・△形容動詞・△名詞・△副詞・△連体詞・△接続詞・△感動詞・△助動詞・△助詞の１０品詞に分類される。
	品詞の転成 （ひんしのてんせい）	１つの単語が、形はほぼもとのままで、もとの品詞の意味・用法が変わって、他の品詞としての性質をもつようになることをいう。(１)名詞に転成したもの…光・遊び（動詞から）、遠く・辛子（からし）（形容詞から）、あはれ（感動詞から）　(２)代名詞に転成したもの…君（きみ）・僕（ぼく）（名詞から）　(３)動詞に転成したもの…悲しむ（形容詞から）　(４)形容詞に転成したもの…騒がし（動詞から）、いとどし（副詞から）　(５)副詞に転成したもの…つゆ（名詞から）、たとひ（動詞から）　(６)接続詞に転成したもの…および（動詞から）、なほ（副詞から）　(７)感動詞に転成したもの…あれ（代名詞から）、いかに（副詞から）　など。
〔ふ〕	複合語 （ふくごうご）	合成語ともいう。２つ以上の単語が合して、１つの意味を表す新しい単語になったものをいう。→熟語（じゅくご）・畳語（じょうご）・連濁（れんだく） 複合名詞…山ざくら・落ち葉 複合動詞…旅立つ・高鳴る 複合形容詞…待ち遠し・かろがろし

付録

		複合副詞…誠に・何とぞ 複合接続詞…並びに・または
	副詞 （ふくし）	品詞の１つ。単語のうち、△自立語で△活用がなく、主語になれず、主として△用言を修飾するものをいう。「風雨なほやまず」（動詞を修飾）「紅葉いとうるはし」（形容詞を修飾）「海上きはめておだやかなり」（形容動詞を修飾）。 なお、次のような語は連用修飾語であるが副詞とは認められないから、区別する必要がある。 （１）「昔（＝名詞）男ありけり」「草子に歌一つ（＝名詞）書け」 （２）「白く（＝形容詞）なりゆく山ぎは」 （３）「枝もたわわに（＝形容動詞）なりたる」「秋風蕭々（せうせう）と（＝形容動詞）吹く」 副詞は、その表す意味や機能のうえから、△状態の副詞・△程度の副詞・△叙述の副詞の３種に分けられる。それぞれの項を参照。
	副詞法 （ふくしほう）	△活用形の用法の１つ。主として、△形容詞・△形容動詞の連用形が、副詞のように用言を修飾する用法をいう。連用法ともいう。「紫だちたる雲の細く（＝形容詞）たなびきたる」「静かに（＝形容動詞）思へば」「悠然と（＝形容動詞）山を見る」
	副助詞 （ふくじょし）	種々の語に付属してある意味を添え、△副詞のようにそれを受ける△文節を修飾する△助詞。文語では「だに」「さへ」「すら」「のみ」「ばかり」「まで」「など」がこれに属する。「散りぬとも香（か）をだに（＝セメテ香リダケデモ。限定ノ意）残せ梅の花恋しき時の思ひ出（い）でにせむ」〈古今・春上〉「春雨ににほへる色も飽かなくに香（か）さへ（＝香リマデガ。添加ノ意）なつかし山吹の花」〈古今・春下〉「和泉（いづみ）の国まで（＝帰着点ノ意）と平らかに願立つ」〈土佐〉
	複文 （ふくぶん）	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の１つ。１つの文において、主語・述語の関係が△対等の関係でなく、２回以上成り立つ文、すなわち文中に従属節を含む文をいう。➡単文（たんぶん）・重文（じゅうぶん） 「雨など　降るも　をかし」〈枕・春はあけぼの〉 主　述　述 主
	武士詞 （ぶしことば）	武士が味方に関して不吉なことばを忌みきらって用いた△忌み詞の１つ。たとえば、戦場などで縁起をかつぎ、士気を鼓舞する必要から、「討たれて」を「討たせて」、「射られ」を「射させ」などといった例が軍記物語に見える。武者詞（むしゃことば）・武家詞（ぶけことば）・陣中詞（じんちゅうことば）ということもある。

	付属語 （ふぞくご）	その語単独では△文節になることがなく、常に△自立語に付属して用いられるもの。自立語のように概念を表すことがなく、概念と概念との結びつきの関係や、概念に対する話し手の気持ちや態度を表す語で、△活用のある△助動詞と活用のない△助詞がこれに属する。「名利につかはれて　静かなる　いとま　なく　一生を　苦しむるこそ　愚かなれ」〈徒然・３８〉↔自立語
	部立 （ぶだて）	歌集などで、歌を配列するために、部類・部門に分けること。たとえば、万葉集では、雑歌（ぞうか）・相聞（そうもん）・挽歌（ばんか）・正述心緒（せいじゆつしんしょ）歌・寄物陳思（きぶつちんし）歌・譬喩（ひゆ）歌に分けたり、勅撰（ちょくせん）和歌集では、四季（春・夏・秋・冬）・恋・物名（もののな）・賀・哀傷・羇旅（きりょ）・雑（ぞう）・雑体（ぞうたい）・連歌（れんが）・神祇（じんぎ）・釈教（しゃくきょう）などに分けたりしているのが、それである。
	普通名詞 （ふつうめいし）	△名詞の１種。同じ種類の事物に共通して用いられる普通一般の名詞をいう。たとえば、「人・山・川・花・月」など。「月・太陽」などは、この世に１つしか存在しないところから△固有名詞のように考えたくなるが、他と区別するためにつけられた名称でないから普通名詞と見る。また、「太郎」なども、長男の意であれば普通名詞、人名であれば固有名詞ということになる。
	文 （ぶん）	言語単位の１つ。一続きの、あるまとまった思想を表していて、その終わりで音の切れるものをいう。文の定義づけは、簡単にはできないが、内にある思想内容と外に現れた言語形式の両面から考えてみると、（１）文は事柄の表現に、さらにそれに関する言語主体の態度・気持ちなどの表現（判断・推量・要求・感動など、すなわち陳述）が加わって１まとまりとなる、（２）音の連続であり、前後には必ず音の切れ目がある、（３）文の終わりには特殊の音調が加わり、それによって文の断止が明らかに示される、（４）書きことばにおいては、文の終わりに句点「。」を付けるのがふつうである、などの特質をあげることができる。このように、文法上の「文」は、ことばによって１つのまとまった思想や判断・情緒を相手に伝達するものであるから、構造上１つの△文節のものもあり、成分としては、△主語・△述語・その他の要素が省略される場合もある。
	文語 （ぶんご）	△口語に対することばで、本来は書きことば（文章語）のことであるが、ふつうには、現代語に対する古典語という意味に用いることが多い。特に、古典語の中でも、主として、その標準的なものとして考えられてきた中古の文法にもとづく言語体系をさす場合がある。「文語文」とか「文語文法」という場合は、この場合に近い。↔口語
	文節 （ぶんせつ）	言語単位の１つで、単語と文の中間に位するもの。文素・語節とよぶこともある。文を実際上の言語として不自然でないまでにできるだけ細かく区切った場合の１つの区切りをいう。実際に用いる言語として意味のわかる最小の一区切り（意味上の単位）であり、外形上からは息の一段落と一致するところ（音声上の単位）である。つまりそれだけはいつも一続きに発音され、その前後に音の切れ目を置くことができる。構成上からは１単語（△自立語）から成るものと、２つ以上の単語（自立語１つと△付属語１つ以上）から成るものがあり、文節が文を構成する場合の関係に

		ついてみると、続く文節と切れる文節とに分けられる。「よどみに｜浮かぶ｜うたかたは｜かつ｜消え｜かつ｜結びて｜久しく｜とどまりたる｜ためし｜なし」〈方丈〉
	文体（ぶんたい）	文章は、その記載形式や語彙（ごい）、もしくは表現法によって、さまざまな特殊性や類型を生じる。その、それぞれの型を文体とよぶ。したがって、型に分ける基準によって、いろいろな面から文体を設定することができる。たとえば、 （１）記載形式による——漢文体・宣命（せんみょう）体・東鑑（あづまかがみ）体 （２）語彙・語法による——候文体・和文体・漢文直訳体・文語体・口語体 （３）修辞による——散文体・韻文体・四六騈儷（べんれい）体など。
	文の種類（ぶんのしゅるい）	文の構造のうえから、特に△主語・△述語の関係を基準として、△単文・△複文・△重文の３種に分ける場合と、文の叙述のしかたと、切れる文節に現れる形のうえの特徴から、△平叙文・△疑問文・△命令文・△感動文の４種に分ける場合とがある。これらの分類は、国語の性格からいって、主語・述語の関係だけを基準としたり、叙述のしかたや特徴だけを基準としたりしているので、明確な分類とはいいにくい。
〔へ〕	平叙文（へいじょぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、肯定・否定・推量・決意・比況など、ふつうの意味を叙述するもの。切れる△文節が△用言または△助動詞の終止形で終わるのがふつうだが、文語では△係り結びの場合があって、「ぞ」「なむ」には連体形、「こそ」には已然形で結ぶ。「かきつばた咲きたり」（肯定）「みな人見知らず」（否定）「飛び降るとも降りなむ」（推量）「早く行かむ」（決意）「花の散るは吹雪のごとし」（比況）➡文の種類（ぶんのしゅるい）・感動文（かんどうぶん）・命令文（めいれいぶん）・疑問文（ぎもんぶん）
	並立語（へいりつご）	→対等の関係（たいとうのかんけい）
	並列助詞（へいれつじょし）	△助詞の１つ。種々の語に付いて、並列する意を示すもの。文語では「と」「の」「や」「か」などがある。「夏と秋とゆきかふ空のかよひ路は」〈古今・夏〉「唐（から）の大和（やまと）のめづらしくえならぬ調度ども並べおき」〈徒然・１０〉「人々の花や蝶（てふ）やとめづるこそはかなうあやしけれ」〈堤中納言・虫めづる姫君〉「あるかなきかにうつる朝顔」〈源・朝顔〉。ただし、助詞の分類において並列助詞を立てない場合は、右の「と」「の」は△格助詞、「や（間投助詞ともする）」「か」は△係助詞に含めて扱う。本書もその立場をとっている。＝並立助詞。

	並立の関係 (へいりつのかんけい)	→対等の関係（たいとうのかんけい）
	変体仮名 (へんたいがな)	仮名の１つ。現在一般に用いられる字体以外の異体の△平仮名をいう。一口に、平仮名といっても字源の漢字の違いや、くずし書きの程度によって、種々の字体のものが生まれて、並び行われてきたが、明治時代末期ごろから現在の字体だけが、ふつうに使用され、他は「変体仮名」と称され、書道などにだけ用いられるようになった。
〔ほ〕	母音 (ぼいん)	△子音に対する名称で、気息の通る路（みち）で閉鎖または狭めの起きない音。国語にふつうに用いられる母音は、ａ・ｉ・ｕ・ｅ・ｏの五音である。↔ 子音
	方言 (ほうげん)	１つの国語が、地方によって別々に発達して、音韻・文法・語彙（ごい）のうえで、いくつかの言語団に分かれたときに、それぞれの分団の言語全体をさして、方言という。方言が生じるのは、各地域の社会状態の特殊性や、各地間の交通の疎隔によることが多い。万葉集の「東歌（あづまうた）」や「防人（さきもり）の歌」には、当時の東国方言がみえる。
	補助形容詞 (ほじよけいようし)	補助用言の１つ。他の語に付いて、これに付属的な意味を添える△形容詞をいう。△用言であって、もとの意味を失い、△助動詞と同じ用法をもつようになったもの。「天気がよくない（口語）」の「ない」や、「木々の木の葉、まだいと繁（しげ）うはなうて」〈能因本枕・正月一日は〉の「なし」がこれに当たる。
	補助動詞 (ほじよどうし)	△補助用言の１つ。他の語に付いて、これに付属的な意味を添える△動詞をいう。△用言であって、もとの意味を失い、△助動詞と同じ用法をもつようになったもの。「その本を取ってください（口語）」。文語では、用法上からは次のように分類することができる。 （１）「に」「にて」とともに△体言に付いて、指定の「である」の意を表す。「雪の降りたるはいふべき（サマ）にもあらず」〈枕・春はあけぼの〉「渡し守にて候ふ」〈謡・隅田川〉 （２）形容詞・形容動詞に付く「ある」の意味の動詞。「うつくしう侍り」「賢うおはします」 （３）動詞の連用形に付いて、敬意を表す動詞。「御子さへ生まれ給ひぬ」〈源・桐壺〉「あはれに見奉る」「竹の中より見つけ聞こえたりしかど」〈竹取・かぐや姫の昇天〉「ぜひもなくおもしろう狂ひ候ふを見候ふよ」〈謡・隅田川〉 （４）「て」を伴う動詞に付く動詞。「聞きて侍り」「西行の庵室（あんじち）に着きて候ふ」〈謡・西行桜〉
	補助の関係 (ほじよのかんけい)	「吾輩（わがはい）は猫である」「君もをかしと聞きたまふ」〈源・若菜〉。この傍点の△文節と傍線の文節の関係をみると、前の文節がおもな意味を表し、あとの文節はこれに付属して補助的な意味を添えている。このような連なり方を「補助の関係」または「付属の関係」という。この場合、後の文節は常に△補助用言である。補助の関係は、△用言とそれに付く△助動詞との関係によく似ていて、文例の「猫である」「聞きたまふ」は、ほとんど１文節のようなはたらきをしている。しかし、これらを補助の関係に立つ２つの文節と見なすのは、この場合「ある」「たまふ」などの語が、「ここに本がある」「御衣（おほんぞ）をたまふ」のように、時に応じて独立の本動詞としての機能をもっており、完全に助動詞になりきってはいないからである。

付録

	用語	解説
	補助用言 （ほじょようげん）	△用言が、もとの意味を失い、△助動詞と同じく補助的用法に用いられるようになったものをいう。△補助動詞と△補助形容詞の２種がある。これらの語は意味・用法のうえでは助動詞に相当するが、形態のうえではそれだけで△文節をつくることができるから、自立語として扱われる。➡補助動詞（ほじょどうし）・補助形容詞（ほじょけいようし）
	梵語 （ぼんご）	サンスクリット（古代インド・アリアン語）。ギリシャ語やラテン語と同系統のインド・ヨーロッパ語族に属する。紀元前から会話語としての性格を失い、その後は文章語として用いられた。仏教の伝播（でんぱ）に伴い、漢訳仏典を通じてわが国の日常語にも吸収され、今日もなお使われているものがある。たとえば、僧（ソー）・旦那（ダンナ）・卒塔婆（ソトバ）・袈裟（ケサ）・舎利（シャリ）・刹那（セツナ）など。
〔ま行〕	枕詞 （まくらことば）	国語の修辞の１つ。一定の語に冠して修飾または句調を整えるのに用いる語句。主として、上代・中古の和歌などに用いられ、５音がふつうであるが、古いものには、４音（うま酒→三輪、つぎねふ→山城）などもあり、３音（千葉の→葛野（かづの））のものもある。枕詞の起源は、神名・人名・地名に冠して用いられたもので、元来は呪術（じゅじゅつ）的なほめことばであったろうという。歌謡が和歌となり、文芸作品の性質を帯びるにしたがって、枕詞も本来の性質を失って声調的・情緒的な修辞上の技巧に変質していったと思われる。枕詞の使用は上代の記紀からみられ、「万葉集」に最も多彩に生き生きと用いられているが、「古今集」以後ではその数も僅少（きんしょう）となり、内容の空虚な形式的修辞に化している。 枕詞の中で上代からあったと推定されるものには「あしひきの」「あをによし」「ひさかたの」などがあり、語義やかかり方の不明なものが多い。語義の解釈しうるものや、動詞・形容詞・語句などにかかるものは成立がおそく、なかには人麻呂などの歌人による創作もあると推定される。その修飾する語句へのかかり方には、およそ次の２種類が考えられる。 （１）意味の関連によるもの…天離（あまざか）る→鄙（ひな）　くさまくら→旅　菅（すが）の根の→長き　垂乳根（たらちね）の→母・親 （２）音の関連によるもの…葦田鶴（あしたづ）の→たづたづし　さゆり花→後（ゆり）　柞葉（ははそは）の→母　＝冠辞・頭辞。
	未然形 （みぜんけい）	△活用形の１つ。助動詞「む」・助詞「ば」に続いて、まだ(未)実際には起きていない事実(然)を述べるのに用いられ、未然形とよばれる。単独で文中に用いられた例はなく、常に次の助動詞・助詞に続く形として用いられる。 （１）助動詞…ず・む・じ・す（四段・ナ変・ラ変だけ）・さす（四段・ナ変・ラ変以外）・しむ・る（四段・ナ変・ラ変だけ）・らる（四段・ナ変・ラ変以外）・まほし・まし・り（サ変だけ） （２）助詞…ば・で・な…そ（カ変・サ変だけ）・ばや・なむ

付録

用語	解説
道行文（みちゆきぶん）	地名を追いながら、道中の風景や旅情などを織りこんで作る詞章。多く△七五調で、接続には掛詞などの技巧が見られる。宴曲・軍記物・謡曲・浄瑠璃（じょうるり）などに用いられ、わが国独特の表現形式である。「…憂きをば留めぬ相坂の、関の清水に袖（そで）濡（ぬ）れて、末は山路を打出の浜、沖を遥かに見渡せば、塩ならぬ海にこがれ行く、身を浮舟の浮き沈み、駒も轟（とどろ）と踏み鳴らす、勢多の長橋打ち渡り、行き交ふ人に近江路や、世のうねの野に鳴く鶴も、子を思ふかと哀れなり」〈太平記・２〉
武者詞（むしやことば）	→武士詞（ぶしことば）
無変化型の助動詞（むへんかがたのじよどうし）	△活用形の用法は備えていても、活用形に変化が見られない助動詞。文語では「じ」（打消推量）「らし」（推量）がこれに属する。無変化型の助動詞を特に立てないで、特殊活用型の助動詞に含める考えもある。本書はこの立場をとっている。
名詞（めいし）	品詞の１つ。事物の概念を名称によって表した語。△自立語で、△活用がなく、△主語になることができる。広義には、名詞すなわち△体言とするが、一般には△代名詞・△数詞とともに体言の１種とされる。名詞を△普通名詞・△固有名詞に分け、また別に△実質名詞と△形式名詞に分けることもある。
命令形（めいれいけい）	△活用形の１つ。単独で言い切り、聞き手への「命令」の意を表すのがふつうであるが、「許容」「放任」の意に用いられる場合もある。たとえば、「今は西海の浪（なみ）の底に沈まば沈め」〈平家・７・忠度都落〉「勝手にせよ」など。上一段・上二段・下一段・下二段・カ変・サ変の動詞の命令形は、「見よ」「起きよ」「受けよ」「来（こ）よ」のように「よ」を伴うが、この「よ」を助詞と見る説もある。カ変の命令形は、中古ごろまでは「よ」を伴わない「来（こ）」の形を用いた。また、口語の△可能動詞は性質上、命令形を欠いている。△形容詞にも命令形はないが、文語では△カリ活用の「…かれ」という形をあてている。△助動詞は、同じ語形の語でも、それぞれの語の意味から、命令形をもつものと欠くものとがある。
命令文（めいれいぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、命令・禁止・希望・要求などの意味を表すものをいう。「希望文」ということもある。切れる△文節に、△用言または△助動詞の命令形を用いるか、その意味を表す語を添えるか、または禁止や願望・希望の語を添えることが多い。「心して降りよ」（命令）「あやまちすな」（禁止）「外山（とやま）の霞（かすみ）立たずもあらなむ」（願望）「昔を今になすよしもがな」（希望）➡文の種類（ぶんのしゆるい）・平叙文（へいじよぶん）・疑問文（ぎもんぶん）・感動文（かんどうぶん）
迷惑の受身（めいわくのうけみ）	→受身の助動詞（うけみのじよどうし）

付録

	木版本 （もくはんぼん）	元来、木版本の意であった「版本」が、広く「写本」に対して印刷本をいうようになって、版木に彫って印刷するものを改めて区別する時、「木」をつけていう。版木を彫るには薄い和紙に彫るべき文字や絵図を書き、これを裏返しに版木に貼（は）りつけて刻む。この文字や絵図を「版下（はんした）」といい、その筆耕者を「版下書き」といった。版木は、日本では桜を使ったが、中国では梓（あずさ）を用いたので「上梓（じょうし）」の語がある。なお、「整版本」「槧本（ざんぽん）」も同義である。
	文選読み （もんぜんよみ）	漢文訓読における読み方の１種で、たとえば「関々雎鳩」〈詩経〉を「クヮンクヮントヤハラギナケルショキウノミサゴハ」と読むように、同一の漢語・漢字を最初、音で読み、続いて訓でもう一度読む読み方。これを文選読みというのは、中国の詩文集「文選」の読み方に顕著にこの方法が伝えられたからで、すでに「太平記」などの漢文訓読調の文章にも見られるが、形式化したのは江戸時代であるという。
〔や行〕	湯桶読み （ゆとうよみ）	漢字の熟語・複合語で、たとえば「湯桶（ゆとう）」（食後に飲む湯を入れる器）のように、上の漢字を△訓で読み、下の漢字を△音で読む読み方。「初陣（うひぢん）」「手本（てほん）」「野宿（のじゅく）」などもこの例である。➡重箱読み（じゅうばこよみ）
	拗音 （ようおん）	キャ・キュ・キョのようにヤ行のヤ・ユ・ヨや、クヮ・グヮのようにワを他の仮名の右下に小書きして表す音。前者を開拗音（ヤ行拗音）、後者を合拗音（ワ行拗音）ともいう。↔直音（ちょくおん）
	用言 （ようげん）	△自立語で活用のある語。事物の動作・存在・性質・状態を表し、単独で述語になることができる。活用形式によって、次の３品詞に分ける。↔体言 （１）△動詞（終止形がウ段の音で終わるもの。ただし、文語ラ変はイ段「り」） （２）△形容詞（終止形が「し」（文語）、「い」（口語）で終わるもの） （３）△形容動詞（終止形が「なり・たり」（文語）、「だ」（口語）で終わるもの）
	様態の助動詞 （ようたいのじよどうし）	物の存在のしかた、人の行動・ようすなどについて、「…のようすだ」「…のように見える」と、不確かな断定を表す助動詞をいう。口語では「ようだ」「そうだ」「ふうだ」（形容動詞型）がこれに属する。文語では推量の助動詞「めり」（ラ変動詞型）をこれに加える説もある。これらは不確かな判断を表す性質をもつところから、やわらげて言う表現（婉曲（えんきょく）な叙述）にも使われる。
	四段活用 （よだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。「待つ」「思ふ」のように、△活用語尾が△五十音図のアイウエの四段に活用する形式をもつもの。終止形・連体形が同形、已然形・命令形が同形で、連用形に△音便がある。口語動詞の場合は、助動詞「う」がつくとき、未然形に「書こう」「待とう」などとオ段が加わるので「五段活用」という。

付録

〔ら行〕	ラ行変格活用（らぎようへんかくかつよう）	文語動詞の活用の１つ。略してラ変ともいう。四段活用に似ているが、その違いは終止形がイの段（「り」）で終わることである。「ら・り・り・る・れ・れ」と活用する。これに属する語は「あり」「居（を）り」「はべり」「いまそがり」がある。「あり」「居り」「はべり」は、口語では「ある」「居（お）る」「はべる」と五段活用になり、「いまそがり」は用いられない。
	六書（りくしよ）	漢字を語の書き表し方から６分類した総称。△象形（しょうけい）・△指事・△会意・△形声・△転注・△仮借（かしゃ）の６つをいう。六書は後漢ごろから説かれたが、六書の原理を用いて当時の文字を分類し、それぞれの文字の正しい意味を定めたのが後漢の許慎（きょしん）の「説文（せつもん）解字」１５編（西暦１００年ごろ成立）である。➡会意（かいい）・仮借（かしゃ）・形声（けいせい）・指事（しじ）・象形（しょうけい）・転注（てんちゅう）
	律詩（りつし）	漢詩の一体。単に「律」ともいう。２句を一組みとして、首聯・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯の８句から成る。各句の字数によって、五言律詩・七言律詩の２種がある。△絶句とともに南北朝から唐にかけて完成された近（今）体詩。頷聯と頸聯はそれぞれ対句をなし、△押韻（おういん）・△平仄（ひょうそく）などにも厳密なきまりがある。
	流布本（るふぼん）	同一の古典作品として伝えられる本文のうち、もっとも世間に流布・通行しているものをいい、「異本」ということになる。流布本の特色は文意が通ってわかりやすい点にあるが、だからといって正しい本文であるとは限らない。そこに△校合（きょうごう）という作業の必要性がある。➡校合（きょうごう）
	歴史的仮名遣い（れきしてきかなづかい）	△仮名遣いの基準を一定の過去の文献の用例に求める立場のものをいう。表音的仮名遣いに対するもので、「古典的仮名遣い」とも称される。ふつうには「現代仮名遣い」が制定される以前、国が公認したものをさすが、具体的には、江戸時代初期に国学者契沖（けいちゅう）の定めた仮名遣いを意味する。△仮名による表記法は、音声の変化とともに乱れたが、中世以後、いわゆる「△定家仮名遣い」が、１つの基準として行われてきた。しかし「定家仮名遣い」は、その根拠とした文献が、当時から比較的近い過去のものであったらしく、原理の不統一や誤りが見られた。この点に疑問をいだいた契沖は、「定家仮名遣い」に対して、仮名の用法に混乱を生じなかった中古中期（天暦ごろ）以前の古典（記紀・「万葉集」・「和名抄」など）に仮名遣いの基準を求め、「和字正濫抄（わじしょうらんしょう）」を著してこの法則の使用を主張した。これは、伝統を尊重する国学者によって支持され、楫取魚彦（かとりなひこ）の「古言梯（こげんてい）」で補訂が加えられ、権威づけられるようになった。明治時代にはいると義務教育に採用されて公認のものとなり、諸種の文章や口語文にも広く用いられ、「現代仮名遣い」が公布されるまで国語の仮名表記の規範としての地位を保った。➡ 仮名遣い（かなづかい）
	連語（れんご）	２つ以上の単語の連結したもの。「山　の　端」「春　は」「暮れ　ぬ」など。ただし、単語の結合でも、それらがすっかり熟合して、結合以前とは異なった１単語としての形態や機能をもっているものは「△複合語」として、連語とは区別される。連語のうち、活用のあるものを「活用連語」という。

付録

	連声 （れんじょう）	音が連続するときに起こる音韻変化の１つで、音韻添加（音の増加）の現象。前の△音節の尾音のｍ・ｎ・ｔが次の△母音と連なる場合にその△子音が添加されるもの。中古の中期からあった。「かんおん→かんのん（観音）」「さんい→さんみ（三位）」「いんえん→いんねん（因縁）」
	連体形 （れんたいけい）	△活用形の１つ。△体言を修飾することをおもな用法とする形。口語の動詞・形容詞においては終止形と同形である。文語連体形の用法としては、次のようなものがある。 （１）連体修飾語として体言を修飾する。「流るる水」「住む家」「白き花」「静かなる山」 （２）係助詞「ぞ」「なむ（なん）」「や」「か」を受けて文を結ぶ（係り結び）。「水ぞ流るる」「心やはらかなるなんよき」「夜や暗き」 （３）下に「こと」「もの」「ひと」などのある気持ちで、体言と同じ資格で用いられる。「雨など降る（コト、サマ）もをかし」〈枕・春はあけぼの〉「行く（ヒト）も帰る（ヒト）も別れては」〈後撰・雑１〉 （４）助動詞「ごとし」「なり（断定）」、助詞「が」「の」「を」「に」「より」「か」「かな」「ぞ」に連なる。 （５）ラ変動詞・形容詞・形容動詞の連体形は、助動詞「べし」「まじ」「らむ」「めり」「らし」「なり（伝聞推定）」に連なる。
	連体詞 （れんたいし）	品詞の１つ。単語のうち、△自立語で△活用がなく、△主語にならないもので、もっぱら△体言を修飾するものをいう。文語ではこれに属する語は少数で、「ある」「いはゆる」「あらゆる」「さ（然）る」「さしたる」「去（さ）んぬる」「往（い）んじ（往にし）」など。「この」「その」「わが」は、口語では連体詞（１単語）とし、文語の場合は「こ・そ・わ（代名詞）」に「の・が（助詞）」の連なったもの（２単語）として扱う。
	連体修飾語 （れんたいしゅうしょくご）	△修飾語の１つ。△体言を修飾する修飾語で、形容詞的修飾語ともいう。△被修飾語に直接に連なるのが特色である。連体修飾語となる△文節は、次のような品詞からできている。 （１）連体詞「あらゆる人々」「さしたる事」 （２）体言に助詞が付いたもの「わが子」「月の光」 （３）副詞または副詞に助詞が付いたもの「わづか二人」「しばしの程」 （４）△用言または用言に助動詞が付いたものの連体形「行く春」「さわやかなる風」「昔ありけむ人」「過ぎにしころ」 （５）形容詞・形容動詞の語幹に助詞「の」が付いたもの「おもしろの楽の音」「なほざりの心」
	連濁 （れんだく）	２語が結合する場合に、下の語の頭の△清音が△濁音になるもの。「あさぎり」「ひとびと」。この現象は字音語にも見られ、傾向として前の字音の尾音がイ・ウ・ンなどのときに多い。「亭子院（ていじのゐん）」「障子（さうじ）」「信心（しんじん）」

付録

	連文節 （れんぶんせつ）	連接する２つの△文節が△主語△述語の関係・△修飾語△被修飾語の関係・△対等の関係・△補助の関係で結合して１つのまとまりになり、さらに他の文節に対して主語・述語・修飾語・△独立語など、１つの文節のようなはたらきをするものをいう。文節と連文節、連文節と連文節とが結合してできる。さらに大きいまとまりも連文節とよぶ。文節と文節とはこのようにして順次結ばれてゆき、文全体が連文節になったときに終わる。次の傍線の部分は、それぞれ連文節である。 春は　来たれども　寒さ　未（いま）だ　去らず
	連用形 （れんようけい）	△活用形の１つ。△用言に連なることをおもな用法とするもので、次のような用法がある。 （１）△中止法…文を中止し、次の△文節に△対等の関係で続く。「花咲き、鳥鳴く」「山青く、水清し」「波静かに、風なぎたり」 （２）△副詞法…△連用修飾語として△用言を修飾し、または意味を補う。「読み終わる」「暖かくなる」「静かに語る」 （３）△体言と同じ資格をもつ。「花を見に行かむ」 （４）動詞の連用形は他の動詞などに連なって△複合語となる。「見送る」「居着く」「住みなす」 （５）助動詞「き」「けり」「つ」「ぬ」「たり」「けむ」「たし」、助詞「て」「して（形容詞・形容動詞だけ）」「つつ」「（な）…そ（カ変・サ変以外）」に連なる。この場合、特定の助動詞・助詞に続くとき、四段・ナ変・ラ変、形容詞は△音便の形になることがある。「泣いて」「飛んだり」「往（い）んじ」「あんなり」「面白うて（して）」
	連用修飾語 （れんようしゆうしよくご）	△修飾語の１つで、△用言を修飾するもの。副詞的修飾語ともいう。客語・補語とよばれるものも、連用修飾語と比べてはっきりと両者を分ける基準をたてにくいことから、今日では連用修飾語として扱っている。連用修飾語になる△文節は次のような品詞からできている。 （１）副詞。「いとあはれなり」「はらはらと散る」 （２）形容詞または形容動詞の連用形。「風涼しく吹く」「静かに思ふ」「巍々（ぎぎ）と聳（そび）ゆ」 （３）△体言（数量や時を示すもの）。「三たび省みる」「一里歩く」「昔、男ありけり」 （４）体言に助詞の付いたもの。「宿を立ち出（い）づ」「仏に仕うまつる」「桜田へ鶴（たづ）鳴きわたる」〈万・３・２７３〉 （５）用言または活用連語に接続助詞の付いたもの（理由・原因・条件などを示す）。これを「△接続語」として、連用修飾語に含めない説もある。「遠くとも心を近く思ほせ吾妹（わぎも）」〈万・１５・３７８６〉
〔わ行〕	和漢混交文 （わかんこんこうぶん）	文体の１種。広義には、和文調と漢文調との交じった文体をいう。狭義には、鎌倉時代以降の軍記物語（「保元（ほうげん）物語」「平治物語」「平家物語」「太平記」）などに見られる和文調と漢文訓読調を調和させ、それに当時の口語・俗語をも取り入れた独自の文体をさしていう。系統上は「漢字仮名交じり文」に属するもので、漢字に片仮名を交ぜて表記し、のちには平仮名を交ぜて表記した。和文の優雅・流麗と漢文訓読調の力強さ・簡潔さとを、内容に応じて適宜に交じえて表現効果をあげた。

付録

ローマ字／かな対応表

ローマ字の入力方法がわからないときは、この表で確認してください。表記１、表記２、表記３、いずれでも入力することができます。

ひらがな	表記1	表記2	表記3
あ	A		
い	I	YI	
う	U		
え	E		
お	O		
か	KA		CA
き	KI		
く	KU	QU	CU
け	KE		
こ	KO		CO
さ	SA		
し	SI	SHI	CI
す	SU		
せ	SE		CE
そ	SO		
た	TA		
ち	TI	CHI	
つ	TU	TSU	
て	TE		
と	TO		
な	NA		
に	NI		
ぬ	NU		
ね	NE		
の	NO		
は	HA		
ひ	HI		
ふ	HU	FU	
へ	HE		
ほ	HO		
ま	MA		
み	MI		
む	MU		
め	ME		
も	MO		
や	YA		
ゆ	YU		
よ	YO		
ら	RA		
り	RI		
る	RU		
れ	RE		
ろ	RO		
わ	WA		
ゐ	WYI		
ゑ	WYE		
を	WO		
ん	N*		

●濁音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
が	GA		
ぎ	GI		
ぐ	GU		
げ	GE		
ご	GO		
ざ	ZA		
じ	ZI	JI	
ず	ZU		
ぜ	ZE		
ぞ	ZO		
だ	DA		
ぢ	DI		
づ	DU		
で	DE		
ど	DO		
ば	BA		
び	BI		
ぶ	BU		
ゔ(ヴ)	VU		
べ	BE		
ぼ	BO		

●半濁音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
ぱ	PA		
ぴ	PI		
ぷ	PU		
ぺ	PE		
ぽ	PO		

●拗音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
きゃ	KYA		
きぃ	KYI		
きゅ	KYU		
きぇ	KYE		
きょ	KYO		
しゃ	SYA	SHA	
しぃ	SYI		
しゅ	SYU	SHU	
しぇ	SYE	SHE	
しょ	SYO	SHO	
ちゃ	TYA	CHA	CYA
ちぃ	TYI	CYI	
ちゅ	TYU	CHU	CYU
ちぇ	TYE	CHE	CYE
ちょ	TYO	CHO	CYO
にゃ	NYA		
にぃ	NYI		
にゅ	NYU		
にぇ	NYE		
にょ	NYO		
ひゃ	HYA		
ひぃ	HYI		
ひゅ	HYU		
ひぇ	HYE		
ひょ	HYO		
ふぁ	FA		
ふゃ	FYA		
ふぃ	FI	FYI	
ふゅ	FYU		
ふぇ	FE	FYE	
ふょ	FYO		
ふぉ	FO		
ぴゃ	PYA		
ぴぃ	PYI		
ぴゅ	PYU		
ぴぇ	PYE		
ぴょ	PYO		
みゃ	MYA		
みぃ	MYI		
みゅ	MYU		
みぇ	MYE		
みょ	MYO		
りゃ	RYA		
りぃ	RYI		
りゅ	RYU		
りぇ	RYE		
りょ	RYO		
ぎゃ	GYA		
ぎぃ	GYI		
ぎゅ	GYU		
ぎぇ	GYE		
ぎょ	GYO		
じゃ	ZYA	JA	JYA
じぃ	ZYI	JYI	
じゅ	ZYU	JU	JYU
じぇ	ZYE	JYE	JE
じょ	ZYO	JO	JYO
ぢゃ	DYA		
ぢぃ	DYI		
ぢゅ	DYU		
ぢぇ	DYE		
ぢょ	DYO		

付録

ひらがな	表記1	表記2
びゃ	ⒷⓎⒶ	
びぃ	ⒷⓎⒾ	
びゅ	ⒷⓎⓊ	
びぇ	ⒷⓎⒺ	
びょ	ⒷⓎⓄ	
ヴァ	ⓋⒶ	
ヴィ	ⓋⒾ	
ヴェ	ⓋⒺ	
ヴォ	ⓋⓄ	
ヴャ	ⓋⓎⒶ	
ヴュ	ⓋⓎⓊ	
ヴョ	ⓋⓎⓄ	
うぁ	ⓌⒽⒶ	
うぃ	ⓌⒽⒾ	ⓌⒾ
うぇ	ⓌⒽⒺ	ⓌⒺ
うぉ	ⓌⒽⓄ	
つぁ	ⓉⓈⒶ	
つぃ	ⓉⓈⒾ	
つぇ	ⓉⓈⒺ	
つぉ	ⓉⓈⓄ	
いぇ	ⓎⒺ	
てゃ	ⓉⒽⒶ	
てぃ	ⓉⒽⒾ	
てゅ	ⓉⒽⓊ	
てぇ	ⓉⒽⒺ	
てょ	ⓉⒽⓄ	
でゃ	ⒹⒽⒶ	
でぃ	ⒹⒽⒾ	
でゅ	ⒹⒽⓊ	
でぇ	ⒹⒽⒺ	
くぁ	ⓆⒶ	ⓀⓌⒶ
くぃ	ⓆⒾ	ⓀⓌⒾ
くぅ	ⓆⓌⓊ	
くぇ	ⓆⒺ	ⓀⓌⒺ
くぉ	ⓆⓄ	ⓀⓌⓄ
ぐぁ	ⒼⓌⒶ	
ぐぃ	ⒼⓌⒾ	
ぐぅ	ⒼⓌⓊ	
ぐぇ	ⒼⓌⒺ	
ぐぉ	ⒼⓌⓄ	
とぅ	ⓉⓌⓊ	
どぅ	ⒹⓌⓊ	

●小文字

ひらがな	表記1	表記2	表記3	表記4
ぁ	ⓍⒶ		ⓁⒶ	
ぃ	ⓍⒾ		ⓁⒾ	ⓁⓎⒾ
ぅ	ⓍⓊ		ⓁⓊ	
ぇ	ⓍⒺ		ⓁⒺ	ⓁⓎⒺ
ぉ	ⓍⓄ		ⓁⓄ	
っ	ⓍⓉⓊ	ⓍⓉⓈⓊ **	ⓁⓉⓊ	ⓁⓉⓈⓊ
ゃ	ⓍⓎⒶ		ⓁⓎⒶ	
ゅ	ⓍⓎⓊ		ⓁⓎⓊ	
ょ	ⓍⓎⓄ		ⓁⓎⓄ	
ゎ	ⓍⓌⒶ		ⓁⓌⒶ	

＊ 「ん」の次に「あ行」の文字、または「な行」「や行」の文字がくるときは、「ん」は「NN」と入力します。

【例】「はんい」…ⒽⒶⓃⓃⒾ

「そんな」…ⓈⓄⓃⓃⓃⒶ

それ以外は「ん」は「N」と入力してかまいません。

＊＊ 促音（小文字の「っ」）は、次にくる文字の子音を続けて入力することによっても入力することができます。

【例】「さっき」…ⓈⒶⓀⓀⒾ

付録

著作物と著作権など

『スーパー大辞林』『逆引きスーパー大辞林』

編集／松村明

＊ 収録辞書は書籍版『大辞林第二版』に基づいて新語などを増補したり、社会情勢などの変化を反映させて編集したもので、書籍版は刊行されておりません。

＊『逆引きスーパー大辞林』は『スーパー大辞林』のデータを基にしています。

記述内容のお問合せ先 株式会社 三省堂　デジタル情報出版部 TEL（03）3230-9416

『改訂新版　漢字源』

編者／藤堂明保、松本昭、竹田晃、加納喜光

＊ 収録内容と字体について

収録辞典は、書籍版『改訂新版　漢字源』に基づいて、JIS第１・第２水準(JIS X 0208-1997)、第３・第４水準(JIS X 0213-2000)、補助漢字(JIS X 0212-1990) 等を親字とする電子版として編集したものです。字体や画数等もそれら規格の漢字表に示された漢字に準拠しています。

＊『漢字源』は株式会社 学習研究社の登録商標です。

『四字熟語辞典』

＊ 収録辞典は書籍版『四字熟語辞典』を基に電子データ化されたものです。書籍の内容とは一部異なります。

『故事ことわざ辞典』

＊収録辞典は書籍版『故事ことわざ辞典』を基に電子データ化されたものです。書籍の内容とは一部異なります。

記述内容のお問合せ先 株式会社 学習研究社 TEL（03）3493-3286

『明鏡国語辞典』

編者／北原保雄

＊ 収録辞典は北原保雄氏と大修館書店の著作物であり、書籍『明鏡国語辞典』を基に、株式会社 大修館書店の協力を得て電子化したものです。

『ベーシックジーニアス英和辞典』

編集主幹／小西友七、原川博善

＊ 収録辞典は小西友七・原川博善氏と大修館書店の著作物であり、書籍『ベーシックジーニアス英和辞典』を基に、株式会社 大修館書店の協力を得て電子化したものです。

『ジーニアス英和辞典 第 3 版』

編集主幹／小西友七、南出康世

＊ 収録辞典は小西友七・南出康世氏と大修館書店の著作物であり、書籍『ジーニアス英和辞典 第 3 版』を基に、株式会社 大修館書店の協力を得て電子化したものです。

『ジーニアス和英辞典　第 2 版』

編集主幹／小西友七、南出康世

＊ 収録辞典は小西友七・南出康世氏と大修館書店の著作物であり、書籍『ジーニアス和英辞典第 2 版』を基に、株式会社 大修館書店の協力を得て電子化したものです。

『英語発音クリニック』

＊ 収録コンテンツは『プラクティカル ジーニアス英和辞典』別冊付録を基に、株式会社大修館書店の協力を得て電子化したものです。

『センター試験英語会話表現集』

＊ 『センター試験英語会話表現集』は、株式会社 大修館書店の協力を得て電子化したものです。書籍版は刊行されておりません。

記述内容のお問合せ先 株式会社 大修館書店 TEL（03）3294-2221

『旺文社古語辞典 第九版』

編集／松村明、山口明穂、和田利政

『徹底例解 ロイヤル英文法 改訂新版』

著者／綿貫陽、宮川幸久、須貝猛敏、高松尚弘

英文校閲／マーク・ピーターセン

『世界史事典 三訂版』☆

『日本史事典 三訂版』☆

『旺文社 生物事典 四訂版』☆

監修者／八杉貞雄、可知直毅

『旺文社監修 数学公式集』

著者／辻良平

＊ 本データは「センター試験必出 数学公式 180」（数学I·A/II·B）から、電子辞書用に公式部分等を抜粋・収録したものです。

『旺文社監修 物理公式集』

著者／井上喜助

＊ 本データは「物理 IB 公式 72」から、電子辞書用に公式部分等を抜粋・収録したものです。

『旺文社監修 無機化学のキーワード』

付録

著者／本間正康

＊ 本データは「無機化学の決め手67」から、電子辞書用に「key word」の部分等を抜粋・収録したものです。

『旺文社監修 有機化学のキーワード』

著者／本間正康

＊ 本データは「有機化学の決め手65」から、電子辞書用に「key word」の部分等を抜粋・収録したものです。

『旺文社監修 辞書式配列化学反応式』

著者／木村昭市

＊ 本データは「辞書式配列化学反応式［改訂版］」の内容から、電子辞書用に抜粋・収録したものです。

『ロイヤル英文法問題集 改訂新版』☆

監修者／綿貫陽　著者／池上博

『英単語ターゲット1900　3訂版』

著者／宮川幸久

『英単語ターゲット1900 BRUSH-UP TEST　3訂版』☆

監修者／宮川幸久

『旺文社監修 英単語ターゲット1900 ディクテーション』

監修者／旺文社、宮川幸久

＊ 本データは、「英単語ターゲット1900　3訂版」の内容から、電子辞書用に抜粋・収録したものです。

『英熟語ターゲット1000　3訂版』

著者／花本金吾

『英熟語ターゲット1000 BRUSH-UP TEST　3訂版』☆

監修者／花本金吾

『旺文社監修 英熟語ターゲット1000 ディクテーション』

監修者／旺文社、花本金吾

＊ 本データは、「英熟語ターゲット1000　3訂版」の内容から、電子辞書用に抜粋・収録したものです。

『英検Pass単熟語3級 改訂版』☆

『英検Pass単熟語2級 改訂版』☆

『旺文社監修 センター試験リスニング対策』

＊ 本データは、「傾向と対策　英語リスニング」および「大学入試　英語リスニング対策スタート編」から、電子辞書用に一部内容を抜粋・収録したものです。

『古文単語・熟語ターゲット400』

著者／桑原聡、西田安実

『漢字ターゲット1700』

著者／旺文社

『漢検プチドリル3級 改訂版』☆

『漢検プチドリル２級 改訂版』☆

『世界史年代暗記ターゲット315』

著者／高橋武勇

『日本史年代暗記ターゲット312』

著者／宮澤嘉夫

＊ ☆印は「編集／旺文社」のコンテンツを示しています。

記述内容のお問合せ先
株式会社 旺文社
TEL（03）3266-6018

『Oxford Advanced Learner's Dictionary, 7th edition』

記述内容のお問合せ先
オックスフォード大学出版局株式会社
TEL（03）3459-6481

『英会話とっさのひとこと辞典』

著者／巽一朗、巽スカイ・ヘザー

＊ 本機に収録されている内容は、書籍『英会話とっさのひとこと辞典』を基に、巽一朗氏、巽スカイ・ヘザー氏及び株式会社DHCの御協力を得て電子化したものです。これらは巽一朗氏、巽スカイ・ヘザー氏の著作物であり、著作権法によって保護されているため、無断で複写・転載することはできません。

＊ 本機の『英会話とっさのひとこと辞典』の音声は、巽一朗氏監修の音声データを使用させていただいております。

記述内容のお問合せ先
株式会社 DHC
TEL（03）3585-1451（営業）

収録辞典・書籍の内容について

※ 本機の各収録辞典·書籍のデータは、著作権法によって保護されており、私的使用の範囲を超えての転載·複製などは禁止されています。また、格納されているデータを引用した著作物を公表する場合には、出典名・発行所を明記してください。

※ 電子化の仕様上、その他の事情により、各辞典·書籍発行元の監修に基づいて書籍版の内容を改変した部分があります。写真、付録、一部の図表、図版、囲み記事などは収録されていません。

※ 画数の多い漢字は液晶表示の都合上、一部簡略化しており、正確に表示できないものがあります。

※ 本機に収録した各辞典·書籍は、それぞれの書籍出版辞典に基づいて作成しています。それぞれの辞典・書籍における誤記（誤植）、誤用につきましては、弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

※ 記述内容および問合せ先は予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

おもな仕様

型　式　wordtank V300

項目	内容	
収録コンテンツ	コンテンツの名前・出版社名については「著作物と著作権など」にてご確認ください。（☞ 335ページ参照）	
表示	480×320ドットマトリックス液晶表示	
文字表示[*1]（文字×行）	文字（16ドットフォント）	全角　28×17
	縮小文字（12ドットフォント）	全角　38×21
	拡大文字（24ドットフォント）	全角　19×11
	一文字拡大表示（96ドットフォント）	
筆順表示	200ドットフォント	
電卓機能	演算桁数　：置数、被演算数、演算数ともに12桁 結果　　　：上位桁優先12桁 小数点方式：浮動小数点	
対応ファイル形式（MP3プレーヤー機能）	MPEG1 Audio layer 3 CBR 32-320kbps	
電源[*2]	単4形アルカリ乾電池（LR03）2本 単4形ニッケル水素電池　2本	
消費電力	1.5W	
使用時間（乾電池使用 使用温度25℃にて）	・約80時間（カード非装着、英和辞典の画面で連続表示） ・約75時間（カード非装着、5秒間10文字以内の入力と 例文展開/ジャンプ実行 訳・決定 キー入力を繰り返し、55秒間待つ場合）	
オートパワーオフ	30分以内で設定可能	
使用温度	0℃～40℃	
画面サイズ（たて×よこ）	66×107mm	
外形寸法（幅×奥行き×高さ）	153×105.5×24mm（最厚部閉時）	
重量	334ｇ（電池含む）	

＊1　掲載の文字表示方法により、実際の表示画面と異なる場合がございます。
＊2　パソコンに接続している間は、電源はパソコン本体から供給され電池は消耗されません。（☞ 242ページ参照）

改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますので、あらかじめご了承ください。

修理お問い合わせ専用窓口

パーソナル機器修理受付センター（全国共通番号） 050-555-99088

［受付時間］ 9:00 ～ 18:00 （日曜、祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）

製品取扱い方法ご相談窓口

キヤノンお客様相談センター（全国共通番号） 050-555-90025

［受付時間］ ＜平日＞9:00 ～ 20:00 ＜土日祝日＞10:00 ～ 17:00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用頂けない場合は、043-211-9632 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。
※上記記載内容は、都合により予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

2007年1月1日現在

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

PUB, E-IJ-1106 © CANON ELECTRONIC BUSINESS MACHINES (H.K.) CO., LTD. 2007 PRINTED IN CHINA